

所備

第二十五 中央卸賣市場江東分場模型(模型平三尺六×一尺六高一尺七寸) 工課出(品)

說明

- (一) 表示ノ目的
現市設江東青果市場ヲ立體的ニ表示セントス
- (二) 表示事項
同市場ノ全景
- (三) 表示方法
模型

(參考資料)

一 建設ノ趣旨(本場ニ同シ)尙ホ江東分場ノ主要建築設備ハ昭和二年十一月初旬竣功セルヲ以テ其ノ開設ヲ見ルニ至ル迄臨時卸賣市場トシテ江東青物市場ヲ此處ニ移轉シ業務ヲ開始セリ 二 計畫要綱
位置 東京市本所區橫網町八番地八 建設費豫算 面積 五、三六六坪三六 內譯 總建坪一、一五九坪四五用地費七八四、四〇九圓總延坪一、七四九坪八三建築費四四一、八四八圓 主要建物 青果ノ卸賣場仲買賣場設備費二六九九一、二圓設計並監督費六一、一四圓 倉庫計算所冷藏庫宇洗場待合所バナナ酸酵室荷揚場市事務所營業人事務所等ナリ
主要設備構内鋪裝鐵道引込線蔬菜及果實棧橋護岸給水排水電氣衛生設備等ナリ 取扱見込年額一〇〇、〇〇〇噸

建設資金 六、五〇〇、〇〇〇圓

低利資金 一、五〇二、二八三圓

第二十六 中央卸賣市場神田分場模型(模型平四尺六×二尺七高一尺七寸) 工課出(品)

說明

- (一) 表示ノ目的
現市設神田青果市場ヲ立體的ニ表示セントス
- (二) 表示事項
同市場ノ全景
- (三) 表示方法
模型

(參考資料)

一 建設ノ趣旨(本場ニ同シ) 昭和三年十一月末神田分場主要建築設備竣功セルヲ以テ舊神田青物市場ノ間屋其ノ他ヲ此處ニ收容シ分場開設ニ至ル迄臨時卸賣市場トシテ神田青果市場ヲ開設セリ 二 計畫要綱位置 東京市神田區山本町外四箇町及下谷區練馬町佐久間河岸 建設費豫算六、三九七、七一七圓 內譯 面積九、八九二坪〇五 用地費三、五一七、〇三六圓 總建坪四、六〇五坪六四 建築費一、五八五、七二八圓 總延坪六、六四四坪一七 設備費一、二三六、五〇二圓 主要建物青果ノ卸賣場仲買設計並監督費五八、四五一圓 卸賣場倉庫計算所冷藏庫宇洗場待合所附屬所バナ、蔬菜及果實酸酵室荷揚場牛馬繫留所市事務所營業人事務所荷捌所等ナリ 取扱見込年額一六〇、〇〇〇噸一四五、〇〇〇噸 主要設備構内鋪裝鐵道引込線棧橋護岸給水排水電氣衛生設備等ナリ 建設資金六三九、〇〇〇圓

七、七、一七圓 低利資金六、三九七七、一七圓
第二十七 復興市立小學校一覽圖(圖表縱三尺五寸橫五尺)
教育局出品

說明

- (一) 表示ノ目的
震災前ト復興後ノ狀況ヲ表示セントス
- (二) 表示事項
震災前及復興後ノ校數校地坪數校舍構造及延坪數教室數復興建設費總額及一校當建設費建設費ヲ向ホ校舎費附屬設備費校具費設計監督費諸費ニ區別シ更ニ又之ヲ市費區費ニ區別ス
- (三) 表示方法
壁間ニ貼附又ハ掛圖トス

(參考資料)

- 一 校數其ノ他 (イ)校數 (ロ)校地坪數 (ハ)校地構造及延坪數 (ニ)教室數普通教室震災前一一七校 一三〇、一五二坪 木造八二七、三六坪 二、一七〇室 復興後一一六校 一三二、六〇一坪 鐵筋一五四、一四一坪 二、八〇八室 二 復興建設費五、二五六、八八八圓 一校當四五三、一六三圓 一 校舎費 市費三、九四一、三四六圓 三、九八三、〇一六圓 附屬設備費同五、九八一、八八六圓 六、三二六、四四圓 四一六、七一四圓 三、九八三、〇一六圓 附屬設備費同五、九八一、八八六圓 六、三二六、四四圓 一 校具費同二、二〇九、九〇〇圓 三、八六六、九七九圓 二 設計監督費同一、五二五、六五〇圓 一、九四三、二四四圓 諸費區費六、〇〇〇、九四四圓 六、〇〇〇、九四四圓

第二十八 復興市立圖書館一覽圖(圖表縱三尺五寸橫五尺)
教育局出品

說明

- (一) 表示ノ目的
震災前ト復興後ノ狀況ヲ表示セントス
- (二) 表示事項
震災前及復興後ノ館數建築構造及坪數閱覽人收容能力 建築費總額向ホ建設費ヲ用地費建築費設備費設計監督費ニ區別ス
- (三) 表示方法
壁間ニ貼附又ハ掛圖トス

(參考資料)

- 一 館數其ノ他 イ 館數 ロ 構造及建物延坪數 ハ 閱覽人收容力 震災前獨立三附設七計一〇 木造建四〇六坪 五八九人 復興後同鐵筋コンクリート建二二、四五坪一七八四人 二 復興建設費一、〇八九、四〇〇圓 一 用地費一二五、九一五圓 二 建築費五八九、二一六圓 ハ 設備費三四二、八七二圓 二 設計監督費三一、四九七圓

第二十九 西櫻小學校寫眞(寫眞縱一尺九寸橫一尺三寸)
教育局出品

說明

- (一) 表示ノ目的
復興後ノ小學校々舎中代表的ノモノヲ示ス
- (二) 表示事項
校舎ノ外觀
- (三) 表示方法

第四編 帝都復興祭

寫眞

(參考資料)

所在地芝區西久保櫻川町十四番地 竣功年月日昭和四年十一月三十日 様式近世式 工費總額三十六萬餘圓 敷地坪數四二五坪〇〇〇延坪一〇三一坪二五二 收容兒童數四九〇人

第三十 泰明小學校寫眞(寫眞縱一尺九寸橫一尺五寸) 出(品)

說明

- (一) 表示ノ目的
- (二) 表示事項
- 校舎ノ外觀
- (三) 表示方法
- 寫眞

(參考資料)

所在地京橋區元數寄屋町一丁目一番地 竣功年月日昭和四年六月十日 様式近世式 工費總額四十七萬餘圓 敷地坪數一、一〇九坪六七 建坪四六八坪〇一四延坪一、二九八坪五六四 收容兒童數八八〇人

第三十一 駿河臺圖書館寫眞(寫眞一、九尺×一、三尺) 出(品)

說明

- (一) 表示ノ目的

復興後ノ圖書館中代表的ノモノヲ示ス

- (四) 表示事項
- 圖書館ノ外觀
- (五) 表示方法
- 寫眞

(參考資料)

所在地神田區駿河臺北甲賀町五番地 竣功年月日昭和四年十二月廿九日 様式近世式 工費總額二十五萬六千餘圓 敷地坪數四六一坪〇〇〇 建坪二五七坪五八四 延坪七二六坪一九〇 收容人員五二〇人 圖書收容力五八、〇〇〇冊

第三十二 東京市立小學校並圖書館分布圖府市立中學校(掛圖縱五尺橫三尺五寸) 出(品)

說明

- (一) 表示ノ目的
- 市立小學校並圖書館分布及燒失小學校圖書館ヲ示サントス
- (二) 表示事項
- 燒失小學校並圖書館燒失區域外小學校並圖書館復興小學校並圖書館中等學校等ヲ東京市地圖ニ記號ヲ以テ表示ス
- (三) 表示方法
- 壁間ニ掛圖トス

(參考資料)

第四編 帝都復興祭

- 一 市立小學校二〇五 震災ニ因ル焼失一一七内復興一一六 同殘存七九 新設九 二 市立圖書館二〇 震災ニ因ル焼失一二内復興一〇 同殘存八 三 市立中等學校六 中學校二 高等女學校二 商業學校二

第三十三 龍泉寺町託兒所ノ狀況 (寫眞六枚一尺六寸×二尺八寸) (出品)

說明

(一) 表示ノ目的

東京市託兒所ニ於ケル保育狀況並東京市相談所ノ狀況ヲ示ス

(二) 表示事項

- 一 龍泉寺託兒所兒童健康相談所正面 二 乳兒保育 三 兒童健康相談所狀況 四 整容並治療 五 室内遊戲 六 室外自由遊戲

(三) 表示方法

寫眞

(參考資料)

- 一 龍泉寺託兒所 所在地下谷區龍泉寺町敷地一八五坪三九 建坪七八坪六三八 延坪一三三坪七三一 坪建設費七八三四九圓 竣功昭和四年九月五日 二 本市託兒所並託兒數十二箇所七五五人(託兒數ハ三月十日現在定員一箇月ニ付幼兒七〇名乳兒一〇名)

內譯

- 東京市江東橋託兒所目下託兒準備中同月島同一〇六人 同玉姫同〇〇人 同龍泉寺同九一人 同古石場同七六人 同押上同七六人 同千田町同六一人 同西平井町同七六人 同大塚同九

- 四人 同東稷町同四二人 同富川町同五三人 同白金三光町同目下託兒準備中 三 本市兒童相談所十一箇所 東京市江東橋兒童相談所 同富川町同 同月島同 同玉姫同 同四谷同 同押上同 同大塚同 同龍泉寺同 同古石場同 同東稷町同 同白金三光町同 同 四 前記託兒所並兒童相談所ノ内復興費ニヨルモノ(十箇所) 玉姫 江東橋 古石場 富川町 月島 大塚 龍泉寺 押上 東稷町 白金三光町

第三十四 富川町託兒所模型 (模型縱一尺六寸九分橫一尺七寸高一尺二寸) (出品)

說明

(一) 表示ノ目的

本市富川町託兒所建物ノ狀況

(二) 表示事項

建物全景

(三) 表示方法

模型

(參考資料)

- 本市富川町託兒所概要 位置深川區富川町四九 用地二七九坪二八 建坪一九二坪三七 建設費六八〇九七圓 竣功昭和五年三月四日

第三十五 復興市立病院一覽圖 (圖表縱五尺橫四尺) (出品)

說明

(一) 表示ノ目的

第四編 帝都復興祭

復興市立病院並既設病院及診療機關ノ分布ヲ示ス

(二) 表示事項

- 一 復興病院及傳染病院
- 二 復興病院
- 三 既設傳染病院衛生試驗所消毒所本部及支部同愛病院
- 四 復興病院及傳染病院建設費

(三) 表示方法

- 一 復興病院及傳染病院其ノ他既設病院診療機關ノ分布ヲ明示ス

(參考資料)

- 一 復興病院 廣尾病院 大塚病院 大久保病院 深川病院 駒込病院
- 二 同建設費三、一〇〇、〇〇〇圓
- 三 市設醫療施設現況 復興市立病院五前掲 復興傳染病院特別病室四(廣尾大久保大塚駒込)

- 傳染病院本所—傳染病院ト隔離所ヲ含ム 復興病院築地一 衛生試驗所麹町丸ノ内三丁目一
- 消毒所三 (本部深川區枝川町ニ改築中ナリ現在八深川區東大工町)(支部芝區赤羽町小石川區春日町)

- 療養所一野方町地圖ノ上ニハ現レス 三 傳染病患者發生死亡數昭和四年 發生數七八七〇 死亡數一七五三 同百分比二二三%

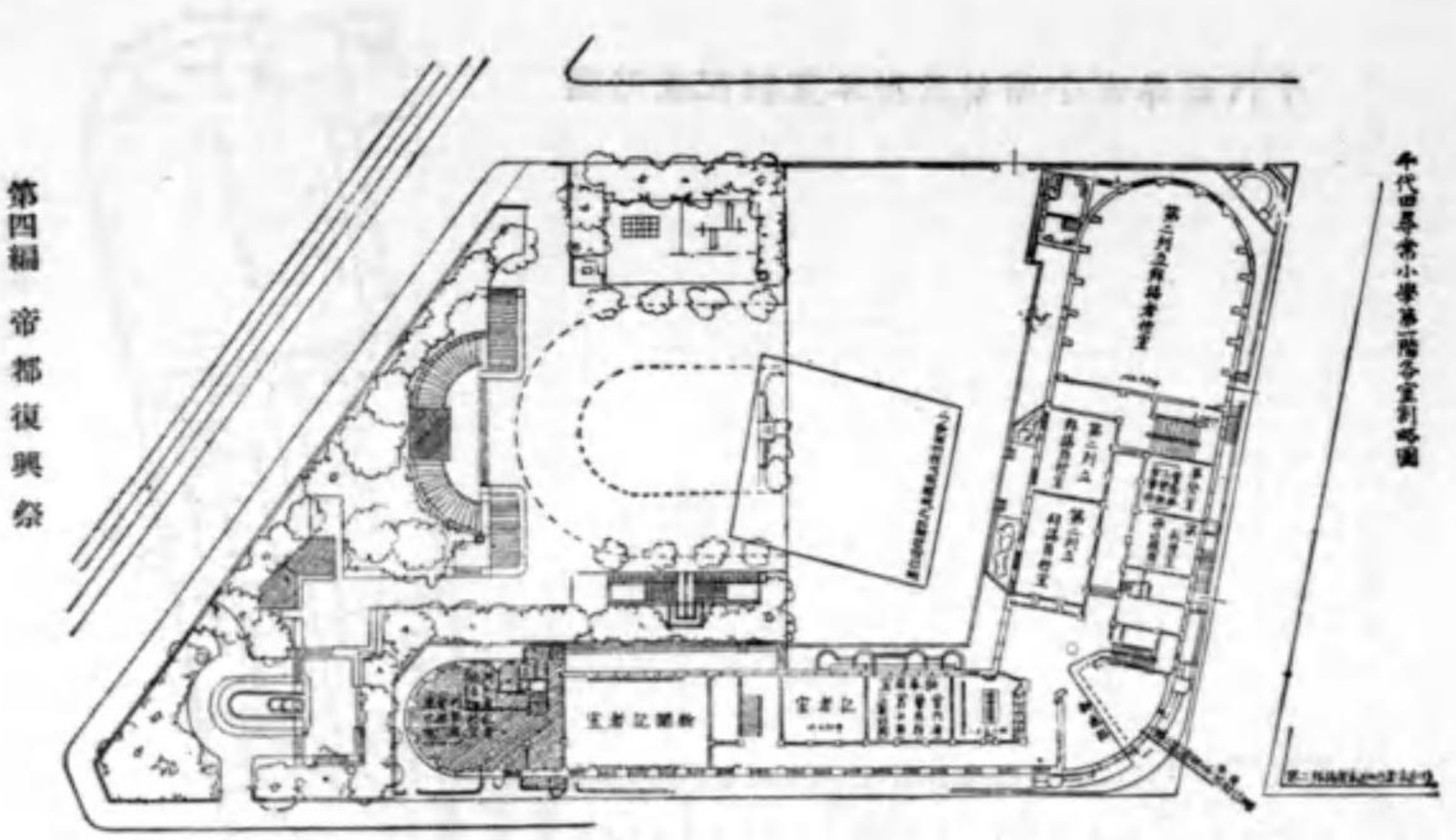
(備考) 同愛病院ハ市立ナラサルモ便宜上記載セリ
 第三十六 村山山口貯水池模型(模型三尺×五尺水道局出品)

說明

(一) 表示ノ目的

村山貯水池及工事中ノ山口貯水池竣功後ノ狀況ヲ示ス

(二) 表示事項



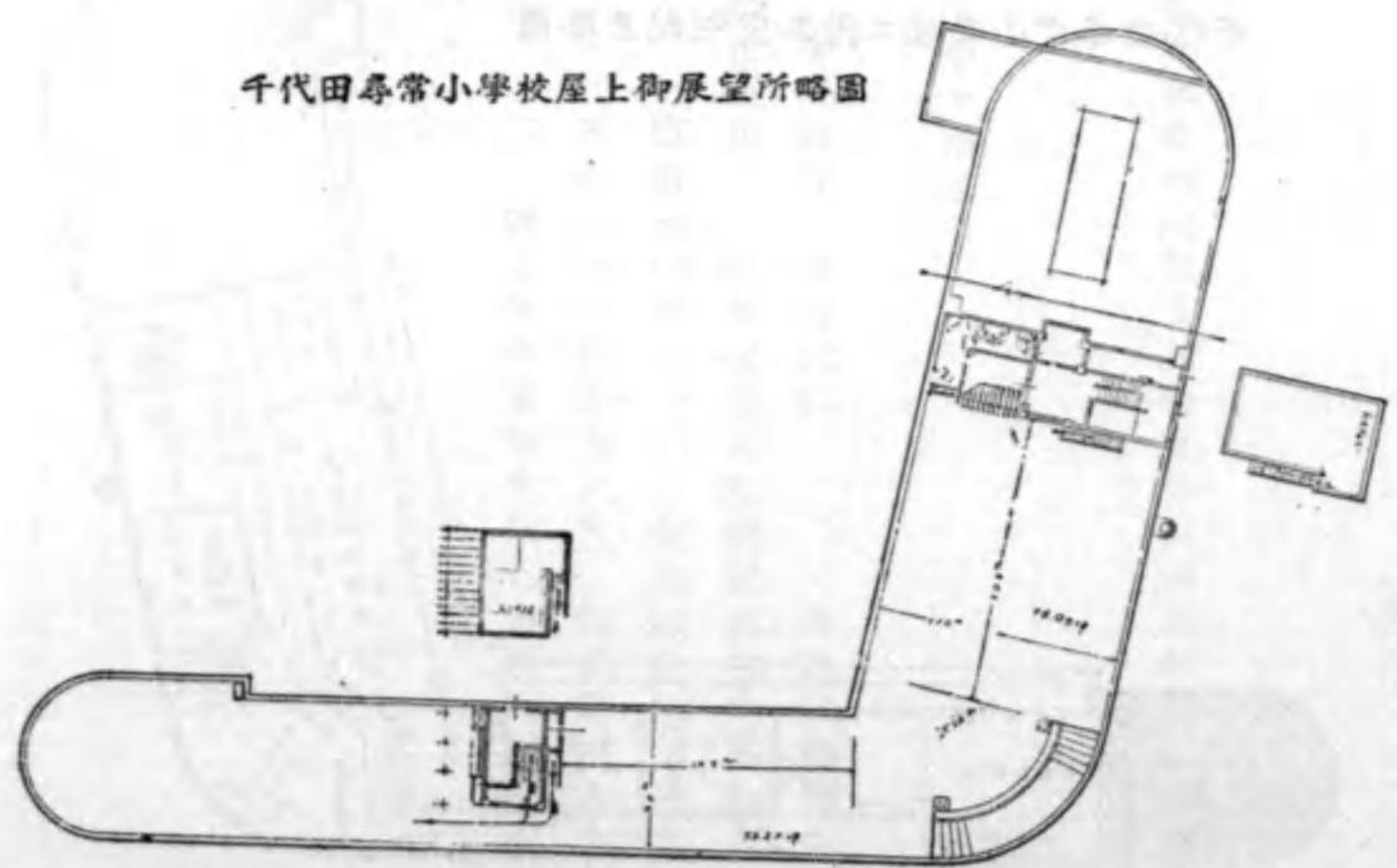
第四編 帝都復興祭



千代田尋常小學校三階各室割配置略圖



千代田尋常小學校屋上御展望所略圖



第一期水道擴張工事ニ於テ竣功セル村山貯水池東京府北多摩郡大和村所在及目下工事中ニシテ昭和七年三月竣功豫定ノ山口貯水池埼玉縣入間郡山口村宮寺村元狩山村及東京府西多摩郡村山村ノ五箇村ニ跨ルノ竣功後ノ狀況

(三) 表示方法
模型縮尺六十分ノ一

第三十七 東京市水道現在及將來鳥瞰圖(繪畫六尺×十尺水道局出品)

說明

(一) 表示ノ目的
現在及將來水道擴張計畫ヲ示ス

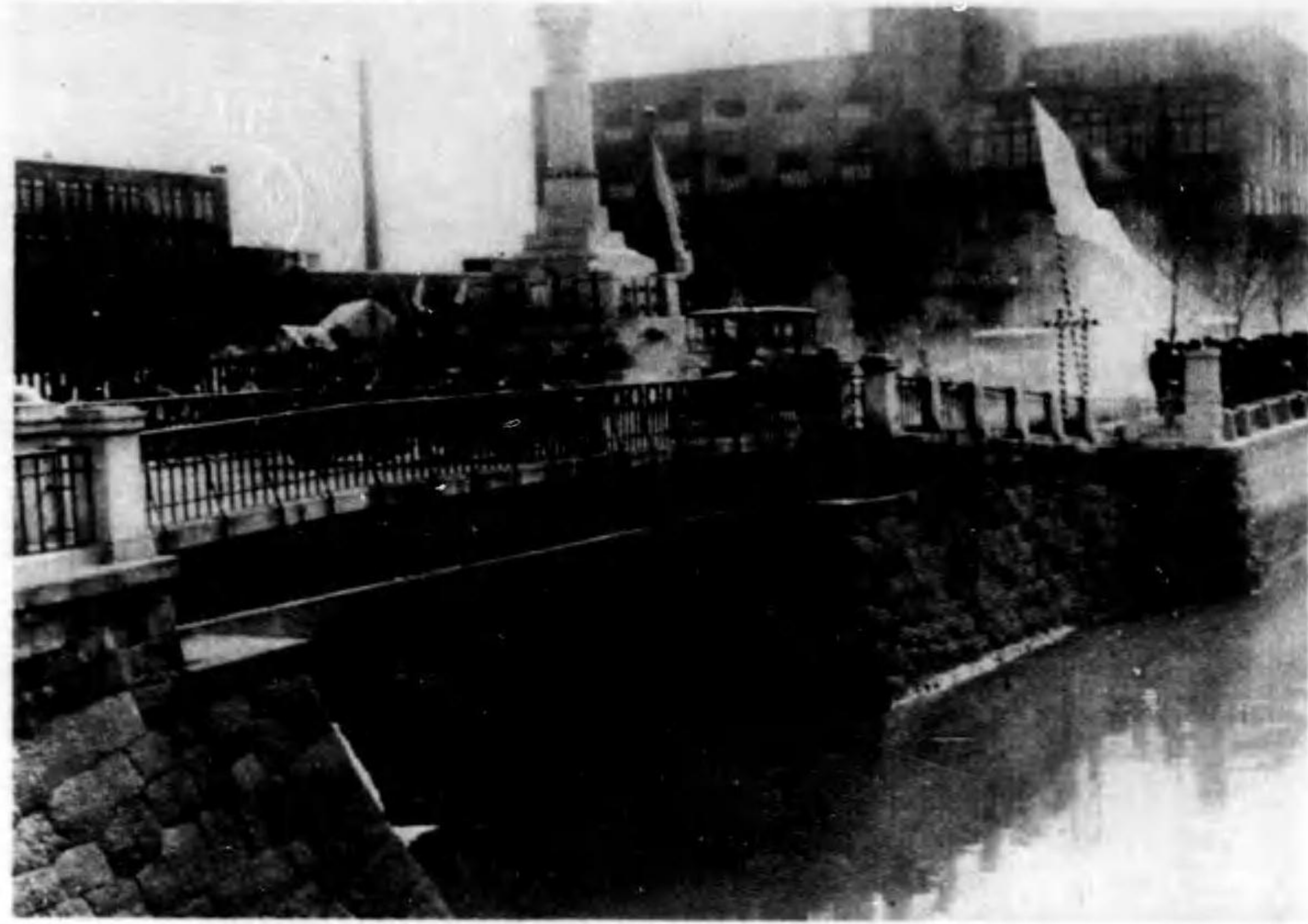
(二) 表示事項
青色線ハ既設水道即チ第一水道擴張計畫ニ屬スル羽村取入口、羽村村山線導水路、村山貯水池、山口貯水池、村山境線導水路、和田堀貯水池、和田堀青山線、及和田堀淀橋線六十吋配水管線等多摩川ヲ水源トスル水道系統ヲアラハシ、赤色線ハ將來計畫即チ第二水道擴張計畫ニ屬スル江戸川及利根川ヲ水源トス

(三) 表示方法
鳥瞰圖

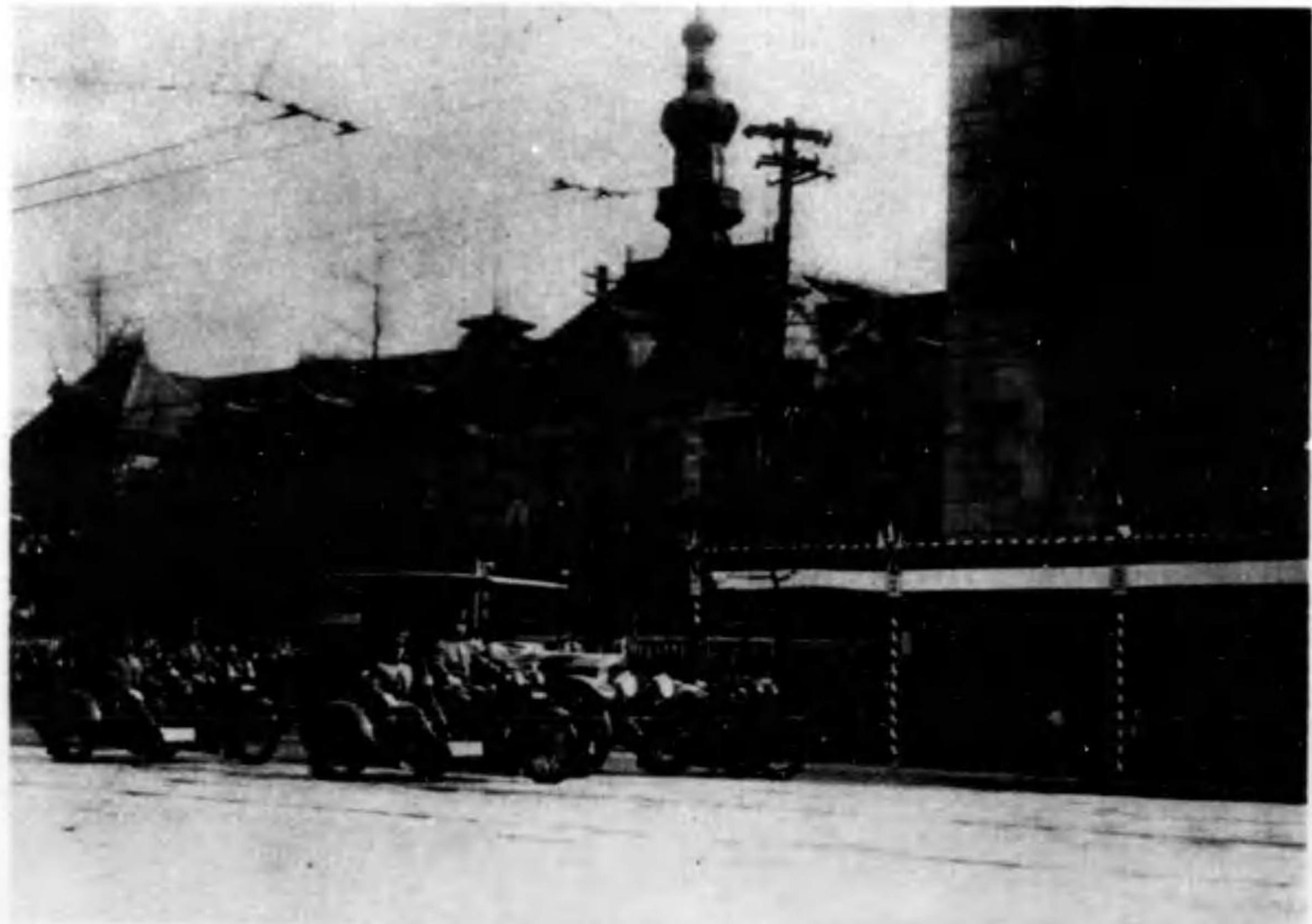
第三十八 東京防火地區(地圖縱五尺、横四尺、文書課出品)

說明

(一) 表示ノ目的
各種防火地區ヲ表示シ、燒失區域トノ關係ヲ示ス



御 退 院 病 地 築



若 拜 奉 竝 薄 鹵 の 御 通 前 所 役 市 京 東 れ ら せ さ へ 終 を 幸 巡 御

(二) 表示事項

- 一 甲種防火地區
- 二 乙種防火地區
- 三 燒失區域

(三) 表示方法

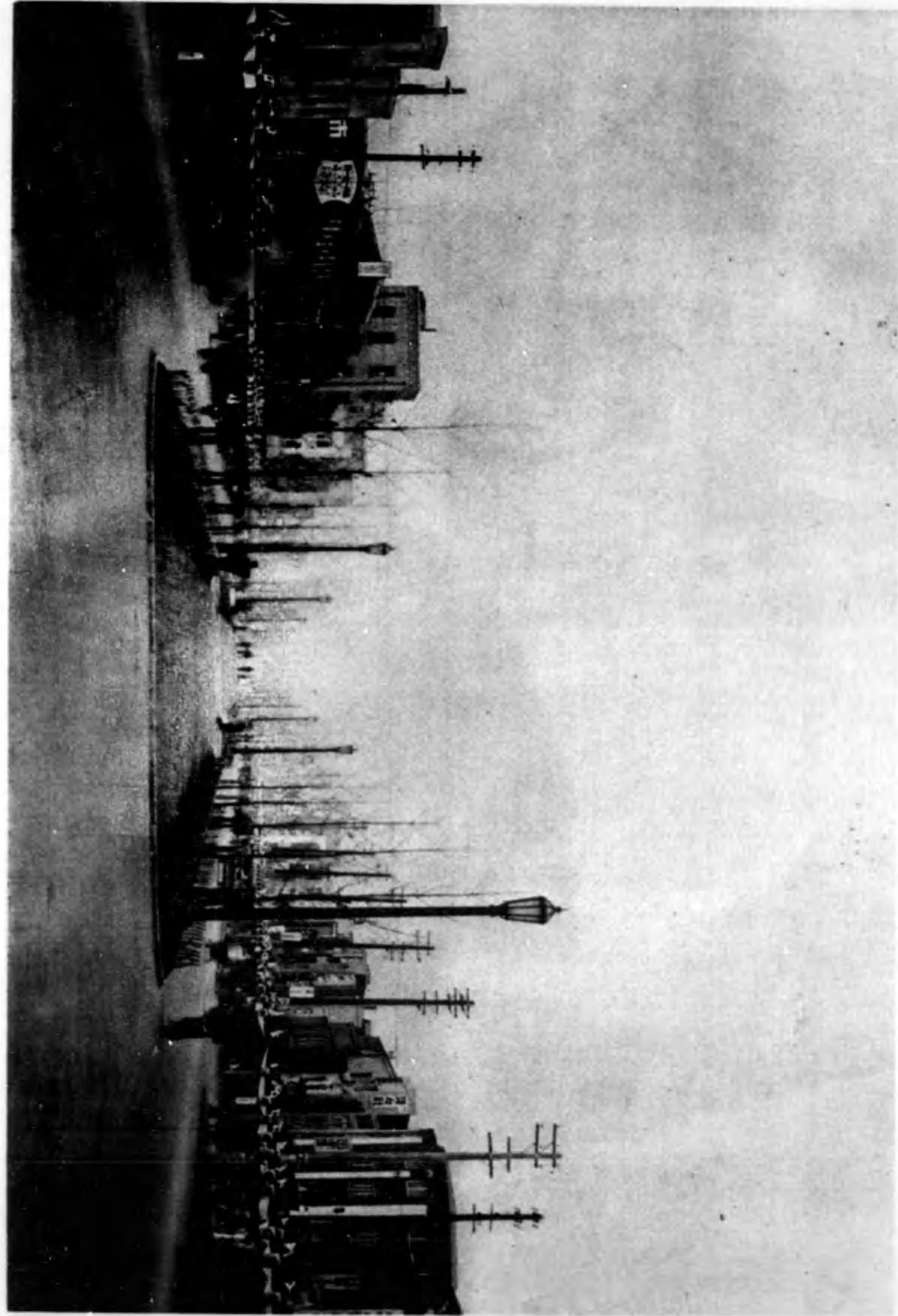
圖上ニ色ヲ以テ甲種防火地區及乙種防火地區ヲ明ニシ且ツ燒失區域ヲ配シ其ノ關係ヲ示ス

(參考資料)

防火地區面積五、八二八、九一〇平方米
 甲種防火地區 集團防火地區三、八一三、一二〇平方米
 路線式防火地區一、四三六、五四〇平方米
 乙種防火地區 集團防火地區二、〇五二、二二〇平方米
 路線式防火地區三七四、〇三〇

第九節 築地病院御立寄所御模様

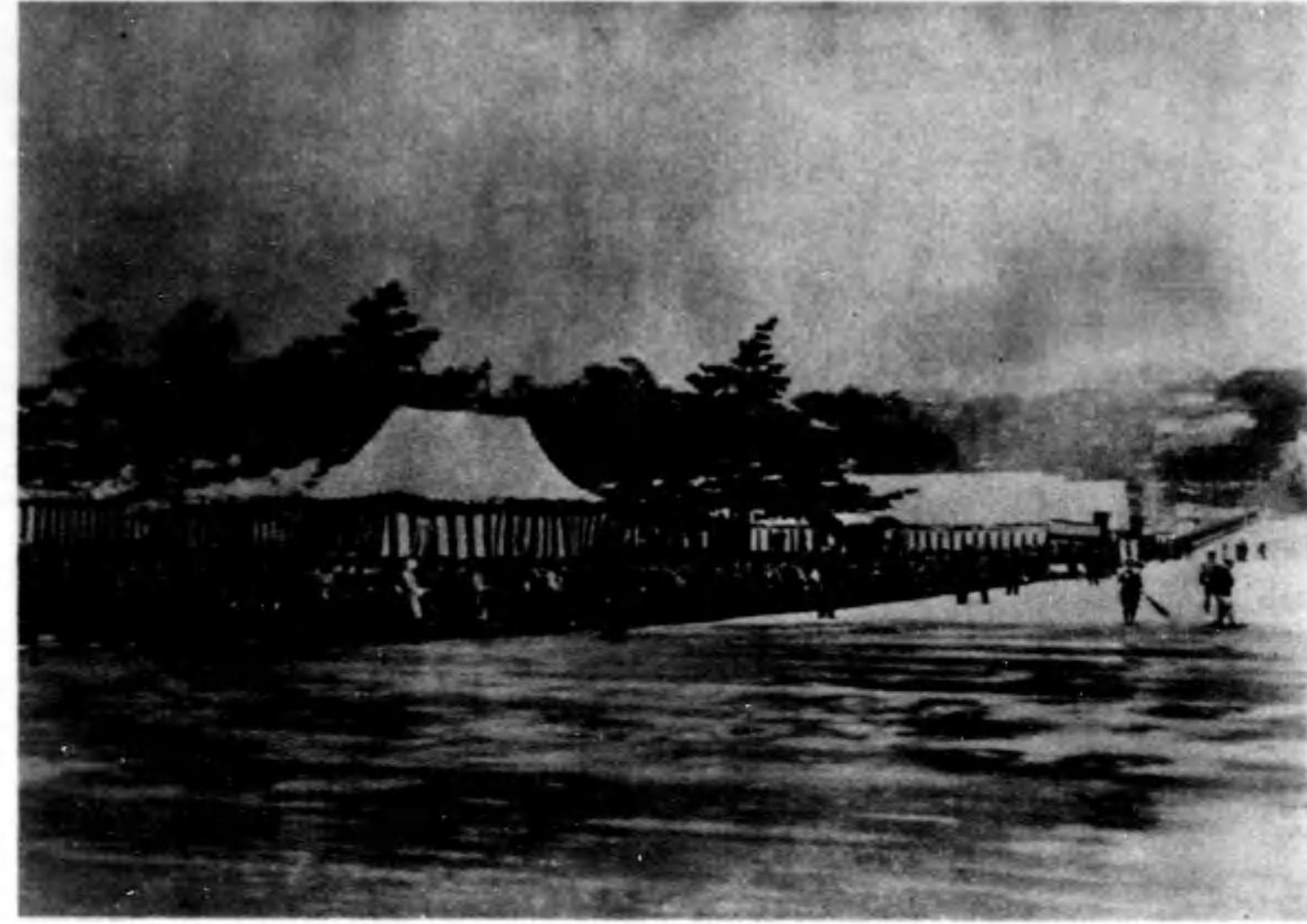
千代田小學校を發御あらせられ、畏くも陛下には御沿道兩側に堵列又は跪座せる奉拜者に御會釋を賜はりつつ第十號幹線街路江東通りを進御、豪壯なる姿に復興したる永代橋を渡らせられ、第十七號幹線街路を経て京橋區本八丁堀三丁目より左折し、市場通りを午後一時五十六分築地病院に著御あらせられた、同院の門前には諸員恭しく列を正して奉迎し、東京市助役田中廣太郎御先導三階御座所に入御、暫し御休憩の後、院內御視察に玉歩を運はせられ、各室の設備並陳列室の復興、帝都の衛生施設、社會事業關係の統計及寫眞を御覽あらせられ、市長謹んで御説明申上げた更に屋上に登らせられ、双眼鏡を御手にせられ、蜿蜒たる運河、東京大築港附近、芝浦品川海岸一帯の復興状況を御展望あらせらる。市長は恭しく御前に侍して東京灣築港の將來、中央卸賣市場の開始などに



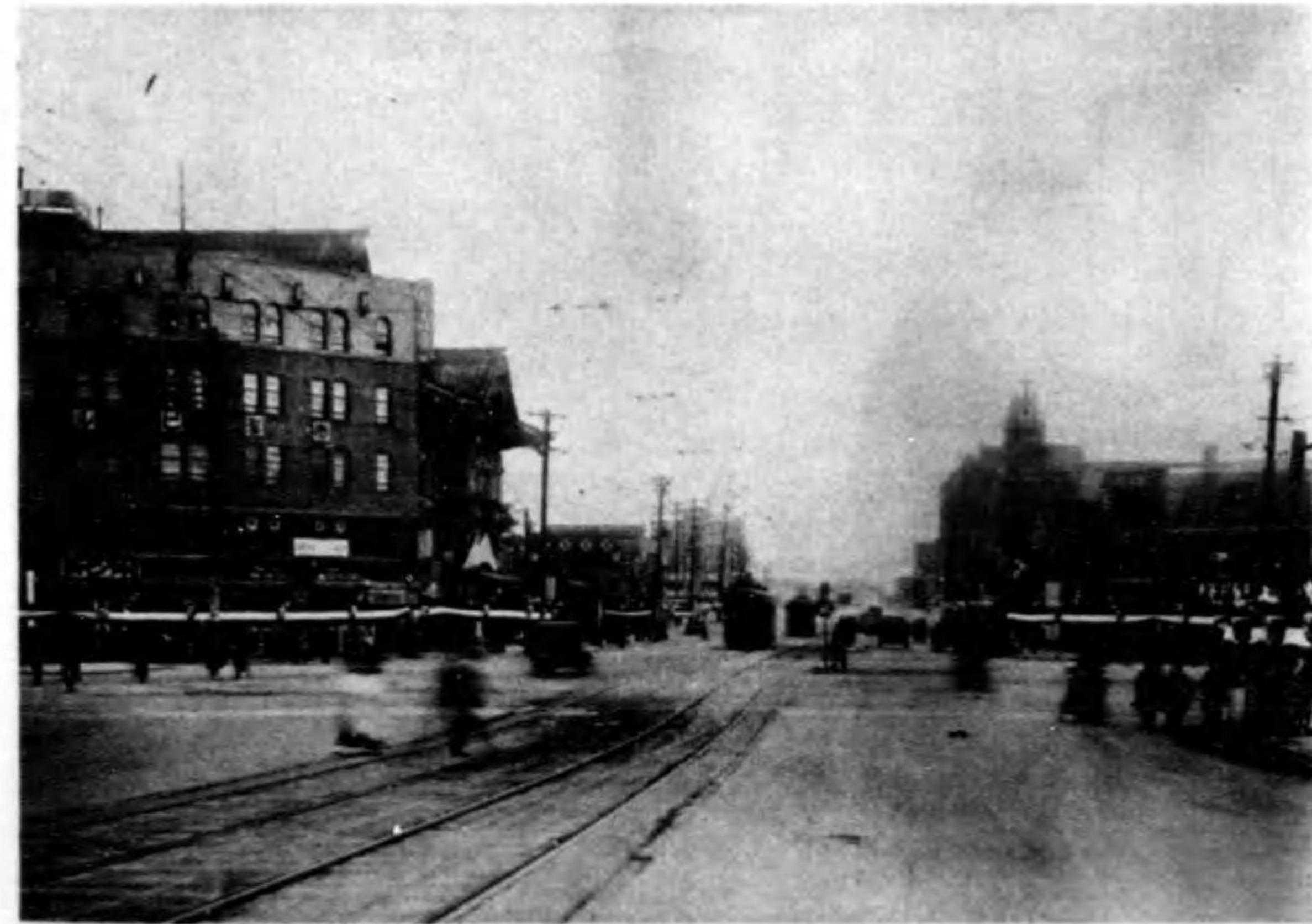
昭和の興復

御巡幸當日の雑観

御巡幸當日の雑観

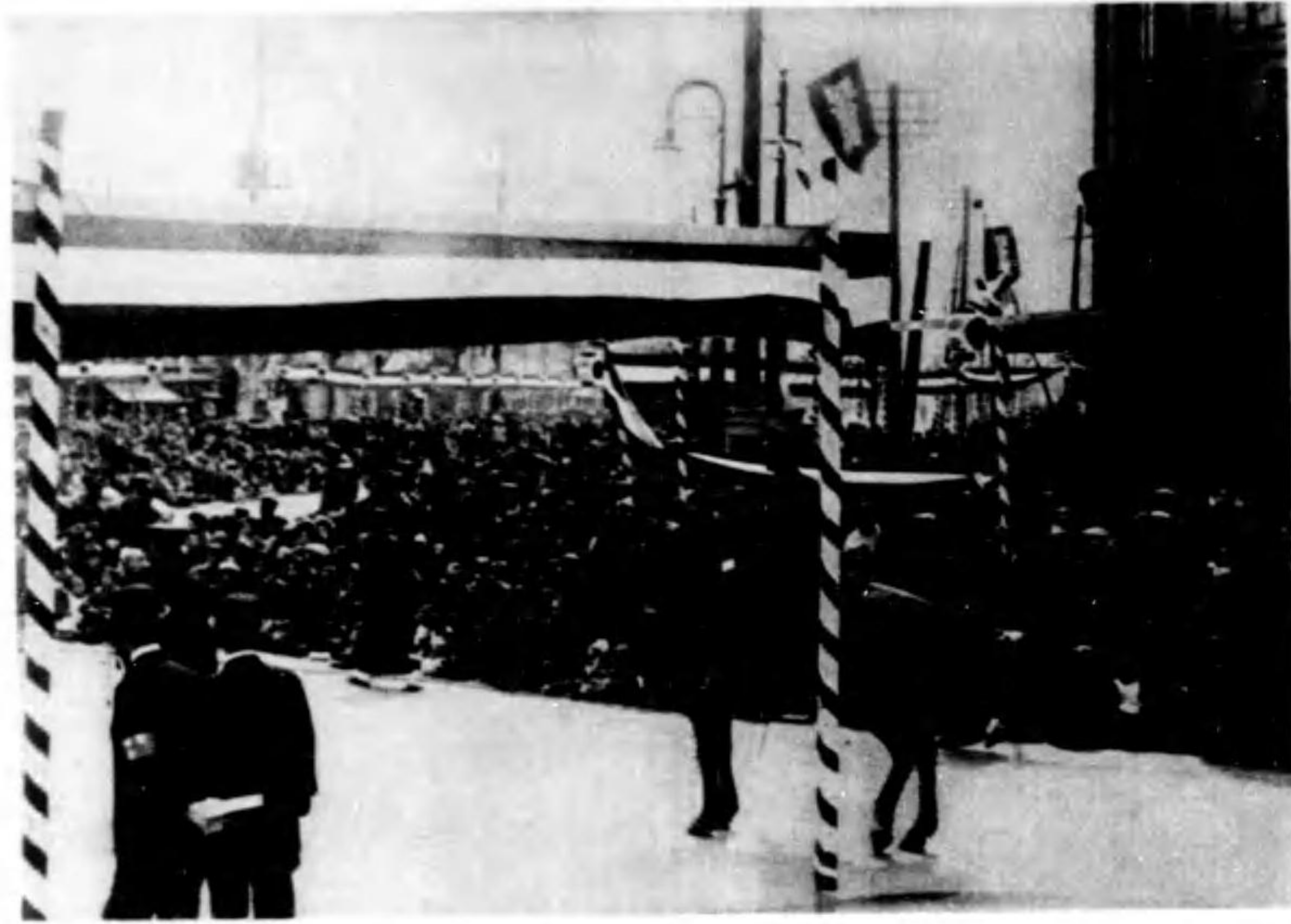


二重橋前廣場の奉迎者



(近附座伎舞歌) 奉迎の準備され昭る和通

御巡幸當日の雑観

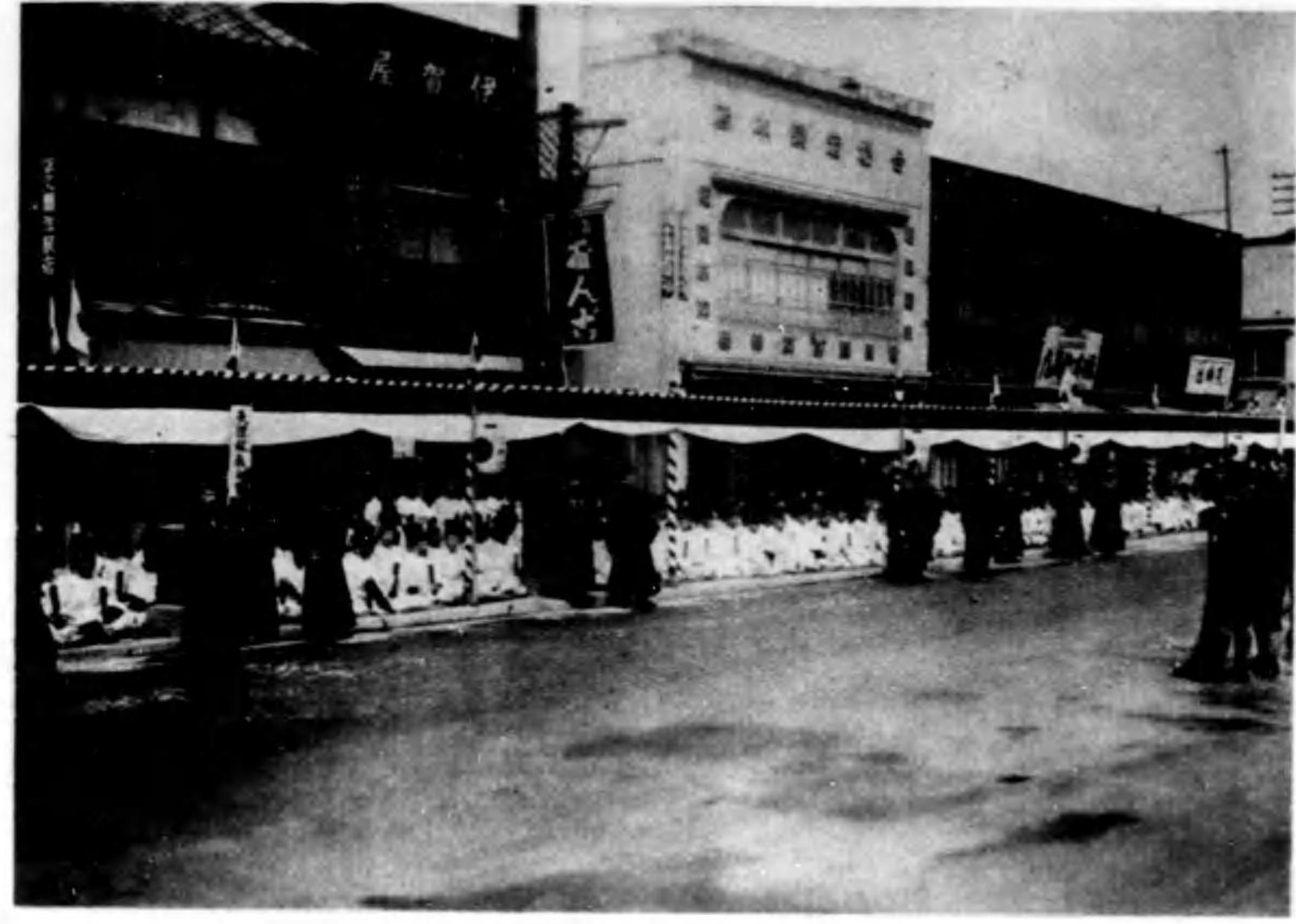


函館東市街の奉迎



淨められたる洲橋

御巡幸當日の雑観



昌平通の奉迎者

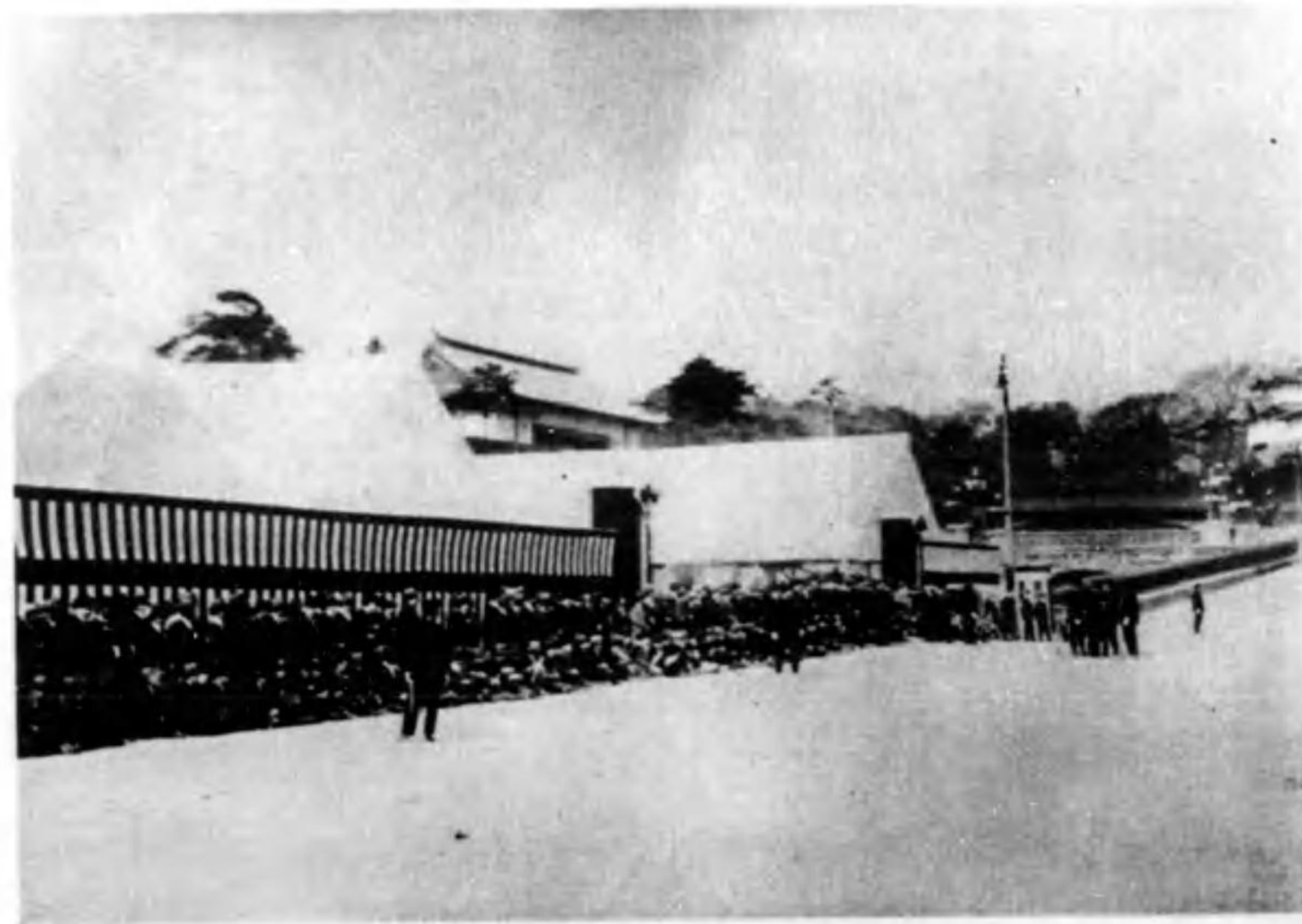


當日の上野公園見晴しより小橋を望む

御巡幸當日の雑観

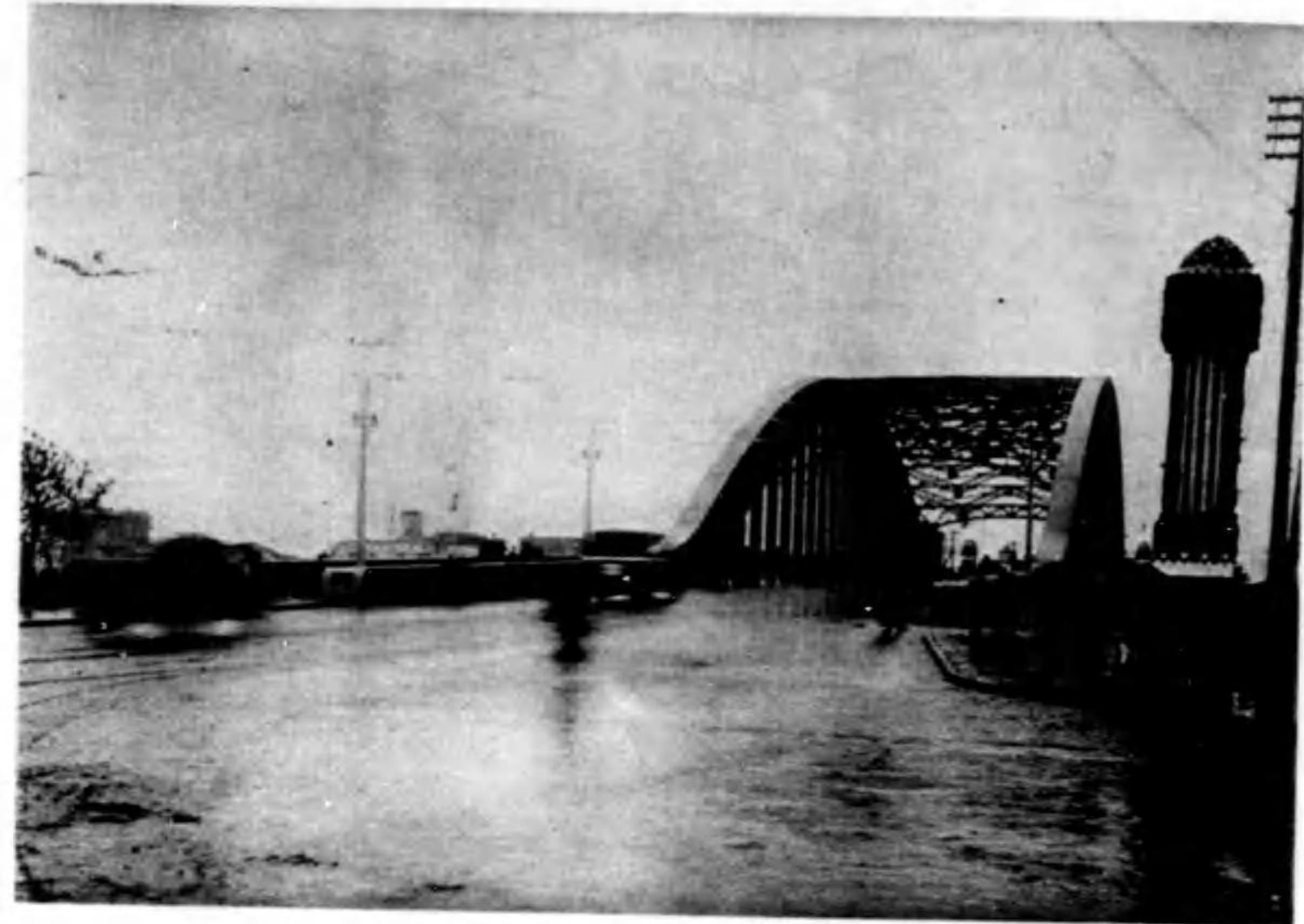


京橋附近



還幸薄の橋重二奉へ迎奉の奉拜者

御巡幸當日の雑観



江東より御還幸の薄の橋を永る代橋



坂本公園附近

御巡幸當日の雜觀



復興祭當日の市街(橋本口)



同上(銀座座)

ついで稍々社會政策上に亘り其の實情を言上した。次で國府田院長の御先導にて二階レントゲン室に入らせられ、東京市の衛生施設に就ての御説明を御聽取あらせられ續いて、病室へ成らせられた。各病室の患者は白の病衣にて恭しく寢臺の上に端座し、この破格の聖恩に恐懼感泣し頭を垂れて奉拜した。

かくて築地病院の御巡覽を終へさせられ、午後二時十九分退御、市場橋を左へ、更に築地三丁目より左へ、第四號幹線街路に鹵簿を進めさせられ、銀座四丁目交叉點を右へ、紅白の幔幕を背影に櫻花の裝飾を凝らしたる銀座通を通御、京橋より南傳馬町三丁目角を左へ、鍛冶橋を渡御、馬場先門跡より、二重橋に向はせらる。時に奉送者の熱誠を籠めた萬歳唱和するの聲も高らかなる裡に鹵簿は宮城へ向はせられた。

畏くも 聖上陛下には御道筋甘哩、御時間實に四時間半に亘らせられたるに聊かも御疲労の御氣色を拜し奉らす龍顏殊の外御麗はしく拜せられ、二時三十分恙なく宮城に還幸あらせられた。尙ほ築地病院に於ける天覽陳列品目錄説明書は左の如くである。

第一 東京市社會事業施設一覽圖昭和五年三月廿日現在(掛圖縦八尺九寸五分横七尺三寸五分) 出 品

説明

(一) 表示ノ目的

本市社會事業施設並要保護世帯ノ分布狀態ヲ示ス

(二) 表示事項

本市ノ各種社會事業施設、本市方面委員制度設置區域並要保護世帯ノ分布狀態ヲ表示セリ

(三) 表示方法

各事業施設ハソノ所在地ニ於テ圓形(帝都復興費ニヨルモノハ赤色ソノ他ハ青色ヲ以テ表ハシ各事業種別毎ニ略符號ヲ附ス而シテ未完成ノ分ニハ白圓ヲ附シタリ方面委員制度設置區域ハ淡黄色トシ要保護世帯ハ濃黄色ヲ以テ表ハシタリ

(参考資料)

- 一 本圖ハ昭和五年三月廿日現在
- 二 本市ニ於ケル要保護世帯數竝人口及ソノ分布狀態ハ昭和四年十一月十五日現在
- 三 要保護世帯記入標準ハ大體五世帯ヲ一分四分トス

第二 東京港修築計畫模型(土模型縦六尺横九尺高五尺)

說明

東京築港ニ關シテハ明治十三年以來夙ニソノ必要ヲ高唱セラレ爾來當局ハ計畫上幾多ノ研鑽ヲ積ミ之カ實現上多大ノ努力ヲ拂ヒ東京市民亦多年其ノ實現ヲ翹望スルトコロナリシモ機運未タ熟セス荏苒歲月ヲ閱ミスルノ止ムヲ得サリシモノアリ
偶々大正十二年九月震災直後ニ於テ帝都復興ノ議起ルヤ政府ハ茲ニ東京港ノ修築及京濱運河ノ開鑿等帝都水運施設ニ關シ頗ル完全ナル企畫ヲナス所アリタリト雖モ諸般ノ事情ニ阻止セラレ遂ニ之ヲ復興事業ヨリ除外シ其ノ實行ヲ見ルニ至ラサリシハ是實ニ帝都興隆上ノ一大恨事ニシテ朝野ノ均シク遺憾トセシトコロナリ

抑々東京港ハ隅田川口ニ位置シ港灣トシテ天恵乏シカラサルモ其ノ水深ハ僅カニ舳船ノ出入ニ適スルニ過キサリシカ爲メ東京港出入ノ貨物ハ凡テ横濱港ニ於テ本船荷役ヲナシ東京横濱間ハ舳船ニヨリ連絡スルノ實狀ニアリシヲ以テ明治三十九年以降大正六年ニ亘リ隅田川口改良工事ヲ施工シ工費五百餘萬圓ヲ

投シ川口港筋ヲ浚深シ干潮面以下十二尺ヲ維持シ以テ小型汽船ノ出入ニ便シタルニ依リ從來片影タニ見サリシ千噸内外ノ近海航路船舶ハ芝浦地先ニ蟬集スルニ至レル實狀ニ鑑ミ大正十一年更ニ工費六百八十萬圓ヲ以テ再ヒ隅田川口改良工事ヲ起工セリ然ルニ偶々翌十二年ノ大震災ニ遭遇シ救援物資ノ非常輸送ニ當リ大小ノ船舶ハ冒險的入津ト犠牲的荷役ニヨリテ物資ノ陸揚ヲ強行シ辛シテ此ノ非常時ニ於ケル救援ノ使命ヲ盡シ得タルカ如キ苦キ經驗ニ徴シ東京港修築ノ緊要措ク能ハサルヲ認メ災後直ニ其ノ計畫ヲ擴張シテ一躍工費ヲ千九百萬圓トシ目下着々工事進行中ニシテ昭和七年迄ヲ以テ完成ノ豫定トス
然ルニ本工事ハ單ニ年額三百六十萬噸ノ貨物ヲシテ港内ニ於テ本船荷役ヲナサシメ得ヘシト言フニ過キス殊ニ陸揚設備ニ至リテハ殆ト之ヲ缺如シ水陸連絡ノ實全タカラス其ノ規模亦頗ル狭少ナルヲ以テ東京港出入荷物ニ對シ更ニ幾多ノ擴張ヲ要スヘキモノアリトス今試ニ本港芝浦地先ニ於ケル本船荷役ヲナセル貨物ノ實況ヲ見ルニ震災前即大正九年ニ於テハ一箇年二萬三千噸大正十一年ニ於テハ八十餘萬噸ニ止リシカ昭和四年ニ至リテハ實ニ二百九十八萬噸ニ達シ隅田川口改良工事ノ進展ト相俟テ益々増加ノ趨勢ヲ示シ到底如上ノ施設ニ晏如タルヘキニ非ルニヨリ茲ニ東京港修築計畫ヲ樹立セリ即ソノ計畫トシテハ工費約六千萬圓ヲ以テ一箇年千三百萬噸ノ内國貿易貨物ヲシテ極メテ安全容易ニ港内荷役ヲナシ迅速ニ海陸連絡ノ實ヲ全タカラシムルノ施設ヲナサントスルモノニシテ其ノ概要ハ防波堤ニヨリ水面積二百五十八萬坪ヲ包擁シテ靜穩ナル水面ヲ造リ其ノ内百四十一萬坪ヲ水深二十五尺及二十二尺ニ浚深シ沿岸ニ繫船壁及棧橋ヲ築造シテ二千噸乃至六千噸級ノ航洋船舶六十三隻ノ同時接岸荷役ニ適セシムルノ外六千噸級以內ノ船舶八十隻ヲ同時ニ内港ニ碇泊シテ荷役ヲナシ得ヘカラシメ又港内ニ安全ナル舳溜筏溜及物揚場ヲ築造シ陸上設備トシテハ二百一十一萬坪ノ新埋立地上ニ鐵道々路橋梁及上屋等ノ施設ヲ完備シテ海陸連絡施設ヲ全タカラシメントスルモノナリ

以上ノ計畫ハ之ヲ二期ニ分チ漸テ實現ヲ期スル豫定ナリト雖モ其ノ完成ヲ表現セルモノハ即チ本
模型ナリ

第三 東京市中央卸賣市場築地本場模型(模型六尺七寸角高サ臺共五尺臺二尺五寸)

說明

- (一) 表示ノ目的
建設竣功後ノ築地本場ノ全景即各建物及設備ノ規模及其ノ配置ヲ髣髴セシメントス
- (二) 表示事項
裏面ニ記入シアリ
- (三) 表示方法
模型ニ依ル

(參考資料)

一 建設ノ趣旨 中央卸賣市場建設ノ趣旨ハ都市住民ニ對シ新鮮ナル食料品ノ配給ヲ圓滑ニシ其ノ取引
組織ヲ改善シ價格ノ公正ヲ期スルト共ニ衛生施設ノ完備ヲ圖リ以テ市民ノ消費經濟並保健衛生ニ貢獻
スルニアリ 二 計畫要綱 位置東京市京橋區築地四丁目一番地 面積五九一・〇二坪 總建
坪一四、八八一坪 總延坪一八、〇三七坪 主要建物 魚類青果肉鳥卵ノ卸賣場仲買人賣場附屬商賣
場青果鹽干魚倉庫買荷保管所バナ酸酢室荷揚場上屋牛馬繫留場冷藏庫市事務所集合所貸事務所便所
等ナリ 主要設備 構内鋪裝鐵道引込線棧橋護岸荷揚場給水排水電氣衛生設備等ナリ
建設資金一六、五〇〇、〇〇〇圓 內譯 東京市復興事業公債一一、二五〇、〇〇〇圓 國庫補助金三七、
五〇〇、〇〇〇圓 低利資金一、五〇〇、〇〇〇圓 建設費豫算一六五〇〇、〇〇〇圓 內譯 用地費八、

五二九〇一九圓 建築費四、八九四七〇圓 設備費二、四三六五一七圓 設計並監督費六三九九
九四圓 取扱品目 魚類肉類鳥類卵蔬菜及果實 取扱見込年額 四七八七〇〇噸 一二、四〇
〇〇〇圓

第十節 献上「帝都復興事業圖表」

曩に謹製を計畫したる東京市献上本「帝都復興事業圖表」は愈々完成を遂げて御巡幸翌日の二十
五日午後三時東京市長は宮内省に參伺し、宮内大臣を経て

天皇陛下
 皇后陛下
 皇太后陛下
 に献上の手續きを了した、而して圖表の體裁は左の如くてある

寸法 天地一尺三寸五分左右九寸五分
 製本 洋式羊皮表紙背丸
 表紙 羊皮色物ヲ用ユ
 綴糸 本藤ニ使用スル糸ハ純白絹
 表紙芯 白ボール五〇オンス
 表題 背ニ金版ニテ金箔ヲ押込ムモノトス

本 上 献

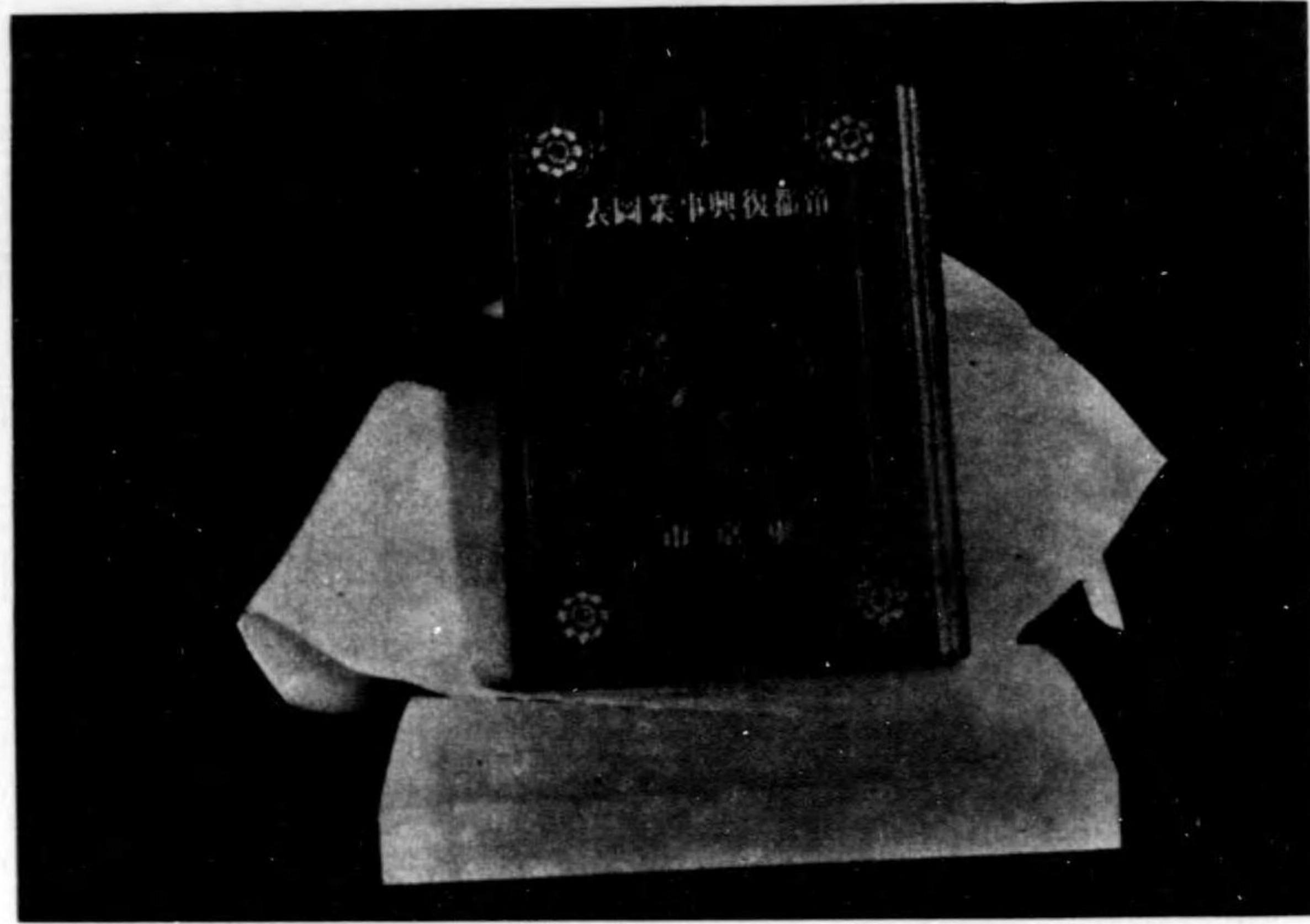
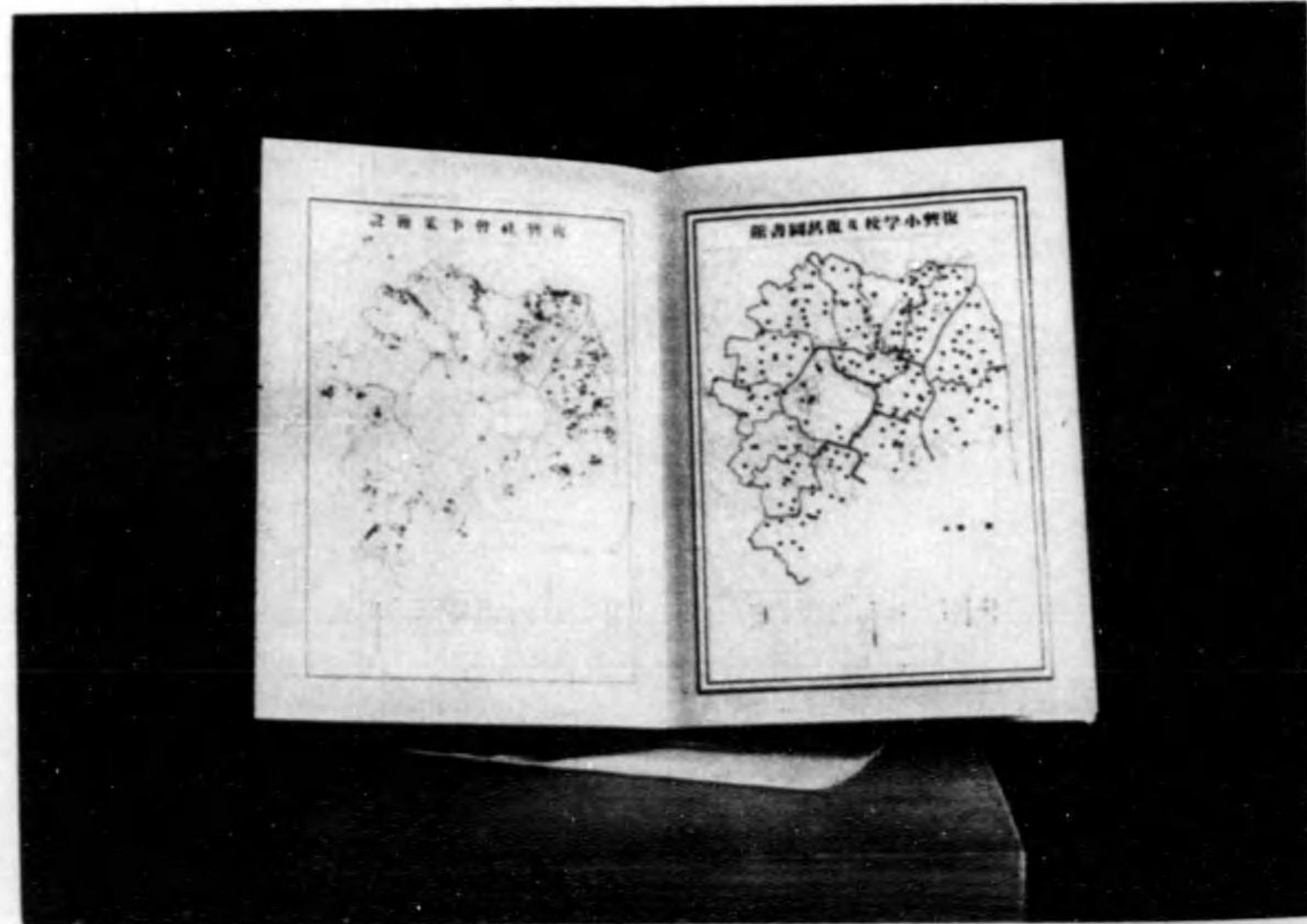


表 圖 業 事 興 復 都 帝



部一の容内表圖上同

帝 都 復 興 祭 志

文 字 隸 書 下 川 碧 山 書

装 幀 表 紙 ハ 前 記 ノ 芯 ニ 羊 皮 ヲ 張 リ 適 當 ナ ル 圖 案 ヲ 表 ニ ノ ミ 金 版 ヲ 使 用 シ 金 箔 ニ テ 押 込 ム 表 紙 裏 見 返 シ 面 ノ 折 カ ヘ シ ニ ハ 東 京 市 ノ 紋 章 又 ハ 他 ノ 圖 案 ヲ 金 箔 ニ テ 押 込 ム

見 返 見 返 ハ 適 當 ナ ル 洋 紙 薄 色 ヲ 選 ブ ノ 天 地 ニ 雲 ノ 圖 案 ヲ 使 用 ス

扉 紙 ハ ワ ヲ ツ ト マ ン ノ 合 紙 ヲ 使 用 シ 二 枚 合 セ ト ナ シ 文 字 ハ 表 題 ト 同 シ モ ノ ヲ 金 色 ニ テ 押 出 シ 赤 ノ 輪 廓 ヲ 用 ヲ

天 覽 品

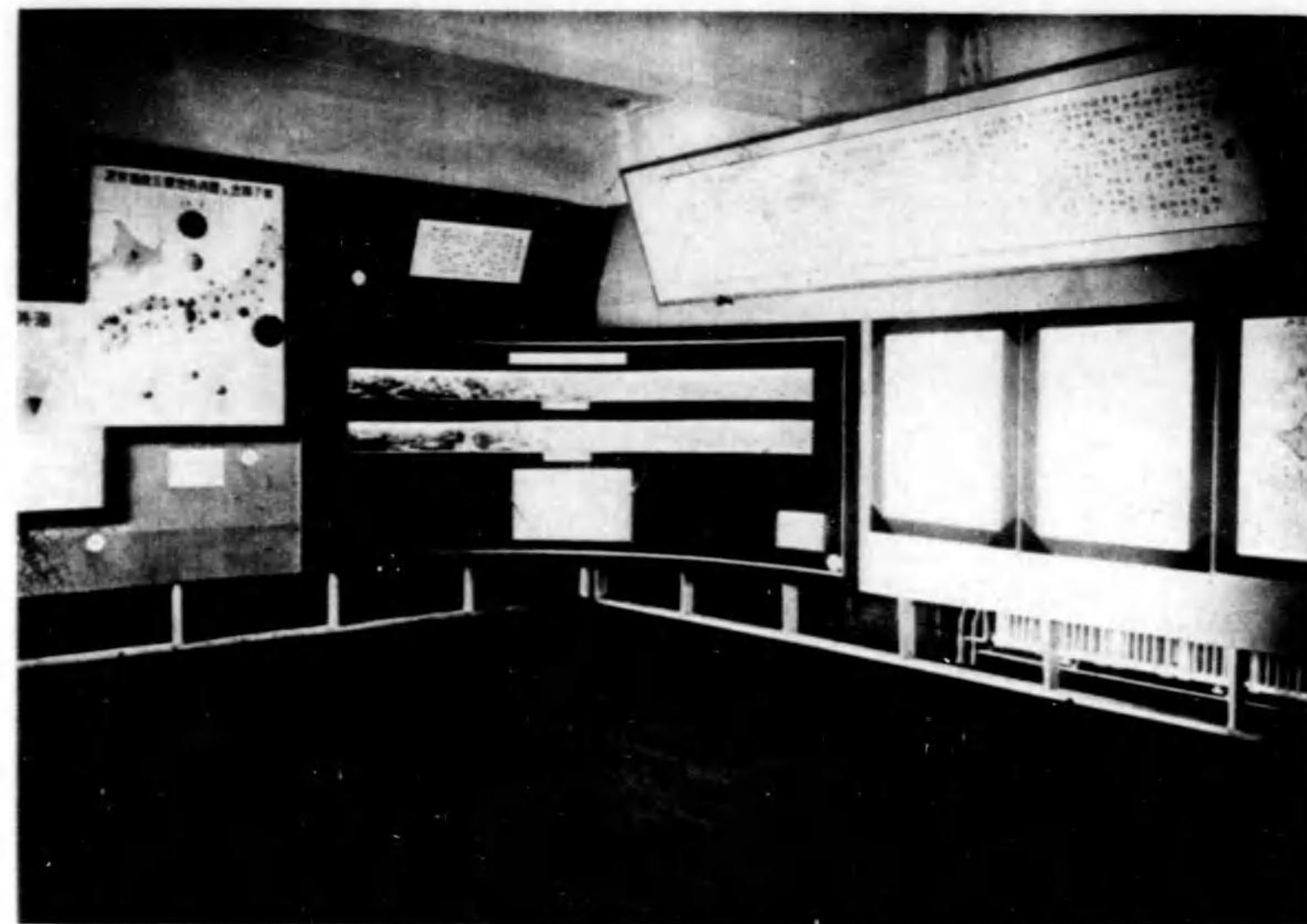


千代田小學校內陳列



同 上

天 覽 品



千代田小學校內本市陳列

品 念 記



品念記るたし呈贈に者列参り上市本

興 復

市 京 東
明治三十五年

帖証寫念記るたし呈贈に者自招命賀祝

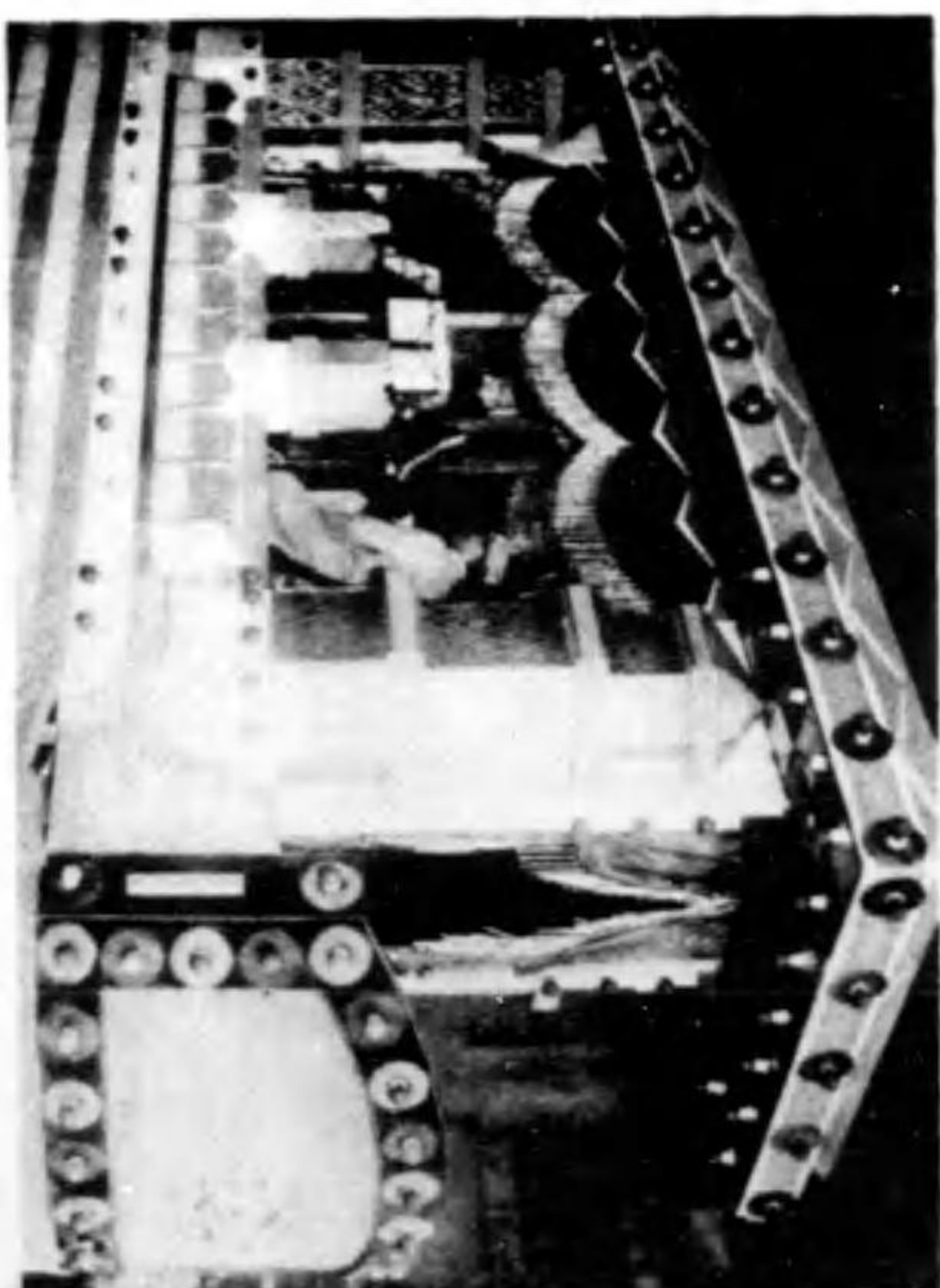


附 役 市 京 東 の 日 常 祭 興 復

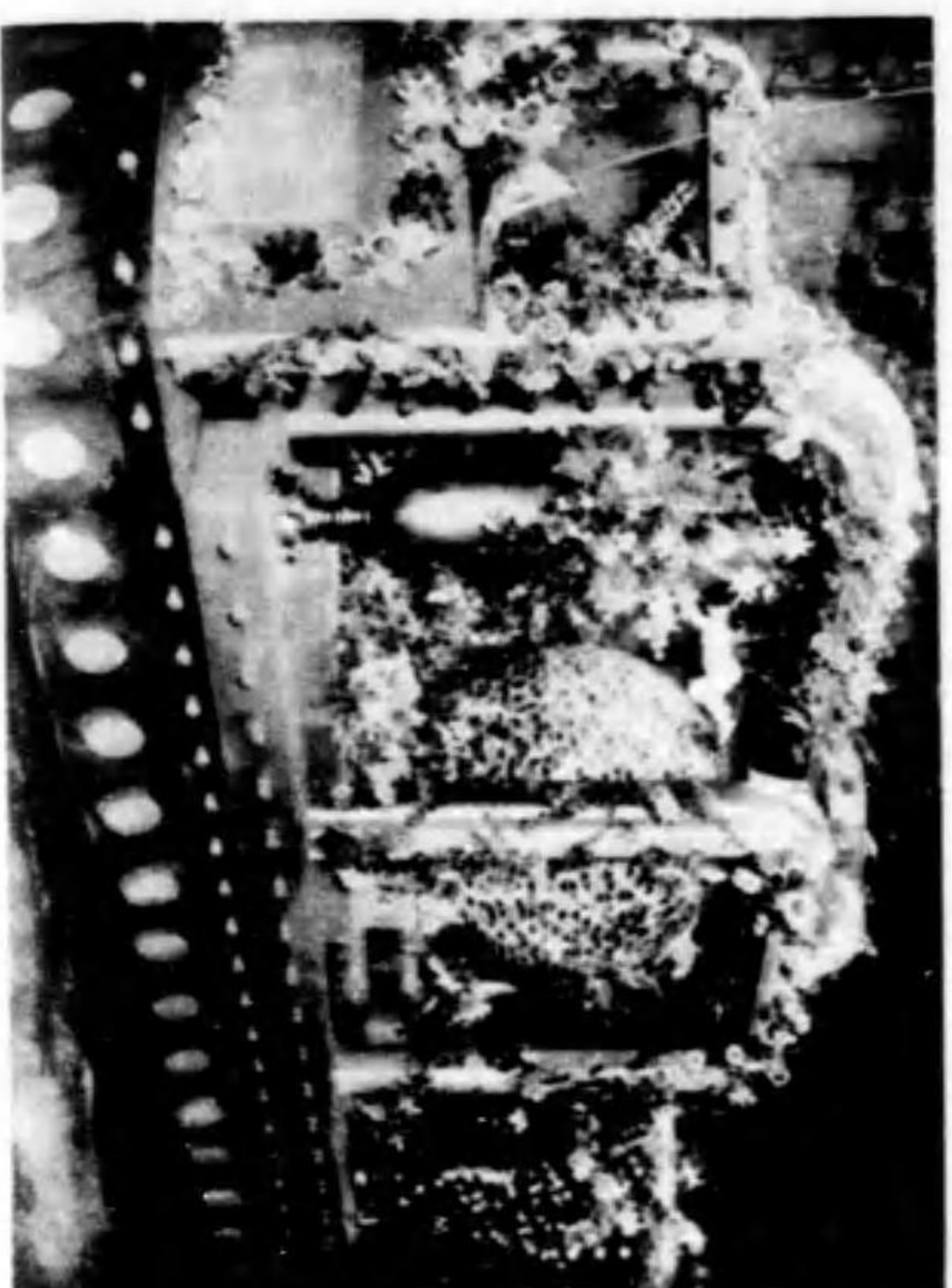
車電花



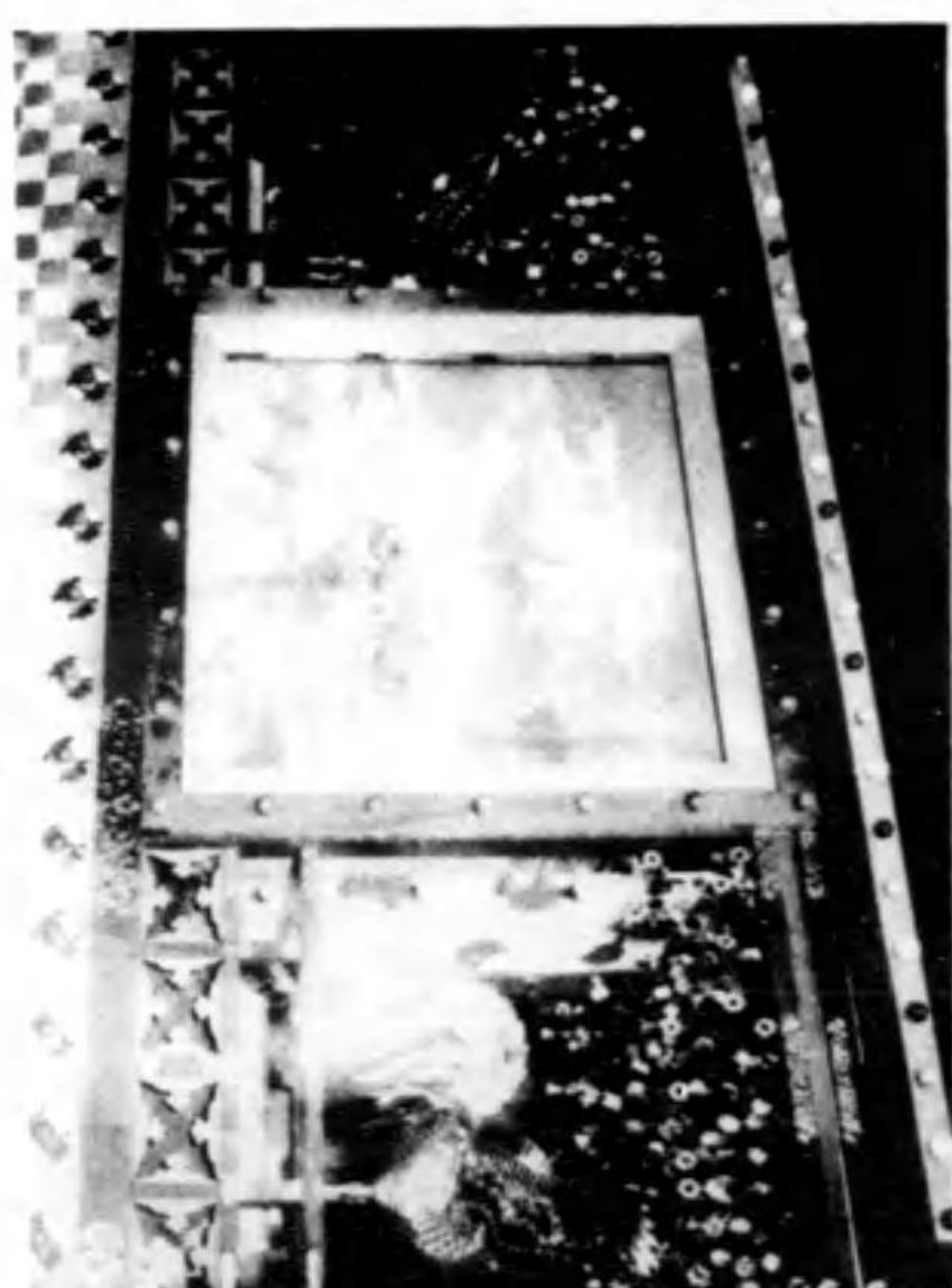
戸岩の天



車樂音

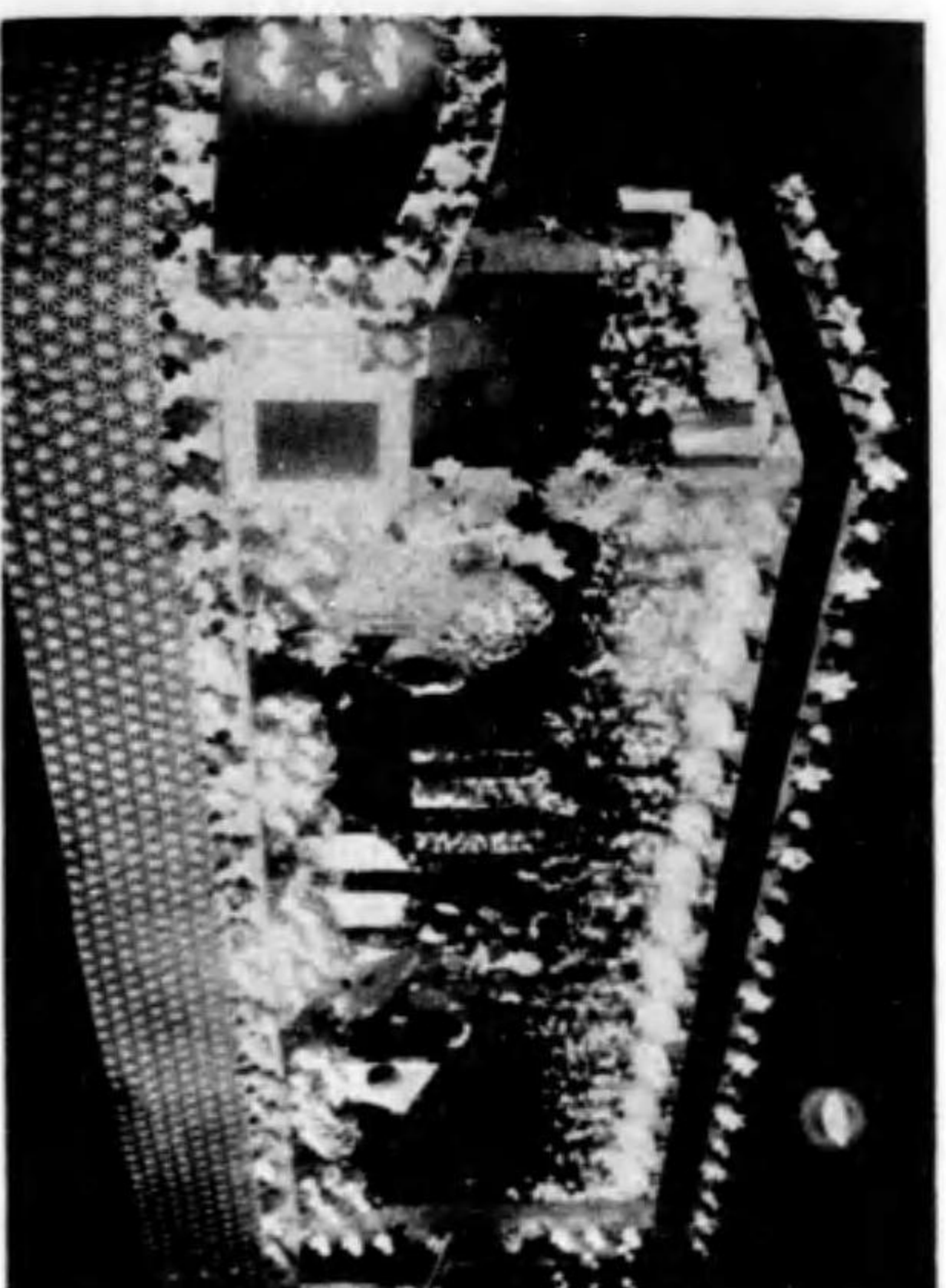


輝光

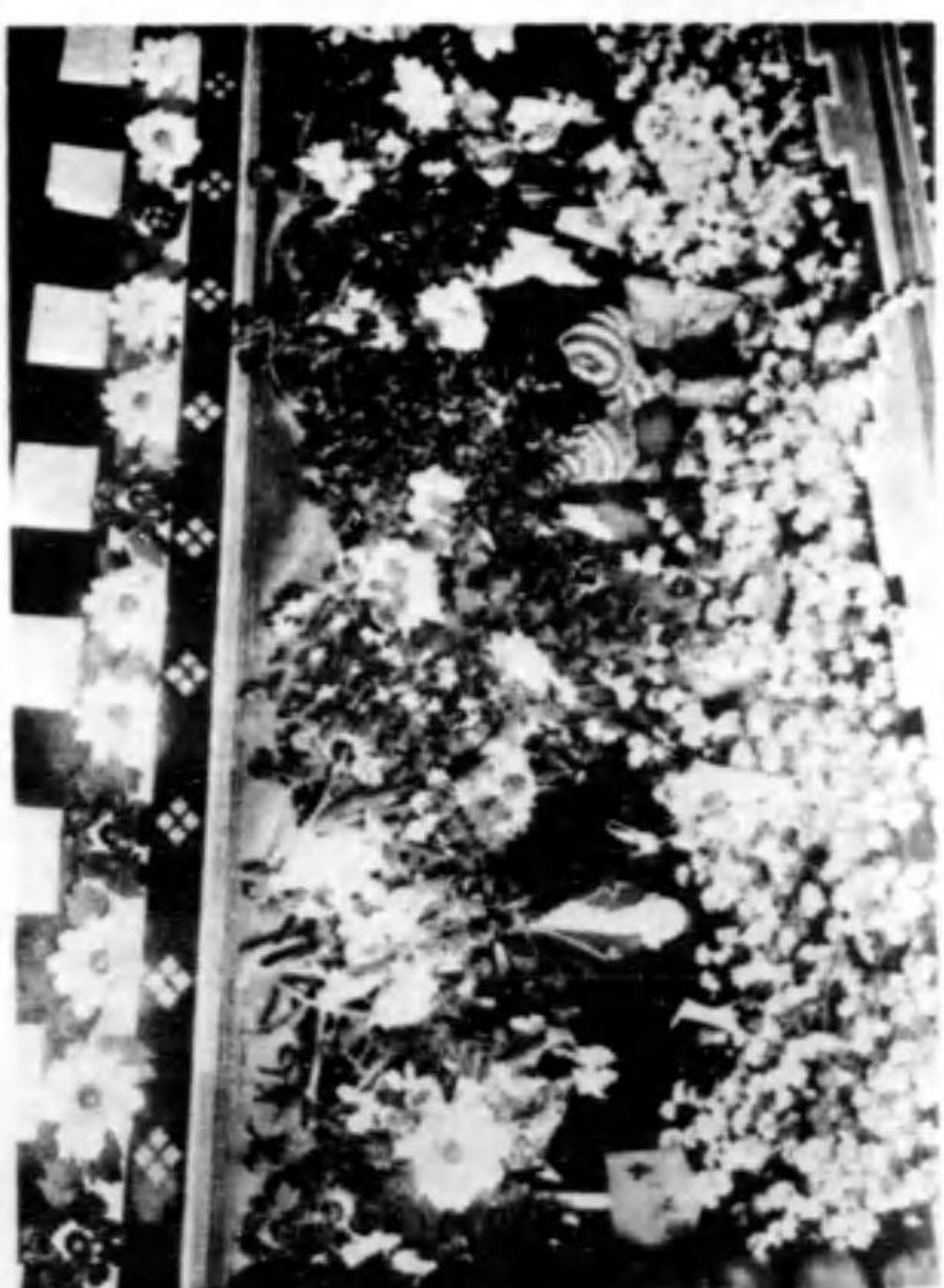


輝光

車電花



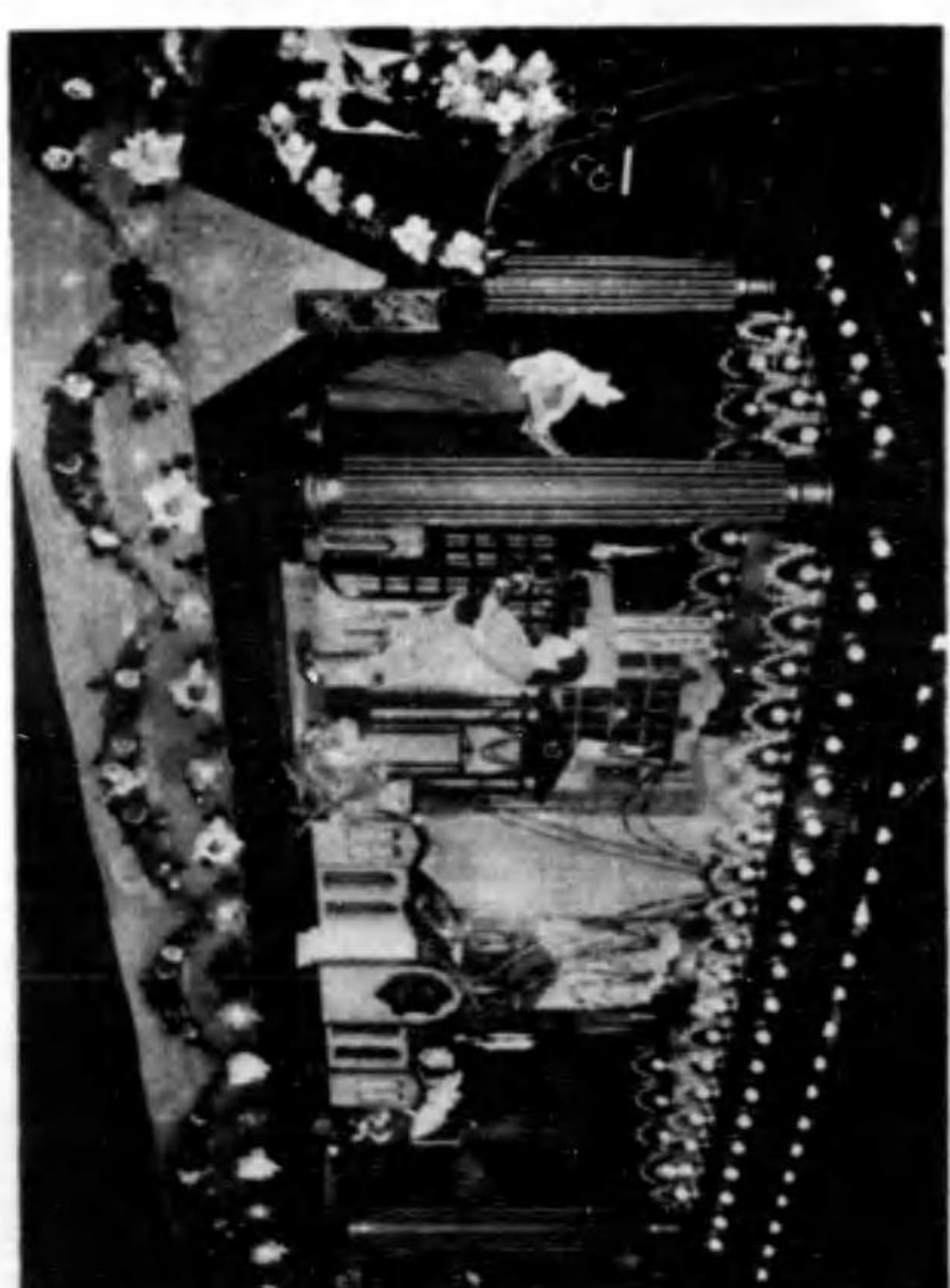
輝光



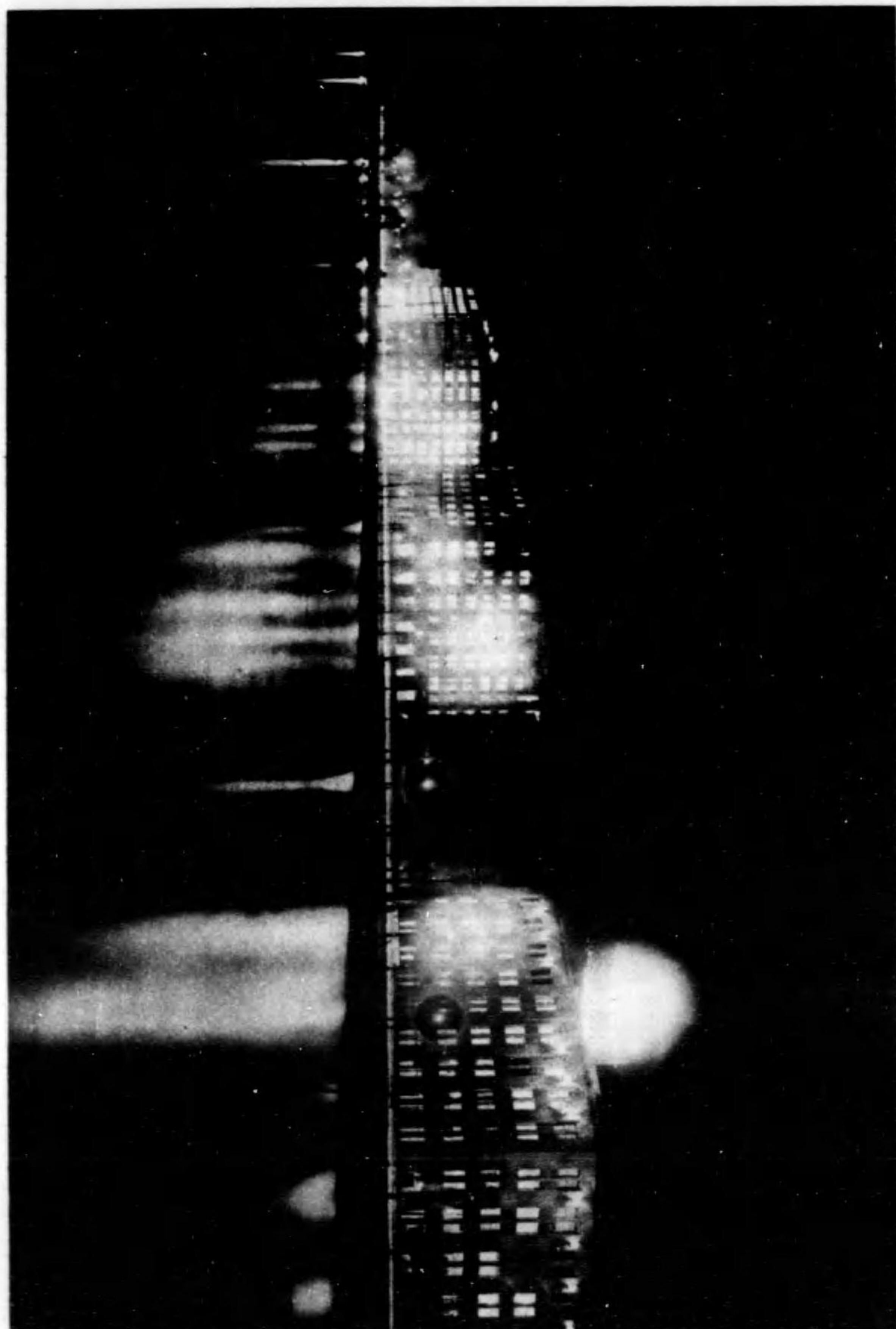
春々咲花



車電花の過路を上々橋木口



活復



皇夜「内」の光

第四章 帝都復興完成式典

第一節 宮中御儀

畏くも 聖上陛下二十六日帝都復興完成式典臨御に先立たせられ、午前八時三十分宮中賢所皇靈殿神殿に於て、嚴かなる震害復興親告の御儀を行はせられた、更に神武天皇明治天皇大正天皇の山陵に勅使を御差遣奉告あらせらる。尙ほ此の日の御儀には東京市長参列の光榮に浴した。

宮内省よりの通牒左の如くである。

昭和五年三月二十五日

式部長官 男爵 林 権助印

東京市長堀切善次郎殿

明二十六日賢所皇靈殿神殿ニ震害復興親告ノ儀被爲行候ニ付通常禮服用午前八時三十分賢所参集所へ参集有之度候

追テ半藏門乾門大手門ノ執レカヨリ参入有之度且歸還ノ際ハ坂下門通行差支無之候

此の朝、御儀に参列せる諸員は山本大勳位濱口首相倉富樞府議長・一木宮相牧野内府安達内相外各國務大臣水野練太郎上原元帥平沼樞府副議長吉田加藤各陸海軍大將蜂須賀侯阪谷男一條公東

久世男、矢島宮内事務官外特に復興関係代表者中より中川復興局長、官潮内務次官、佐藤復興局技師が選ばれた。

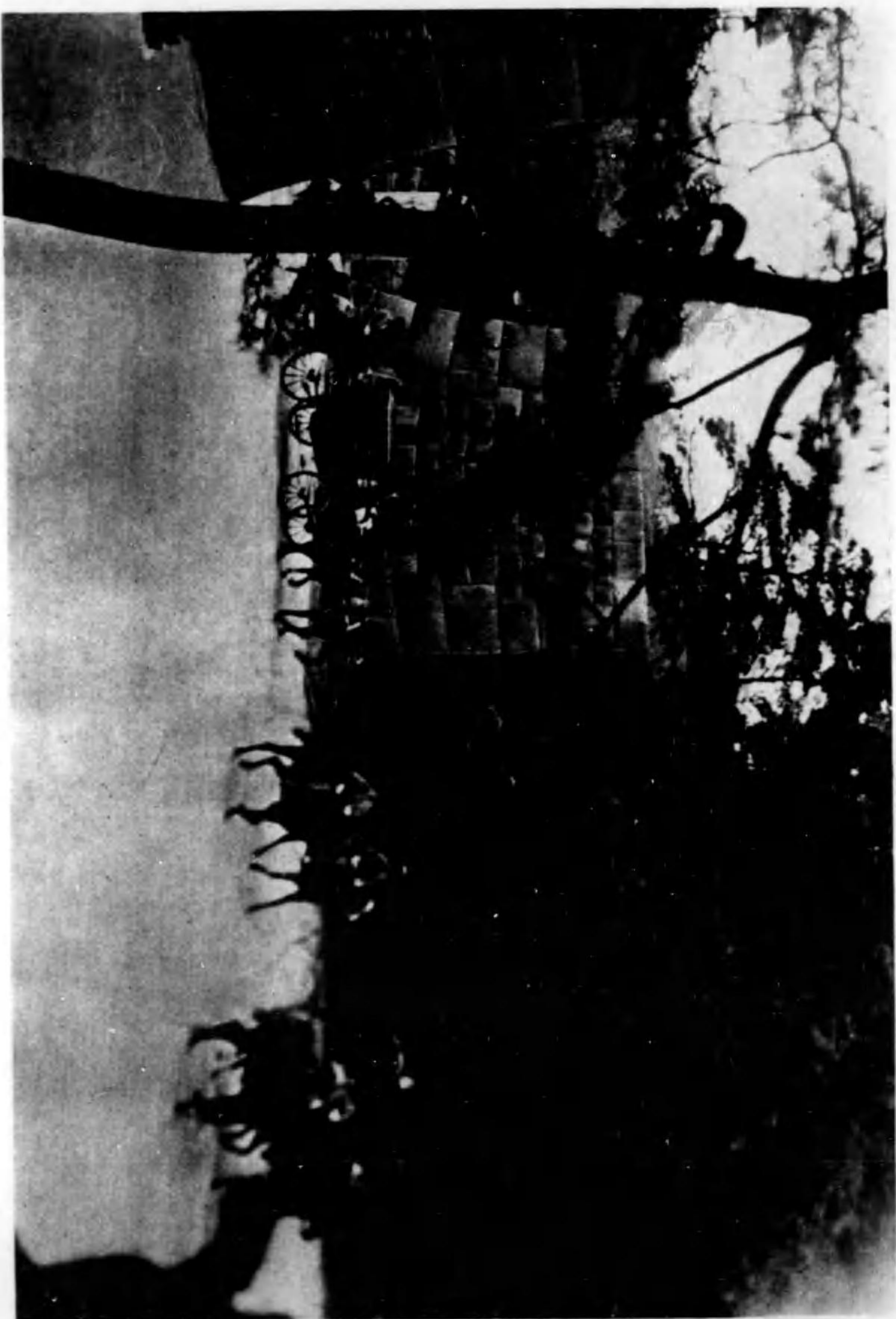
参列員は同日午前八時三十分いづれも通常禮服にて賢所参集所に参着し、やかて皇族御代表の閑院元帥宮殿下にも御参着あらせられた。これより曩に賢所に於て掌典部は午前七時四十分より御祭典を始められたか畏くも、聖上陛下には午前八時四十分神々しき御袍の御姿にて笏をとらせ給ひ鈴木侍従長、奈良侍従武官長以下を従へさせられ、賢所に出御遊はさる九條掌典長先づ神前に祝詞を奏し、聖上陛下には恭しく神前に進ませられ、玉音高らかに關東大震害の復興茲に完成したる旨、御告文を奏させ給ひ御懇ろなる御拜禮あらせられた。御拜禮を終へさせられ、續いて皇太后陛下御名代萬里小路女官の御代拜、閑院宮殿下以下参列員の拜禮あり、御同様の御儀は神殿皇靈殿に於ても行はれた。かくて三殿親告の御儀は九時過滞りなく終了して、入御あらせられた。

恰もこの御時刻、伊勢神宮にては勅使本多掌典次長、神武天皇明治天皇各山陵には庭田掌典多摩御陵には小松掌典等各御旨を奉し、嚴かに奉告の御儀が行はれた。

第二節 帝都復興完成式典

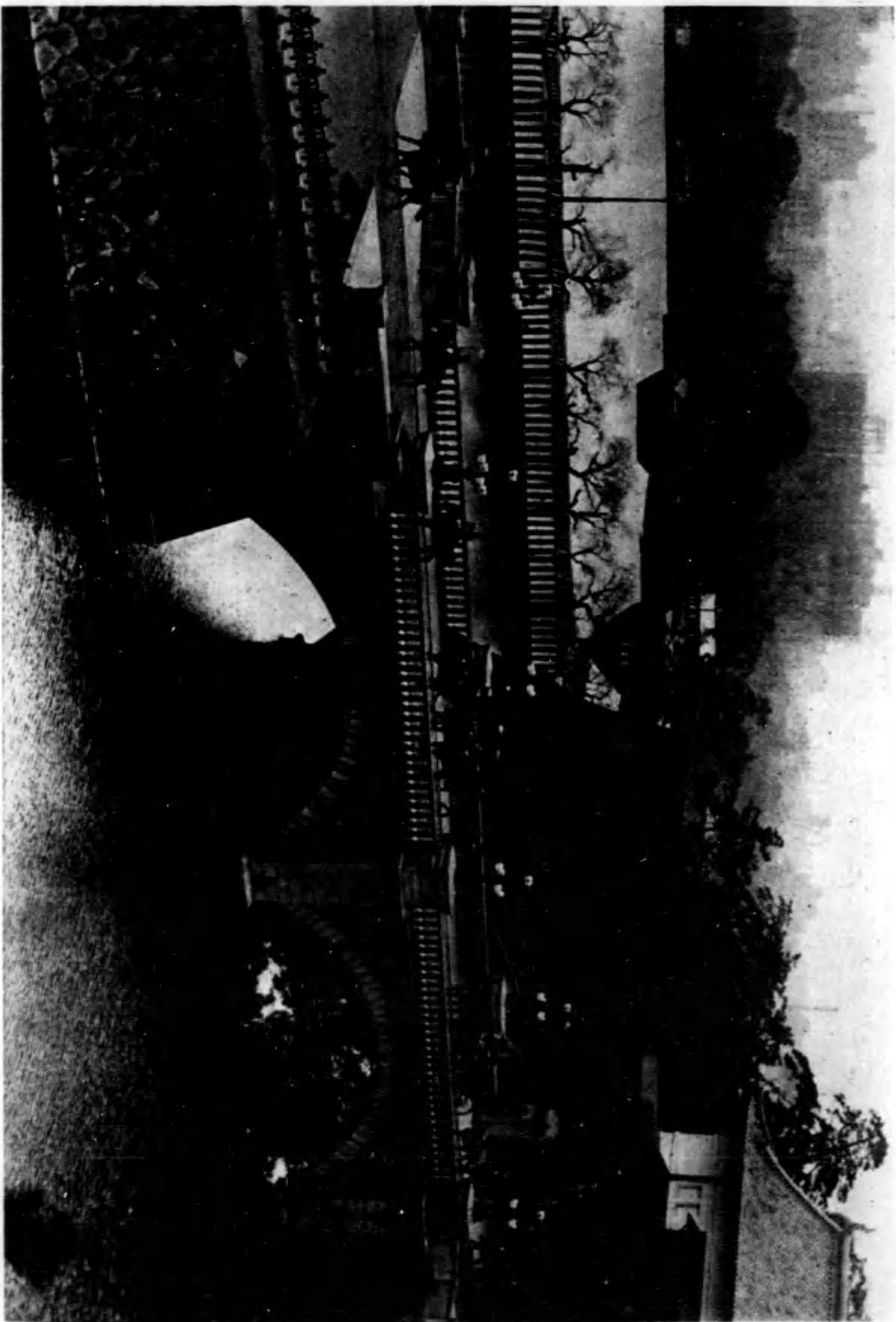
昭和五年三月二十六日春光和やかに洽ねき、大内山の邊りは陽に映えて、常盤木の緑いや深く色をそへた。畏くも聖上陛下の御臨幸を仰きまつる、宮城外苑の大式殿は正面欄間の菊花御紋章金色に輝き亘り、殿内の内側三方には紅白の幔幕、中央玉座前には青地錦の布を覆ひし御机、其の後方の帳はいと神々しく、亦一萬四千坪の式場には肩と肩とを摩する五萬六千人、杉の青葉の間には参

式典完成復興



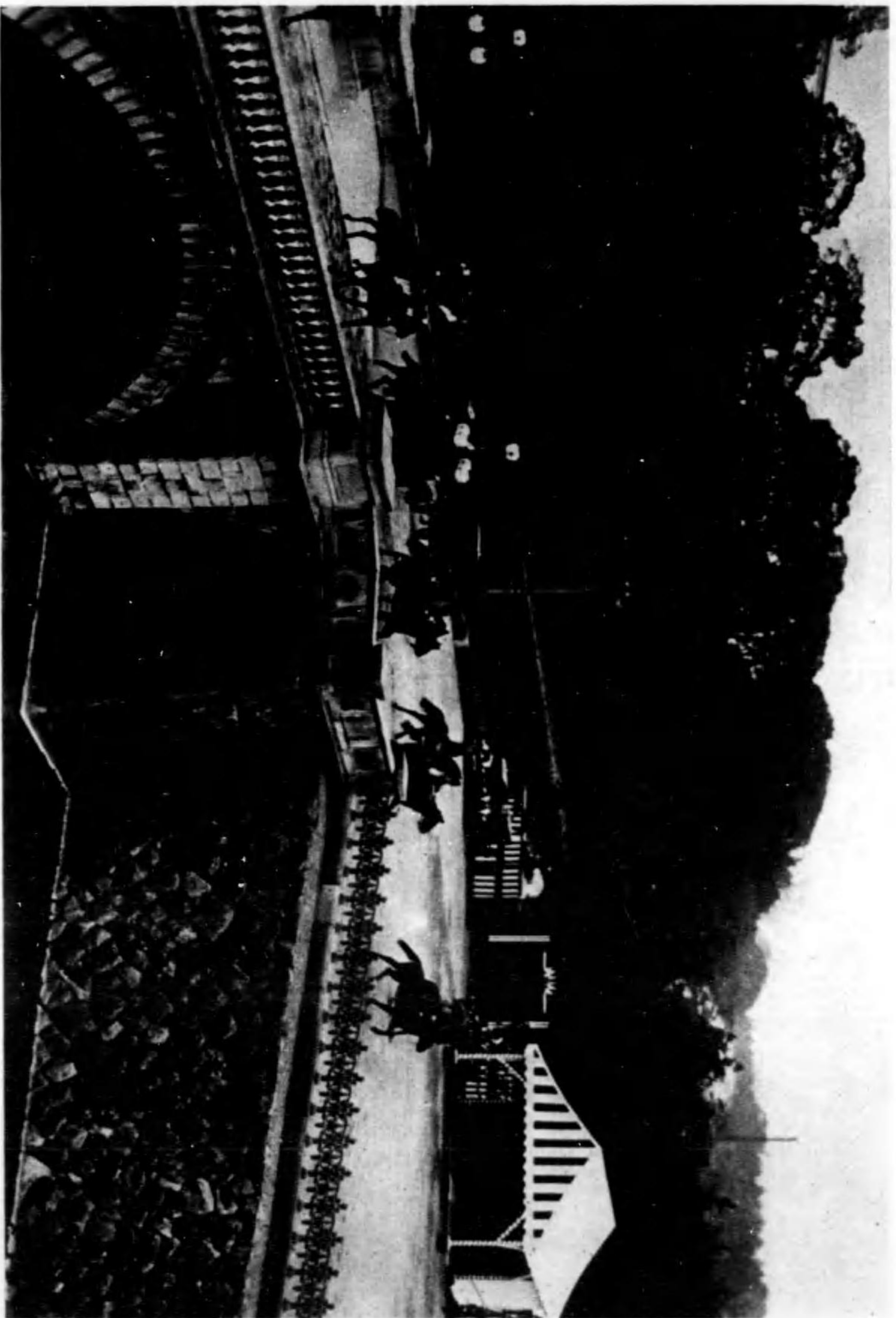
宮城出御

典式成完興復



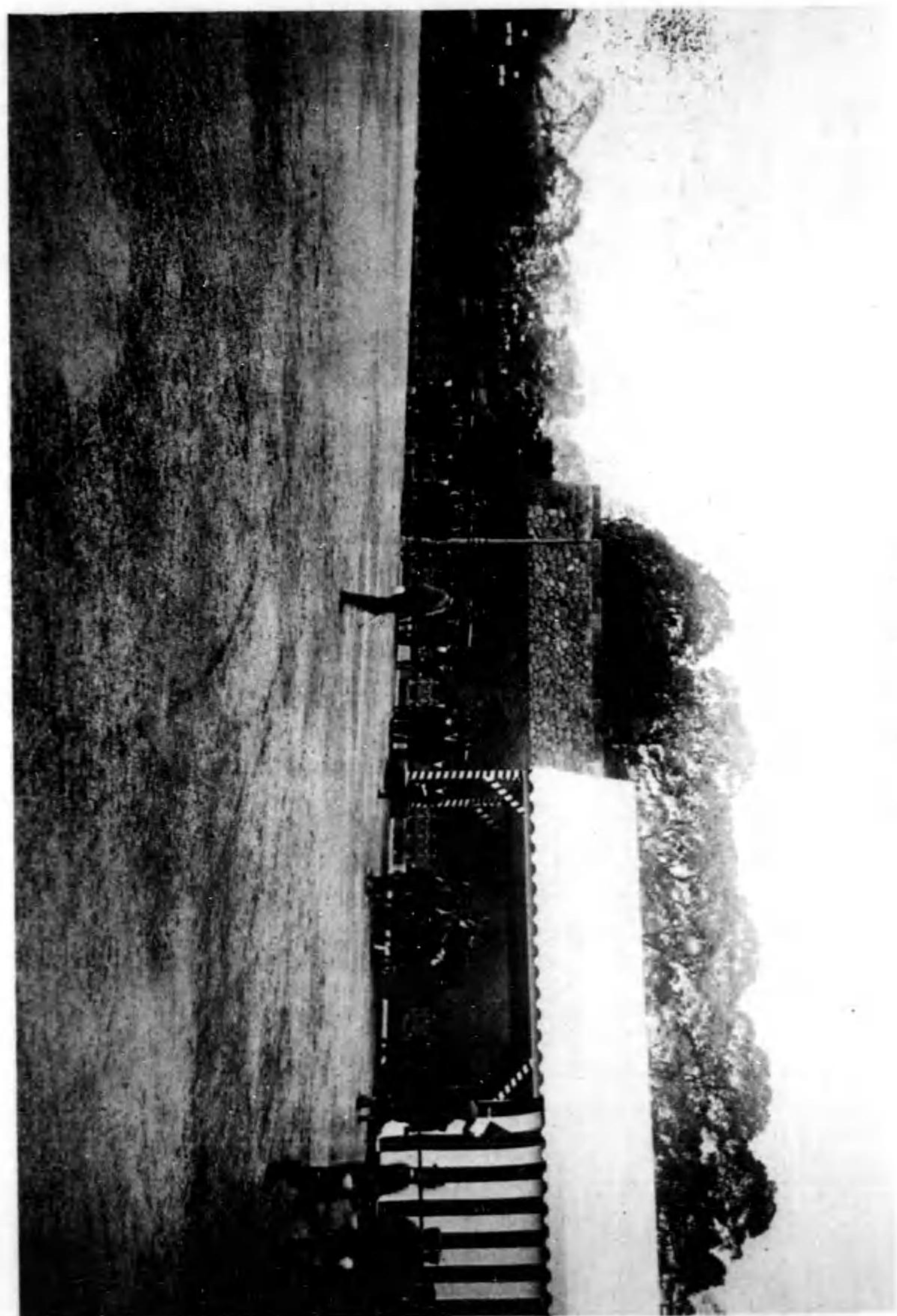
過通御橋重二

典式成完興復



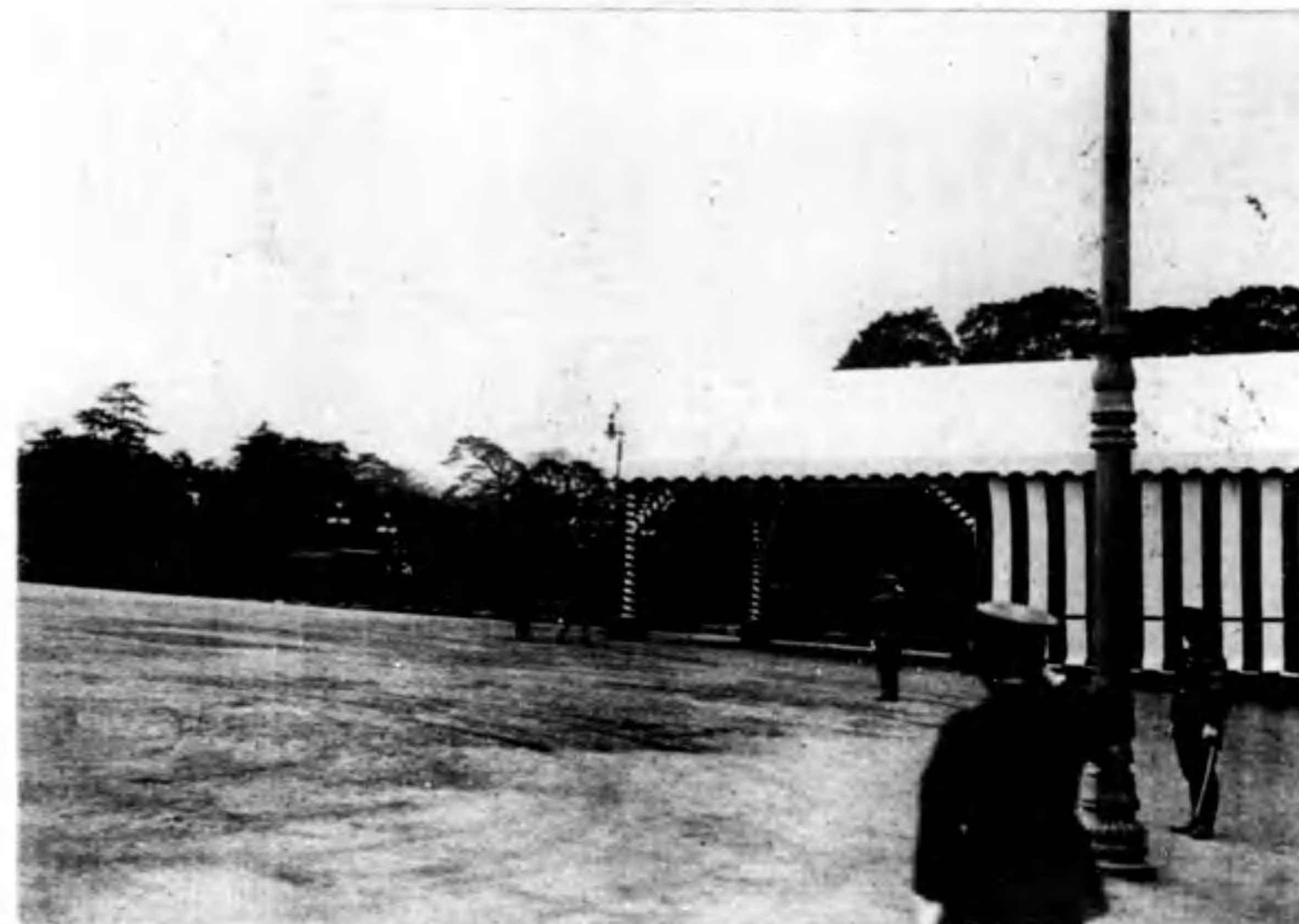
るらせは向へ場典式簿處

御着、寄車御場典式

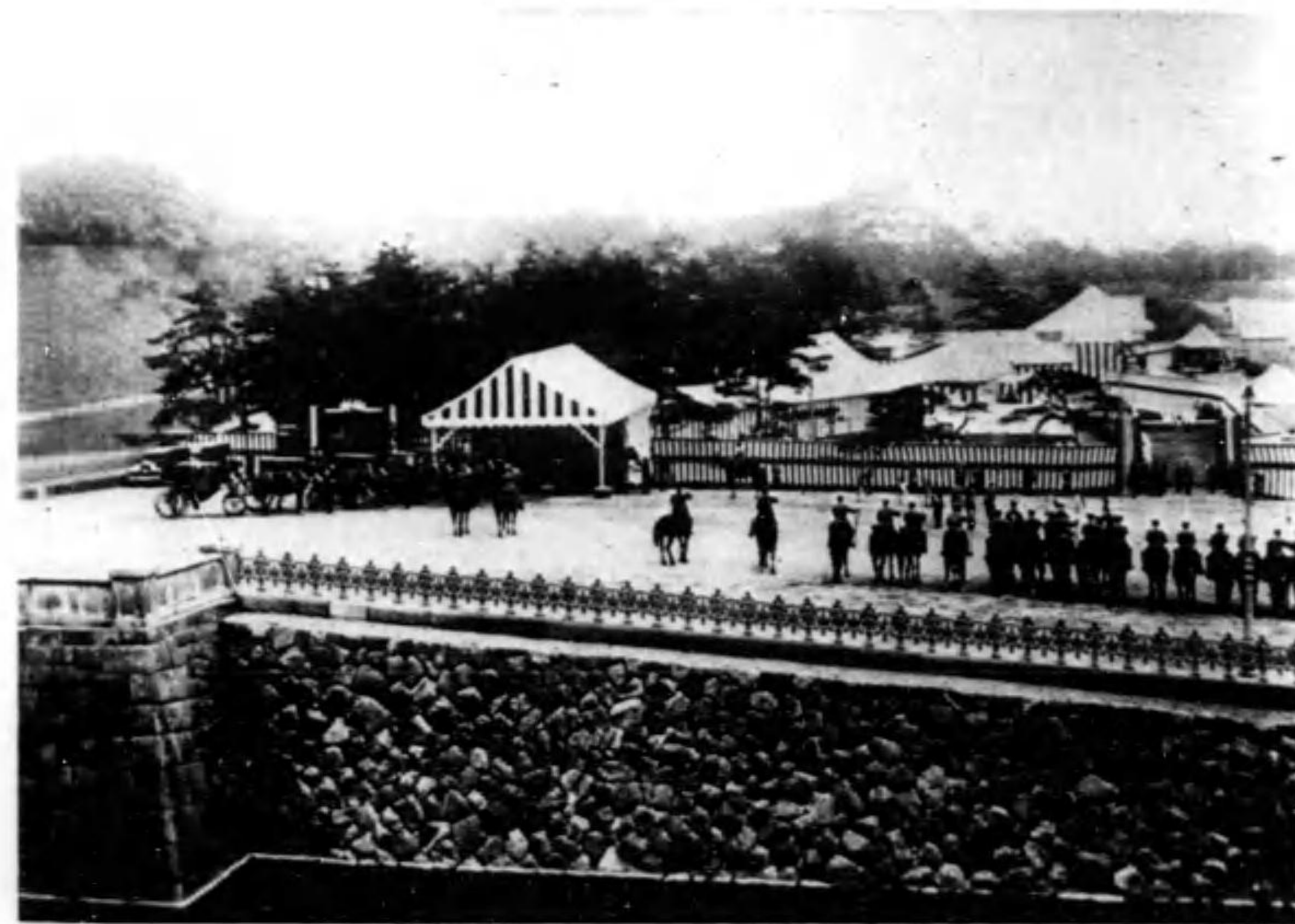


典式成完興復

典式成完興復

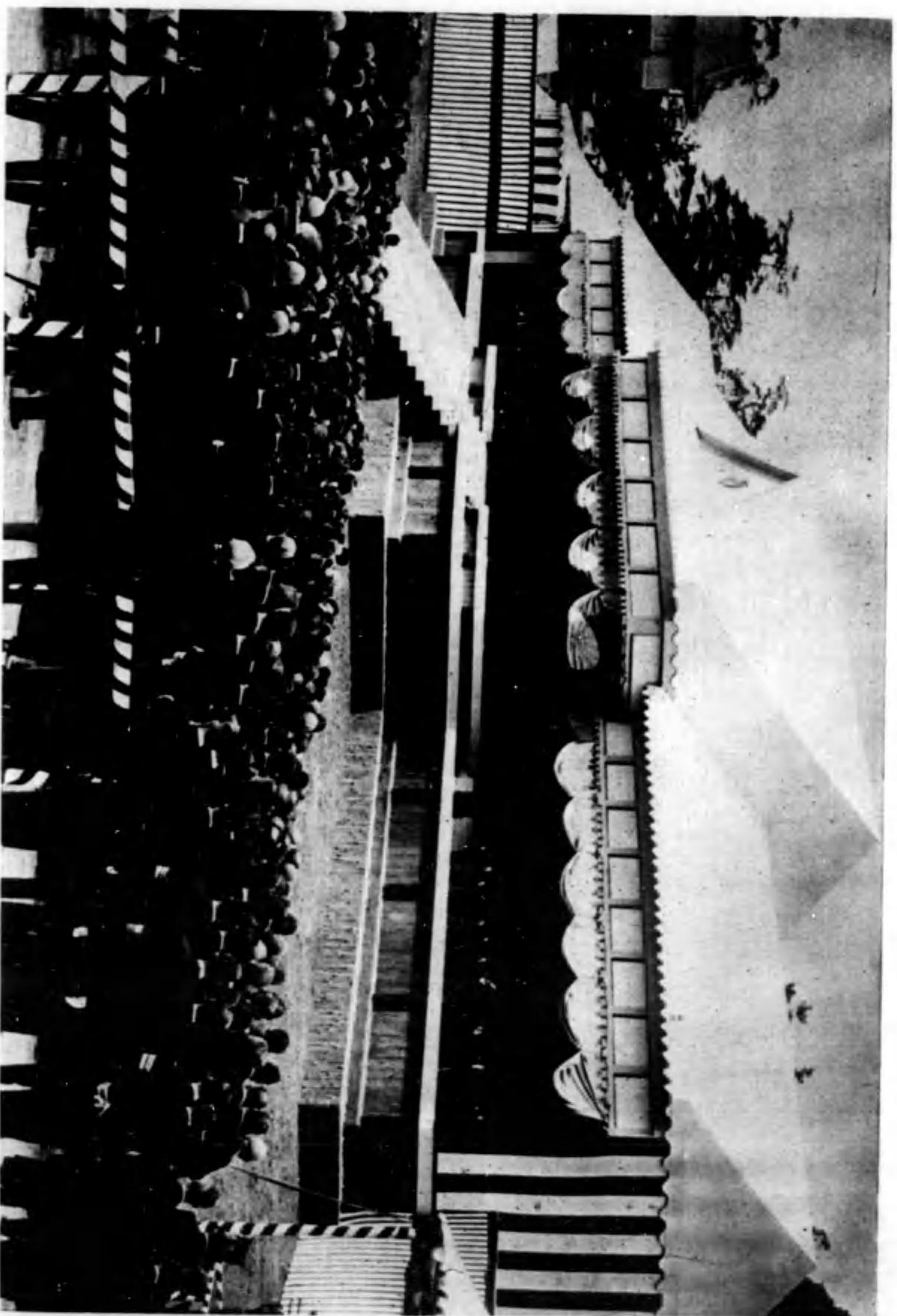


御着に場典式



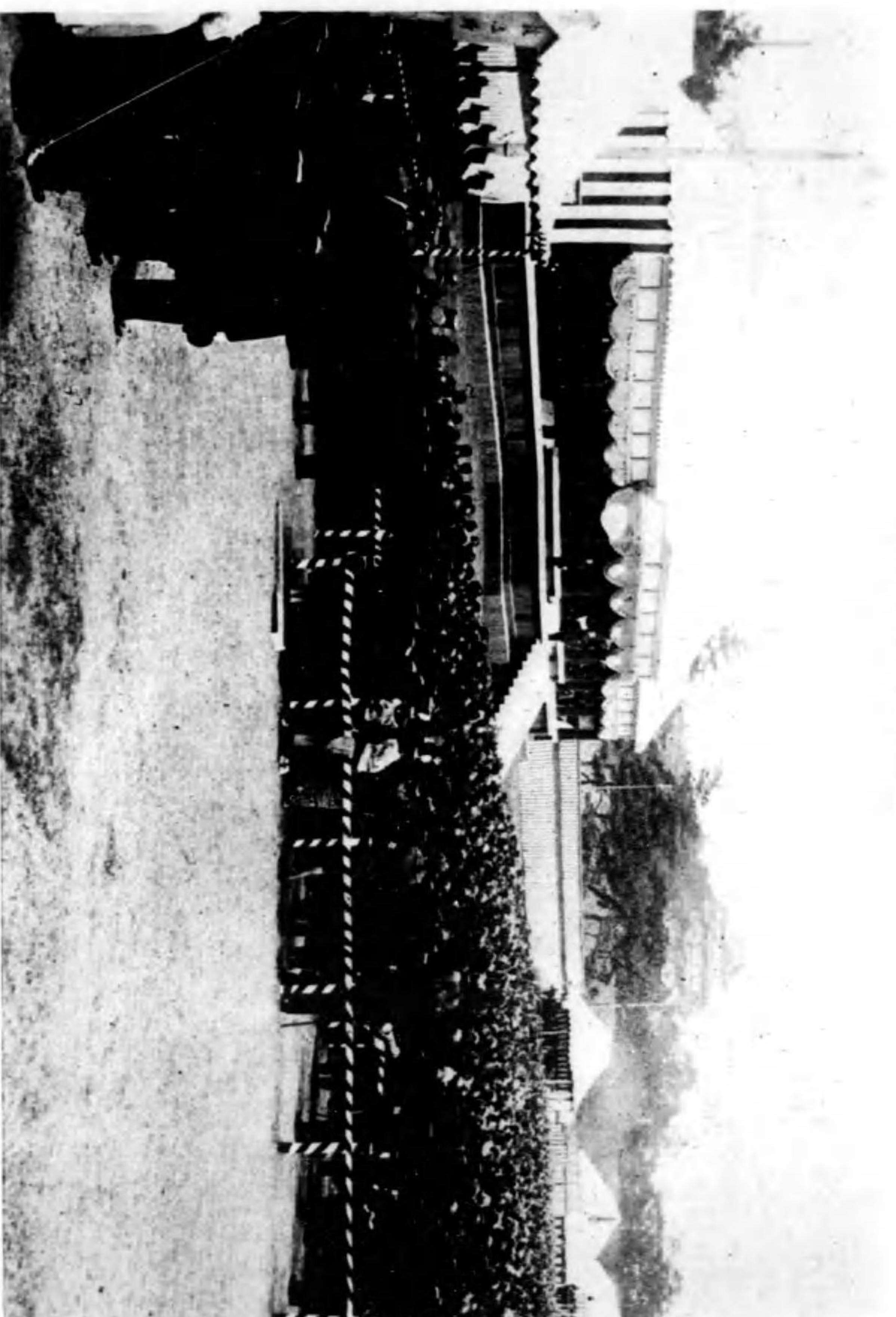
上 同

典式成完興復



御出殿式

典式成完興復



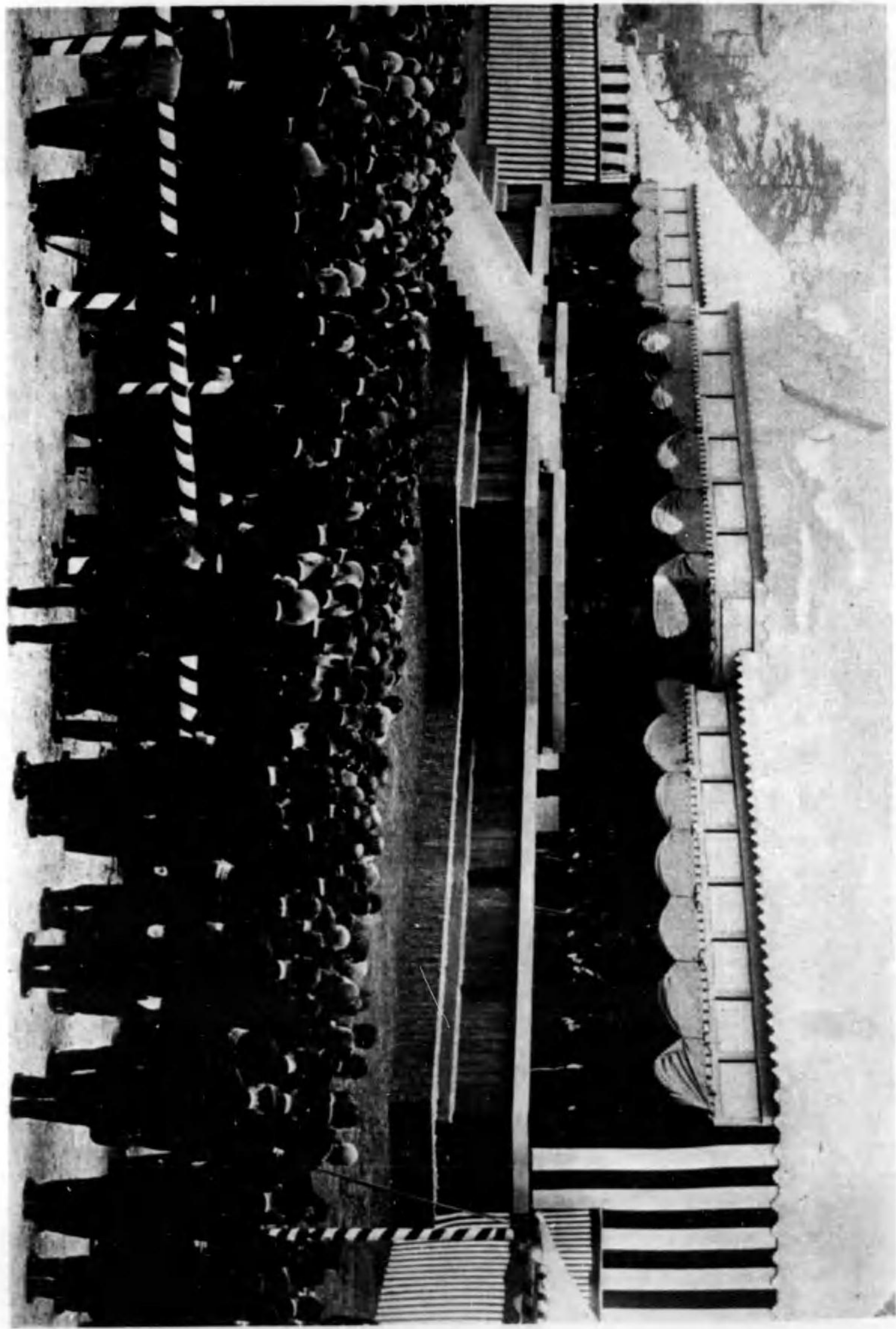
廣奉辭式内大務内

典式成完興復



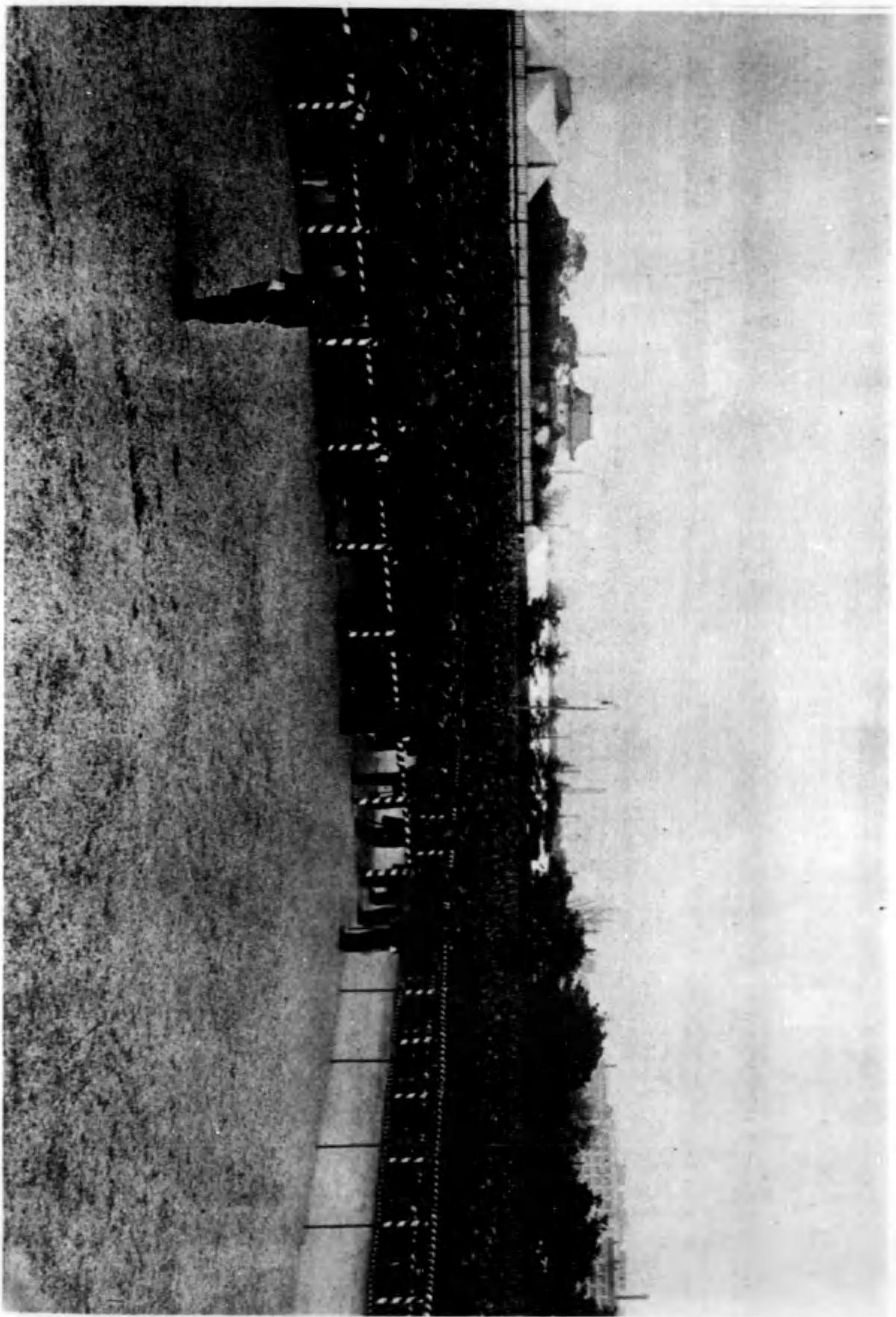
下退居大務内

典式成完興復



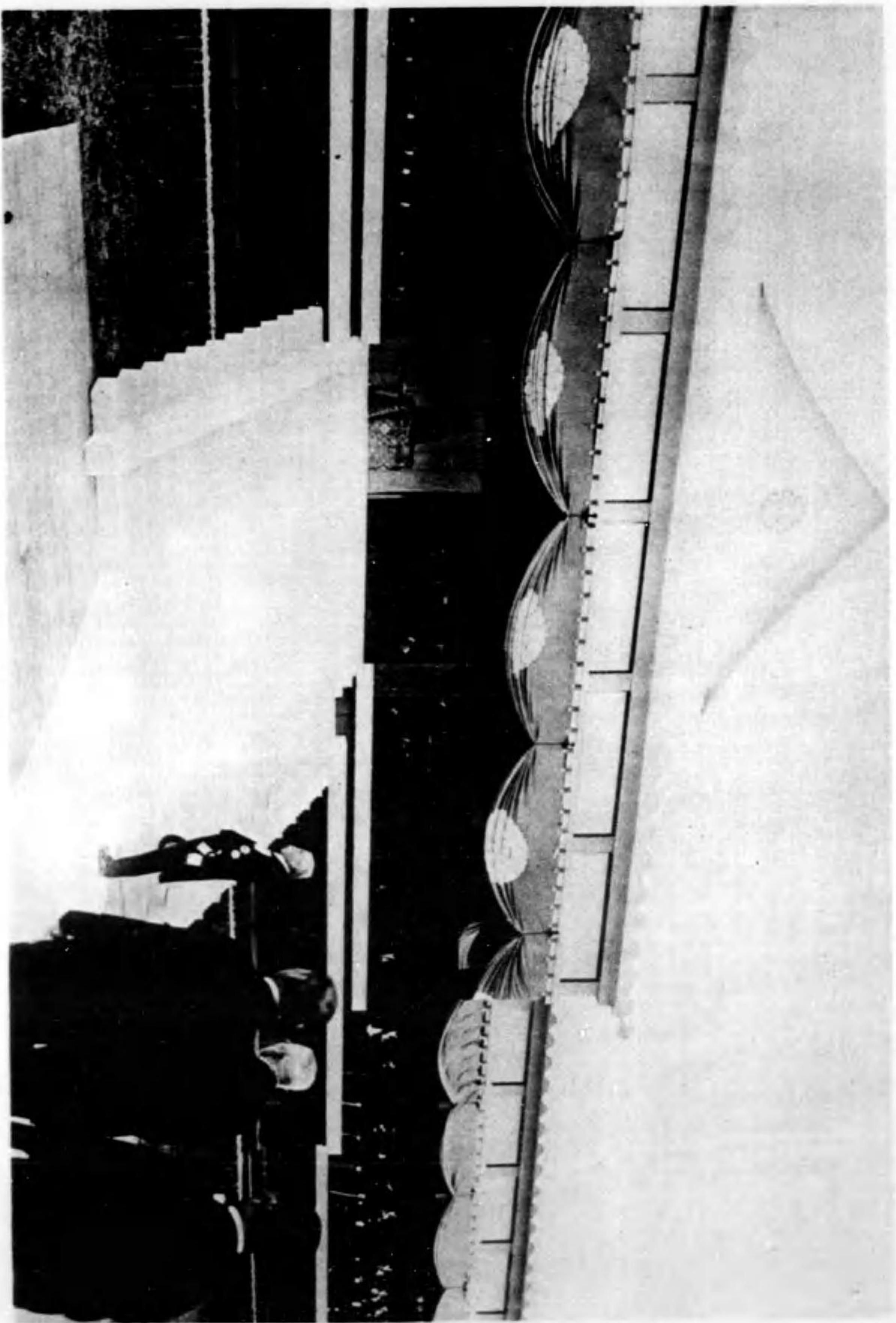
語 勅

典式成完興復



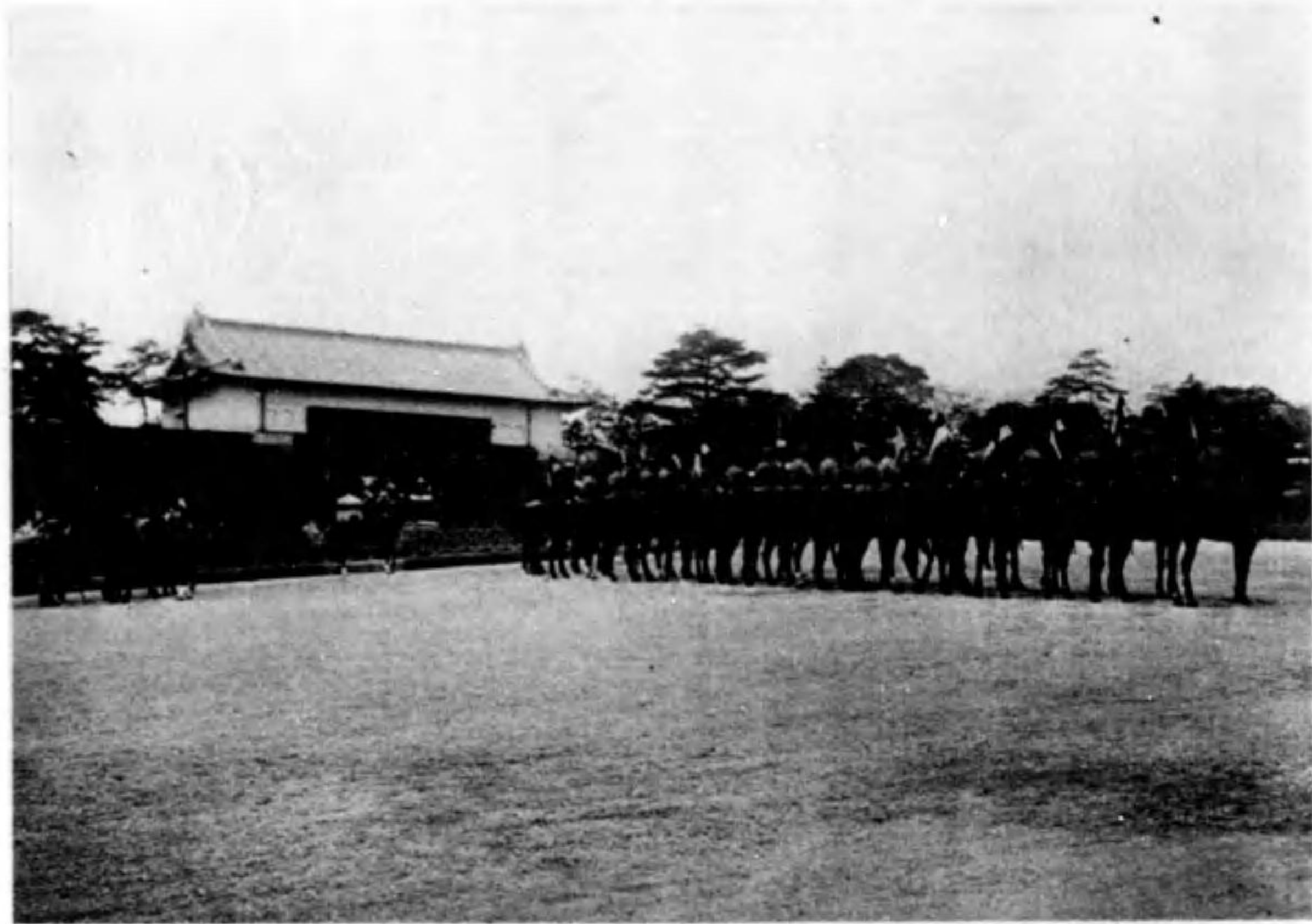
者列參般一の受拜詣物

典式成完興復

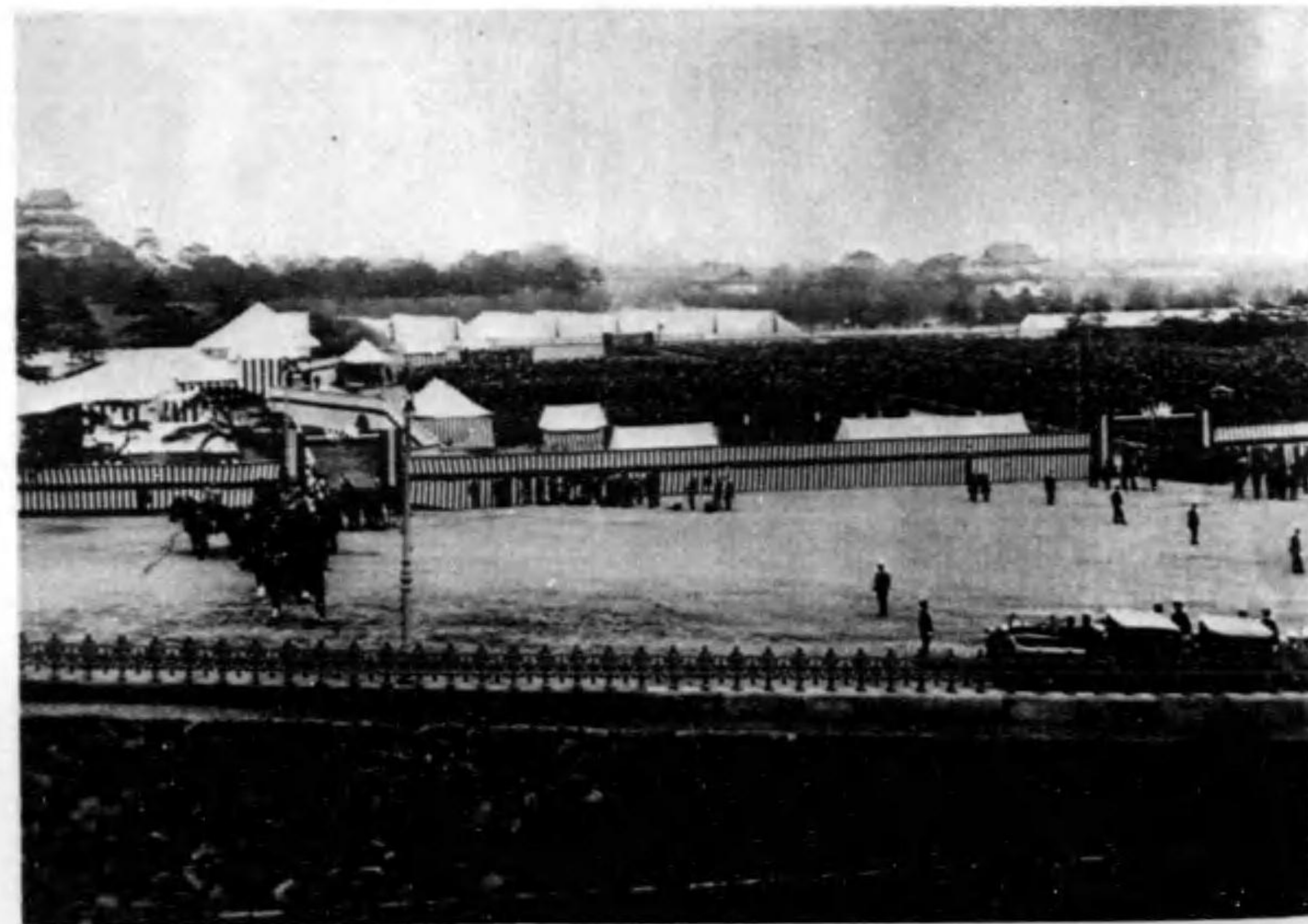


漫 萬

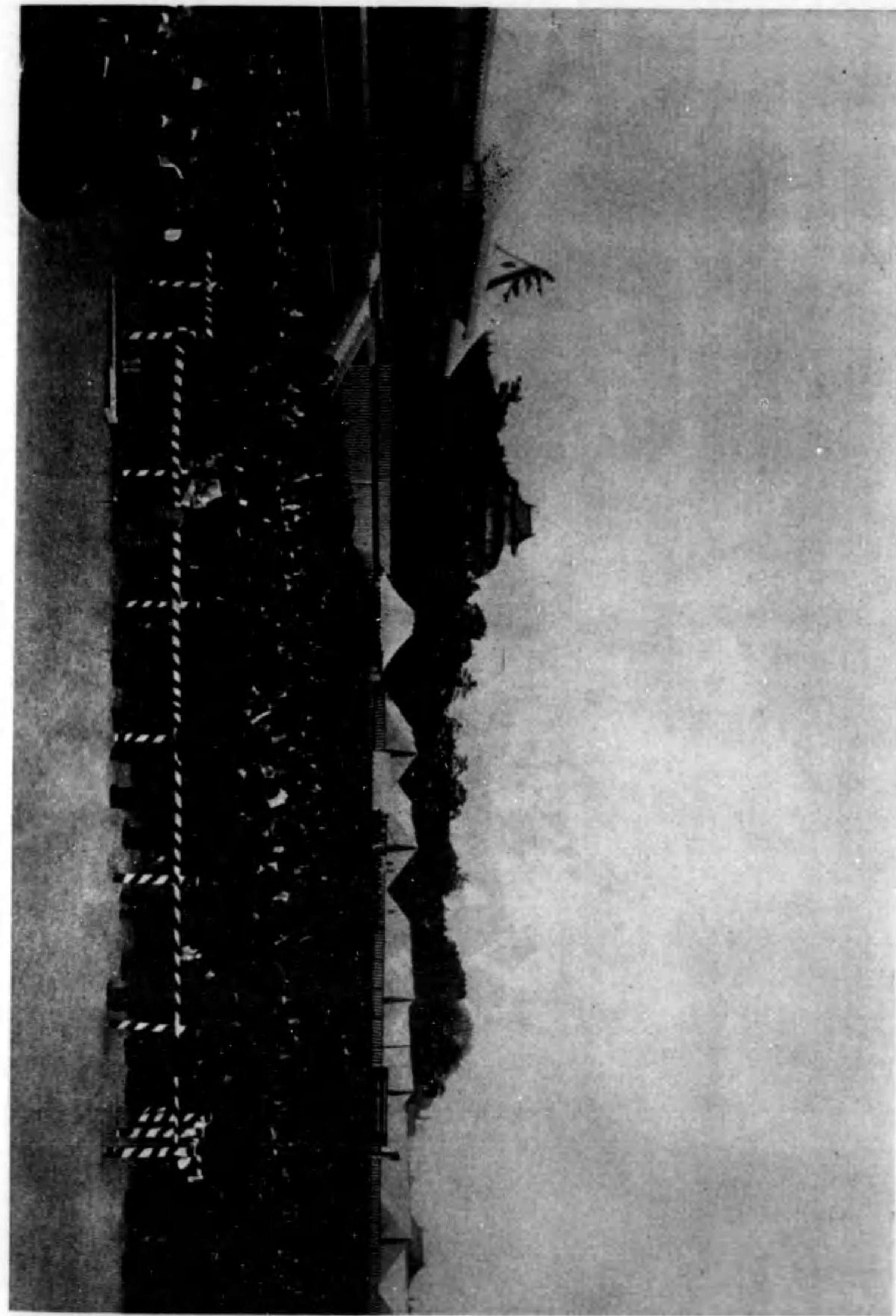
復興完成式典



儀仗兵



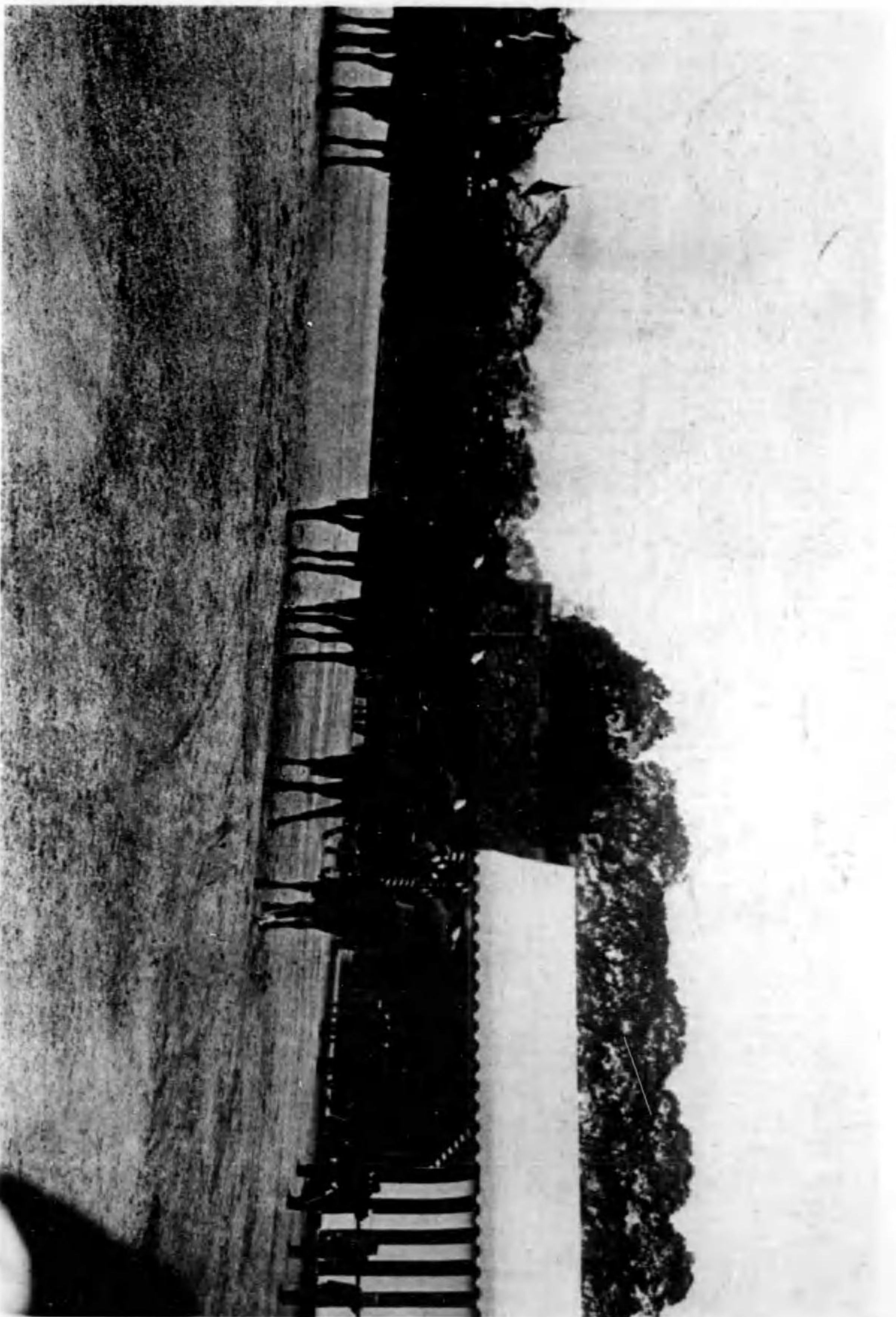
同上



復興完成式典

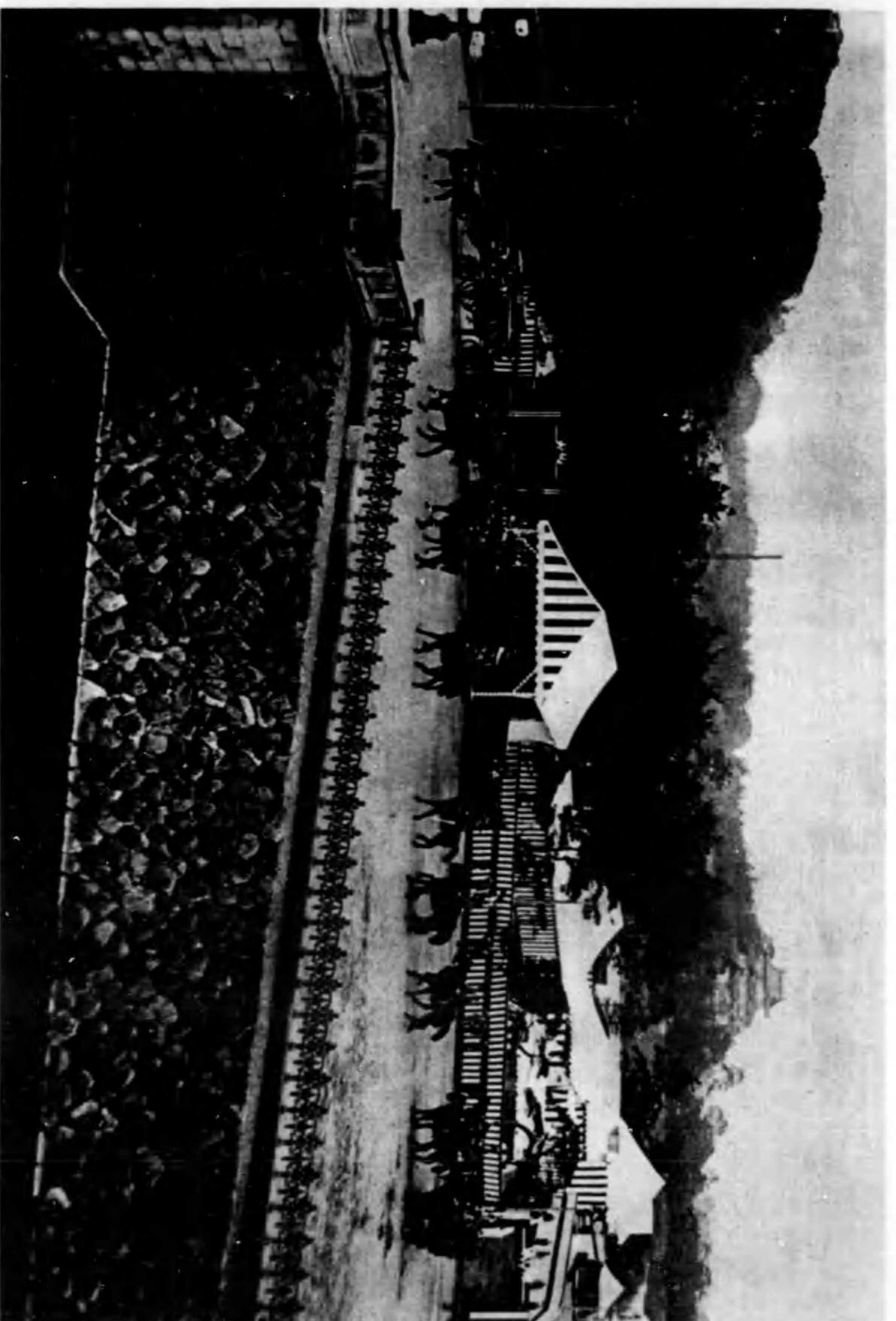
萬歲唱和の參列者

典式成完興復



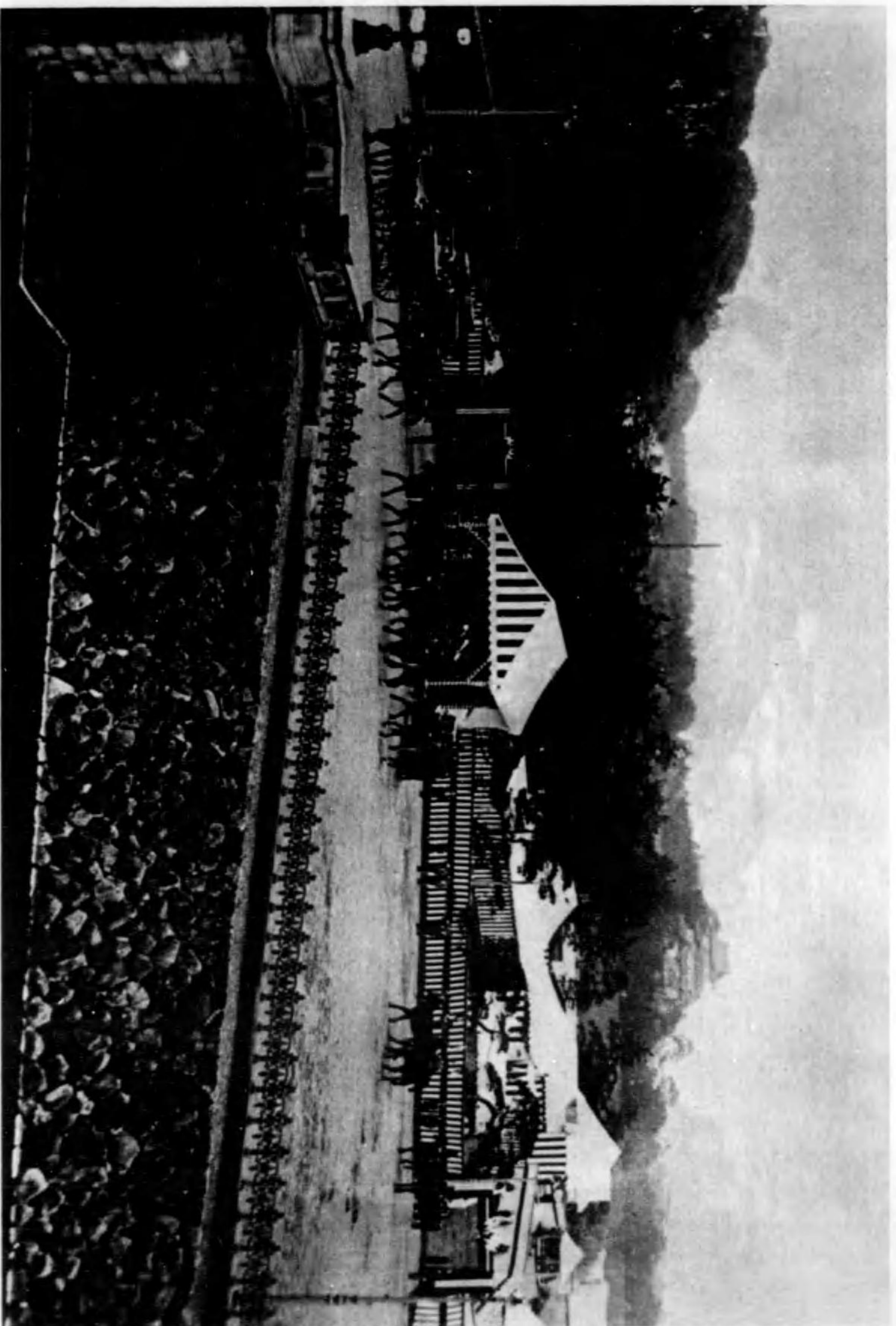
御發客車御

典式成完興復



御還幸(其一)

典式成完興復



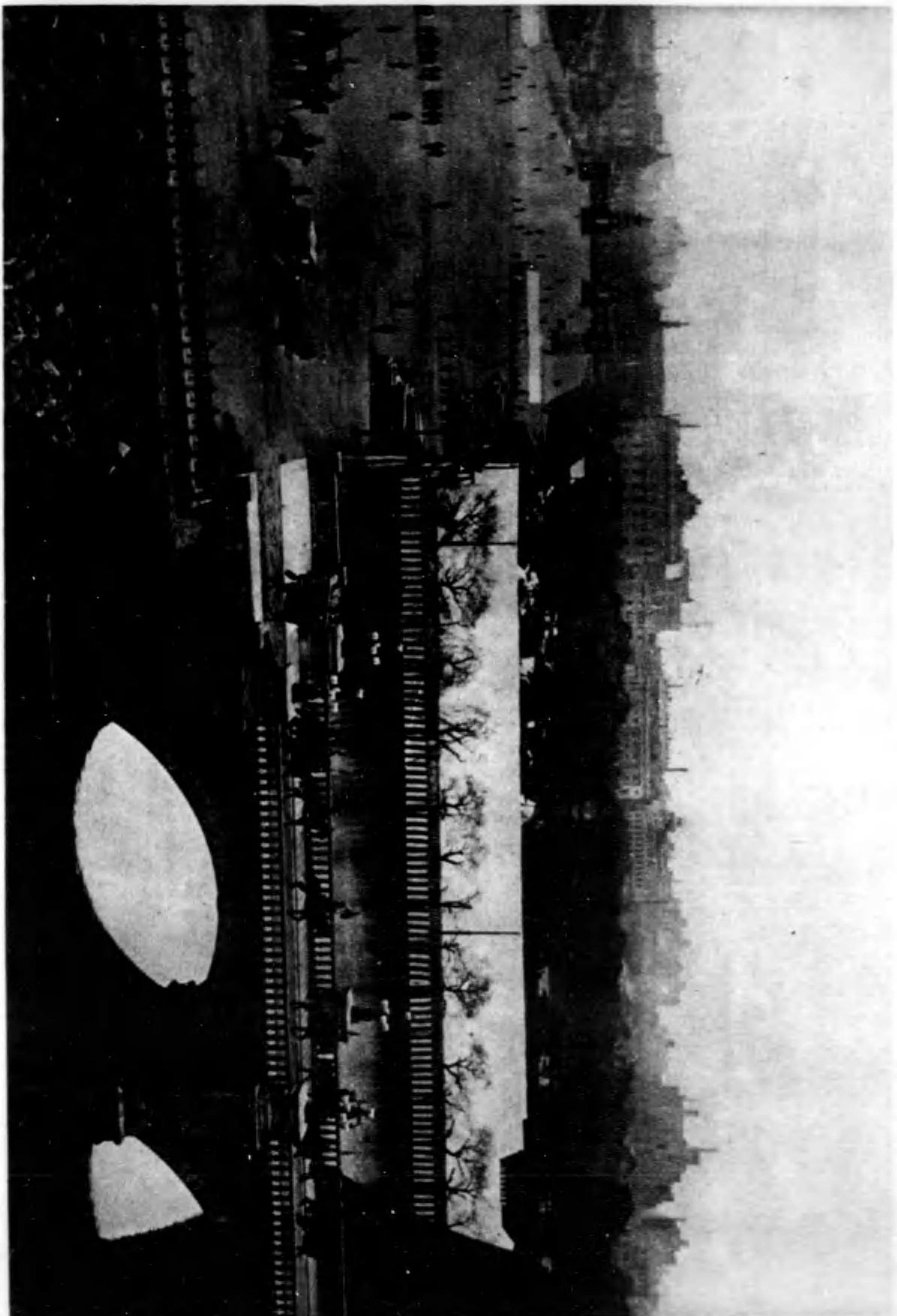
(二の其) 幸 還 御

典式成完興復



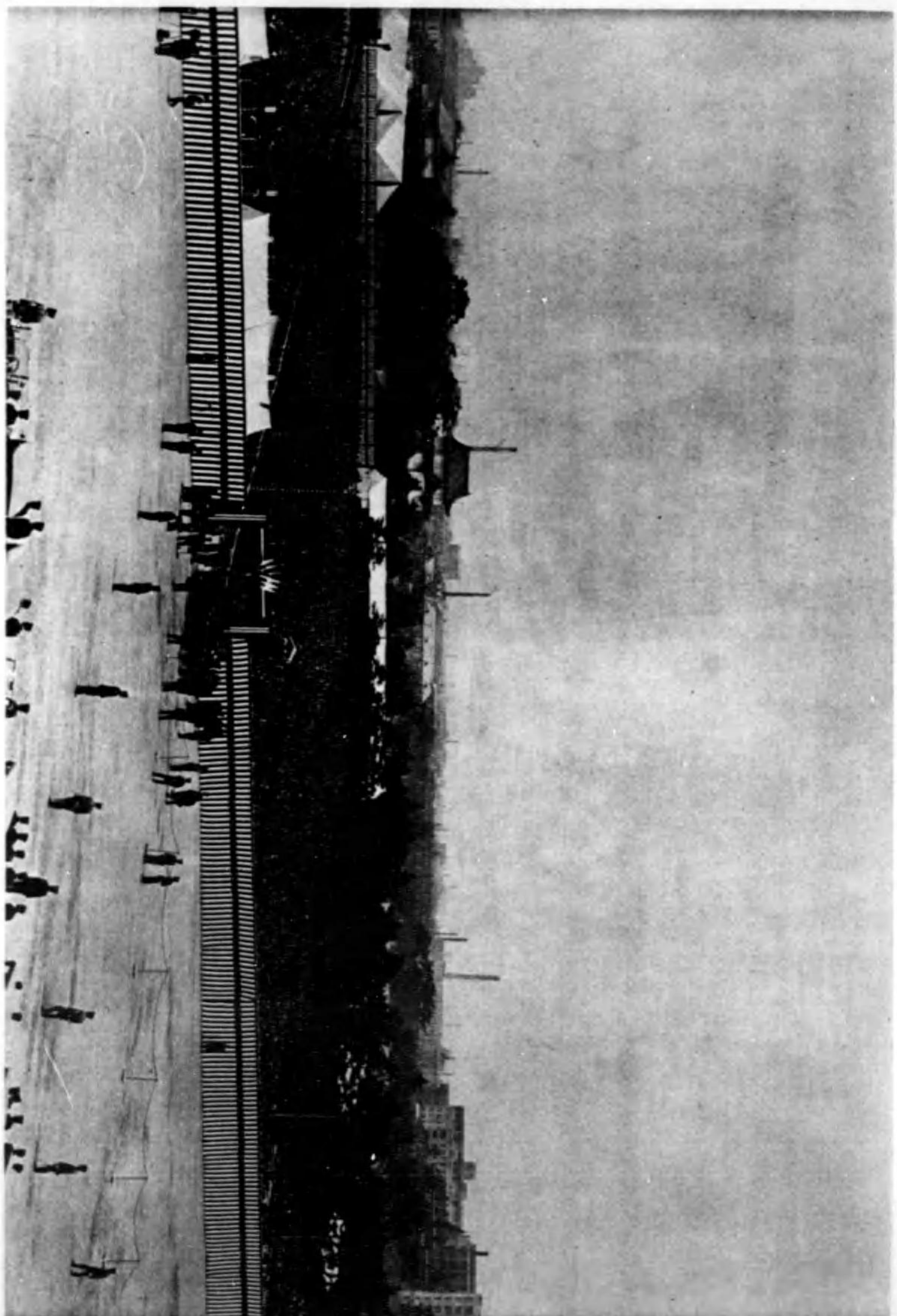
(三の其) 幸 還 御

典式成完興復



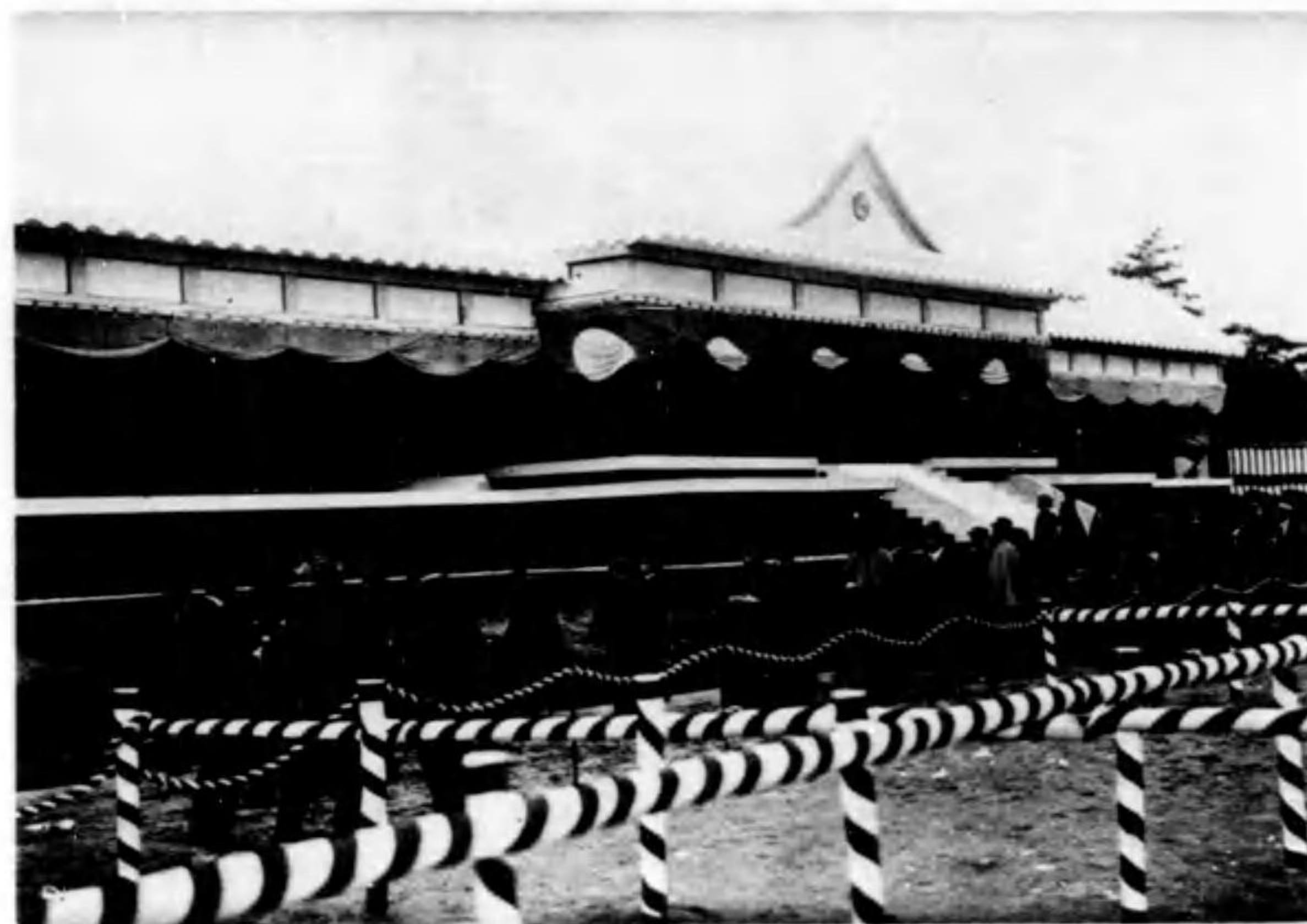
第二橋上御還幸薄

典式成完興復

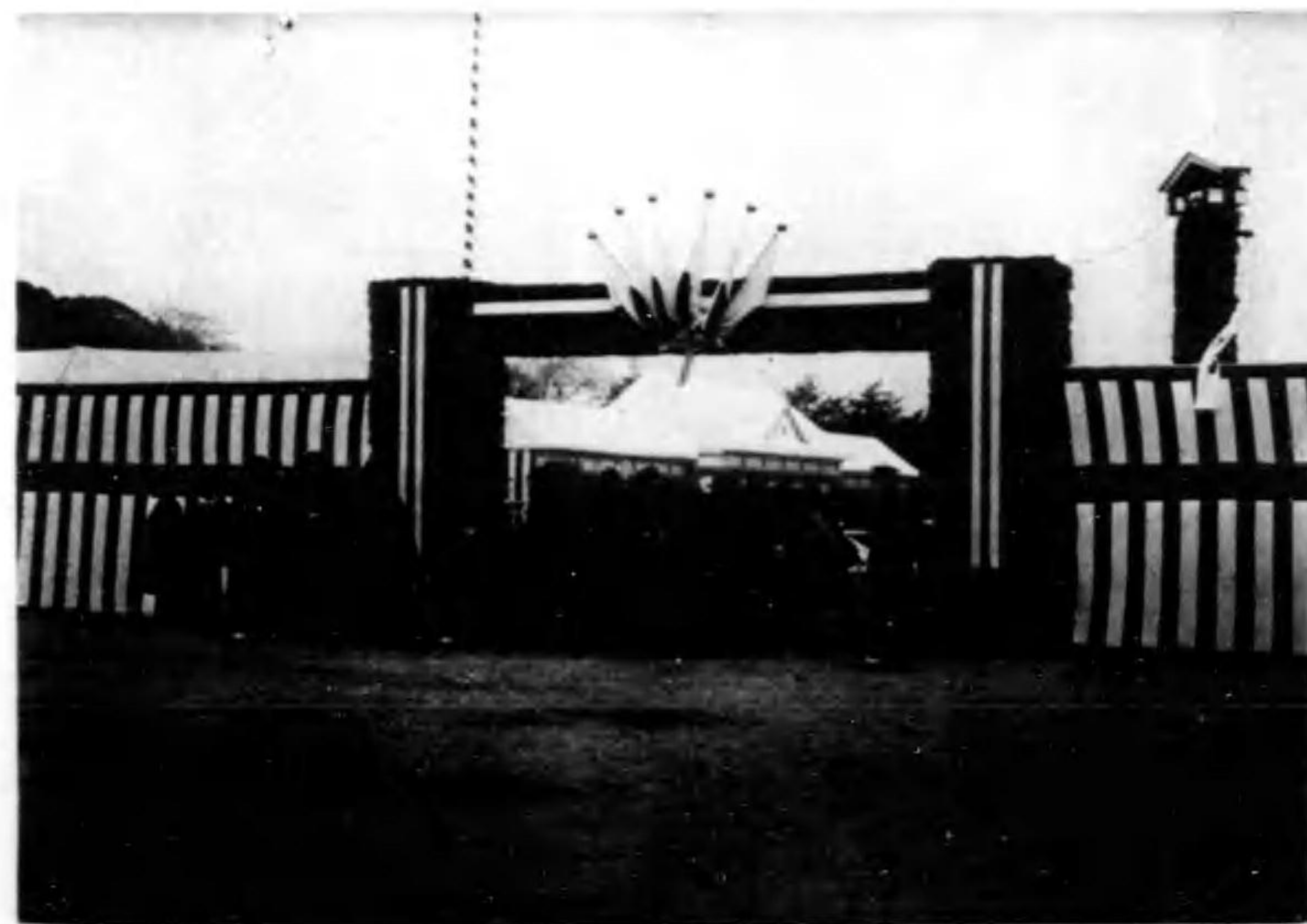


舉式中之參列者

復 興 完 成 式 典



式典終了後場内参観



同上

列員威儀を正して 聖上陛下の宮城發御を通報するサイレンの音に耳を時て御臨幸の御姿を拜仰すへき御時刻を御待ち申上げた午前十時玉座を中央に拜する式殿上の兩翼に山本大勳位倉富樞密院議長上原元帥各國務大臣同前官禮遇陸海軍大將徳川貴族院議長鎌田樞密顧問官等の文武高官か何れも大禮服正装にて整列、玉座前面階下には濱口内閣總理大臣安達内務大臣を中央最前列に、次で第二列には牛塚東京府知事申中川復興局長官堀切東京市長第三列以下には内閣書記官長東京府内務部長東京復興局經理課長東京市助役其の他順次に整列した。

午前十時三十分唯今宮城を發御あそはされましたとの通報あり間もなく二重橋には燦たる天皇旗を先頭に槍旗を捧ぐる近衛騎兵に前後を衛られたる儀裝御馬車の鹵簿か透き通るやうに、君か代か奏せらるる中を畏くも 聖上陛下には陸軍通常禮裝を召させられ數多の勳章を御佩用あらせられ颯爽たる御英姿にて式殿に臨御あらせらる、御後には閑院元帥宮伏見大將宮梨木大將宮久邇宮朝融王朝香宮鳩彦王東久邇宮稔彦王賀陽宮恒憲王竹田宮恒徳王北白川宮永久王の十宮並李王殿下を従へさせられ、全参列員最敬禮に御會釋を賜はりつつ玉座に着かせらる、時に午前十時三十三分、少時を経て内務大臣安達謙蔵一步一步に力をこめつつ恭しく式殿上玉座より一階段下まで参進し式辭を捧讀した。

畏くも 聖上陛下にはこの間立御のまま御微動たもあらせられず、式辭終つて一旦御着座あらせられた、恭しく内務大臣安達謙蔵退下し次いで 陛下再び立御玉音朗々優渥なる勅語を下し賜つた、肅然水を打ちたる如く静まれる式場参列員は一同恐懼感激極まりなく、ひたすら宏大無邊なる大御心を奉謝した。

勅語書は鈴木侍従長を経て内務大臣安達謙蔵拜受して退下、夫より内閣總理大臣濱口雄幸式殿階下に威儀を正し、天皇陛下萬歳の第一聲を奉唱續いて六萬の參列者之に唱和し、とろく聲の餘韻は場外に傳はつて一般市民相應呼して發聲し式場内に響き渡つた、實に歡ひと感激とに満されたる曠世の式典は復興の意氣と共に永久に失せざる力強き盛觀であつた。

陛下にはこの有様を御満足に御覽あらせられ再び君か代奏樂のうち龍顏御麗はしく午前十時四十七分一同最敬禮裡に式殿を退御、宮城に還幸あらせられた續いて各皇族方御退出、次に來賓退出、午前十一時茲に式典滞りなくは終了した、尙ほ參列員には東京市よりは復興記念品として文鎮を贈呈した。

第五章 帝都復興完成祝賀會

第一節 帝都復興完成祝賀會模様

帝都復興完成式典終了後、東京市は有位顯官並復興に貢獻したる功勞者を合して一萬三千五百名を招待し、日比谷公園に於て帝都復興完成祝賀會を開催した、會場は公會堂前の大廣場に天幕張り大ホールを設備して外部には紅白幔幕を廻らし場内には純白のクロースを以て蔽へる立食卓子を並列し天井には萬國旗及赤青黃のモール裝飾を施こすなど、輝かしき帝都の復興を壽くに應はしきものかあつた。

宮城前の式典終了するや、同所より誘導せられたる來賓は祝賀會場所定の入口より入場、第一休憩所には宮中席次第一階以上の來賓を、其の他の來賓は第二休憩所に案内した、開會前園内に設けられたる大神樂、其の他の餘興に一同打興したる後、濱口首相外第一休憩所來賓は市長の案内によりて入場、尙ほ着席順は東京市長を中心、右方に首相以下各關係者、左方倉富樞府議長以下着席した時に十二時五十分祝賀會開會の辭は高聲電話によりて報せらると共に陸海軍々樂隊の奏樂始まり、一萬三千餘名の來賓は會堂に案内せられ順次に着席した、此處に盛宴の幕は開かれて、日比谷公園に帝都三百萬市民の歡喜は集約せられたかに見へた、主催者堀切東京市長は先づ立つて、今や重大なる責務を果して歡喜に満ちたる胸の躍動を押へて、忍苦七年の間、復興帝都建設の爲に三百

萬市民の苦行にも似たる努力に對して感謝の辭を述べ續いて來賓總代濱口總理大臣より滿目荒
 寥の灰土に化したりし帝都は歲月僅か七年にして今日近代都市の更生を睹るに至つた偏に市民
 の努力に外ならぬことであると祝辭を述べ終つた上て首相力強く東京市萬歳を發聲し、一萬三千
 五百人の唱和は轟き渡つて公園に集まりし數萬の市民亦相呼應して滿腔の祝意を表したかくて
 陸海軍々樂隊の奏する復興進行曲は祝宴を賑はし、折詰を前に一同東京市の爲めに乾杯し曠世の
 祝宴は滞りなく正午終了した。

この日參會者一同に復興寫眞帖後章參照を贈呈した該寫眞帖には卷頭に畏くも 天皇陛下復
 興帝都御巡幸のみきり上野恩賜公園見晴より復興市街御展望の御英姿を謹寫せる御寫眞を掲げ
 奉つたので復興にはこの上もない記念品であつた東京市長挨拶並内閣總理大臣祝辭卷頭參照。

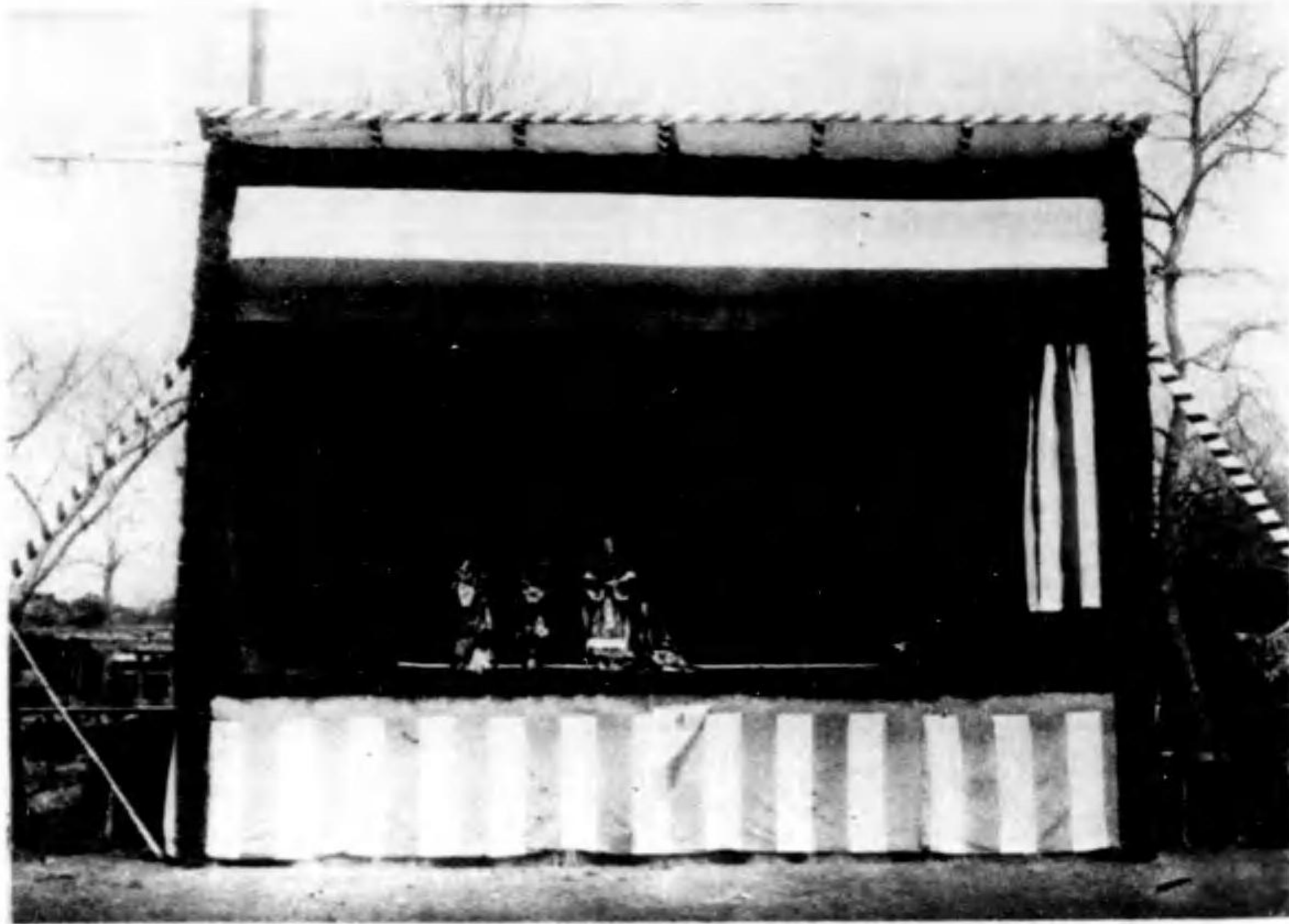
第二節 祝賀催物並餘興

一 祝賀行列

イ 小學校兒童旗行列

三月二十六日復興完成式典祝賀會當日市民は舉つて祝賀催物を行つた、其中市内二百三の小
 學校は祝賀式後終了午前九時より、四年以上の生徒は旗行列を行ひ復興を喜びあつて各區内をね
 り歩いた、これ等の小市民に對して、堀切市長は吾等の東京は復興すと震災と復興に關したパンフ

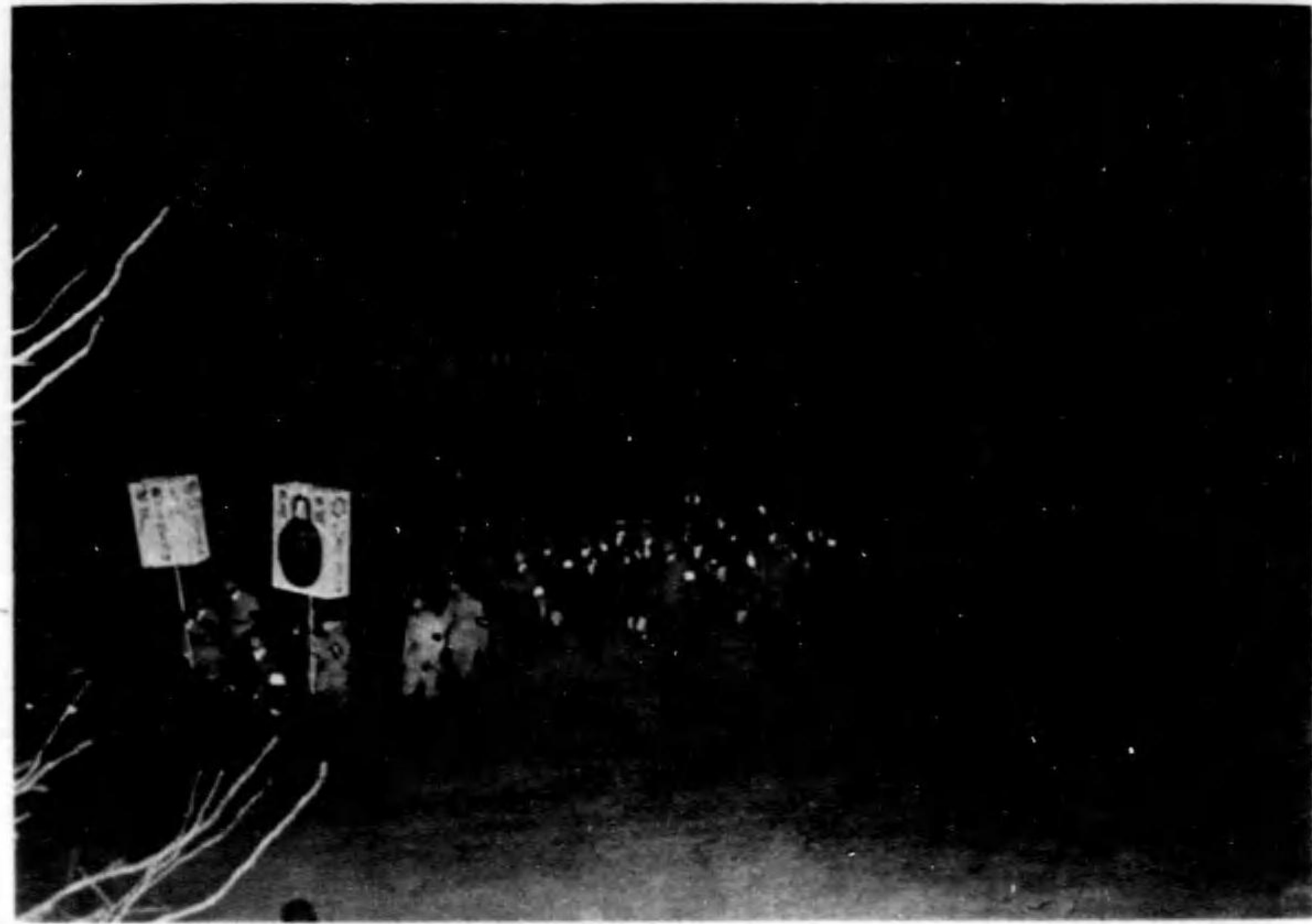
備 設



祝賀會餘興神樂



同上 手踊



提燈行列

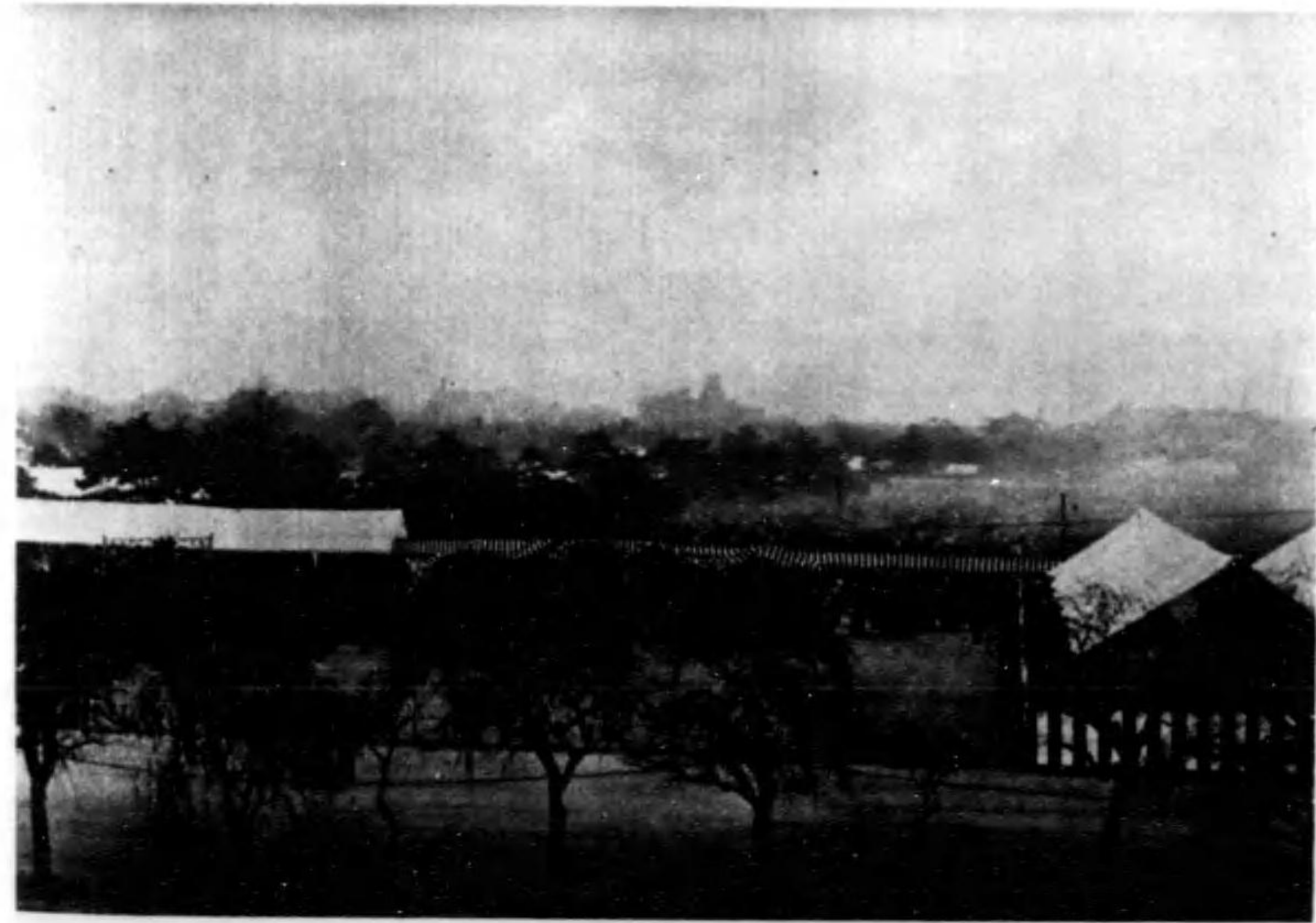


同上

備 設



式典参加者の退場



祝賀會場に向ふ招待者



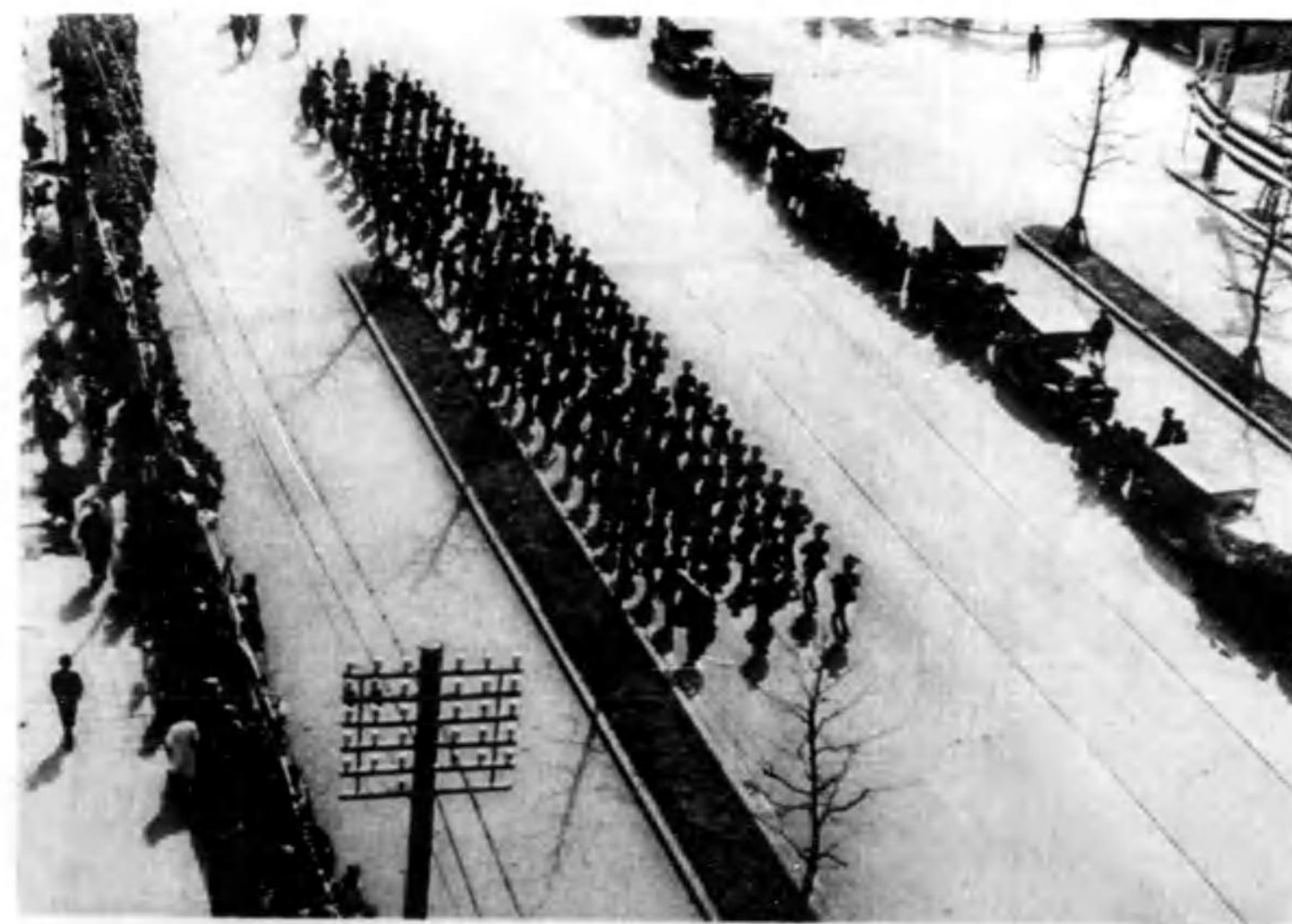
進行樂音



上 同



進行樂音



上 同



音 樂 車



上 同

レットを配布して眞に復興帝都を祝賀すべきことの意義あることを知らしめた。
 「皆様のお父さまやお母さまは熱灰を掻き分けて立ち上り、帝都の復興へ猛進し、七年の間殆んど寢食を忘れ、汗みとろとなつて精進されました。これ等の復興は、第二の市民として立つ皆様の大きな覚悟によらねばならないのでありますから市を受する心を忘れず一致協力して名實の備はつた世界に誇るべき大東京を建設しなければなりません（各區施設参照）。

□ 提燈行列

復興の歡喜滿ちたる市民の各種催物中式祝賀會當日、聯合青年團市立中學校青年訓練所補習學校各生徒約二萬を超える大提燈行列は市教育局指導の元に行はれ各團體は最初に靖國神社境内演町公園芝公園上野公園の四箇所を集合地とし、此處より各音楽隊やラッパ隊を先頭に宮城前廣場に行進し、九段縱隊は大正通りを九段から小川町へ、神田橋から大手町憲兵隊裏を通つて宮城前へ、演町縱隊は水天宮茅場町、吳服橋通りから昭和通りを経て、市役所前から宮城前へ、芝縱隊は、大門から昭和通り三原橋から銀座日比谷を経て宮城前へ、上野縱隊は廣小路を左へ、昭和通りを鐵砲町に右折し、本石町新常盤橋逓信省前東京驛前から宮城前へと集合し、祝復興の提燈二萬數千個、夜の空を彩る花火に相映して空を焦さんはかりの偉觀を呈した、最後の二重橋前に於ける各團體の萬歳唱和の聲は全市に響き渡つた。

ハ 音楽行進



二十六日式典祝賀會當日東京市主催音楽行進は、陸軍戸山學校音楽隊、海軍々樂隊、豊島園音楽隊、少年健兒音楽隊、府立化學工藝學校音楽隊、府立第一商業音楽隊、日本印刷學校音楽隊、芝、赤坂、牛込、小石川、本郷、下谷、深川各區青年團ラッパ隊、京橋大和魂ラッパ鼓隊等の團體を網羅して約五百名よりなる大行進隊となり、午後一時先づ日比谷公會堂前に集合、午後二時半出發準備を整へて陸軍軍樂隊を先頭に復興大路を行進した、日本少年健兒音楽隊、カーキ色の團服に身を固めた少年團、眞紅の服に緑色のマントに美しき姿の音楽部員、紺ピロート服にトルコ帽姿の豊島園音楽隊などの各隊衣裳とりくくに、樂は「君か代」マーチを始めとし復興祝歌其の他得意の樂を奏しつつ、櫻田本郷町より芝口へ、第一幹線道路を三原橋から左折して、尾張町に出て銀座通り

より京橋、左折して鍛冶橋を渡り市役所前を通り三時二十分宮城前に整列一齊に「君か代」を吹奏して同四十分ここを出發、内幸町を経て午後四時日比谷公園新音樂堂に到着解散した。

二 音楽自動車

復興催物中東京市考案の音楽自動車は復興ビルディングに旭光の輝く極彩色の裝飾の意匠を施し著名な電気蓄音器を備付け復興祝賀催物として呼物の一つであつた、音楽自動車の演奏は三月二十三日より三十日迄帝都の七公園に於て下記の日取りにて、朝十時より夜間八時半まで和洋各曲數種の演奏を行ひ帝都復興を祝賀した、各園に於ける演奏日取は三十一日日比谷公園、二十二日芝公園、二十三日深川公園、二十四日錦糸公園、二十五日濱町公園、二十六日二十七日二十八日の三日間は上野公園、二十九日三十日は再び日比谷公園の順序で行つた。

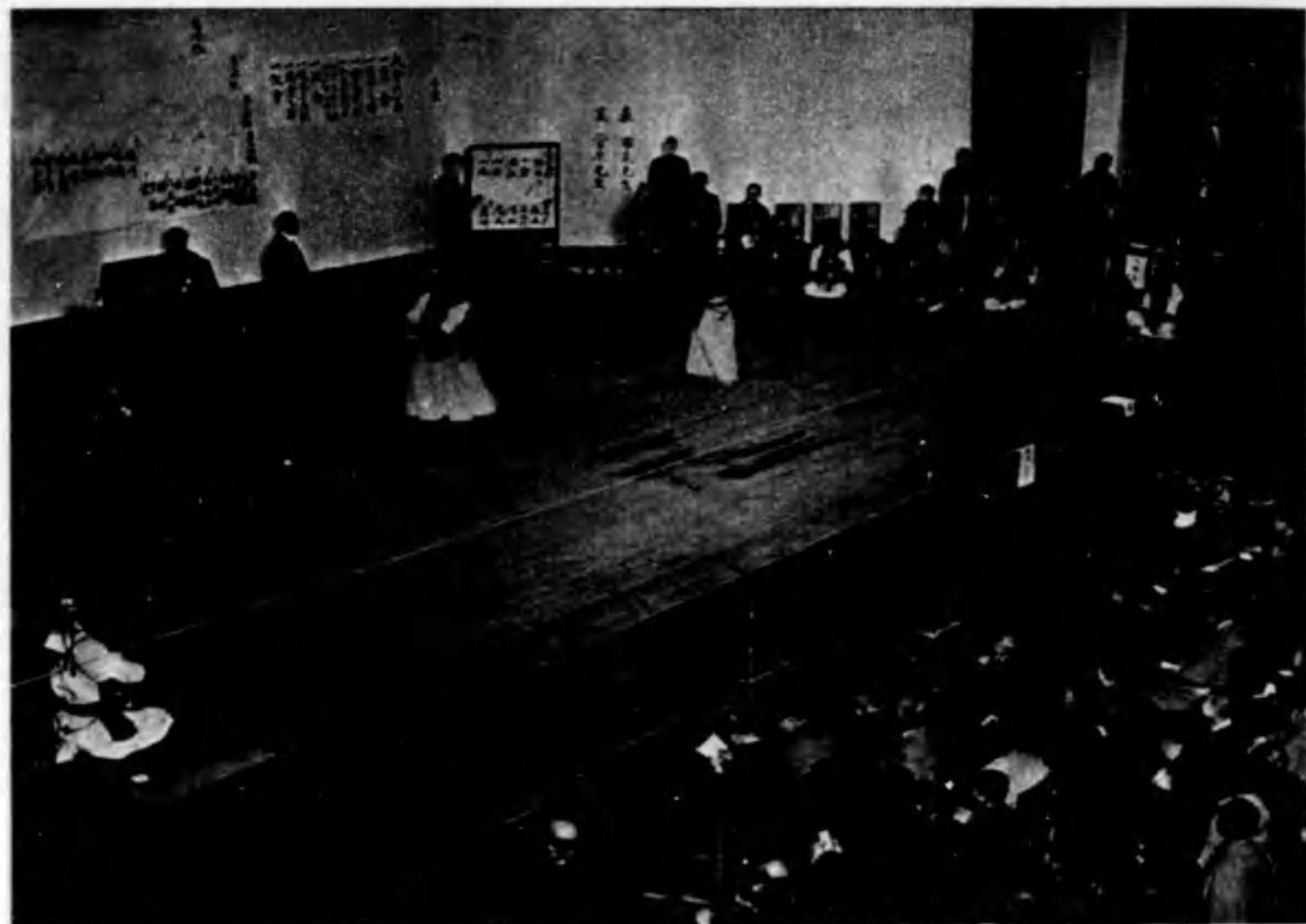
ホ 東京聯合少年團キャンプ

帝都復興祝賀記念に東京聯合少年團は三月二十四日午後六時半より上野公園兒童遊園にてキャンプファイヤーの大會を行つた、東京市内外の七百餘の少年團中千二百餘名は炎々と燃ゆるキャンプファイヤーを取圍んで復興歌を高唱し、各少年團交代に數種の餘興を演じ樂しく夜を明かした。

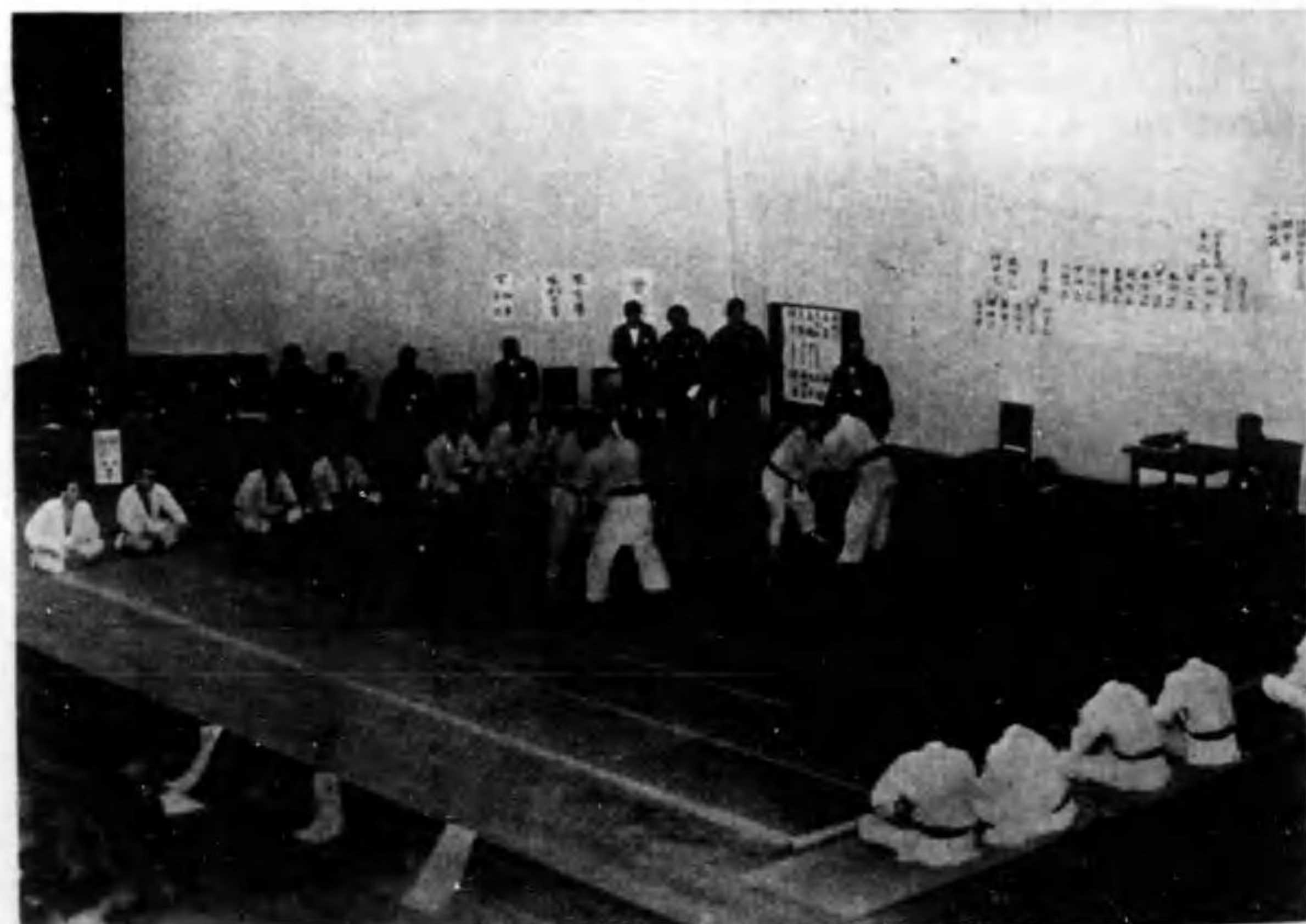
二 帝都復興記念體育大會模様

畏くも 聖上陛下御巡幸あらせらるる三月二十四日より帝都復興記念體育大會は勇ましく開始された此の日隅田川に於けるボートレースは天覽分列式の後を承けて午後二時より競技に移り観衆兩岸を埋めた尙ほ同日午前九時日比谷公園にて選抜軟硬球庭球大會を行つた弓道試合は午前八時芝公園競技場に於て舉行參加者二百三十餘名に上り盛大なる競技を續け午後二時より小笠原流宗家の大的引及武徳會範教士の射禮等があつた翌十五日體育大會第二日は朝來薄曇りて時に小雨を交へたか若き血に燃ゆる選手の意氣は午前九時YMCAコートに於て籠球競技午後一時よりは神宮外苑野球場に於て京濱中等學校等對抗野球戦あり又府立六中に於ては女子排球試合を舉行し觀衆を熱狂させた亦當日帝都に雄姿を現す豫定なりし學生航空界の先驅法政大學の「かはせみ」「ひよどり」の二機は天候の都合で飛行中止となり改めて二十七日帝都を訪問することとなつた。

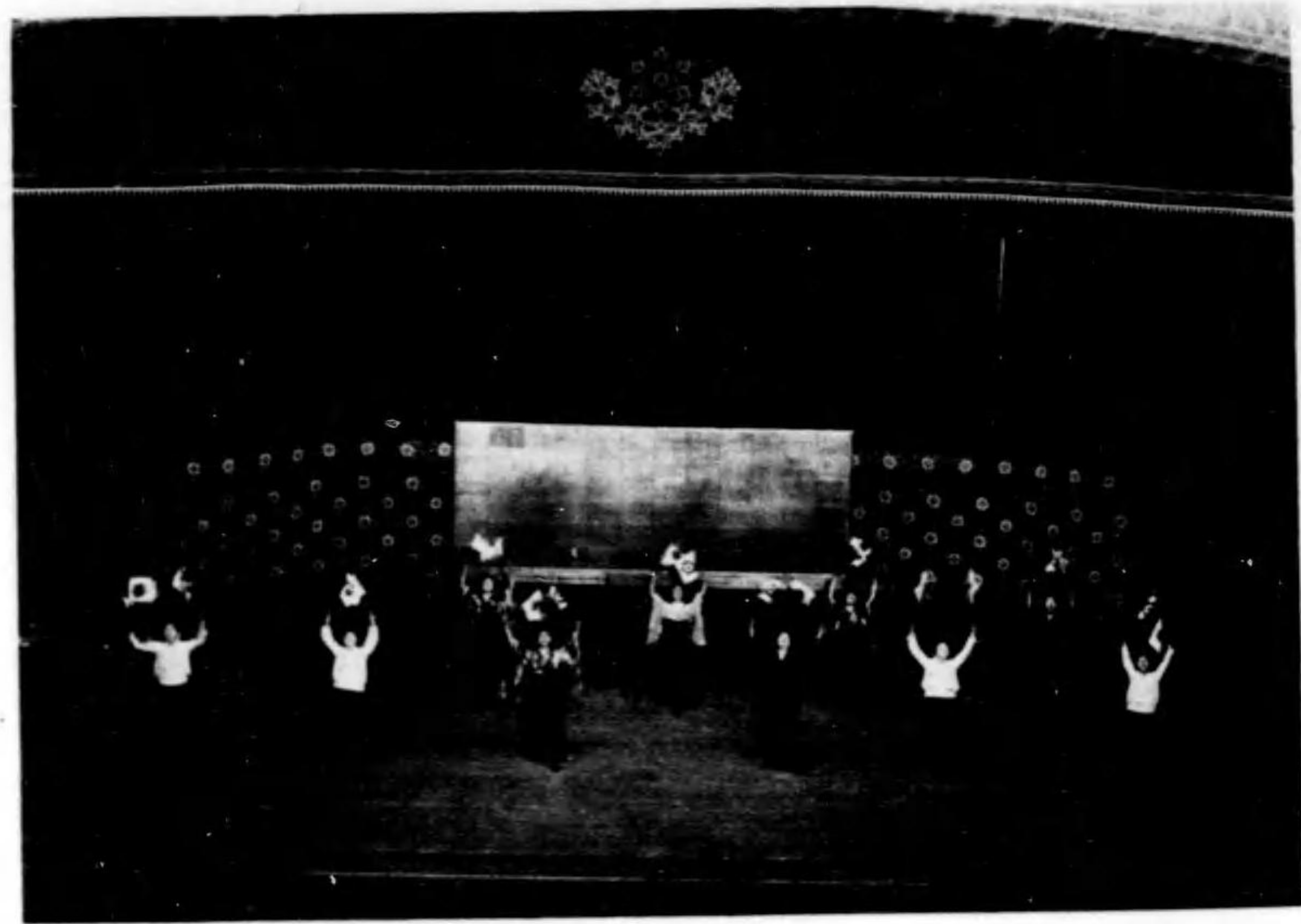
二十六日體育大會第三日の競技は東京學生選抜籠球チーム對抗戦であつた午後二時十分神宮競技場へ行はれた其の他同球場にては全日本選抜第二次ホッケー試合を零時四十五分開始大學専門學校混成ラグビー對抗戦は午後三時半より開始同日選抜實業團キリンビール明電舎藤倉電線安田生命の野球試合があつて午後四時三十分閉戦した籠球はYMCAコートに於て男子中等學校大學専門學校チーム俱樂部チーム女子チームの試合があつた排球は府立第六中學校に於て午後一時より開始男子女子二部に行はれた角力競技は午後一時神宮外苑相撲場に於て行はれ選手は東京府聯合青年團と郡と區選出との對抗競技であつた。



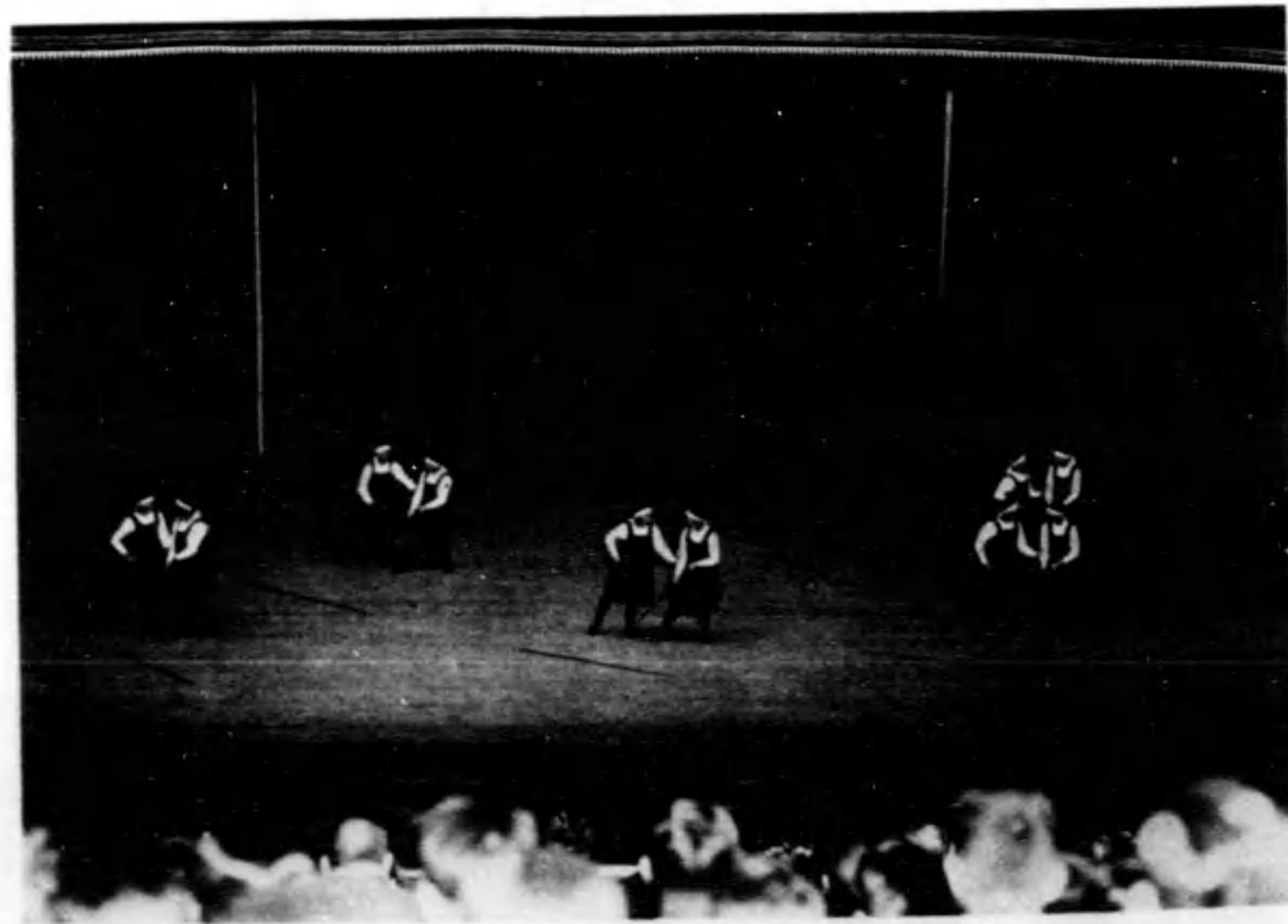
道 剣



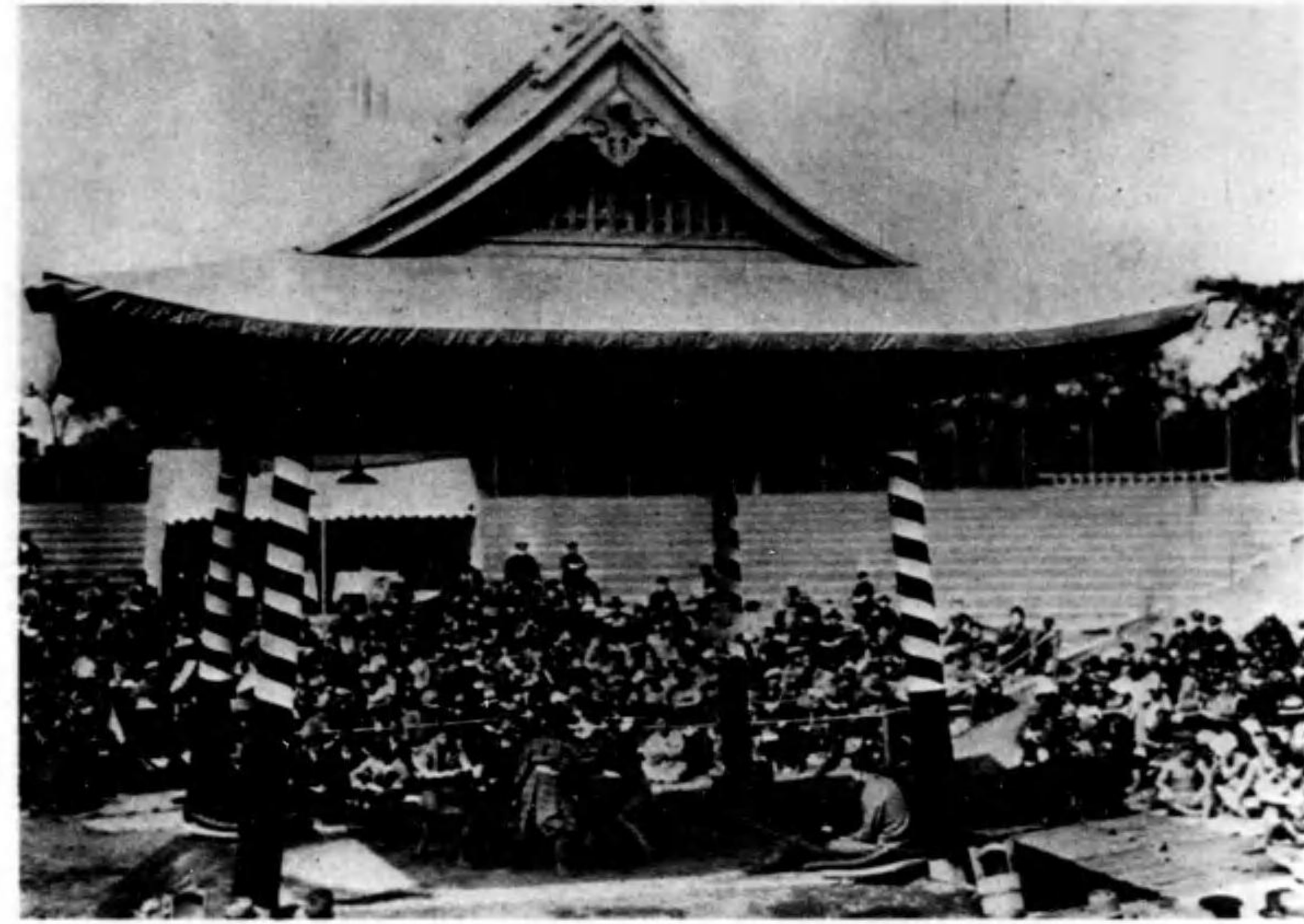
道 柔



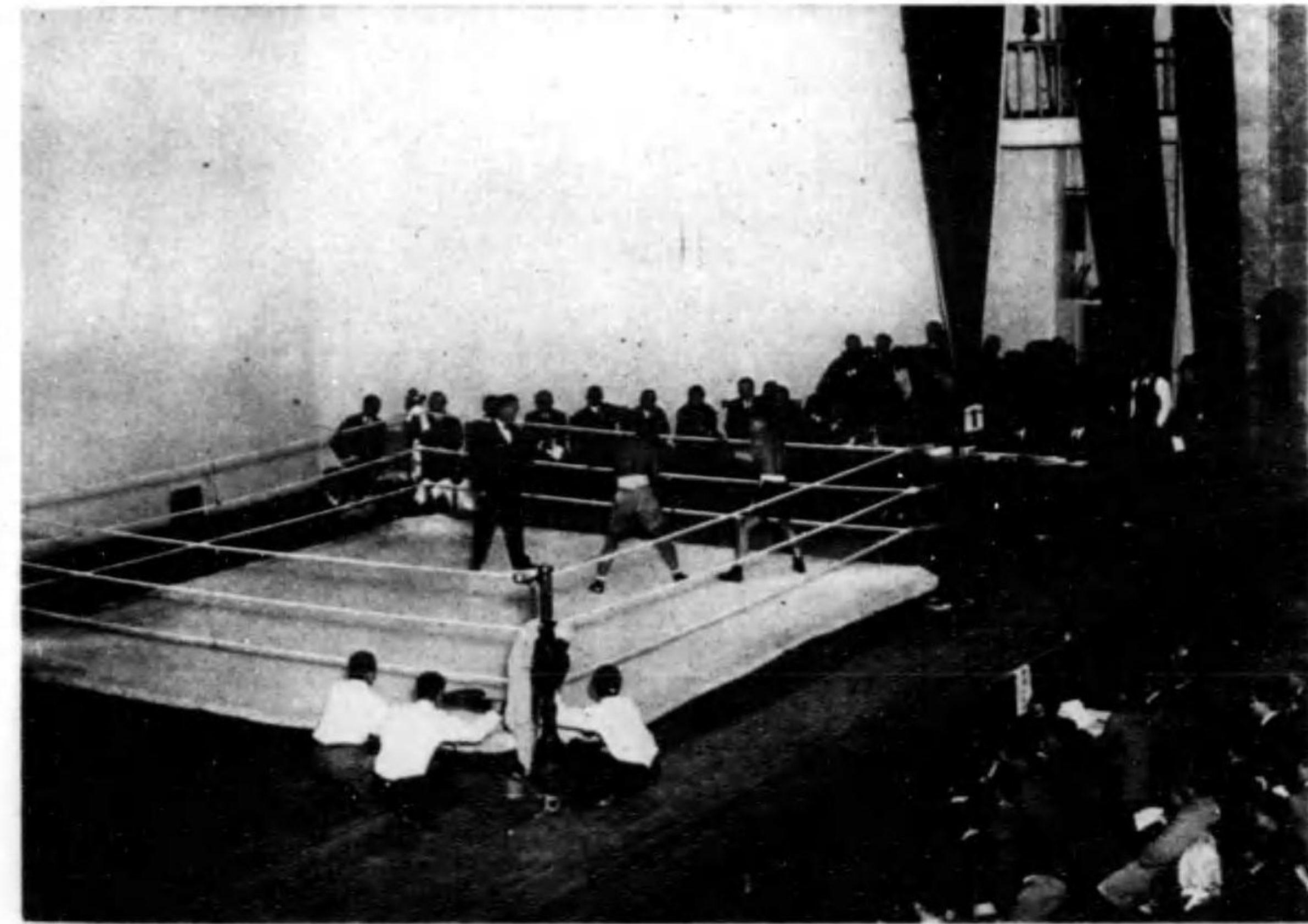
戲遊育體子女



上 同



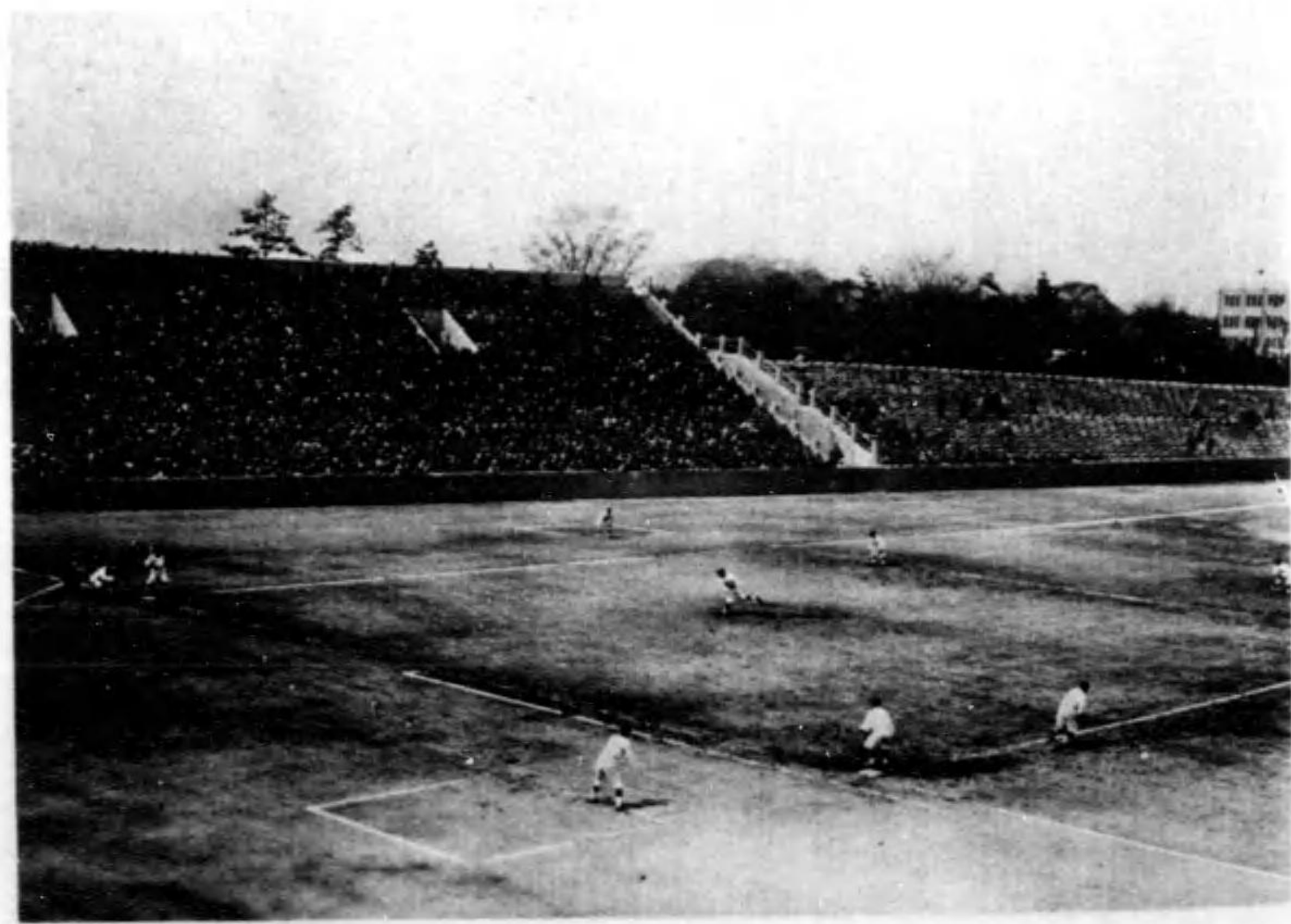
撲 相



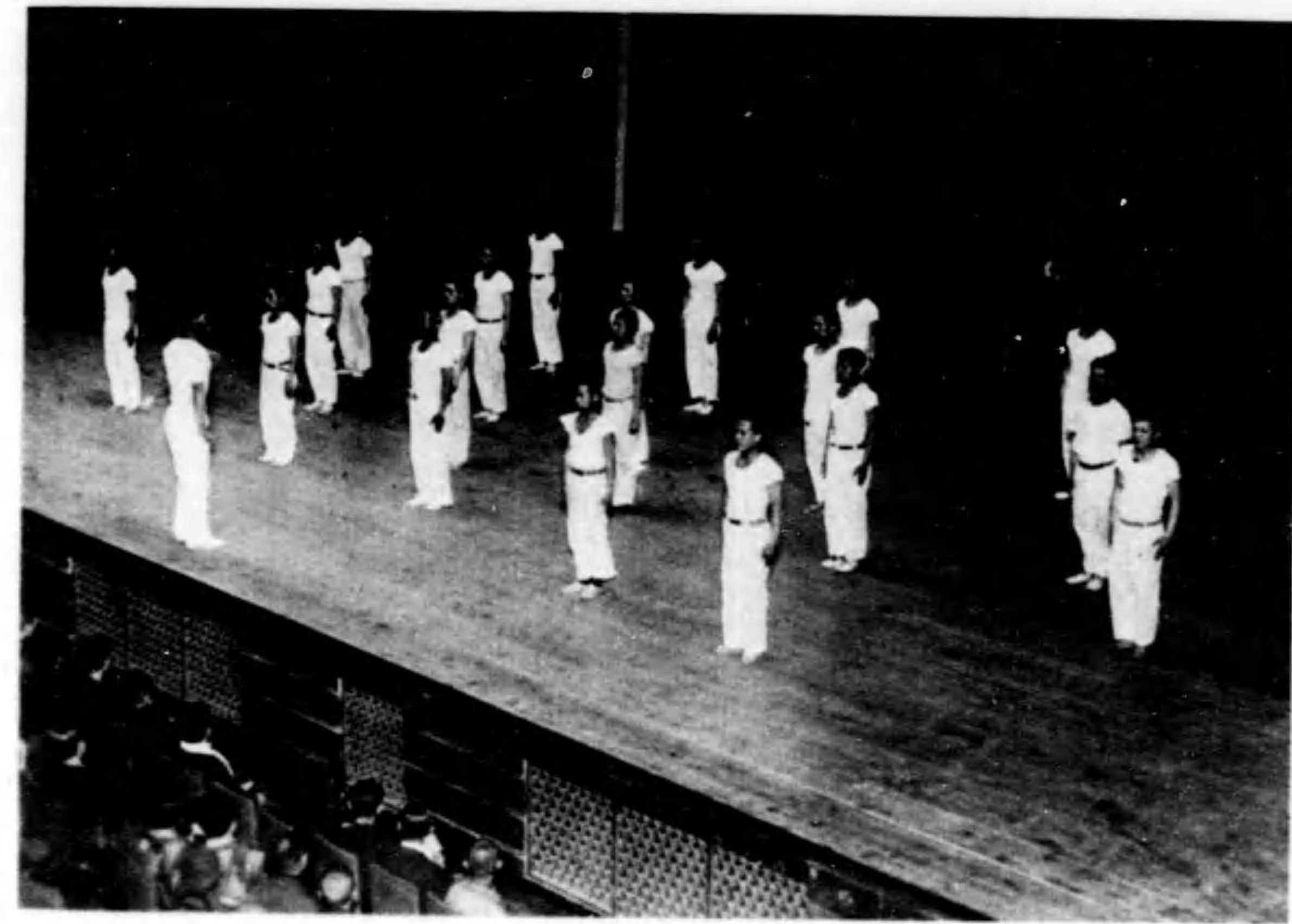
闘 拳



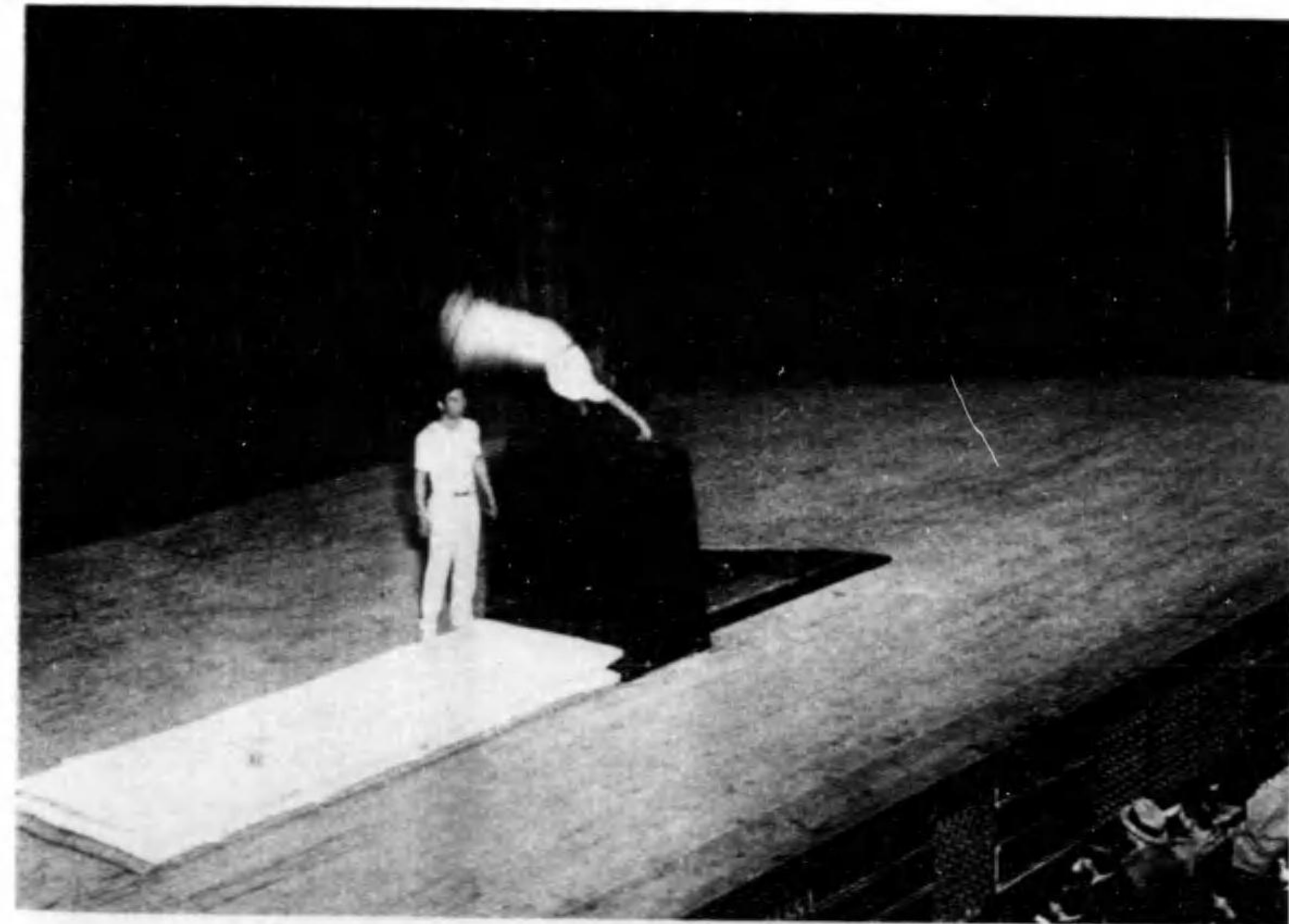
球 野



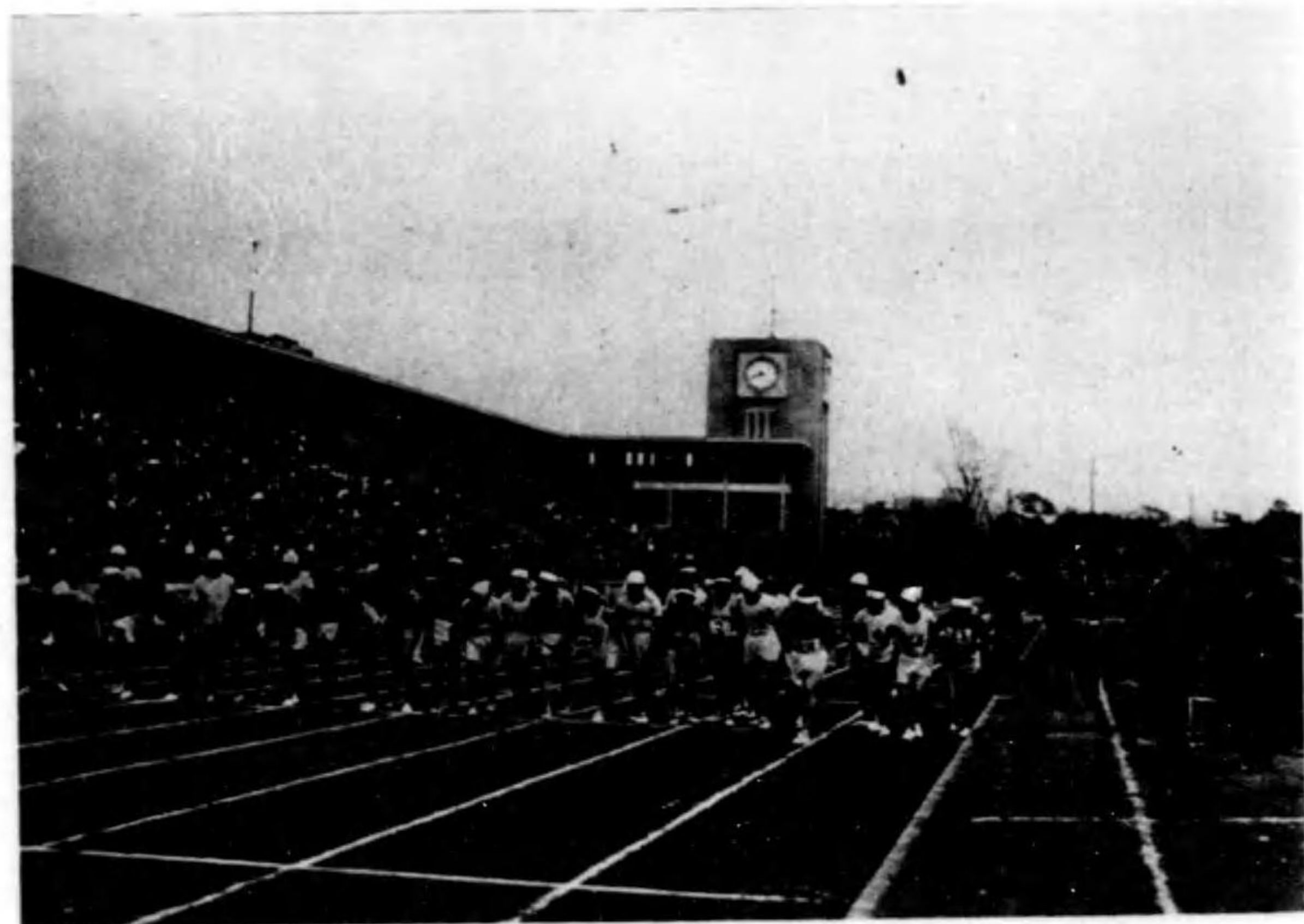
上 同



操 體 子 男



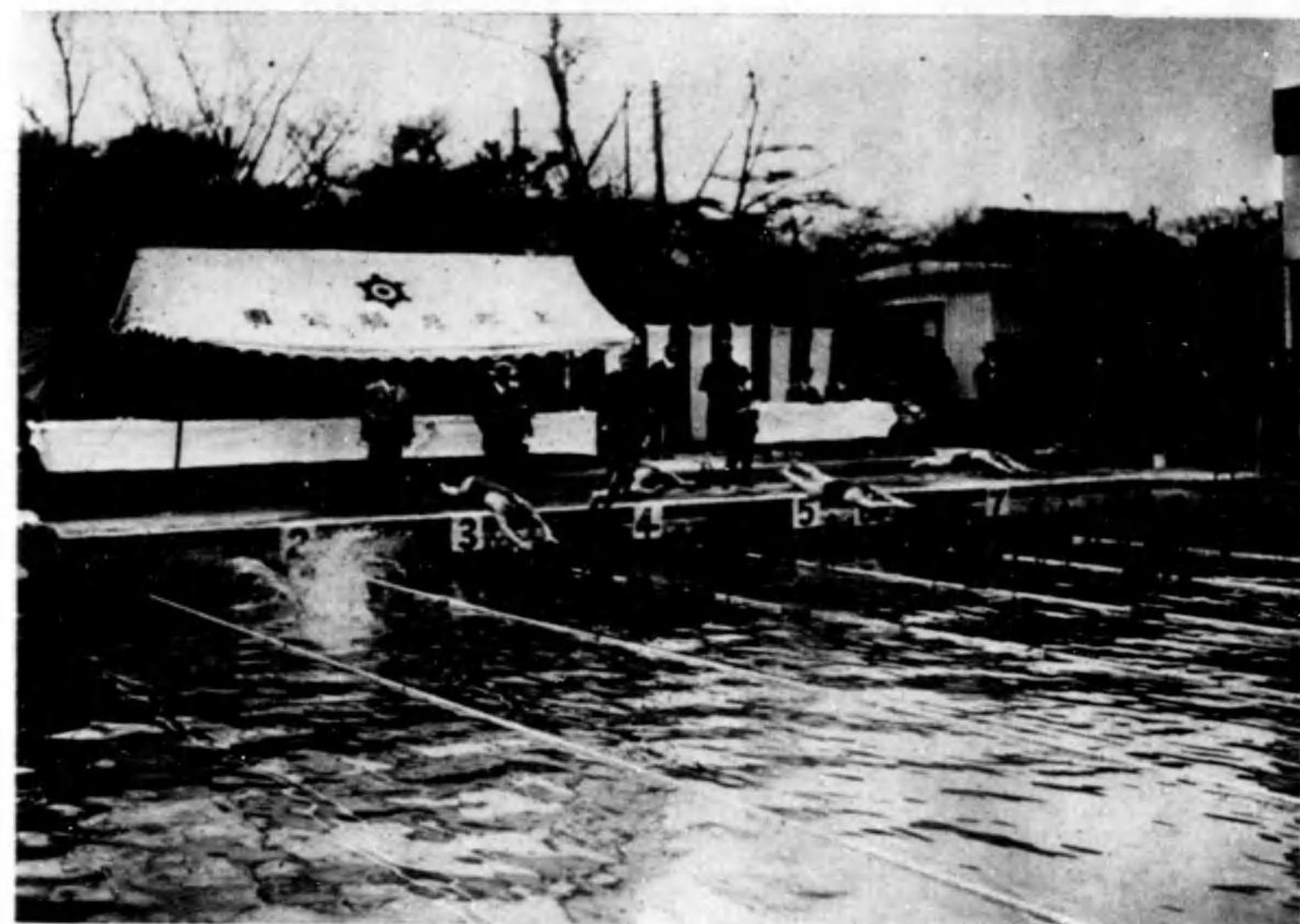
上 同



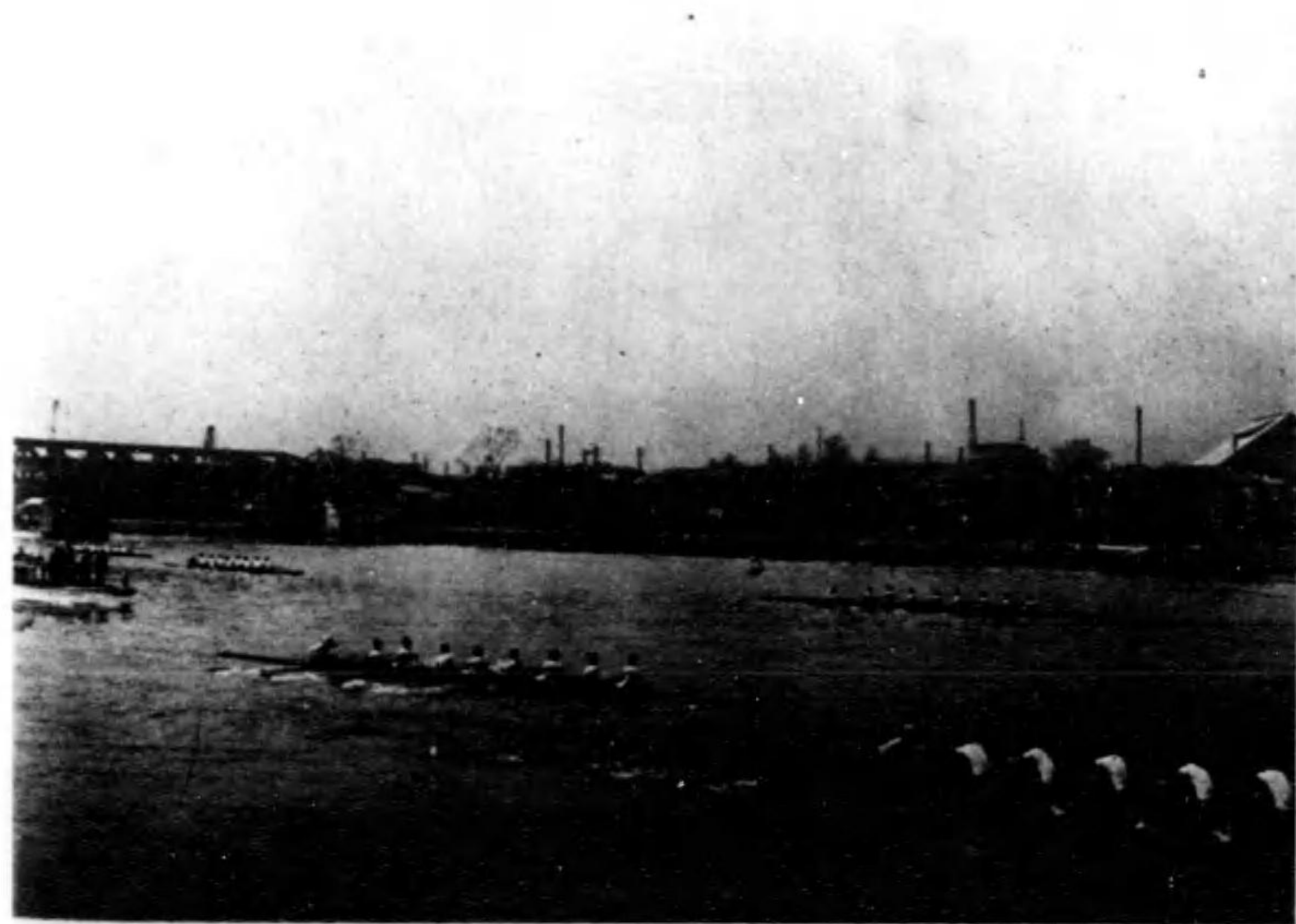
マ ラ ソ ン



ラ ビ ー



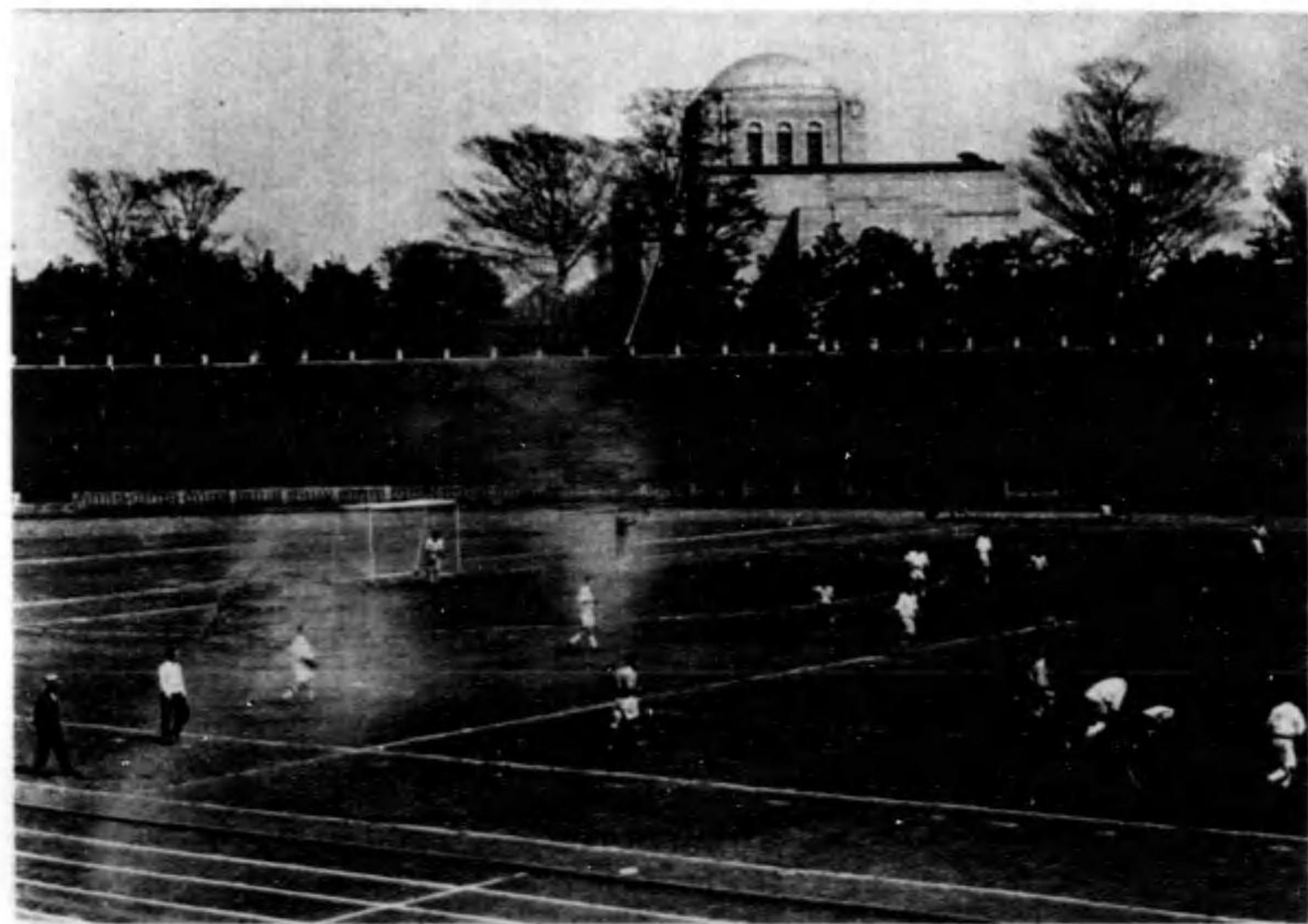
水 泳



ボ ー ト レ ー ス



ル - ボ - レ - バ



テ - ニ - ス

三月二十七日、復興體育大會第四日目、水上競技を出頭し、剣道、拳闘の試合があつた。水上競技は同日午後一時より芝公園プールに於て今村遊泳聯盟會長の開會の辭に次いで、各種競技、高等游泳術等あり、殊に六十四歳の井上清氏が稽古着姿で神傳流古式の型を見せて櫓から飛び、七十三歳の老人小堀流の大塚惟久氏が水弓を演ずる等、盛會裡に終了した。尙ほ當日の決勝記録は、百メートル自由型、五十米平泳、五十米背泳、女子五十米横泳、五十米背泳、女子五十米平泳、女子五十米自由型、二百米リレー等であつた。

剣道は、同日午後一時より、日比谷公會堂で舉行された。

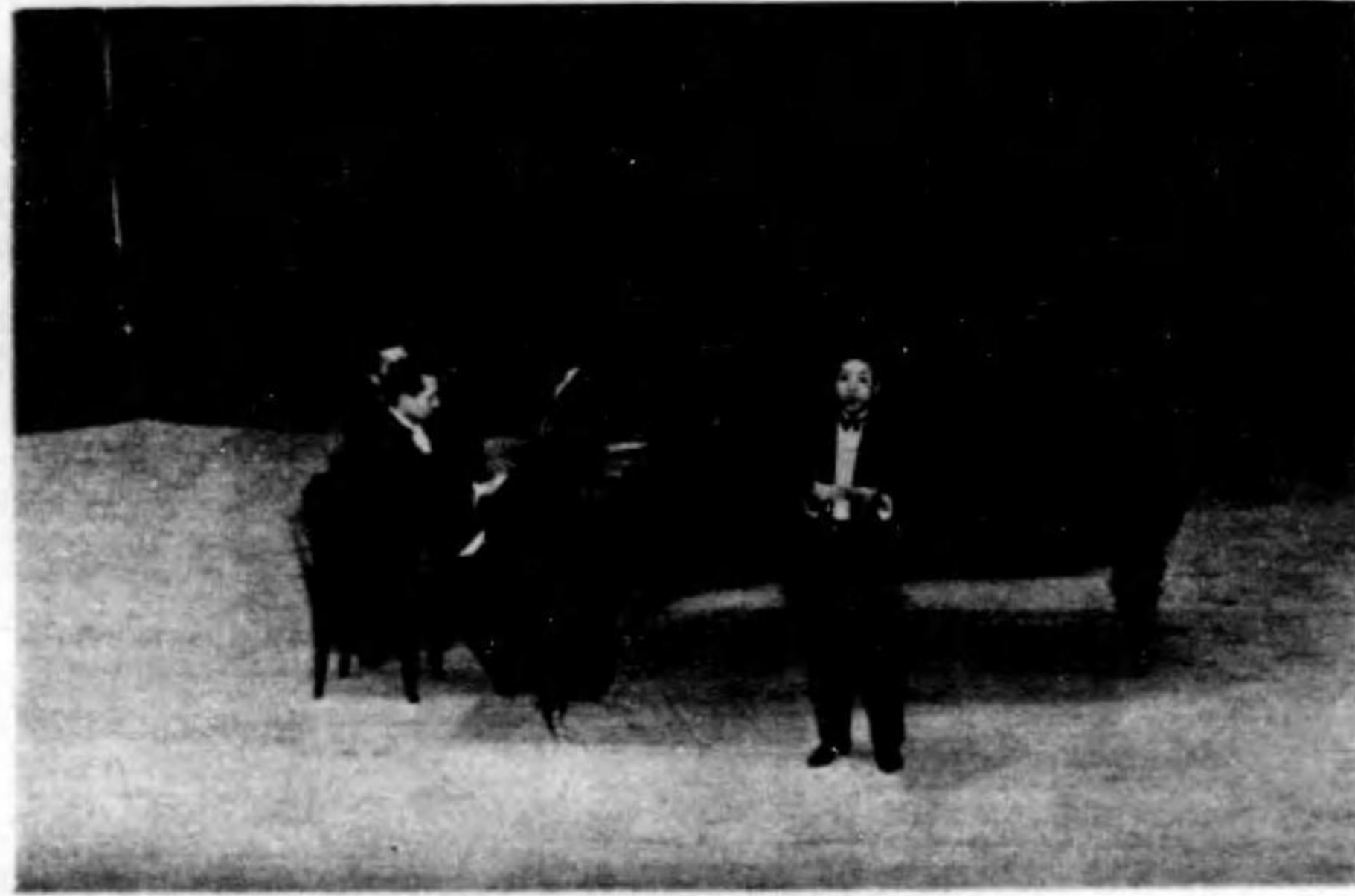
拳闘試合は、午後六時半より日比谷公會堂で舉行し、ダンス、クラマメント、ブラシス、コ、ローラの比島選手の出場による日比國際試合は、異状の人氣を呼んで、頗る盛況裡に午後九時半散會した。

以上の外型二十八日午後一時より、各郡區八王子市對抗柔道優勝試合を行ひ、かくて大會は何れも無事に終了した。

三 奏樂、舞踊、並映畫

復興祭餘興として三月二十三日午後一時から日比谷公會堂に於て、本市の主催する各種餘興は次の如き日取と番組で行はれた。初めは尾上菊五郎一門の舞踊會であつた。

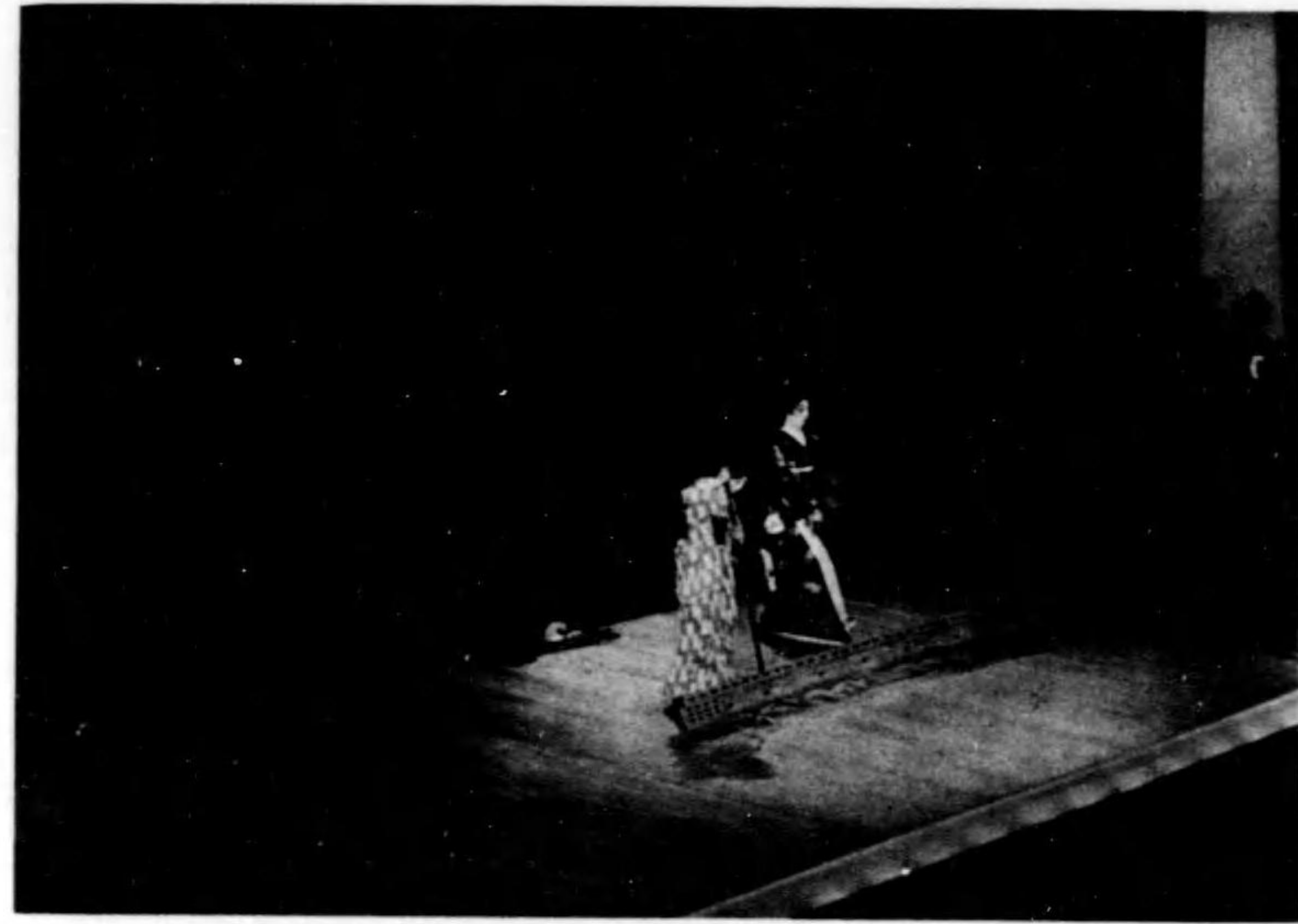
獨唱
奧田良三



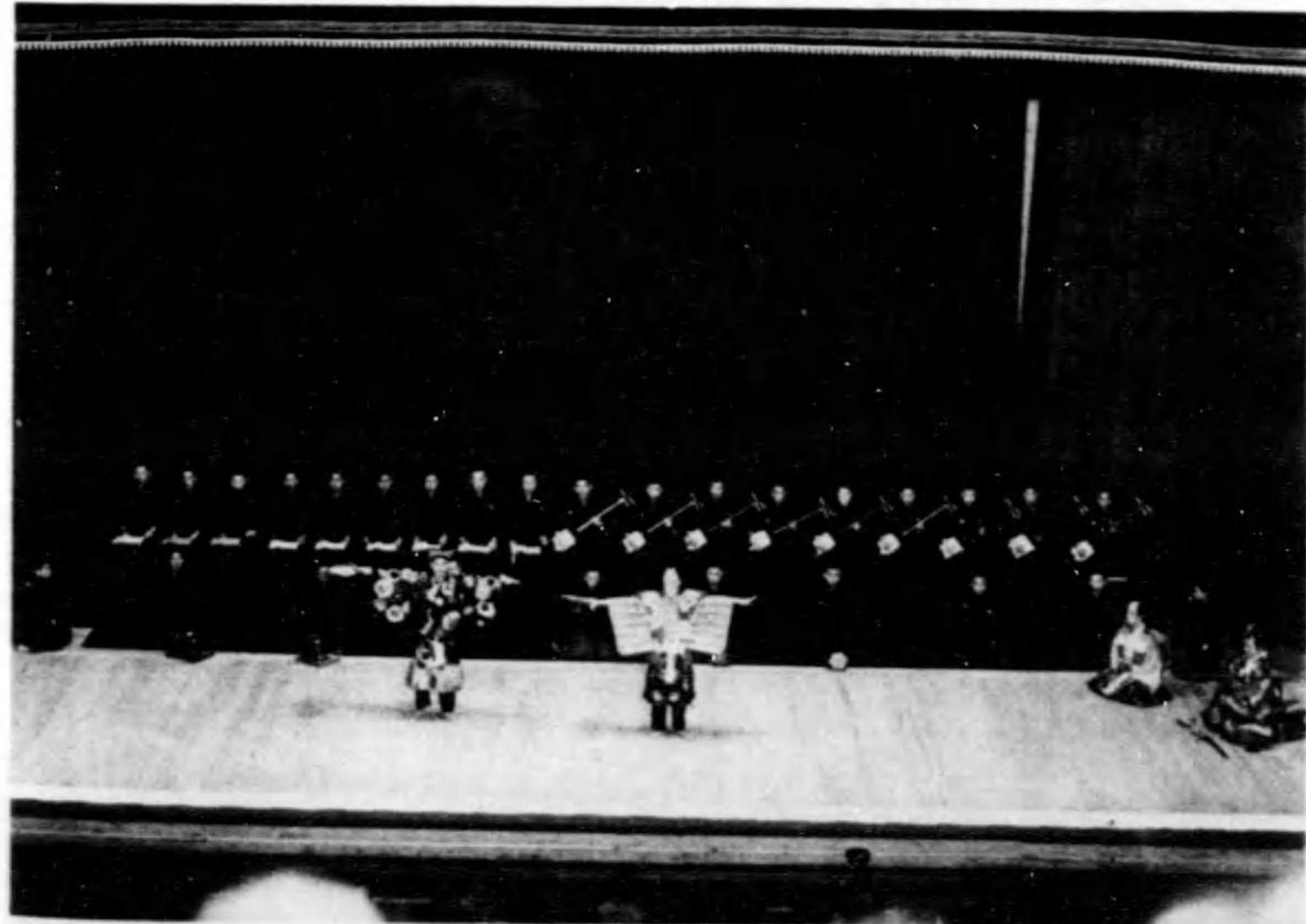
二重唱
外淺野千鶴
山崎彦子



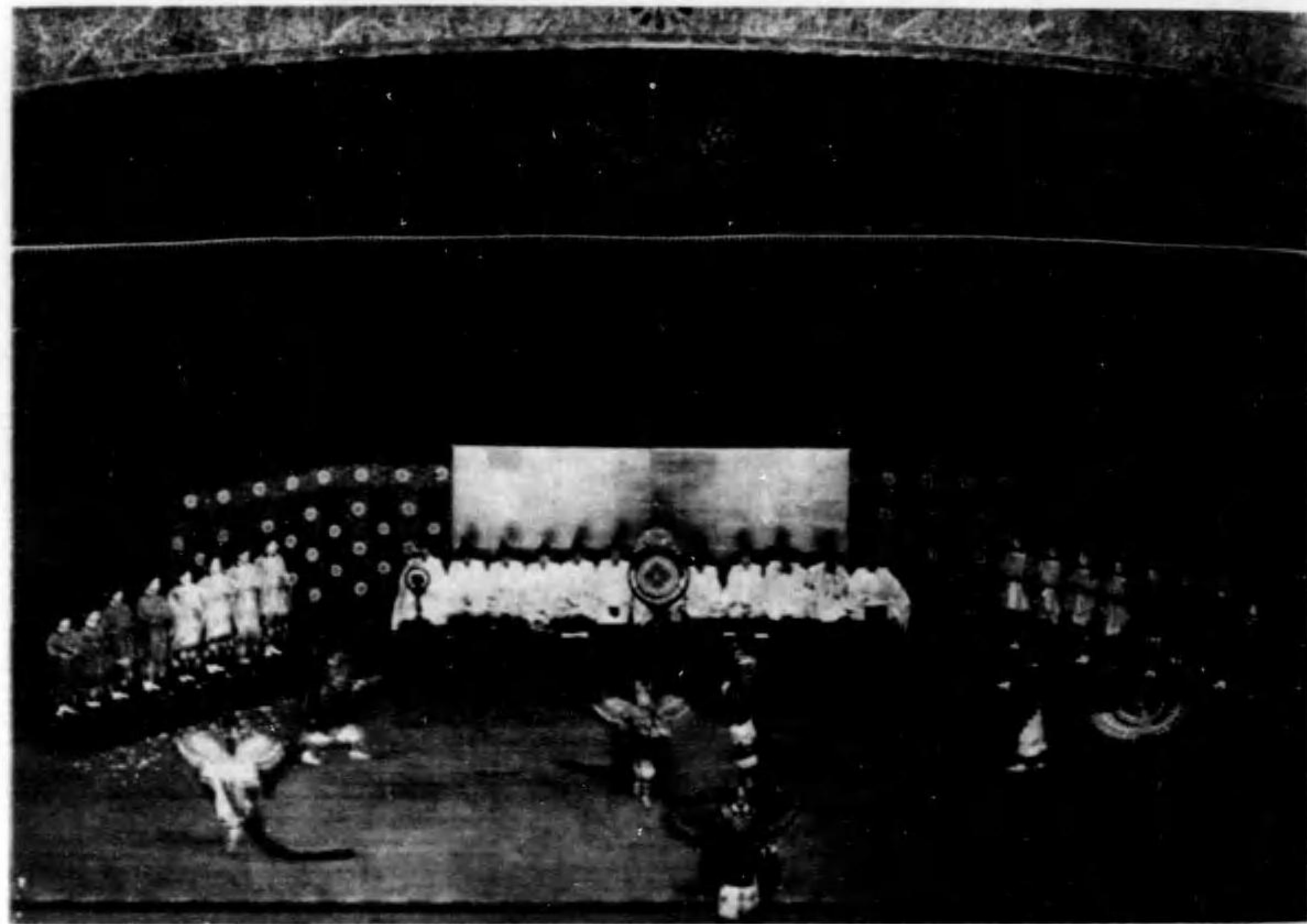
木琴獨奏
岩井貞雄



船妻淺



人盜刀太



國性舞樂



橋門筑前琵琶合奏



北村兒童歌劇協會歌劇



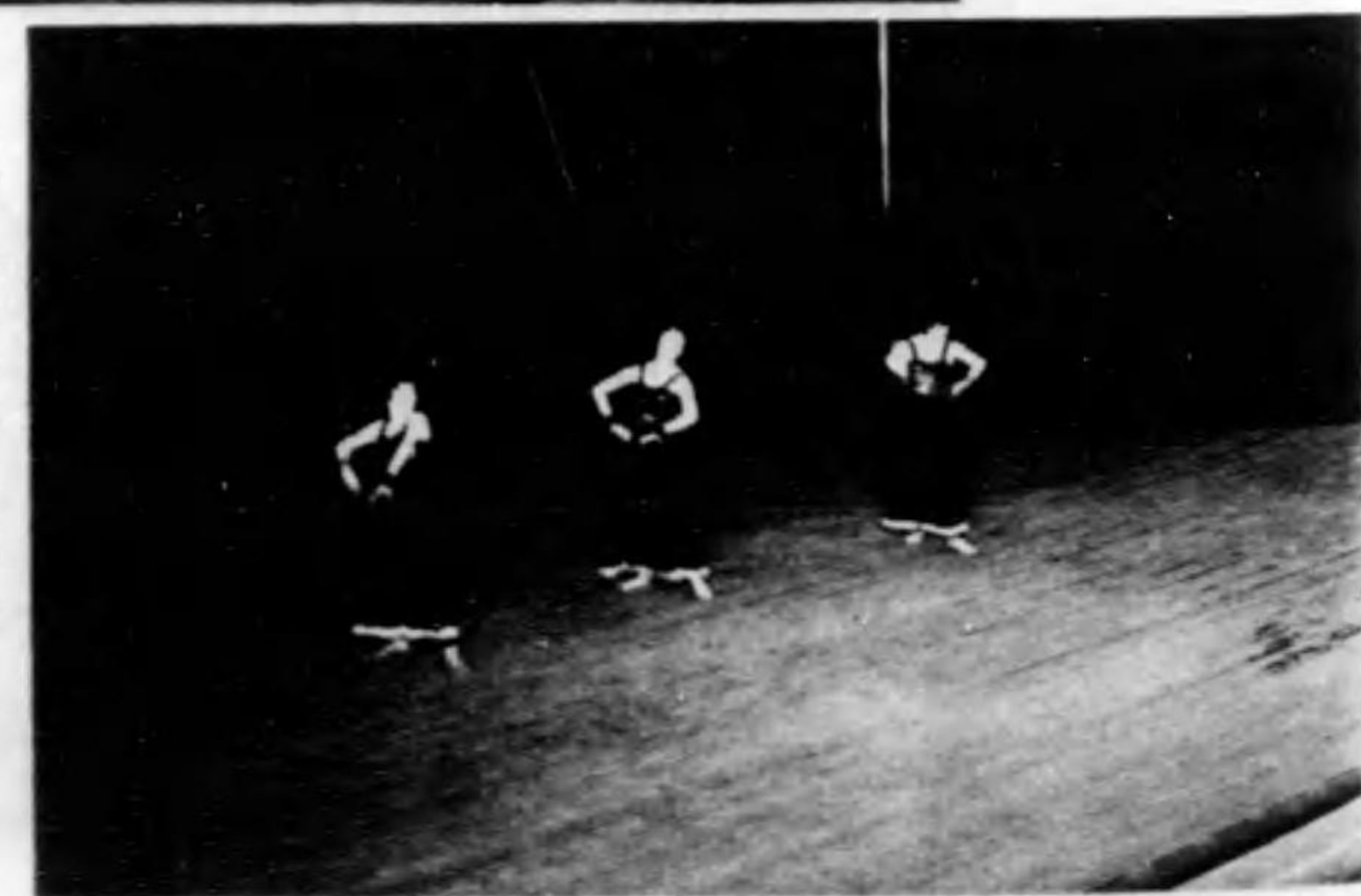
エリア・ベロフ舞團舞蹈

石井淡舞踊團舞踊



同上

福井茂舞踊團舞踊



陸海軍樂隊同合演奏



市民合唱團



復興展覽會陳列の一



同上



同上

同日午後一時日比谷公會堂に於てハーモニカの大演奏會を開催し、曲目左の如くてある。

曲目

- 第一部 (聴かせる曲)
- 一 東京齒科醫專ハーモニカソサエテイ 未定 指揮 大塚潤一郎
 - 二 明治樂專ハーモニカバンド A 序曲レイモンド B 寫曲自動車旅行 指揮 蒼野素奈太
 - 三 立教大學ハーモニカソサエテイ A コホロギの踊 B 天國と地獄 指揮 吉川慶篤
 - 四 日本大學ハーモニカソサエテイ 未定 指揮 高田裕三
 - 五 慶應バストラテルアンサンブル A 序曲黄金の王笏 B 時計店にて 指揮 畑 旋
 - 六 トンボハーモニカバンド A カルメン 抜萃 B 南方の唄 (聴衆共に奏し得る曲) 指揮 畑 旋
 - 七 宮田ハーモニカバンド A 進軍 B 雷神 C 都會交響樂 D 白帆 指揮 相原考祥
 - 八 上原交響樂團 長唄稽古本 指揮 上原秋雄
 - 九 早實ラスカラバンド A 未定 B 深川 指揮 荒井恒治
 - 十 東京リードバンド A ショーボート B 赤い唇 C 洒落男 指揮 松原千加士
 - 十一 法政ラッパキーフエローズリッドジャズバンド 未定 指揮 中村憲一
- 第三部 合奏
- 參加全合奏團とハーモニカを持つ聴衆合奏團全部大合 指揮 田中豊明
 - 復興行進曲 A 君が代 B 君が代

同日午後一時日比谷公園新音楽堂に於て新國劇を開催し、番組左の如くてある。

番組

第一 東京日々新聞所載

日の丸由來記 二場

第二 中村吉藏作

開國より維新へ 一場

出場俳優

中井 哲	秋月正夫	久松喜世子
野村清一郎	小川虎之助	山路千枝子
金井謹之助	伊藤田雀夫	二葉早苗
南 吉太郎	雄島三之介	永島優子
島田正吾	辰巳柳太郎	初瀬音羽
丸茂三郎	高木 繁	外四十名
畑中夢坡	鈴木章吉	

同日午後二時より本所公會堂に於て兒童音楽大會を開催し、番組左の如くてある。

番組

一 唱歌 東京市民音楽研究会

帝都復興祝歌 本所支部員

ハ 花
ハ 竹取の翁

二 唱歌遊戯	茅場小學校 二年男
イ 山羊のおぢさん	あひの山影
三 童謡踊	小梅小學校 三年女
イ 繪日傘	萬 歳
四 唱歌	外手小學校 四年男女
イ 花嫁人形	蛙の夜廻り
五 對話唱歌	柳元小學校 四年女
舌切雀	
六 舞 踊	横川小學校 一年一六年男女
イ 花咲爺	天然の美
七 童謡踊	明德小學校 四年女
イ 閑古鳥	小人の號外
八 遊 戯	柳島小學校 二年女
イ 蛙の夜まわり	證城寺の狸囃子
九 唱歌遊戯	本所小學校 二年男
兵隊ゴッコ	
十 童謡踊り	本横小學校
人形とゴムマリ	
十一 イ 對話	緑小學校 四年男女
小島の宿	
ロ 唱歌	緑小學校 五年男
進め矢玉	
十二 兒童劇	菊川小學校 二年女
黄金のパケツ	
十三 兒童劇	江東小學校 三、四、五年女

十四 唱 歌	雨降れ降るな	日進高等小學校 一、二、年女
イ 祝歌(齊唱)	石井いく	二年
ハ 晝(獨唱)	冬の野(二重唱)	
十五 兒童合奏	ニ フリージア(獨唱)	
井上兒童オーケストラ團		
君か代行進曲	樂しき夢	
ハ 軍艦行進曲		
十六 ビアノトリオ		
未 定		
十七 童謡踊	二葉小學校 三年女	
イ 春がくる	車のおとし	
十八 對話唱歌	業平小學校 二年女	
舌切雀		
十九 唱 歌(二重唱)	錦糸小學校 五、六年男女	
イ 旅の秋	花	
二十 對 話	中和小學校 六年男	
太平洋と國旗		
二十一 舞 踊	千葉 躬治	
ミラタリーマーチ		
二十二 唱 歌	高等小學校 一、二年女	
東京市歌		

同日午後七時より日比谷公會堂に於て體操と音樂の夕を開催し、番組は左の如くてある。

プログラム

- 一 齊唱
 - イ 君か代
 - ロ 東京市歌
 - 二 バリトン獨唱
 - イト セリーのセレナータ
 - ロ レオンカバル
 - ハ 羽衣
 - ニ 松島音頭
- 東京市民音樂研究會々員
奥田良三氏
- 三 體操
 - 四 齊唱
 - 帝都復興祝歌
 - 五 ソプラノ獨唱
 - イ 唄
 - ロ 木の芽ころ
 - ハ 馬賣り
 - ニ たまへよ、しらべよ、
 - テナー獨唱
 - イ 船唄
 - ロ 鐘が鳴ります
 - ハ 泊り舟
 - 二重唱
 - 兩はなほうるはし
 - 六 體操
 - 體操研究會々員
 - ゼームス、ダン氏
 - 七 ビアノ獨奏
 - 八 アルト獨唱
 - 曲目未定
 - 九 舞踊
 - 日本女子體操育專門學校生徒
 - 東京市民音樂研究會々員
 - 伴奏者 ゼームス、ダン氏
 - 十 四部合唱
 - 春興
 - 十一 映畫
 - 「輝く大東京」 第一篇 光榮の御巡幸 二卷

御巡幸翌日二十五日の催物は兒童の會、外數種の餘興あり、何れも盛會を極め、午後一時より日比谷公會堂に於て兒童の會開催其の番組は左の如くてある。

番組

- 一 童話
 - 岸邊 福雄
- 二 少年少女の音樂
 - A 童謡獨唱
 - 岩田まり子 伴奏 石崎 花子
 - イ お早やう
 - ロ お馬
 - ハ お菓子の汽車
 - B 童謡獨唱
 - 村山 忠義 伴奏 ダン 道子
 - イ おさそひ
 - ロ チョコレート
 - ハ 道中双六
 - ニ 新兵さん馳け足
 - C ビアノ獨奏
 - 田中 立江
 - イ ほととぎす
 - ロ ダーウィン曲
 - ロ カップリツオオス
 - カルツチオスカルツチイ曲
 - D 童謡獨唱
 - 平井 英子 伴奏 田中 立江
 - イ 鬼のダンス
 - ロ 手唄
 - ハ コンノ、小狐
 - E 木琴獨奏
 - 岩井 貞雄 伴奏 岩井 貞枝
 - イ ロング、アゴ、戀奏曲
 - ロ コンセルト第三樂章
 - ハ ウイリアムテル拔萃
 - F ヴイオリン獨奏
 - 小野俊太郎
 - グユウタン 第五コンチェルト
 - 山内和子
- 三 兒童歌劇「鬼の家」
 - 北村兒童歌劇協會
 - ウサ子(盲目の子鬼)
 - 北村 吟子
 - ビヨ子(ウサ子の姉)
 - 北村季佐代
 - 母 鬼
 - 北村季與乃
 - 北村季久江
 - 夢の國の女王(月の使姫)
- 四 少女の舞踊
 - 瀨死の白鳥
 - 鶴岡千恵子
 - A ガボット
 - 澤 鞠子
 - B ボルカ
 - 鶴岡 綾子
 - C 双六
 - 花柳子供連中
 - D うさぎのダンス
 - ハ つばき
- 五 千代紙舞踊「お祭り」
 - 早稲田兒童藝術研究會
 - 細工式舞踊
 - 太鼓持 三浦 すな
 - 渡邊まり子
 - 太鼓 中島 輝子
 - 御幣持 白井 露子
 - 團扇持 白井喜久子
 - 御 輿 橋 富久子
 - 御 輿持 子安 ひろ
 - 橋 宣夫
 - 宮野 晃子
 - 小澤 洋子
 - 山田 利江
 - 武田 絹子
 - お獅子 栗田喜久代
 - 中島智恵子

同日午後三時日比谷公園音楽堂に於て陸海軍々樂隊合同大演奏會開催、曲目は左の如くである。

曲目

第一部

一行進曲 麗しの帝都 陸軍戸山學校軍樂隊作 指揮 辻 順 治

二 圓舞曲 復興 陸軍戸山學校軍樂隊作 指揮 シヤグア 作

第二部

海軍々樂隊 指揮 佐藤 清 吉

三 序曲 歡喜 フロト 作

四 行進曲 千代田城を仰ぐ 江口 源 吾 作

第二部 合同演奏

指揮 辻 順 治

五 序曲 ウキリアム・テル ロシニ 作

指揮 佐藤 清 吉

六 喜歌劇「軍艦ビナフォア」の拔華曲 サリバン 作

同日午後六時より本所公會堂に於て映畫會を開催、番組は左の如くである。

番組

村田 實 原作 脚色

梅村 容子

山本 嘉一 主演

小泉 嘉助

一 砲煙彈雨 六 卷

二 レヴェル 小 松 秋 造

一人オーケストラ

a 支那樂ボツボリ

b 花柳界の一夜

c 朝日の昇る頃

伊藤 大輔 監督

大河内傳次郎主演

三 血煙高田の馬場 十一 卷

同日午後七時より日比谷公會堂に於て舞踊會を開催、番組は左の如くである。

番組

- 一 石井 漢舞踊團
 - a グリウオークのケーキウオーク
ドウビユスイ曲
 - b 石井 榮子 近藤 郁子
歡樂の舞踏 サンサーン曲
轟 美津子 石井 榮子 石井 漢
近藤 郁子 笹多美 佐子 葛原まさを
岡内 俊子 安坂眞佐子 山川貴久子
五十嵐花子
- 二 高田せい子舞踊團
 - a 匈牙利舞曲 ブラームエ曲
高田せい子 宮 操子
 - b モーメントミュージカル シューベルト曲
宮 操子 木村 文子 佐々木 秀子
永井 花子 神崎 英子 林 五郎
田代 喜美 江口 隆哉
 - c チゴイネルワイゼン サラサーテ曲
エリアナバヴロバ舞踊團
 - a 黒人の踊(アイダの中モリア人の踊)
鶴岡あや子 瀬川 光子 瀬川 正子
芝 麗子 野木 勝也
b 操り人形 芝 麗子
c バツカナレー グノー曲
エリアナバヴロバ

- d 新作舞踊題未定 エリアナバヴロバ
- 四 藤田塚舞踊團
 - a 天 狗 無伴奏 藤田 繁
 - b 春の訪れ 宮城道雄曲 堺 千代子
 - c 小人の踊 武井守成曲 星 松美
瀧 久子 藤原 千島 波多ミチル
北村季佐代 久松 文子
- 五 福井茂舞踊團
 - a アントラの舞 グリク曲
 - b 華岡 洋子 藤間かほる 一條 京子
舞踊詩 光を見る迄 シューマン曲
福井 茂
 - c 牧神と水の精 イバノヴィツチ曲
福井 茂 華岡 洋子 一條 京子
夏川 麗子 泉 榮子 富士 延子
久谷 久子 藤間かほる 岡本 八榮子
小松 明子
- 六 興世山彦士舞踊團
 - a 犬の踊 トーマス曲 興世山彦士
 - b ビエロとコロンビーナ シユウベルト曲
興世山彦士 島 洋子
- 七 花柳 壽美 花柳 壽美葉
長唄 浅 妻 船

帝都復興完成式典祝賀會當日の催物は市民オーケストラ演奏會にして、午後五時日比谷公園音楽堂に於て開催、其の番組は左の如くてある。

曲目

- 一 東京行進曲 指揮 小松平五郎
- 二 セレナーデ 瀬戸口 藤 吉作
- 三 ロシア民謡八曲 シューベルト作
- 四 ボルカ 奉祝行進曲 リヤド フ作
岩井 貞 磨作

午後六時より本所公開堂に於て日本音曲大會を開催番組は左の如くてある。

番組

- 一 神 樂 舞 大 木 社 中
- 二 掛 合 萬 歳 林 田 五 郎
柳 家 雪 江
- 三 講 談 孝 行 織 神 田 伯 龍
- 四 掛 合 萬 歳 都 家 文 男
柳 家 靜 代

- 五曲 藝 一ツマリの曲 春本助次郎
- 六落 語 縁日 林家五藏
- 七講 談 寛永三馬術 大島伯鶴
- 八身 體 運動 クレバ一行
- 九琵琶 劇 龜旭登美社中

午後六時より日比谷公會堂に於て喜劇映畫大會を開催番組は左の如くてある。

番組

- 一 實 寫 二卷
- 二 喜活劇「大學生活」 六卷
 - 飛行機の巻
 - スキーの巻
 - 自動車の巻
- 三 シドニーチャップリン主演
 - ベターオール 十卷
 - 説明丸山章治
 - 説明瀧田天籟

四講談

「在米當時の震災思出話」 上山草人

五吹奏樂

- イ 行進曲 冴え渡る月の夜 アーバツクル曲
- ロ 序曲 ストラ、デラ フロト―曲
- ハ フオックスストロツト玩具の兵隊 レオンジョセル曲
- ニ 伊太利民話 オーツレ、ミオ オーシヤノ―ト曲
- ホ 圓舞曲 トレドヴァルセット ヒューム曲
- ヘ 復興行進曲

午後七時より日比谷公園音樂堂に於て映畫會を開催番組は左の如くてある。

番組

- 村田 實 原作脚色
- 梅村 容子
- 小泉 嘉輔 主演
- 山本 嘉一
- 一 砲 煙 彈 雨 六卷
- 伊藤 大輔 監督
- 大河内傳次郎 主演
- 二 血 煙 高田の馬場 十一卷
- 第四編 帝都復興祭

四 花電車運轉

花電車は三月二十四日御通筋三原橋に陳列して、陛下の御覽を仰きたる後、豫定表に依り帝都大路を運轉し、翌二十五日は休止、二十六日、二十七日、三十日の三日間に亘り市内を運轉して、滿都に感興を湧かした、尙ほ花電車經由經過地及時刻は前記豫定通りである(第二編第六章第二節參照)。

五 參拜竝墓參

帝都復興完成祝賀會終了後、堀切市長は廣瀬助役福田復興事業局長を伴ひ、明治神宮竝多摩御陵に參拜し、帝都復興の完成を奉告した、尙ほ同日歸途青山墓地に立寄り、故伯爵後藤新平の墓前に復興完成を報告、更に二十七日、故東京市長中村是公、故復興局長官清野長太郎墓前に同様報告した。

第六章 復興記念

第一節 記念圖書竝記念品

一 帝都復興事業圖表副本

曩に本市に於て献上したる帝都復興事業圖表は其の副本を再刻し、之を朝野に頒布し以て此の大事業を永遠に記念し且つ將來參考研覈の資に供することとなつた、内容裝釘等の體裁は圖表と同型にし、内容は献上原本に最も近く「オフセット」印刷を以て原圖同様のものに整へ、表紙はカンパス地色クロロス背皮は献上本と同様のものを使用、表題文字は金箔押し、其の他の地模様は空押、天金圖版用紙はすべて最上ケント紙を使用した、尙巻首に震災及復興に關する勅語竝御沙汰書を謹記し東京市長の序文を附した。

印刷部數五百部其の費用五千六百圓を要した、献上及頒布先は左の如てある

各宮家 李王家へ献上 一六部

官廳關係駐日大使館新聞社關係都市關係東京市關係東京市政調査會大阪都市協會市内各大學圖書館等約三百七十六部を頒布した

一 英文復興事業概要

帝都復興記念の爲本市は英文復興事業概要を編纂刊行し諸外國關係筋に寄贈配布した其の内容は左の如くてある

Tokyo, March 10, 1930.

Gentlemen :

After the seven years' untiring efforts and painstaking works on the part of the citizens and all the people concerned, encouraged and supported by the people home and abroad, the reconstruction of Tokyo, the capital of Japan, has now come to its final completion. I am most happy to state that the entire work of reconstruction, unprecedented in its scope and extent in the world history of city planning has been so far accom plished with the most satisfactory records.

I take this opportunity to tender our heartfelt thanks to the world nations for the overwhelming generosity and ready assistance extended to us at the time of the catastrophe, six and a half years ago.

I beg to submit herewith, therefore, this brief account of the reconstruction work of Tokyo accompanied by maps, charts and diagrams, comprising what may be termed "Tokyo Reconstruction Work," as an official report.

With my best regards and compliments,

I am

Very sincerely yours.

Z. Horikiri.

Mayor of Tokyo

目次

CONTENTS

Kimi ga Yo (the National Anthem)	Relief Work
Mayor's Message	Reconstruction Plan
Contents	Adoption of Reconstruction Plan
List of Illustrations	Summary of Reconstruction Plan
Origine and Growth of Tokyo	Reconstruction Work
History of Tokyo	City Plan for Tokyo
Population and Area	Adoption of Restoration Scheme
Municipal Administration	Streets
Municipal Government	Bridges
Municipal Activities	Rivers and Canals
Municipal Finance	Parks
The Catastrophe of 1923	Land Readjustment
Earthquake and Fire	Need of Land Readjustment

Method of Land Readjustment	Electric Works
Execution of Land Readjustment	Motor Bus Service
Public Undertakings	Fire Prevention Scheme
Other Phases of Reconstruction	Reconstruction Expenditures
Educational Provisions	Emergency, Restoration and Reconstruction
Sanitary Provisions	Tokyo Emergency Expenditure
Social Works Provisions	Tokyo Restoration Expenditure
Central Wholesale Market	Tokyo Reconstruction Expenditure
Water Works	City Expenditure for Reconstruction Work
Sewage Works	Conclusion

LIST OF ILLUSTRATIONS

Niju-bashi, Main Entrance of Imperial Palace	Uchisakurada Gate
Zenzio Horikiri, Mayor of Tokyo	Distant View of Tokyo Station
Nihon-bashi, in a Rainy-day, by Hiroshige	Heart of Tokyo
'Benkei-bori'	Statues of Founders of Yedo
Outer-precinct of Imperial Palace	'Marunouchi'
Inner-moat near Hanzō Gate	Centre of Tokyo

Nihonbashi	Distant View of Kasumigaseki
Constitution Memorial Hall	Honjo Municipal Auditorium
Inokashira Park	Boulevard, Meiji Shrine Outer-precinct
Hibiya Park	Eitai-bashi Bridge
Part of Marunouchi	Komagata-bashi Bridge
Rolling Clouds of Conflagration	Kiyosu-bashi Bridge
Central Meteorological Observatory	Fornis of Bridges
Shiba Palace Garden	Kuramaye-bashi Bridge
Burnt Areas of the World Great Fires	Benkei-bashi Bridge
Kiyosumi Municipal Garden	Sunida Park
Fraternity Hospital	Uyeno Park
Taisho Earthquake Memorial Hall	Hijiri-bashi Bridge
Nō Stage of Hoshokai	Map of Street Readjustment Area
Mitsukoshi and Mitsui Headquarters Buildings	Map of Site Reapportionment of Area
Hibiya Municipal Auditorium	Tokyo Institute for Municipal Research
Yasukuni Shrine	Chiyoda Primary School
Stadium of Meiji Shrine	Tokyo Imperial University
No. 1 Trunk Line at Yedo-bashi...	Municipal Sanitorium
Garden of Okuma Memorial Hall	Koishikawa Municipal Settlement House

Municipal Nursery
 Wisteria Blossoms at Kaneicho
 Ryusenji Municipal Lodging House
 Central Wholesale Market

Murayama Municipal Reservoir
 Municipal Forest Reservation
 Surugadai Municipal Library
 Nogi Shrine

.....

MAPS

Communication Facilities in Greater Tokyo
 Burnt Area, Origin and Direction of Fire
 Tokyo Fire Prevention Zone
 Reconstruction Plan of Tokyo

Tokyo City Planning Map
 Aeroplane View of Upper Sumida River
 Social Works in Tokyo

三 記念寫真帖復興

帝都復興完成式典祝賀會當日招待者に復興記念として贈呈したる寫真帖復興の内容は左の如くである。

- 1 天皇陛下復興帝都御巡幸昭和五年三月二十四日
上野公園ニ於テ謹寫
- 2 攝政宮殿下災害地御巡視大正十二年九月十五日
上野公園ニ於テ謹寫
- 3 十一時五十八分
- 4 九月三日機上ヨリ見タル狀況
- 5 焦土ノ帝都
- 6 機上ヨリ見タル復興帝都
- 7 櫻田本郷町附近
- 8 昭和通江戸橋附近
- 9 大正通り九段附近ノ展望
- 10 東京府立工藝學校
- 11 上野公園ノ復興展望
- 12 (A)復興ノ仲見世 (B)震災直後ノ仲見世
- 13 隅田公園
- 14 千代田尋常小學校
- 15 (A)復興ノ永代橋 (B)災害ヲ受ケタル永代橋

- 16 築地病院
 - 17 (A)復興ノ銀座 (B)震災直後ノ銀座
 - 18 聖橋
 - 19 神田青果市場
 - 20 龍泉寺町託兒所
 - 21 室町附近
 - 22 京橋區役所
 - 23 芝浦下水唧筒場
 - 24 芝浦埠頭
 - 25 村山貯水池
 - 26 東陽小公園
 - 27 震災記念堂
- 帝都復興事業ノ概説

四 文 鎮

三月二十六日帝都復興完成式典當日參列者六萬人に贈呈したる記念品文鎮は直徑二寸の圓型アンチモニーに銅鍍金を施し模様は 聖上陛下御巡幸當日御立寄あらせらるる箇所を圖案化したものである。(別寫眞參照)

五 記念乗車券

帝都復興祝賀記念の爲本市は記念乗車券を左の如く發行した。

東京市告示第二百二十四號

帝都復興ヲ記念スル爲メ電車乗合自動車記念乗車券ヲ發賣ス其ノ種類様式發賣場左ノ如シ

昭和五年三月二十二日

東京市長 堀切善次郎

一 記念乗車券ノ種類

電車ニ在リテハ往復乗車券

乗合自動車ニ在リテハ一區二區三區四區各乗車券

二 記念乗車券ノ様式(彩色圖參照)

三 發賣場所並發賣期間

三月二十四日ヨリ同月二十六日迄テ電車乗車券ハ電車内運輸課各出張所及電氣局會計課乗合自動車券ハ乗合自動車内自動車課各出張所及電氣局會計課

右期間經過後尙記念乗車券ヲ希望スルモノニ對シテハ三月二十七日ヨリ同月三十一日迄ノ間電氣局會計課運輸課各出張所及自動車課各出張所ニ於テ引續キ發賣ス

會計課ニ限リ日曜日及休日ハ發賣セス

附記 本記念乗車券ハ希望ニヨリ一人二枚以上ヲ發賣シ後日ニ於テ隨時之ヲ使用シ得ルモノトス

第二節 對外施設

帝都復興祭當日の對外施設は大體左の計畫に基いて實施した。

- 一 駐日外國使臣を通し各國元首及國民に對し市長の名を以て帝都復興の完成を報告すると共に震災當時に於ける舉國的同情に對し感謝の意を表明すること
- 一 復興當日駐日外國使臣及在京演領事團の招待
 - 1 復興帝都案内説明
 - 2 市長招待
 - 3 復興事業完成を報告すると共に全世界國民への感謝傳達を請ふこと
- 一 外國雜誌に帝都復興に關する記事登載及ジャパンプリーストビューローに交渉し帝都復興を表示せしむること
- 一 英文東京復興概要を刊行し關係筋に配布すること
- 一 帝都復興事業一覽作成のこと

一 外交團招待會

大震災の當時友邦各國より深厚なる同情を寄せられたことに對し、今次復興事業完成を告げ其の復興祭を催するに當り東京市民は心からなる感謝の意を表する爲、東京横濱在住の外交團を主賓として三月二十七日午後八時東京會館に於て感謝の宴を催した。

この夜堀切市長は夫人を伴ひ柳澤溝口市會正副議長、田中廣瀬兩助役、外各局長と共に接待に當り、外務省からは幣原外相、同夫人、吉田次官、同夫人等も列席し、四階の大ホールには壁面の一方を杉葉で清洲橋を型とつた大アーチを作り、四壁は締盟各國々旗を懸け鮮かなる会場には定刻英、白佛、獨露の大使を始め各國の大公使、總領事、領事六十餘名、夫人同伴にて續々來場し、先づ三階休憩室で少憩後、主客は四階大ホールに移り、宴は開かれ、思出の歎談に時を移す。デザートコースに入るや、市長は英語にて心からなる謝意を表して、後一同と共に乾杯し、次いで白耳義大使は外交團を代表し佛語にて答辭を述べ、九時半宴を閉じた。尙外交團に對しては本市に於て作製した英文東京復興事業概要、復興寫眞帖、復興記念文鎮を贈呈した。

イ 市長外交團代表者挨拶

當日堀切市長の挨拶及外交團代表白耳義大使、パツンビエール男爵の答辭は左の如くである。

Toast and Words of Thanks

Presented by Mayor Horikiri of Tokyo

Your Excellencies, Ladies and Gentlemen:

It is an honour for the Municipality and a pleasure to myself as well as my colleague, that so many distinguished personages of the diplomatic corps and of the consular service in Tokyo and Yokohama have been kind enough to accept my invitation this evening to this reception given in celebration of the rehabilitation and reconstruction works of the Capital City.

I have been looking forward to have the honour of meeting you all, because I have had many things in my mind which I wanted to put before you personally and directly from heart to heart.

On behalf of the citizens and the Municipality of Tokyo, I have the honour to express our heartfelt thanks and profound gratitude, though too deep for words, to you and through you to the August Sovereigns and the Government and people of each country for their overwhelming generosity and most prompt assistance bestowed upon us on the occasion of the terrible catastrophe six and a half years ago.

We remember very well how deeply we were impressed by the extraordinary sympathy of all nations of the world at and after the time of great disaster. That tremendous quantity of materials and money for relief sent from all parts of the world certainly overjoyed and did much to alleviate the lot of those multitudes of sufferers who had been reduced overnight to the most miserable and dreadful condition imaginable. Without your assistance and moral support, I assure you, we could not have hoped for any such immediate recovery

from the crushing blow we received.

In the mind of all the citizens of Tokyo, therefore, the only suitable return for this welcome sympathy was regarded as to make a success of rebuilding the new Capital from the debris of devastation far better and safer than it was before. Heartened by the sympathy and goodwill shown us both at home and abroad, we literally flew at the gigantic task of reconstruction with determination and courage.

Now I am happy indeed to be able to report to you the completion of the work of rehabilitation and reconstruction work unprecedented in scope and extent in the history of city planning, after seven years' hard toil and painstaking effort on the part of our citizens, of the Municipality and of the Government, although I cannot but fear that the results may be far from satisfying the cordial confidence which you reposed in us.

Let me thank you once again for all you have done, are doing and will do for us, and express the hope that international amity and goodwill between Japan and the other nations of the globe may become ever deeper and more intimate, and that may always be found in the closest cooperation in the sacred cause of civilization and humanity.

I now raise my glass and ask the assemblage to drink to the health of our honoured guests, and I beg that our deep thanks and the assurance of highest esteem may by them be kindly conveyed to the respective August Sovereigns, the Governments and the various peoples, together with the report of the completion of the reconstruction work of our city.

(一) 外交團代表挨拶

Réponse de Son Excellence

Le Baron Bassompierre, Ambassadeur Belge

Monsieur le Maire,

Je suis vivement touché, et mes collègues, j'en suis sûr, le sont autant que moi des sentiments qu'au nom de la population et de la municipalité de Tokio, vous venez d'exprimer à l'adresse de nos Souverains, de nos gouvernements, et des nations que nous représentons ici. Nous ne manquerons pas de faire connaître ces sentiments dans nos diverses capitales et je suis certain qu'ils y seront hautement appréciés.

Il était naturel sans doute que devant une calamité de la nature et de l'échec de celle qui a frappé le Japon le 1^{er} septembre 1923 le monde entier s'émeuve et que les nations étrangères, chacune dans la mesure de ses moyens, viennent fraternellement au secours de la population cruellement éprouvée de Tokio.

C'est pour nous représentants de ces nations, une grande satisfaction de constater que ces efforts de solidarité internationale, bien que tout naturels n'ont pas été pour le peuple japonais un encouragement efficace et qu'ils ont provoqué chez lui une gratitude profonde et durable.

Si j'ai l'honneur de vous répondre au nom de mes collègues, Monsieur le Maire, c'est que je suis le plus anciennement accrédité à Tokio parmi les représentants étrangers. Je suis aussi le seul à l'exception de M. le Ministre des Pays Bas qui ait assisté à la tragédie du 1^{er} septembre 1923. Qu'il me soit permis comme tel

d'exprimer ici la profonde admiration qu'a suscitée en moi le spectacle de la grandeur d'âme du peuple japonais au moment de l'épreuve terrible qui s'est abattue sur lui. Jamais ceux qui ont vécu le drame ne pourront oublier le calme extraordinaire, la résignation de la population, son stoïcisme et l'énergie avec laquelle elle s'est immédiatement mise au travail pour relever ses ruines. Les attentions de tous genres qu'eurent pour les étrangers qui partageaient leurs épreuves les autorités du pays et les habitants même les plus humbles, resteront toujours dans ma mémoire un souvenir très cher qui efface presque celui des scènes affreusement angoissantes dont j'ai été le témoin.

Le travail accompli depuis sept ans pour supprimer les traces du cataclysme et pour reconstruire Tokio est vraiment extraordinaire. J'ai parcouru ces jours-ci les nouvelles artères récemment terminées de Kanda, de Tsukiji, de Honjo et d'Asakusa. J'ai été stupéfait de la beauté de la nouvelle cité, qui comme le phénix de la légende, est renée de ses cendres.

Je suis certain d'être l'interprète fidèle de tous mes collègues en vous présentant, Monsieur le Maire, et en présentant à toute la population de cette belle capitale, l'expression de nos vives et sincères félicitations pour le colossal effort accompli et pour ses magnifiques résultats.

Je bois à la santé du Maire et de la Municipalité du Grand Tokio et à la prospérité de sa vaillante population.



駐米の氏ル・エビソン・ランバ大使大義耳白表代領交外に合符留交外

在東京各國領事	
加 奈 陀	總領事 丸ノ内一ノ二
墨 西 哥	特命全權公使 丸ノ内二ノ二
ルーマニア	代理公使 山下町一ノ一
佛 蘭 西	臨時代理大使 飯田町一ノ一
伊 太 利	臨時代理大使 裏葎ヶ關四
諸 威 國	臨時代理公使 丸ノ内三ノ一二
荷 葡 牙	臨時代理公使 三年町一
西 班 牙	臨時代理公使 麻布区市兵衛町一ノ二
秘 露 國	臨時代理公使 丸ノ内幸町一ノ三
丁 抹 國	臨時代理公使 丸ノ内仲通八
芬 蘭 國	臨時代理公使 府下澁谷町金王一一
在東京各國領事	
北 米 合 衆 國	總領事 丸ノ内山下町一
亞 爾 然 丁 國	領事 澁谷金王一一亞國公使館内
澳 地 利 國	名譽領事 赤坂區繪町六
伯 刺 西 爾 國	名譽領事 小石川區西江戸川町一八
丁 抹 國	領事 丸ノ内仲通八
英 吉 利 國	領事 麴町區永樂町二ノ七
グアテマラ國	名譽領事 牛込區早稲田南町一六
第四編 帝都復興祭	

ホンデユラス國	芝區三田南寺町八	名譽總領事	○伊藤敬一
ラトヴィア國	赤坂區榎坂町一	名譽領事	○ハンス、ハンター
ルクセンブルグ大國	府下千駄ヶ谷榎田四	名譽總領事	○今泉嘉一郎
墨西哥國	芝區三田南寺町八	名譽領事	○伊藤敬一
諾威國	麹町區有樂町一ノ一	名譽領事	○セー、エヌ、オー
バラグアイ國	麻布區筈町七九	領事	○ロバート、モス
和蘭國	芝區榮町一	副領事	○イ、エー、ペー、ボーデ
エルサルヴァドル國	赤坂區水川町四	總領事	○レオン、シグエンサ
チエッコスロヴァキア國	麹町區丸ノ内八重洲ビルディング	名譽領事	○アントアンヌ、レーモン
ソヴィエト聯邦	七〇八號	總領事代理	○ニコラス、チクメネフ
ヴェネズエラ國	麹町區裏霞ヶ關一	名譽領事	○大使館一等書記官兼任
	牛込區余丁町八〇	名譽領事	○小林 武麿
	(姓名ノ上ノ〇印ハ夫人アルモノヲ示ス)		
在横濱各國領事			
獨逸國	山下町二五六	領事	○ルドルフ、ブットマン
北米合衆國	山下町二三五	領事	○グレイアム、エイチ、ケムバ
亞爾然丁國	山下町五一	名譽領事	○渥美 育郎
白耳義國	山下町九二	名譽領事	○アツシユ、エヌ、アルクローエ
ボリヰア國	辨天通一ノ八	館事務代理	○小野 哲郎
伯刺西爾國	山下町八六	名譽總領事	○レオナルド、オラヴオグ、
		總領事	○シルヴァ、カストロ

智利國	山下町八二	總領事	○サンチャゴ、ア、オツサ
支那國	山手通二丁目	總領事	○林 澄波
コロンビア國	山下町八二	總領事	○カルロス、クエルヴ、オボルダ
佛蘭西國	山手町一八五	領事代理	○ビエール、ド、ベイ、エール
英吉利國	山下町一七二	總領事	○イー、エイチ、ホルムス
希臘國	山下町五一ノ二	領事	○ウイリアム、ウオーレンナー
グアテマラ國	辨天通一ノ八	名譽領事	○小野 哲郎
ホンデユラス國	本牧箕輪下三五	名譽領事	(ボリヰア國名譽領事兼任)
伊太利國	山手町三二	領事	○アルフレッド、デ、プロスベロ
墨西哥國	海岸通七	領事代理	○フアウスト、ヘルナンデス
墨西哥國	山下町七五ユニオンビルディング	名譽領事代理	○アイダブリユ、エイチ、
諾威國	山下町二五	領事	○カーペンター
和蘭國	山下町七四	領事	○エム、エス、ウイールス
秘露國	臨時 東京市外高圓寺四八二	領事	○エプアルド、エレラ
葡萄牙國	山下町三五	名譽領事代理	○アブランシエス、ピント
瑞典國	山手町九〇	領事	○オスカ、ストローム
チエッコスロヴァキア國	辨天通三ノ四九	名譽領事	○ジギスモンド、アイザツクス
土耳其國	海岸通三ノ九	名譽領事	○原 善一郎
ウルグアイ國		名譽領事	○石澤 民衛
	(姓名ノ上ノ〇印ハ夫人アルモノヲ示ス)		



拜啓愈御清穆奉慶賀候然者今般帝都復興完成ノ祝典ヲ舉行スルニ際シ聊カ年來ノ御厚意ニ酬ユルタメ來ル三月二十七日(木曜)午後七時三十分東京會館ニ於テ晚餐會開催致度候間何卒御貴臨被下度御案内申上候敬具

昭和五年三月十四日

東京市長 堀切善次郎

御服装 燕尾服又ハ之に相當スル制服
婦人ハ、ローブ、デコルテ又ハ白襟紋付

乞貴答

三月二十七日午後七時三十分 東京會館ニ

同 令 夫 人

出	出
席	席
缺	缺
席	席

CITY OF TOKYO

March 27, 1930
at The Tokyo Kaikan

DINNER

given in Honour of
The Diplomatic Corps and Consular Body
in
Tokyo and Yokohama
in Celebration of
The Accomplishment of The Work
of Reconstruction
in
THE CITY OF TOKYO

Programme

1. March... "Civic Pride" ... Panella
2. Overture "Maritima" ... Wallace
3. Waltz... "The Merry Widow" ... Lehar
4. Fantasia... "Lohengrin" ... Wagner
5. Serenade from "Les Millions D'Arlequin" ... Drigo
6. Suite... "Scènes Alsaciennes" ... Massenet
7. March... "The Man of War" ... Setoguchi

Conductor: S. Satoh
The Imperial Navy Band

MENU

Fruite Saumonée au Champagne
Cotelette de Pre-salé à la
Paraisienne
Poularde rotie flanquée
de Poussins
Salade
Parfait au Moka
Friandises

二 感謝狀

三月二十七日市長主催感謝の宴招待者中當日出席せざる向に對しては左の感謝狀へ記念品を添へて發送した。

拜啓 愈御清穆之段奉慶賀候然者今回帝都復興完成式典舉行ニ際シ聊カ年來ノ御厚意ニ酬ユルタメ去ル三月二十七日東京會館ニ於テ晚餐會相催候處御差支ノ爲御來賀ノ榮ヲ賜ハルコト不叶遺憾ニ存居候震災當時貴國政府並貴國民ノ本市ニ寄セラレタル御厚情ニ對シテハ此ノ機ニ際シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スルト共ニ是カ傳達方奉悃願候別封ヲ以テ記念品御送附申上置候間何卒御笑納被下度候
先ハ乍略儀以書中得貴意申候 敬具

昭和五年三月三十一日

東京市長 堀切善次郎

三 外國記者團招待

帝都復興事業の完成を機に東京市は三月二十二日午前十一時東京會館に東京在住外國新聞通信雜誌記者團を招待し午餐會を催した。此の日東京市長は一同に挨拶の辭を述べたる後復興帝都の視察に向つた挨拶及視察順序は左記の如くてある。

招待狀

Mr. Zenjiro Horikiri, Mayor of Tokyo,
requests the honour of your presence of
the luncheon, given to the foreign corres-
pondent in Tokyo, at the Toyko Kaikan,
Maunouchi, on Saturday, March 22nd,
11.30 o'clock a.m.

在京外國新聞、通信、雜誌記者招待ニ於ケル市長ノ演説

Mayor's Message to the Foreign Correspondents
in Tokyo.

Gentlemen :

I am very glad indeed to have the opportunity of meeting this afternoon such a group of men, each one representing one or two of the most powerful newspapers and periodicals in the world. I have been looking forward this occasion for the last one year, since I had happened to assume probably one of the hardest posts in the country as the Mayor of Tokyo, one year ago, because I wanted more than anything else to have the opportunity to express our heartfelt thanks to the peoples of the world through you and your organ which you represent here for the most profound sympathy and ready assistance shown us by the world nations at the time of the terrible disaster.

Now I am happy to inform you that after the seven years' hard toils and painstaking efforts on the part of citizens, the Municipality and the Government, encouraged and supported by the people at home and abroad, the rehabilitation and reconstruction works of the Capital City have come to its final completion.

Beginning the day after tomorrow the City is planning to celebrate its completion. Moreover, His Majesty was graciously pleased to announce to make an inspection tour through the reconstructed districts for more than five hours in March 24th.

I recall very well how deeply we were impressed by the extraordinary sympathy of the peoples

of the world, manifested in many ways and in many forms at the time of the disaster. Large amounts of money were subscribed and bodies of relief workers came with gifts of needy goods, ships after ships as soon as the news of the catastrophe were heralded. Allow me to say here that the total amount, given by the foreign nations both money and goods aggregates to the huge amount of forty million yen.

This universal feeling of sympathy, I know, was echoed by foreign papers which called upon their readers to respond to the appeals for help. It is no need to say that this has left, I assure you, a deep impression upon the minds of the citizens of Tokyo who will always remember it with grateful hearts.

We are thinking at present how we could express properly our heartfelt thanks to the world peoples and how we could report them of the rehabilitation and reconstruction works of the City.

You, Gentlemen, may I ask, will kindly convey our grateful appreciation to your readers and inform them that the City of Tokyo was able so far to answer for their sympathy and expectation by rebuilding the Capital out of the debris of the devastated fields.

I am glad to have been able to see you here today and to ask you to make an inspection tour through the reconstructed region.

視 察 順 序

PROGRAMME OF THE EXCURSION TRIP TO INSPECT
THE RECONSTRUCTION WORK OF TOKYO

1. Party: Foreign correspondents and representatives of foreign language papers in Tokyo.
2. Date: Saturday, March 22, 1930.

Mayor's Luncheon, 11:30 o'clock a.m. The Tokyo Kaikan, Marunouchi. Inspection Trip
Starts 12:30 o'clock p.m.

Routes

Follows the routes which His Majesty will take two days later by automobiles
Adjournment 3 o'clock p.m.

附記 時事新報社遣米答禮使

大震災當時諸外國より寄せられた同情は今復興成るの日に直面して當時を回顧し感謝の念を新たに
するもの多しとなし時事新聞社はこの機を以て對外感謝の念を表明すると同時に最も關係の深かつた米
國に對し特に國民的情操を表現する爲めに優雅なる婦人答禮使を派遣することに決した。

東京市はこの舉に對し多大なる賛意を表すると共に答禮使の首途を祝ふべく堀切市長は三月十三日正
午答禮使一行を東京會館に招き華かなる午餐會を催し席上一行に對し帝都復興事業の内容經過を平易に
説示し更に引き続き實情を見學せしむる爲め市内の復興要所を案内し尙ほ東京市より右答禮使に托し米國
各市長に送りたる書狀は左の如くてある。

Tokyo, March 18th, 1930.

On behalf of the City of Tokyo and its people I have the honour to
ask the Goodwill Mission, sent to America under the auspices of the Jiji-
Shimpo, one of the leading news-papers in the City, to tender you and
through you to the American people our grateful appreciation for the over-

whelming generosity and prompt assistance shown us on the occasion of the
terrible Catastrophe six and a half years ago.

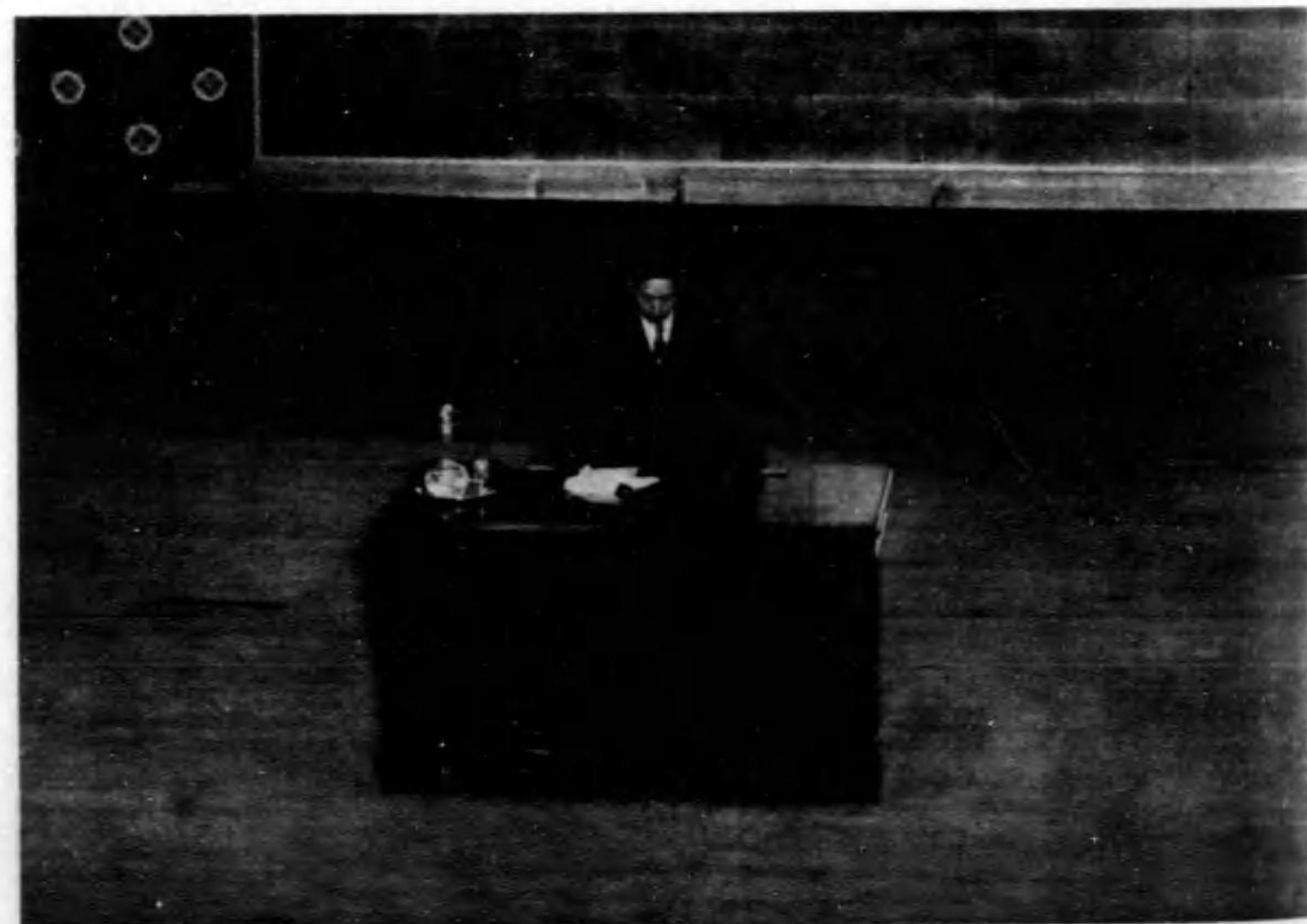
Now at the completion of the reconstruction work of Tokyo the Jiji-
Shimpo gave me the opportunity which I have been looking forward for many
years, to express our heart-felt thanks and report the completion of the
reconstruction work of the Capital. As to the reconstruction work,
unprecedented in its scope and extend in the history of city planning, you
are cordially requested to refer to the booklet entitled 'Tokyo Recon-
struction Work' which has been asked to be presented to you by the Mission.
It is my earnest hope that the paper being best qualified for representing
our profound sentiments, will successfully discharge its responsibility
through the work of the Goodwill Mission.

Let me thank you once again for all you have done, are doing and
will do for us and hope the friendship between two nations may become ever
deeper and more intimate and that for the cause of civilization and humanity
they may always be found in the closest co-operation.

Very sincerely yours,
Z. Horikiri (Signature)
Mayor of Tokyo.



元東京市長永田秀次郎氏の講演



東京市長切畑善次郎氏の講演

第三節 復興記念講演

帝都復興事業完成して茲に帝都復興祭を舉行し曠世の一大事業を記念するに當り、東京市は三月二十三日日比谷公會堂に於て永田前東京市長堀切東京市長並中川復興局長官三氏の復興に關する講演會を開催した當日參聽者三千名に達し極めて盛大に終り而して三氏の講演内容は左の如くである。

所感

永田 秀次郎

本日この復興のお祝ひの日に當りまして皆様にここでお目に懸るといふ事は私に取つて洵に感慨深きものであります。私自身に於きましても九月一日の午前十一時五十八分といふこの時刻は蓋しとうしても一生忘るる事の出来ないものであります。單に私のみならず皆様方も必ず左様でございませうと考へます。あの時の事は總ての方か皆なその當時を偲ひ出して見ると、幾らも回想の話か各人の一人一人にある事と存します。私はたまた簡單にその當時自分の経験した事に就いて、またそれから以後約一年間ほととの事柄に就いて、心に残つて居ることを申上げて見たいと思ふ。丁度震災が起りましたその時刻は食事の前でありましたので、私も食事に出やうと思つて居る時に市會議員の一人の方が見へたので、また市長室に居つたのであります。所かあの急の震災でありましたので、私の上に吊つてありました市長室の電燈が落ちやしないかと思つて、その市會議員に、その下に居つては危ないから横へ寄つて居り給へといつて、

復興記念講演



復興局長中川望氏の講演



復興記念講演の聴衆（日比谷公会堂）

私も市長室の隅に居つた。所か間もなく皆外へ出て行つてしまつて全く私たつた一人市役所に残されたのであります。その當時私は實は震災はそれほとひとものは考へなかつたのであります。而已ならず、またもう一つは斯ういふ気分かしたので、これ位の震災では私は迎も死ぬやうな人間に生れて居らぬ、こゝろいふやうに考へたので、私を殺すなら、もつとひと震災でなければ死なないといつた様な気分であつたのと、其から今一つは地震はとこへ逃げたつて逃けられるものではない、何處へ行つても震つて居る、それです。右し私か壽命の短かい運命のものに生れて居つて、どうしてもこの地震に死ななければならぬものとするならば、一層死ぬのなら、やはり市長室で死にたい、他へ出て「ウロ／＼」して居つて變な所て死にたくない。さういふ考で、まあその實は腰を抜かしたかも知れませんか、兎に角椅子に腰かけたままで居つたんで所か誰も彼も出て行つてしまつて私一人か残されて見ると、何うにも何を聞くにも仕やうかないといふので、二階から降りやうと思つたのであります。これは時々こんな事をいつたから、お聞きになつた方は、またあの話かといはれるか知れませんか、降りやうとした時、何んたか降りるのかいやになつたのは、それはあの市役所の玄關の前に太田道灌と徳川家康の銅像が立つて居るので、あれか轉んで居つたら、直ぐ出やうと思つて出たんで、所かあれか立つて居つたものだから昔の人間か「ジツト」して居るのに今の者はかりうろたへなくつたつてよい。實際さう思つて變なところて敵愾心といひますか、何といひますか、妙なところに力瘤を入れて、降りやうと思つたのをやめて、更に市役所の二階の廊下をぐるりと廻つて、火の用心を見て廻つた。それは丁度十二時の晝飯時であつたから湯を沸かして居る、それをとう始末して居るかと思つて廻りま

した。所か幸ひ總ての市吏員が出て行く時よく注意して、すつかり火に沸かしてある湯をかけた消して出て居りますのでこの事は私後からも、皆に話をした事でありますか、斯ういふ風に注意深く地震の時でも火を消して出て行く、あの心掛けは洵によい心掛けてあると深く感心したのであります。この點はこの間大阪の方へ行きまして、内務省から消防の講演に頼まれて行つた時分にもその話をした。東京の市吏員は斯ういふ風に注意深いといつて話をしに行つたんですか、私か大阪へ消防の講演に頼まれたのも、實はお前は火事に就いて一番苦い経験を嘗めて居るから、大阪へ行つて消防の話をしろといつたやうな事、大阪へ行つてその話をした時、東京市吏員の注意深いことを申しました。それから私はあちこち廻つて、また再び市長室へ入つて居りましたか、丁度震災の一番ひどいのは十一時五十八分、その次は三分間後に大きなのが来て、それから後は十二時三十分頃にひといいのか来たので、その十二時三十分頃のひといいのか来た時分には市長室に入つて居つて一人てゆう／＼といふ氣持で揺られて居つた

二

所てそれか済んだ後にとりしても、その前に内記課長や何かに震災につき私かいつた事は中央氣象臺で震源地は何處であるかといふ事を第一に聞け、第二に海嘯かあるかないかといふ事を聞け、第三には水道はどうなつたか斯ういふ事を三つ聞いた。それはどう考へたかといふと兎に角これだけ大きな地震か若し東京か中心でなくて、大阪でてもあつたらもう日本は全滅たと考へた。それで震源地は何處かと聞かなければ決心の覺悟か迷ふんだ。それで何處か震源地かと聞いた所か相模沖たといふ事であるから、これを市民諸君に解るやうに十分に知らせる

やうにと申しましたかこれにて非常に安心しました。これならば大阪は無事である關西か總て無事である。さうするとこの問題といふものは割合に日本全體の問題としても割合に少く済むたらうと、私は震源地を聞いた時に直ぐ感しました。その次は海嘯かある海嘯はこれは地震にはつき物である、これか来ると本所深川は地震より海嘯で屹度やられる。大分前に私か助役をして居る時、やはり大きな海嘯かあつたことを記憶して居ります。その時は苦い経験を嘗めましたから、海嘯かあると、今の地震以上災害かあるたらうといふことを心配したのであります。すか幸に中央氣象臺で海嘯はないといふ事、これは私か第二番目に安心した事柄であります。それから第三に水道の事を聞いた。これも丁度震災の三年前てありましたか、大きい震災かありまして、その時貯水池の淀橋に引つ張つてある水路か二箇所か壊れまして二日間断水した苦い経験を嘗めて居るので、地震といふと直ぐ水道か、かういふ事を感して居つたのです。それですから水道はとんな具合かと氣かついたのであります。丁度水道課長、今の小川水道局長か淀橋へ行つて居るか、電話も何にも通しないのでさつぱり分らぬ、この水道の事か氣にかかりました。それでこの水道の水のこと一寸申上げますか、實は三年前に地震の爲に水道か壊れた時、これは今の築堤か高いところから水を引つ張つてあるたけては、まさかの時分に危険だから、やはり昔の人のやうに、下を深く掘つたまま玉川の水道昔のままの水道を少し改修して、あれから水を引くやうにして置けば間違ひかない、斯ういふやうに水を引いて来て、淀橋貯水池まで来て、あの大きなタンクかある所てすか、あそこまで水を引いて来て、あれからポンプか電力で貯水池へ水を入れる、かういふ設備をちやんとしてあつたんです。だから水路か壊れて居つたら、直ぐこれ

をやらうといふつもり、案の定水路が壊れた。併ながら昔の玉川水路から水を引いて、ポンプで貯水池へ入れやうとかかつた所か豊に計らんや、電力が止つたこれには參つた。昔はうまい事を考へてあつたか、ポンプがあるか電力が止まつた。それが止まるといふ事を三年前には考へてゐなかつた。それで電力が止まつて見れば仕方ない。この電力を早く引く方法はないかといふ事を電氣局の益田技師を呼んで話した所か鬼怒川水電へ行つて交渉したら何んとか考へかつかも知れませんがといふのです。それなら君は電力を早く東京市へ引つ張るといふ事に就いて、それだけを今からやれ、他の事は構はずそれだけやれ、それは鬼怒川水電でも何處でもよいから會社の人々に頼むといふ事てなしに、一緒にやればやつて貰つて、君自身か會社を指揮して會社の役人になつたつもりでやれ、さういふ事をいつたので、何でも大急ぎで、どうすれば一番早く電力が東京市へ供給されるか鬼怒電には限らぬか早くやれといふ事をいひましたかこれは益田技師の盡力、また會社の協同した盡力で大層早く、五日の朝には電力が来るやうになりました。このやり方に就いては餘程努力してくれたことと思ひます。

三

それから次にあの頃は暑い時でありますから水が缺乏しては市民諸員は困る。とうして水を運ぶかといふ事に就いて陸軍とも協議いたしましたして、撤水自動車に水を入れて、おれて方々へ配る、何も彼も有りの儘に白状いたしますか、實際その時に糞尿汲取の爲に澤山の桶を拵へてあつた。所かこれはまた使つてない新しいもの、それで差當り、こいつを持出して使ふ。また一遍も入れたことはないから、水を配るのには、これによからうといふので、糞尿汲取りの桶を拵へて

あつたので、市中に水を配つたのです。決して一遍も使つたことばないのでありますから、そこはお許しを願はなければならぬのですか、さういふ具合で水を供給するといふことに非常に困難をいたしましたか、丁度九月十三日になつて水道の復舊も大體型かつきまして、市中の大部分の所へ水が出るといふ事になつたので、水といふ事に就いては可なり地震と共に苦心をしたのであります。その次に次に水に次いで考へた事は、火災の事てありますか、火災は實はあんなに大きい火事になるとは考へなかつたので、あの日の晩方の七時頃になつて煙か上り、火の子か上つた様子を見た時、地震には驚かなかつた私もあの七時頃の市中全體の火災の様子を見て、それこそ大變と、さういふやうに思ひました。あの時始めて、當に私はかつくりしたので、これは大變だと思ひました。それで丁度その日は四時頃に内務大臣の官邸に行きましたところか、未だ山本内閣が出来て居ない時、前の内田康哉さんか内閣をやつて居られて、水野さんか内務大臣をやつて居られる頃、その時も食糧の問題について種々相談をしまして、陸軍とも打合せて、陸軍方面の事についても聞いて居つたのであります。食糧問題について、陸軍で聞きますと、深川の糧秣廠は人家とは一寸離れて煉瓦造であつて、あの中に陸軍の米が入つて居る、との位あるが、八千石はある。なほ堅パンか百萬分位あるといふ事を聞いて居つた。それでそれから火災はひと事になつて来たか、食ふ物の事は一寸當分心配はないといふつもりで安心をして居つた。ところが九月の二日——前晩徹夜して夜か明けかかつた時分の五時頃でありますか、深川の區長をして居りました川邊といふ人かやつて來まして、この人か深川からこちらへ却々來られなくなつて、永代橋の焼け残つた所は腹道になつて來たんだといつて居りましたか、顔も何處もかも異

黒けになつた儘やつて来まして糧秣廠はとうしたと先づ聞いたところか、糧秣廠も何もすつかり焼けてしまつたといふ譯で、とういふ譯で人家と離れて居る所か焼けたかといふと地震の爲めに煉瓦か毀れて隙間か出来た、そこへ吸込むやうに火か移つてしまつてすつかり焼けてしまつたといふ譯で、これを聞かされた時は、たた一つ便りにして居つたところのものか焼けてしまつたのを失つたのでした、ところかまた農商務省から聞いて居つたのは、南千住に渡邊倉庫といふものかあつて、そこに一萬表はかりの米かあるといふ事たつた、南千住は遠方だから大丈夫たらうと見込みをつけて居つた、糧秣廠は焼けたか南千住から出して来い——その時分は人の米も我か米も境か立ちません、何んても渡邊倉庫へ行つて取つて来い、自動車をやつて渡邊倉庫の米を取りにやつた、ところか九月二日の午前ですから一杯に人か出て居つて南千住まで行けない、漸く午後になつて南千住へ着いて、いよゝ米を取出さうといふ時分に火かついてしまつた一萬俵といふ米の中から一車だけ、二十五俵でしたか七俵でしたか、一車だけ積んで後は綺麗に焼けてしまつて、手を空しうして歸つて来た、さういふ風に食糧には困りましたか幸な事には神田で青年團や在郷軍人團の奮闘努力で佐久間町河岸に約一町四方の所か焼残つて居つて、そこに米か一萬俵近くあるといふ事でありまして、それならそれを持つて来たらよからうといふ事てそこへやつた、ところか無理もない話てすか、兎に角我々か必死の勢いで安全にしたものを黙つて持つて行けば突殺すそといふ、これは無理もない、けれども何しろ大急ぎの際だからとよく話をしまして、佐久間町河岸の籾を少しはかり出して来る様になりましたのは丁度二日の夜中といふか三日の朝午前一時頃でありまして、大迫といふ社會教育課長か主に

になつて漸く話をつけて持つて来た、さういつたやうな次第で、一番食物に缺乏したのは一日か二日てなくつて、三日四日五日といふ時か一番缺乏した、その缺乏した時に私の知つてる限りに於て我々の口に入つた玄籾飯といふものは佐久間町河岸の握飯であつたので、これは遠方の者か間に合はぬ手近のものて我々の命の親となつた、佐久間町河岸の籾といふものは、あそここの神田の人の精神的努力によつて、私等か助けられたといふても差支へない譯で、この點は人間も努力といふものは貴い物語になるものたと思つて居ります、食糧の問題はさういふやうに困る。

四

それから丁度三日の朝になると大阪から大阪の市役所か非常に努力をしてくれまして、せんかい丸といふ船、これも何千石積んで来ましたか、石数は正確に報告したものかありますか、兎も角澤山食糧を積んで品川沖へ着いた、すると木南といふ大阪の助役か上つて来て市役所へ参りまして、サア米を持つて来たから受取れといふ譯た、早く受取りたいけれども艇舟かなくて受取れない船から放り上げてくれなくちやとても受取れない、所か市役所のもののはかりそんなことをいつて居つたつて駄目たといふので、大阪商船會社、日本郵船會社にその事を依頼したのでありますか、私等かせんかい丸に積んで来た米、三日の朝品川沖へ着いた米を手取る事か出来ましたのは漸く十日てありました、それまで大阪市の助役にやかましくいはれて、自分達か必死の勢で持つて来たものかこうして何時までも放つて置かれては努力の甲斐かない、とかましくせき立てられたか、こちら目の前にそれを見ながら手に取る事か出来ない、先方よ

りこちらが困つて居るけれどもとうにも出来ない。漸く十日までかかつてこれを受取るやうになつた。食糧問題に就いては三日四日五日と困りましたか、後は近郷から持つて来てくれたので漸く一時は凌ぐ事が出来ました。この事は今から考へるとまことに種々の苦しい思ひをしたのであります。

五

それから今中川長官からいろいろ皇室に關するお話がありましたか、實は私當時の關係を持ちまして明日は上野の西郷さんの銅像の後の方で天皇陛下に拜謁を仰付けられる事になつて居りますか、それは十二年の九月十五日でありまして當時の攝政宮殿下か丁度市中を御覽になり、私市長として種々御説明を申し上げましたか、十五日といふ頃はバラツクといつたところ、ほんの天幕を張つた位、トタンを持たせかけたやうなバラツクか上野の坂下に少しはかり見えて居る位の、まことに満目荒涼たる有様の間を今の陛下か御廻り下されたのでありますか、その當時の私は神田佐久間町河岸の米で助かつた事を申上げた次第であります。その時に陛下から米の事はさういふ風になつて居ればそれでよいか、これから追々寒くなつて来るか、着る物はとうなつて居るかといふお尋ねてございました。着る着物は毛布や衣類か各地から澤山寄贈品として参つて居ります。また内務省や農商務省方面で關西の方へ人をやつて、着物を買纏めに参つて居りますので、これは精々配給の事に就いては盡力して居りますといふ事をその當時申上げた事でありませう。それからなほ私の記憶によく存して居る事も一つ申上げたい事は、十月十五日頃でありましたか大層ひどい暴風雨がありました。十月半はてありまし

てバラツクの中に居る人はさそ困つて居る事でありませうと社會教育課の人を五人程やりましてバラツクの生活状態を見に廻らしたのであります。上野公園、芝公園、宮城前併し幸いに異状はないといふので、さういふ報告で安心して居りましたが、丁度翌朝内務省から昨晚とんな風であつたかといふ事を尋ねられて、異状かないといふ事を申上げ、また宮内省にも異状かないといふ事を申上げて置いた。これはその時直ぐ承らなかつたのでありますか、後で承つた所によりますと陛下は入江侍従長を朝お召しになつて、昨晩は随分ひどい天候であつたか、バラツクに居る市民達はとんな風であつたか、お前か内務省に行つて聞いて来いと、ごういふ事を御命しになつたさうであります。それで入江侍従長は出かけやうとしましたところか陛下はまた更にこれは私か言いつけたといふのでなくして、お前か自分の氣付てとういふ風であつたかといふ事を承りに来たさういつて聞いて来い、かういふ御言葉であつたさうであります。多分陛下は御自身かういふ事を御心配になつて居るといふ事であまりに皆か餘り心配をしては不可ぬといふお考へて入江侍従長の氣付て聞きに来たといふやうな風で聞いて来いと仰つたものと存します。さういふ事を後から承つてまことに畏い事であると深く恐縮したのでありますか、幸ひに前晩詳しく見廻つて居りましたので、何も異状かなかつた事を申上げて御安心を願つたといふやうな事てございました。

六

それからまた皇室に關した事柄では、皇后陛下は——當時天皇陛下は御病中でありましたので日光の方へ御出になつて居られます。九月の二十九日に日光からこちらへ御着きに

なつて直ぐ九月の二十九日といふと九月の末てすか、池の端の救護所、これは病氣になつたり火傷になつたりした人を千人ばかり入れて救護して居る所てすか、これは博覽會の後を急に病院に改造したから、そこへ日光から御歸りになりました。皇后陛下かステーションから直ぐ帝室博物館へ御成りになつて、博物館には宮内省の療養所もありまして、それを御覽になり、直ぐこちらの救療所へ御出になりまして、私御案内を申上げましたか、當時、皇后陛下は實に洵に恐縮する種々御丁寧の御言葉であつて、且つ病人に對しては非常に行届いた種々の事を御尋ねになつた。一寸申上げますと、その當時は蒲團かないものですから、蒲團の上に毛布か敷いてある。陛下はそれを直ぐ御覽になつて、蒲團はないのですかとお尋ねになる。蒲團は一寸間に合はぬので、蒲團の上に毛布を敷いてあるのて、こさいますと申上げますと、それは身がか痛いたらうね、といふ御話でありました。さういふ御同情であります。けれどもその當時はこれ以外には如何とも出来なかつた。それから病室は博覽會の陳列棚てすから如何にもたた広い、それでこんなにも出つては雨の日などは寒いたらうねと仰せになる。それは寒いのですけれど、兎も角今はどうにもいたし方がこさいません、さうお答へ申上げる他ない。それで、陛下は方々見廻はらせられたものですから、私も天井を見ますと、生憎天井の硝子戸が割れて居るのを見つけて、陛下はあんなのを御覽になつて、寒いたらうねと仰せられたのてはないかと思つて、恐縮します。それから怪我の患者の方に御出になつたのも、手を吊つて居るのを御覽になつて、手か動きますか、とお尋ねになる。患者は恐縮して手を動かしてみましたが、すると直ぐにまたお大事になさい。といつて極く親切に仰つて下さいましたか、それからあそこへ入つてから實は子供

か澤山産れるのです。ひつくりしたので急に早く出るやうになつたのか知れませんか、九月一日のあの騒ぎの中で市役所の庭で天幕を張つて居る、その後へ来て火傷をした人も寝て居れば、産氣ついた妊婦も寝て居るといふ、一方には死ぬ人もあり一方には子供か産れるといふとも大變な騒ぎでありましたか、池の端の救護所に於きまして、もやは子供か産れる。丁度一昨日生れたといふ子供の所へ、陛下がお出になつて、この小さいのは何時生れたのかといふお尋ねてありましたので、私から一昨日生れましたと申上げた、すると子供の顔をしてみ、御覽になつて大層大きいとお賞め下さつたのである。それから四歳ばかりの子供か赤子の兄に當るので、すか、そこへ大森皇后宮大夫が行つてその子供に、年はいくつと聞いた。すると手を出して指を四本並へた。皆か笑つて居りますと、陛下かそれを御覽になつて、可愛いことね、といつて下さつた。妊婦か非常に恐縮して、有難う御さいますと涙を流して喜びました。それからいよいよお立ちになります時には、病人をなるとけ大事にするやうにと仰せられてお出ましになつた事を、今でも私はよく記憶して居ります。それから翌三十日には、丁度青山學院に迷子の收容所といふものを市で設けて居りましたか、そこへも御成りになつたのであります。ここにはある時には百何十人といふ收容をいたしましたか、その當時は三十六人に減つて居りました。恰も前日に迷子を捜しに來た母親か居りまして、丁度子供を連れて歸らうといふ時分に、皇后陛下かお廻りになるといふのでその日に、陛下をお迎へしたのであります。路傍に子供を連れて立つて居りましたから、私はこの母親とこの子供は昨日始めて震災後一箇月も経つてから、ここで巡り會つたのでこさいますといふ事を申上げました、ところがその母親の方へ目をおつけになり

まして、それはよかつたね、と仰せになつたので、さういふ事も今日私の胸に浮んで参るのであります。また、皇后陛下は、皇太后陛下で居られますか、特に震災で亡くなりました死人の事を非常に御心配になりました、皇太后宮大夫の大森男爵を通して私に度々、幾回となく死んだ人の靈を慰める事についてどうなつて居るかといふ事を聞かれました。そこで私も恐縮して居りますかなるだけ大急ぎで追弔會を催したいと思ひました。種々取急ぎましたけれども大分遅れました、十月十九日に被服廠跡で追弔會を催す事になりました。この時も、皇后陛下は日光からお歸りかけの汽車の中で、大森さんに、追弔會か催される事になつたか、供物は言ひつけて置いたけれども、なほ何とかしてやりたい、就いては新宿御苑に今どういふ花か咲いて居るか、その花なりとも備へてやりたいと思ふかと、かういふ事を、皇后陛下か仰せになつたさうであります。それで早速新宿御苑の方を調べましたところか、その時分の事ですから菊が大分出来て居りません。それを申上げると、それなら菊を主なるものにして種々なるものを添へて供へよと特に御命しになつたさうであります。諸君は御氣付になりましたか、かうか、あの追弔會の時に、澤山の菊を以て飾られた花、あれは、皇后陛下の思召を以て供へられたもので、私共も澤山の人の目につく所に供へましたか、かういふ数々の思召の事、皇室關係の事について私か全く目の邊り種々と目撃し経験いたしましたして有難く考へて居る次第であります。

七

なほ復興の事については先刻中川君よりお話がありましたか、九月十二日に出ました御詔勅、この御詔勅は御承知の通り、東京は帝國の首都であつて、一朝かういふ震災に遭つて舊形を止め

ないけれども、なほ依然として帝都たる事を失はない將來の發展を計つてその面目を新にしなければならぬといふ、所謂復舊であつては不可ない、復興であつてもつと以前よりよくしなればならぬと勅語で仰せられたのであります。この事を今日から考へますとあまりに深く感じ方か餘程違ふのでありますけれども、私等その當時の事を思ひますと、御承知の通り新聞なんかは一切書かなかつたのであります。か、遷都、都を遷すといふ議論か澤山あつたのであります。これは今からたと無鐵砲の事をいふとお考へになるか知れませんが、當時はなか／＼やかましかつた。それは安政の大地震から今日まで凡そ六十年、その前の百年から六七十年の間に地震か起つて居る。そこで何處か地盤の強固な所を定めるによい所はないかといふ事を調べ、て、やはり昔の京都かよいか、或は奈良地方、或は攝津の池田かよいか、或は姫路邊かよいか、もつと滑稽しますか、丹後の綾部邊かよいか、かうといふやうなマア大本教みたいな事をいふ人もあつて、兎に角地震のあまりゆらない所に越さなければならぬといふ事をたん／＼いつて居つたやうな時代で、ある程度まで不安定であつた。その時に東京市の復興は舊態を回復するたけてなくもつと將來の發達を圖らなければならぬといふ事をかく強く仰せられたといふことは、東京市民として非常に感謝しなければならぬ事でありませう。今日ではまことに當り前のやうにうか／＼と考へて居りますか、あの當時かく力強く勅語を以て仰せられた事などは私共非常に有難く感して居ります。

八

それから復興の豫算に關しててありますか、この復興豫算は始め後藤さんの事は私は申上げ

たくありませんか、この話になると後藤さんの事を甲上げなければならぬ。丁度震災の時は山本権兵衛さんか内閣組織の天命を拜してまた組織をして居らぬ時に地震が起つた。ところが前々から後藤さんに接近して聞いて居つたところは、俺は今度の内閣には入らないか、外から助けるといふ事をいつて居られた。ところが震災が突如として起つたのだから、後藤さんは直ぐ市役所に私を見舞つてくれましたか、その時兎に角俺は今度の内閣に入るつもりはないけれども今かういふやうな事件が起つた以上は他の事は何にもいつちや居られない、だから止本伯か自分を必要だと云ふなれば外からはかりてなく、どんな仕事でもやる、内閣に入らぬとかそんな事はいつて居る時ではない。無條件に何でもやるといふ事をいつて居つたのであります。これは一個人としての利害関係や何かの事から考へますといろく考へ方も政治的にあつたのでありますか、後藤さんが震災といふ事について強く考へて何ても自分か役に立つ事はやるといつて遂に内務大臣を無條件に承諾したやうな譯でありました。それから二日の後に現任式がありまして、二日の夜遅く私は後藤さんの家へ行つて、三日の朝も行きまして、三日の朝俺はかう思つて居る、一千万坪焼跡がある、そいつを坪百圓で買上げてしまはふと思つて居るか坪百圓で買上ると一千万坪で約十億圓になるのですか、これを買上げて縁故拂下て拂下てやれば高く賣れば儲かる。儲かりもしますまいか真直ぐな道をつけて區劃をした土地を皆に拂下けてやればいいんだと後藤さんはいつた。そして確か座談的に閣議に、正式に持出したのはなからうと思ひますか、四日にそんな事を出して閣議の席では誰も反對をいふ人はない。反對をしないでも賛成もしないといふやうな状況であつたのであります。さういふやうな事はとても

私等のやうな生しつか法律の端くれなど知つて居る者は中々考へられない事で法律を超越したやうな人間でなければやはり駄目だと思ひます。それでさういふ事を話して居りましたが實は復興豫算を早く議會に出せるやうにして十月に出して居つたらはその時分に地方から出て来た代議士は反對をすればひと目に會ふやうな場合でこれは何でもなかつた。それが十二月になつて復興豫算か議會に出たものですからもうその時分は世の中か理窟つほくなつて来た。始めは理窟などはなかつたのですか、理窟つほくなつてから議會を開いた事は遺憾に思ひます。それから復興豫算か十二月十日に開かれた議會に附議されましたか、その當時議會で削減された、その時分に世間ではこれはきつと解散かあるに違ひないと政治的に考へる人か多数にあつた。この時に——アア私かういふ事を申上げてよいか悪いか知れぬか、その時は毎晩のやうに夜遅く内務大臣の後藤さんの家へ行つた。さうして私はとういふ事をいつたかといふと、この際解散されては困る、かういふやうな不安な状態に居る時また解散でもされて暫くの間總選舉にかかるさういふやうな事であると結局豫算か確定しないのだからそれでは、この儘不安の状態に東京を置かねはならぬ。それでは東京市民として堪へ得られない。私市長として堪へ得られない。少々の事なら我慢して、いや少々ところてない何ても我慢して解散せず復興豫算を確定して貰はぬと困るといふ事を毎晩のやうに行つてつづつ居つた。それはあの當時解散かなかつたのか決して私かいつたからなかつたといふそんな大それた事は私はいひません。けれどもあの時東京市長として議會か解散されて復興豫算か定まらずに又半年もくつ／＼して居つたら本當に人心はとうなつたか分らぬ。けれどもここは私なんかの

政治的に物を考へる一面から申しますと、後藤さん個人としてはあの時に解散をしなかつた事は實に千載の遺憾なのであります。後藤さんは個人として惜しい時に解散をしなかつたと思ふこの時解散をして居れば、後藤さんの政治的生命は大いにあつたものと思ひますか、しかし、それは後藤さん個人の問題と一身の問題である。國家の問題として考へてみるとやはり私は今日に及んでも後藤さんに相済まぬ事をいつて居つた。けれども今日に於てもあの當時解散をしちや困るといふ事を切にいふた事は間違つて居るとは思ひません。やはりあの當時は解散すべきものではなかつたらうと思ふ。かういふ大それた事を申してまことに相済みませんけれども、私はその時に非常に極論してさういふ事を申した。それからまたあれか貴族院の方へ廻はつて来た時分に、貴族院では何た丸て自信のない事をやつて衆議院で削減されて、貴族院へその儘承諾しろといふのはひどい、元通り復活したらよからうといふ説があつた。さうして御承知の通りあの當時政府弾劾に近い附帯決議が貴族院で行はれて居る。この復興豫算は屢々變改を重ねてなほ十分ならずといつたやうな事を書いて非常に強い弾劾的な文句があれにくつ付けて居ります。あの當時も私は貴族院の末席に居ります關係上徹夜して貴族院のある方面の諒解を得るために二日間飛廻つて居つた事があります。あの復興豫算といふものか出来上つて、今日からその當時は如何にも忍び難いやうな、残念なやうな氣がいたしましたけれども、併し兎にも角にも議會の解散なかつた爲めにあれか確定してこの復興豫算といふものか成立したんですから、その次の通常議會では解散しやうかしまいか、あなたの御勝手であるといつた。それか恰も虎の門事件といふものかあつて山本内閣か直に總辭職をしなければならぬと

いふ事になつて、これは少しお門違ひの事を申しますけれども、私は始終後藤さんに相済まない、相済まないといふ心持の去らない、何たか後藤さんに一生借金を持つて居るやうな事はこの時の事て氣かかりになつて居ります。まことに勝手なことを申して相済みません。

九

それで私はその後、當時いろ／＼と六大都市のお世話になつたから一度お禮に行つたらよからうといふので大阪に震災の時非常に世話になつた御禮に行つた事があります。その時大阪の今の關君か市長になつた當時であります。關君やその他の人か、あなた震災に遭つてとんな氣持てすか、かういふ事を聞かれた。その時私はかういつた、大阪へ来て何處の家を見ても満足に竝んで居つて何處の壁を一つ見てもひひ一つ入つて居らぬ。何たかかういふ所を見ると面憎くなつて腹か立つて来る。さういふ氣持てといつて何といふ理窟はない、あなた方に非常な御厄介になつて居つて腹か立つといふのは相済まぬけれども、實際東京からやつて来て大阪か平穩無事であるのか腹か立つといふ事をいつたそれでさういふ風だから大阪の人の厄介になつて有難くお世話になつたから、この有難くお世話になつたのを早く御恩返しをしたい。それには大阪もああいふやうな大震災火災に遭つてくれたら私はかういつた。これは随分無遠慮な事をいつたんだけれども、とういふ氣持たといふから、私はさういふ氣持た、何も我々か悪い事をしたんでも何てもないからこんな氣持になる。大阪の人か何にもよい事をしたんでもないか助かつて居る。それでその方からとんな氣持たといふから君の方で早く大震災火災にかかつてくれろ、俺の方では御恩返しをするからといつた。大阪の人も遠慮をして、いやもうその御恩返

しにや及ひませんなか、大阪の人も遠慮深いと思ひました。併しこれは冗談のやうな眞剣な話で、實際さういふ氣分で居つて憚る所なく大阪でもそんな事をいつた。

十

それから私が一番震災で氣にかかつて後から今日でも氣にかかります事は死んだ人の事であり、大勢の人が十萬人も亡くなつて殊に被服廠跡では四萬四千人亡くなつた。この亡くなつたのを實際見ましたのは九月六日にあそこへ行つて始めて見たのであります。アアそれまでは死んだ人は如何にも氣の毒ですから一々遺品になるやうな物を取つて別な箱に入れて置うといふ事を衛生課長に命じて置いた。ところが九月六日になつて始めてそれを見に行きましたところかとうして四萬何千といふ人が黒焦になつて居つたんでは遺品を取るの取らんの問題ではない。あの眞黒なものの遺品を取つたつて何にもならん。その状況を見てこれではしやうかない。早速焼いたらよからうといふので、六日に見まして七日の夜から晝間焼くのも大層臭かして具合が悪から夜焼けといふので、七日の夜から一週間はかりかかつて随分澤山の死體を焼いた。さういふ處置をしましたので、慘憺たる状態を見て深く氣になつて居ります。我々は死者の事に就いて種々考へて、その後高野山に登つた時、昔の東京市の大震災の時何かの供養の爲めにあちらへ記念塔が立つて居るのを見まして、何かやはり今の不正の世になつても同じ物を拵へたいといふ事を私考へつたのもやはりさういふやうな時の死者の慘憺たる状況を目撃して何にか一番私の今でも心掛りになつて居ることとさうして私は死體を焼く事を命じて、如何にも十分の禮を盡さずして大勢の事であるから臨機の處置はしたか何にか

死人に對して相濟まぬやうな心持か今日でもいたして居る次第であります。て私は今度の震災の事に就いて外國から非常にお世話になつて居りますので、それでは昨年外國を廻りました時も、別に誰から頼まれたといふ事ではありませんか復興の事を英語で書いてある本を持つて参りました。そして倫敦に行きました時、震災當時の御禮をいひ、且その本を一部差出して置きました。また佛蘭西でも丁度市長には日を約束して内閣交迭の爲めに會へなくなつたので、安達大使を通してお禮の言葉と並にその書物を巴里の市長に贈りました。また羅馬でも市長を訪問しました。私は何も資格のない今日でありますけれども、やはりその當時外國から種々の世話になつて、直接にその恩恵を身にしてみても有難く思つて居ります爲めにあちらを廻りました。實際一應の禮をいつて來ました次第であります。

十一

復興の事は今日かういふ風になつた事を考へますと洵に夢のやうな氣かいたします。外國人も賞めて居られます洵に結構な事であり、この出來上つた功績といふものはこれは、全部の人が集つてかういふ事柄から來たのでありまして、決して一人二人の功績ではありません。併しなから我々の最も頭に浮ぶ事は最初に於ては後藤さんか計畫をしたといふ事を直接に感ずるのであります。それから後に至つては現在の堀切市長、あの人は事務的な明敏な才幹があつて復興の事についての事務が非常によく進んだといふ事、この功績は私今でも堀切君に深く感謝して居るのであります。またその半頃で實はあまり人の氣かつかぬ事であり、ますます知れませんか。復興局長官を太正十三年の一月からした直木倫太郎君の事を私はやはり思ふ。

この時はもう復興の仕事の中で一番つらかつた時で區劃整理をやるといつても反對があつたりして私なんか方々へ行つて講演をするか直木君は形の上には随分貧乏籤を引いてひどい事に出會して居る。この人には同情してやらぬと可愛いさうなと思ふ。都合のよい時の人はかり考へずにその自分の思つた通りの事か出来なくつて一番つらい目に會つたの人は直木君ですから諸君なんかも一番ひどい目にあつた人間の事についてもよく同情をしてやつて貰いたいと思ひます。私は今日かういう席で皆様にお目にかかつて當時の事、それから後の事を考へますとまことに夢のやうてありまして、あの當時の考へ方をすれば即ち絹物を着て居つては何うしても人の前に出るのは辱しくつて出られないといふ心持かして居つた。また咽喉か乾いて梨をかぶりながら歩いて居つた、あの状況を考へてあの辛棒をする心持かあつたらとんな事も出来ると思ひます。だから今この復興の時私共仕合せに思つて居りますけれどもお互の心持はやはり何時でもあの時の心持を顧みる必要がある。さうして生残つた我々はあの當時何も罪がなくして遇然に死んだといふ死者の事に就いても一滴の涙かなくてはならぬと思ふ。願はくはお互にその心持を有つて今後の帝都復興の事に就いてもなほ多々する事かありますから共々に今後市の爲めに市民の一員として大いに盡したいと思ふ次第であります。

復興帝都の現状並將來

堀切善次郎

この度帝都の所謂復興事業か略々完成をいたしまして明日は 天皇陛下の行幸を仰き奉り二十六日は復興完成の式典に 陛下の臨幸を仰く事か出来まますといふことは我々東京市民と

いたしましてこの上ない光榮と存する次第であります。この帝都の復興の事業に就きまして皇室に於かせられましたは始めより絶えず非常に御軫念あらせられたやうに拜察いたすのであります。これは我々か今日まで餘り氣かつかなかつた事、甚だ恐懼に堪へない事でありませうか、新聞でも皆様方か御承知てもありますやうに、二十六日復興完成の式典に二重橋外へお臨みになります前に 陛下に於かせられましたは宮中三殿即ち賢所・皇靈殿・神殿に於て 陛下御自らお祭りを行はせられるのでありまして即ち 皇祖・皇宗の靈に對し帝都復興完成の事をお告げになりますお祭りを 陛下御自身かおやりになるといふ事を承つて居るのであります。そのやうに非常に帝都の復興といふ事に就いて重大にお考へになつて居ります事は誠に恐懼に堪へない事でありまして、またこの二十六日の完成式典にお臨みになります前に宮中に於てさういふお祭りを行はせられる所から拜察しまするに震災直ぐ後にやはり 陛下に於かせられましては宮中三殿に一日も早く復興するやうにと御祈願あらせられたやうに拜察するのであります。誠に有難い思召て實に恐懼に堪へない事と存するのであります。この度の帝都復興の事業は非常な世界的の大事業でありましたか、この仕事か約六年半の間に略々完成いたしました次第でありまして、茲に至りますまでの間には 陛下の非常なる御心勞、御軫念あらせられた事により、畢竟 陛下の御稜威によりてこの様になつて來た次第であると考へるのであります。

二

震災の當時から考へて見ましても、あの震災のありました直後、御承知のやうにその時丁度山本権兵衛さんの内閣か組織中でありまして、震災か來ました二日間、確か九月二日と思ひます

か、新たな内閣が組織されました。三日には直ちに、山本総理大臣をその當時の攝政であらせられました。今上陛下がお召出しになりました。赤坂離宮で非常に優渥なる御沙汰と共に御内帑金一千万圓を賜はつたのであります。その時攝政宮殿下より官民協力應急の處置を講じて遺憾なきを期せよといふ意味のお言葉と共に一千万圓をお下賜になつたのであります。それから九月十二日人心恟々たる中に帝都復興に關する詔書を下されました。この九月十二日の詔書は今日の復興計畫、帝都を復興するといふ根本方針をお示しになつたのであります。それまでの間には皆様もよく覚えておゐてになる事と存しますが、全くその罹災者といふものは食物もなく着る物もなく、住む所もなく、焼け残つた者の方は種々な流言蜚語が行はれまして、人心恟々として居つたのであります。この間に何所からともなく遷都論といふものか非常に廣かりつつあつたのであります。遷都論即ち東京より他へ都を遷したらよからう、皇居を他の方へお移しを願ふ、帝國の中心を他へ持つて行つたらよからうといふ議論か何處からともなく稱へられました。東京は安政の大地震があり、いま又このやうな地震がある、約百年毎に大地震に見舞はれて居る、こゝいふ土地に帝都を置くのは不可ないから、何處かへ都を遷したらよからうといふ議論が行はれて居つたのであります。何處へ遷るかといふ事は具體的議論はなかつたのであります。察するところ京都とか、大阪とかへ遷すといふやうな説ではなかつたらうかと考へます。さういふやうに東京は非常に混亂をし、元の儘に回復する事さへも殆ど不可能であると考へられて居つた、人心の極めて恟々として居つた際でありましたから、この論は既に行き渡りつつあつたといふやうな次第であつたのであります。丁度さういふやうな時、九月十二日に帝都

復興の詔書を、その當時攝政宮殿下のお名前をもちまして下されました。これにてやはり帝都としての東京は動かない、依然として東京はあらゆる點に於て帝國の中心地であるといふことを仰せられました。これかためにこの東京は今も焼けて見る影もないか、依然として帝都として全國の中心地たるを失はない、従つてこれか回復に就ては單に舊態を恢復するに留まらず、將來の發展をも慮りて巷衢の面目を改めざるべからずといふ意味の御詔書を賜はつたのであります。これによりまして、その時までは所謂遷都論、都を何處かへ持つて行つたらといふやうな議論が非常に行渡りつつありました。この遷都論が影を潜めまして、御詔書によりまして依然として東京は政治、經濟、文化の中心地であるからといふ、帝國の中心たる地を失はないといふことをお示しになりました。やはり東京は帝都たる地を動かないといふ根本方針をお定めになつたのであります。それと同時に單に舊態を恢復するに留まらず、元のやうに復舊するといふたけては足りない。元以上に復興をさせて以て將來共に我が帝國の中心地たるやうに、それに相應しいやうな都會を建設しなければならぬ、そといふ根本方針をお示しになつた次第であります。この詔書がออกมาして、東京は我が帝國の帝都としてあらゆる點からの中心地として動かないといふ事とちやんと確定いたしました。そこで政府に於きましても、復興計畫といふものに段々と進んで行くといふ次第になつたのであります。

三

そうして政府はそれらの計畫を進め、市と相談をし、また打合せをし、提携して復興の計畫を進めて参りました間にやはり、その震災の年の十一月十日に精神作興してやつて行かなければな

らない事をお示しになりまして、一方に於て復興の計畫を進めてゆくと同時に我々の氣の持ち方に對して非常に有難いお言葉を賜はつたのであります。そういふやうな次第でありまして、我々はこれまでの間に種々の職分を有ちまして、陛下の前に咫尺する光榮を有しました時に、いつも帝都の復興といふ事に就いて種々な御下問を忝うして居る次第でありまして、またこの度も明日は長時間に亘つて復興が出来ました所を御巡視になりますこと、二十六日には宮中に於かせられました非常に重い御儀式を、陛下御自身で行はせられました。復興完成の式典にも行幸になりました。勅語を賜はるといふことは誠に有難い事と感して居る次第であります。この復興といふ事に就きましては、東京の帝都たる地を動かさないと云ふ事とその復興の計畫を進めて行く間にも、その後にも絶へず非常な御軫念あらせられた事で、畢竟皇室の稜威によつて此所に到つたといふ事は深く恐懼感激に堪へない次第であります。それで、震災當時に於きましては一方て皇室の方でさういふ風に御軫念あらせられますと同時に我々帝都の市民といたしましては全國の同胞諸君全世界の人々から非常に多大の後援を受け援助を受けて今日まで來て居るのであります。東京震災の報知か一度地方へ聞こえますと全國各府縣各町村とも非常な熱を以て非常な勢を以て適切にこの東京市民を助けられたのであります。あの時の状況を見ましても、いづれ如何なる場合でも、あれ程一所懸命に助けてくれる事はあるまいと思ふ程各府縣各市町村、皆東京市の爲に援助の方法を構はつてくれたのであります。外國の方からも種々な援助をしてくれました。或は金を贈つてくれ、或は物品を贈つてくれ、或は救護の材料を贈つてくれるといふ事でありまして、その當時日本内地の方々から受けました援助、外國から受けまし

た寄附金寄贈品等を合計いたしますと、約一億一千八百萬圓といふ金額に上りました。これは主としてその當時の應急の救助の費用に當てられたのであります。元よりこれは東京市のみか受けて居る譯ではありません。横濱と其の他の震災地にも分けられたのであります。全國全世界より約一千八百萬圓に相當する、金品を受けてその當座の急場を凌ぐことが出来ましたといふ状況でありまして、これ等の點に就きましては全國民に感謝することを忘れてはならず、その當時色々な援助をしてくれました。外國に對しても感謝の意を表する事は必然であると考へますので、二十六日の式を期しましたその翌日にそれ／＼の方法を講じて是等の人々に深くお禮を申上ぐるつもりであります。

四

その當時應急の仕事に就きましてまたこの復興の計畫をして、またこれを進めて行くに就きまして、我々諸君と共にお互ひに忘れてはならない人は後藤新平伯爵であります。後藤さんは全くこの復興計畫をお作りになり、これに對して非常に御熱心に御努力になつたのであります。私は震災の當時内務省の會計課長といふ役目をいたして居りました。後藤さんが内務大臣になつて、内務省はその當時内務大臣の官舎で種々救護の仕事をして居りましたか、そこへやつて來られて救護の事やら、復興計畫の事に對しても幾分かその方に關係いたしましたものであります。非常なその當時後藤さんからも指導され鞭撻もされたのであります。後藤さんは九月二日の晩でありましたか、或は三日でありましたか、内務大臣になつて直ちに内務大臣の官舎に來られました。間もなく私は後藤さんの前に呼出された。後藤さんは、君は現金を幾ら持つて居

るかと思われ、其は會計課長で、すから種々な役目を持つて居る譯であります。てその當時相當準備してそれを相當に働かして居りましたので、これだけ持つて働かして居りますといつたら、斯ういふ際ではとうしても現金でなければ不可ぬから成べく多く現金を用意して、それで以て早く仕事をしなければいかぬといふ御注意を受けまして、それから救護の方も間もなく豫算が出来まして、澤山の現金を手許へ備へて置きました。それを働かして種々とやる、その當時は私は恐らく日本一の金持ちで、數十萬圓の現金を金庫の中に入れてやつて居つたのであります。東京市あたりからも何とか現金の融通をしてくれといはれた事でありました。さういふやうに適切な考へを直ちにされるのであります。復興の計畫に就いても始めに種々な計畫を樹てられ、大分大きな計畫から御承知のやうに、段々小さくされて行つたといふやうな運命を持つて居りますか、その間に二十億か何かの豫算を始めは五十億とか三十億とかいふ豫算を立てられて居つたか、それを切詰めて十五億か十億かに切詰めて見ろといふ命令を下されて、私種々やつてその結果を後藤さんに申上げたことかありますか、それは今日の復興計畫に就いては餘り参考になつて居らなかつたやうでありますか、後藤さんは初めは大きな計畫を立てて居られたやうであります。その計畫が餘り大き過ぎて、さう、三十億とか何とかいつても、さういふ大きな計畫が出来たものではないと一方から非難されますと、いやそれは金があるとかないとかいふ事は財政家のいふ事だ、自分はその構はぬ理想的の案を進むのたといつて居られたといふ話であります。それでさういふやうな理想的に種々やられました計畫を進めて行かれたのであります。私等かその當時後藤さんの下で見て居りまして、後藤さんは内務大臣で、後て復

興院が出来ますと内務大臣兼復興院總裁といふ職務を有つて居られたのであります。私共か下から見ると居つた時は帝都復興院總裁兼——小さく書きました内務大臣位のところ、内務大臣の本職の仕事は全く次官まかせて、御自身は帝都復興の計畫ばかりで心配され、奔走して居られました。大分えらい方面、あちこちから非難を浴ひせかけられて、さうしてその間に帝都復興の計畫が一番始めに後藤さんかお考へになつた程には行かなかつたやうでありますか、段々とこれか固まりまして、結局今日のやうな計畫になつて居る次第であります。

五

所か今日略々出来上らんとして居ります復興計畫といふものは、後藤さんが最初に考へられた計畫から見れば極めて小さなものになつて居るか知れませんが、併ながらこれまでの全世界の方々に於て行はれましたこの種類の所謂都市計畫的の或は都市改造の事業といつたしましては、是だけの大事業はこれまで全く類例がないのであります。御承知の如く桑港の町は、先年東京が大震災に罹ります前に同じやうな大震災に罹つて潰されたのであります。その時はただ元の儘の復舊することをやりまして、復興前より良くするといふ事に就いては考へられなかつたのであります。倫敦は古い時代一六六〇年といふ時に倫敦の中心が火事で焼けて壊れました。その後を改造しやうといふ種々な計畫がありました。有名な學者の改造案といふものか二つはかり出来て居りました。後藤さんもこれ等の事をよく例に引かれたのであります。これも區域が非常に小さいのみならず、斯うしたらよからうといふので學者か圖面を引いたといふので、その圖面が残つて居るだけで、それが實行されなかつた。結局元の儘になつてしまつ

たといふやうな次第でありまして、この度のやうに非常な災害を受けた後、これを前よりも一層よいものに建て直して行くといふ事に就いては餘り類がありません。サロニカの町が歐洲の大戦の後兵火の爲に焼かれ壊されて、これが改造に就ての話はかなり有名なものになつて居るのでありますか、これは極めて小さな市でありまして、横濱の何分の一にしか當らない、到底東京などの比較にならぬ仕事であります。さういふやうな關係でありまして、既に、これまでの都市を改造してやつて行くといふことは全く類例がないのであります。從來最も大きなこの種の仕事としていはれて居りますのはナポレオン三世の時代、巴里の都を改造したことかあります。今日の巴里の都は立派に誠によく出来た都になつて居るのでありますか、これは全部を一逼にやつたのではありません。その一部分の道路、公園、廣場の仕事でありますか、これが都市改造の最も大きな實例であります。ナポレオン三世の時やつた改造はとれたけかといふと、この度の東京でやりました約半分の仕事と考へて差支へありません。道路、廣場その他公共用地が潰れました面積は之を換算すると六十七萬坪ばかりに當るやうであります。この度の帝都復興の計畫で東京、横濱も一緒にしたのでありますか、東京に於て道路、運河、廣場、公園といふやうな公共用地が潰れました面積は百二十萬坪になりますから、丁度ナポレオン三世の巴里の改造をやつた面積と比較しましても二倍に近い仕事になつて居ります。さうして、ナポレオン三世の巴里の改造には十九箇年かかつて居ります。十九箇年かかつて、東京復興計畫の半分の仕事をやつた、これが世界的最も大きな都市改造の實例とされて居りますから、この度の東京の復興の仕事といふものは都市改造から見ると全く類例がないのであります。尤も都市を野原に造る

といふことは簡單でありまして幾らも實例があります。併ながら東京の改造は焼けたとはいひながら、あちこちに焼け残つた建物がある、焼跡に直ちにバラックなり施設物が出来て来たんでありますから、やはり既に出来あかつた都會をやり直すといふ仕事になるのであります。野原に都を造ることは米國ではよくやつて居りまして、只今の華盛頓も野原に圖面を引いて、その通り出来て居りまして、只今も濠洲では首府を造つて居りますか、戦争の前から、十數年前から造つて居りますか、これは全く都を野原に、そこへ懸賞募集をして、さういふやうに道路をつけて、さういふやうに役所を建てたらよいかといふことを懸賞募集を取りまして、それに當選した圖面通り十年來造りつつあるのでありますか、さういふやうに野原に都會を造る實例がありますか、既に出来あかつた都市を改造するといふ事に就いて、これ程規模の大きいものは類例がないのであります。然かもこれだけの仕事をいたしますのに、御承知の通り區劃整理といふ方法によりまして、區劃整理といふ方法をこれだけ大規模に、さうしてまたこれ程土地建物等に對して權利關係の複雑して居ります所に行つたことはこれまた無いのであります。

六

而してこの區劃整理をやるか、どうかといふ事は復興計畫を定める最初から非常な問題でありまして、この點後藤さんも非常に種々と御苦心になつたやうであります。所か區劃整理に就いては後藤さんなどいふて居ります、獨逸のアジクスといふ人がやつた方法でありますか、その方法は非常に具合が好かつたものでありますから、獨逸の他の都市にもこの方法が眞似られるやうになつて、アジクス方法と、その人の名前を取つていつたのであります。所か本家本元の

獨逸をやつて居ります區劃整理はとれたけの仕事で、とれたけの範圍かと申しますとこれはこちらで考へますと、謂はば耕地整理と同じもので、都會の發展しない、これから發展しやうとする郊外地の餘り建物か建つてゐない所に道路をつけて區劃割をして行くといふ、建物の無いところをやつた實例であります。その先例を取つて、この東京、横濱に對しまして東京だけでも約百萬坪の土地に對して區劃整理の方法を取るといふ事になつたのであります。これまたこのやうに範圍の廣い、さうしてその上に東京だけでも二十萬三千の建物を動かしたのでありますから、このやうに建物の竝んで居る所に對して區劃整理をやるといふ事はこれまでに全く類例のなかつた事てあります。この區劃整理をやるにも御承知の如く東京の土地は土一升金一升てありますから寸分の土地と雖も權利關係が複雑いたして居りました。簡單には片付かないのであります。それが爲めに區劃整理による換地設計をいたしました。も技術は非常な苦心をして換地の設計を組んで行つた譯けてあります。これを區劃整理委員會に諮問いたしました。區劃整理委員の諸君は非常に盡力され努力をされました。地元の人々の意見を取纏めて行かれたといふ關係であります。それからまた換地が決定致しますと、その上にある建物の移轉をする。これもまたといふ方法で移轉をして、といふ方法でこれに對して金を拂ふかといふ事も全く新しい仕事で、他によるへき先例もなかつたのであります。その間に處しまして種々と關係の人々か苦心をしてその方法を考へたといふ次第であります。この區劃整理の方法によつて約二十萬の建物を動かし従て二十萬の建物の上に住んで居る百萬の人か動きつとお互に扶け合つてこの仕事をやつて來たといふ次第であります。全くこの仕事は全市民共同一致の努力によ

る結晶を申て差支へないのであります。これだけの仕事こうをしてやつて行くといふ事は全世界にその類例のない仕事であります。このやうな仕事か種々のむづかしい複雑な仕事か割合に短い期間内に出來上つた次第なのであります。巴里の改造のナポレオン三世の時代の事と比較しましても全くこの実績は我々東京に於きまして、また横濱に行はれました。この実績は昨年外國の種々な技師か會議で非常に澤山東京へ集つて來られたのです。その時も皆口を極めて仕事を賞讃して行つたやうな次第であります。ここに參ります。まは始めに後藤伯か御苦心になり、その後全市民の共同一致の力によつてかうなつて來たのであります。

七

この仕事は始めよりこのやうに範圍も廣く、やり方も頗る複雑いたして居ります。果して何時出來るかといふ疑懼の念を有つて居りましたのは我々のみならず、皆様も多くはさうであつたらうと思ふのであります。我々全國の人もさう考へ、全世界の人は目を見張つて居つたのであります。山本内閣か後藤さんの計畫を樹てられた時も心配され、その當時山本總理大臣の名前て出された諭告にも繰返していつて居りますか、この大事業の成ると成らざるとは我々日本人の力を試すものた全世界かこれを見て居る、だから、これか出來るか出來ないかといふ事は日本人の力試になるのたといふやうな譯て、是非ともやらなければならぬといふ事をいはれて居りますか全くその通りであります。この仕事の大體から申しますと、東京に於きまして今日まで費しましたと思ふのであります。この仕事の大體から申しますと、東京に於きまして今日まで費しました。經費は約七億であります。この七億の外に震災直後に種々應急の經費を出しました。或は帝

越すといふ事でありまして、これこそ始めて約二萬臺を越す自動車か飛廻りましても格別の支障は生しないのであります。若し震災前でありましたならば、二萬臺の自動車を持つたところて、自動車か動けない、これを飛ばせれば我々は歩けない状態であつたかと惧れるのであります。その他種々の點から見まして、復興計畫をやられた下町の區域に就いて見ますれば、道路、運河、小學校その他公共施設に就いて申しますれば、これはこの儘で決して外國の所謂文明都市として少しも辱しくない體裁を備へて居るのであります。この出来上つた施設を利用して十分の効果を上げるといふ事は、今後市民諸君と共に我々の大責任でありますか、この復興事業として出来上つた公共施設に對しては、何れの都會に對しても左程かわりはないやうに完備したのであります。ただこの完備いたしましたのは、今申し上げますやうに復興計畫として、燒けた區域に對して主として行はれたものでありますために、ただ今の東京市の現状からいへば非常に片成りなものはなもので出来た譯でありまして、燒けて復興事業をやられた區域は非常に整備して居りますか、御承知の山手は舊態その儘で、下町とは比較にならぬ程不便な所として残つて居ります。これに對して下水をよくする、道路をよくするとかして行くといふやうな事をいろいろ考へますと、その仕事は非常に澤山あるのであります。それを一寸計算いたしましたとしても二億や三億の金額には直ちになるのであります。併しなからこれらをやはり片成りなものとして残して置く事は出来ません。帝都として政治、經濟、文化の中心地として、その實あらしめんか爲めには片成りな形になつては不可ない。山手に對しても段々と時期を見て種々な方法を考へて、これまた復興計畫をやられた方面と同じにして行く事は、我々の責任でないかと思ふの

てあります。その點については莫大な經費を要しますので、ただ今の所てはその案を樹てる事は出来ません。何れこれらの點について我々は考へて、一方の施設を十分に働かせると共に残つた方面についても、帝都としての實あらしめる事を考へなければならぬと思ふのであります。

九

要するにこの度の帝都復興の完成の式典と申しまして、帝都復興の完成と申しまして、これは全く土木的の、外形的の仕事か完成したといふのに過ぎないのであります。帝都復興の本業といふものは道路でありますとか、運河でありますとか、或は小學校を建設するとかいふ、土木的、外形的の仕事に限られたのであります。この仕事は今これにて始めて始めにこれだけやるんだと決められたものか完了に近づいて居るのであります。更にこの施設を十分に利用し、殊に精神的にまた經濟的に全國の中心地として立つて行くといふやうな點につきましては、これは今後の我々、市民諸君のお互の責任であると思ふのであります。從來政治、經濟、文化の中心であるこの東京が、將來もその中心地たる地位の何時までも動かないやうに益々今後發展し、經濟的にも全國の中心地になつてその實力を有つといふ事が必要であり、今後第一に努めなければならぬものと思ふのであります。それと同時にまた外形的の土木的の種々の仕事か残つて居る。今日の儘では我々は全國の中心地として立つて行くことが出来るかどうか、始めにも申しました精神の復興、精神的の復興といふやうな事は極めて大事な事である。この方面に於きまして、震災の當時と今日とを我々自ら顧み、全體を通しまして、とれたけこの精神か東京市民として緊

張して居るか高調して居るかといふの點になりますと、この點は今後我々の特に戒心して努めて行かねばならぬ、即ち精神復興といふやうなことに就きまして出来るだけの事を考へなければならぬと思ふのであります。度々繰返します様に、東京は輦轂の下として、皇室に於かせられましてもこの復興の事については非常に御軫念になり、この復興の事につきましては全國亦大いに援助してくれたのであります。これらの點から見ましてもその精神的に全國の中心地となつて我々全國民を率ゐて行くといふ事は我々當然覺悟をしなければならぬ。また帝都の市民として當然の責任と思ふのであります。これらの點からいたしましたして、一應外形的の復興はこれを以て出来たのであります。今後我々は出来るだけ精神的の復興、經濟的復興といふ事に對しまして出来るだけの力を盡し、この復興の大事業を全市民の力を以て作り上げるやうに一致した氣持を以て精神復興と經濟復興とに努め帝都の市民として全國民に負ふ所の責任を有つて居る。お互にこの責任を完全に果して行きたいと考へて居る次第であります。此度の復興完成の時期に當りまして、此復興に關係いたしました私の考へを申上げました次第であります。

帝都復興完成の所感

中川 望

私は復興事業完成に就きまして畏くも明日 陛下の御巡視を仰ぎ、二十六日には復興式典に御臨幸を御願ひするといふ事になつてゐる。その盛事を迎へる今日に於きまして、皆様に復興に關してのお話をいたす機會を得ました事は洵に仕合せと存して居るのであります。私は堀切市長と違ひまして、復興の事業には極めて經驗の薄いものであつたのであります。堀切市長は

先刻もお話の通り、震災當時より直接關係せられたのみならず、復興局長官として最も大事な時期を過ぎました上に更に東京市長として復興事業の御完成に努められ、なほまた今後これを大成する事の責任を有つて居らるる。この復興事業に就て極めて經驗の深い方であり、私は圖らずも復興事業の最後の責任者としてお勤めをする事になりました關係上かかる絶好の機會に於きまして復興事業の概略のお話を申上げ、これまでの復興事業關係者が如何に苦心されたものであるかといふ事を一通りお聞きを願ひたいと思ふのであります。

二

九月二日の夜、山本内閣が成立いたしましたして、その五日目九月六日に後藤内務大臣は帝都復興の議といふものを閣議に提出されたのであります。その帝都復興の建議書はた今も残つて居りますか、後藤内相の意見としては世界空前の大惨害に遭遇したのであるか、帝都の四割六分も焦土と歸した以上、これは一面から見れば帝都の改善、根本的の改善を計るにはまた逸すへからざる好機會である。故にこの際將來の帝都として十分なるものを作るといふ覺悟を以て進まなければならぬ。それについては第一にその復興の計畫を定める直接機關を設ける必要がある。その大體の方針を定める爲めに審議機關と、その仕事を行ふ機關と、二つの機關を設ける事が必要である。かういふ意見がありました。それからなほこの帝都の復興事業は營に東京一部の事業ではない、東京市民の負擔のみを以て行ふものではない、帝都であるから國家の事業として行ふべきものである。國費を以てその費用を支辨すべきものである。面かも國費負擔の損失損害の大なる後であるからこれは長期の内外債を以て支辨すべきものであるといふのか

第二點であります。第三の提案は、この一萬一千坪の焼けた土地を全部公債を發行して、國で買上げてしまふそしてそこに理想的の都市計畫を實行して、然る後人民に賣却する、或は貸付ける、さういふ事にすれば始めて理想的の都市計畫が出来て立派な帝都が出来上るものである、かういふ議論であります。最初の第一案につきましては御承知の通り帝都復興審議會といふものが出来、帝都復興院といふ二つの機關が出来ました。これについても種々の議かありますけれども省略いたして置きます。第二に國費でこの仕事を行ふといふ事は閣議でも容れられたのであります。第三に焼けた土地を全部國で買収してこれに立派な都市計畫を定めて市民にこれを賣るといふ案は種々評議の結果終に都市區劃整理といふ事が實行せられるといふ事になつたのであります。さうしてそのこれを行ひます爲めに何れ程の金が費るかといふ事に就きまして、一番最初の案は所謂後藤伯の三十五億圓案であります。併しなからこれは今日の大藏大臣の井上さんかやはりその當時大藏大臣でありました、その井上さんの意見としては當時の日本國の財力から見ると、借金をして仕事をするについては利息を拂はなければならぬ、その當時何れだけの利息か拂へるかといふ、つまり借金能力から打算してみると、十五億だけの利息を拂ふだけの力しかない。だから三十五億圓といふものは實現することは出来ないものであるといふ意見でありました。

過日もこの復興事業に關する懷舊座談會かこの建物の後にあります市政調査會に於て五日か六日かかつて行はれたのであります。その際も井上大藏大臣が出席せられてその當時のお話がありましたか。その閣議に於て後藤伯は奮然として立つて將に閣を排して外に出られや

うとした、その際に田健二郎氏が後藤伯の語を引張つて長い事かかつてやう／＼席につかれた若しあの時後藤さんか閣を排して外へ出られてしまつたなれば、この復興といふものは出来たてあらうかとうてあらうか、恰も世界大戰の際にキツチナー將軍かロイドジョージ氏に對して奮然として閣を排して外へ出る、その時の有様と殆ど同してあつたといふ話でありました。過日山本伯にもお目にかかりました際にやはりその當時のお話も承つたのでありますか、兎に角何としても大藏省の責任者か十五億に限るといふ所から、十五億といふ事が成立して、その半分を以て諸官廳の復舊復興費に充てる、その半分を以て東京市並横濱の所謂都市計畫に屬する復興計畫に充てようといふのか始めの話でありました。それに基いて最初審議會に提案されたのか七億二百萬圓であります。審議會に於きましては非常な大議論がありまして、大削減を要求せられました結果四十七議會所謂臨時議會に於きましては政府か豫算を要求しましたのは五億七千萬圓であつたのであります。然るに議會に於てその計畫中に國から補助を出してやる、それから土地區劃整理事業の大部分といふものは自治體をして行はしむるのか適當であるといふの意見で、一億五千五百萬圓の削減があつたのであります。それと復興院といふものは不必要なものである、かやうな大袈裟なものには必要であるといふ事、その費用を削減せられました。その爲に大正十三年三月に復興院といふものは廢せられまして、復興局といふものか内務省の外局として出来たのであります。豫算關係を申しますと、翌年の大正十三年四十九議會に於きましては東京市及横濱市の請求によつて、自治體が行ふとしても經費を要する事であるからやはり政府から貰はなければならぬといふので、一億五百萬圓といふものを要

求して元の七億圓のものか成立する事になつたのであります。その後屢々復興の區劃整理をして居ります中に移轉費が非常に高くなつて参りました結果か追加豫算を要しますので結局の所復興事業の豫算總額は六億四千九百萬圓まで上つたのであります。それに東京府神奈川縣東京市横濱市この四つの團體の經費が一億九千萬圓になりますので、八億二千六百萬圓、それに復興院並復興局の經費か二千萬圓ありますから、八億四千七百萬圓といふものか復興事業費として今日まで費されたものになつて居るのであります。それから先刻申しました復興局は大正十三年以來仕事に當つて参つたのであります。この三月三十一日限り復興局は廢止せられまして、新に復興事務局のいふ極めて規模の小さいものか出来まして、後の殘務を整理して行くことになつて居るのであります。

三

先刻堀切市長の申されました通り、復興事業の一番大事な事て一番面倒であつた事は土地區劃整理の事業であつたのであります。全部買収といふ事は到底困難であつたのであります。併しなから全部買収といふ案か現出せられました爲に結局の所土地區劃整理といふ所まで漕ぎ着き得た事と思ふのであります。始めには全部論か提議され、その後には道路であるとか公園であるとか、さういふ公共用に要するものだけを買収して區劃整理を行つたらよからうといふ議か大部盛んであつたのであります。併しこれも公共用地か七十七萬坪必要でありますから、七十七萬坪を買上げますと約三十萬の人か住家を失ふといふ事になるのであります。そしてその二十萬の人、土地を買はれた人か迷惑をする、さうして買はれなかつた人は元の土地に

居て立派な道路か出来又立派な公園か出来るといふ事てあります。それは非常な不公平であるといふので結局それも議論か立たず、後に行はれましたやうな區劃整理か行はれる事になつたのであります。それについて一割の公共用地として無償で提供するといふ事に定つたのであります。今日から見ますとこの一割提供、無償で國に提供されたといふ事はこの復興事業を完成するについて非常な貢獻をされた事になります。金の上から申しまして、一億五千萬圓位のものになります。而かも一割提供されても、その残つた土地は區劃整理された結果土地の値段か上つて参りますから、私共の計算で見ましても、例へば平均を見ましても一坪二百三十一圓四十四錢といふ元の値段か、區劃をして既に一割減つて居りまして二百六十三圓四十錢と却つて高くなつて居ります。てありますから一割を提供したからといつてその爲めに非常に損失するといふ事はなかつたと思ふのであります。これは復興評議會に於て政府側から出た議論でなく、民間から出た議論で大橋新太郎君かこの事を提稱されたといふ事てあります。外國では獨逸のアジゲスといふ人の樹てた案には三割四割提供するといふ案になつて居るさうですか、それに比較しますと一割説は小さかつたのであります。復興事業の上に於て忘れる事の出来ない事てあります。その復興計畫の極めて困難な事もこれてあります。今日も第十一區々區劃整理祝賀會かあります。私も常盤小學校の祝賀會に臨んだのであります。その區の議長は故高木益太郎君てあつたのであります。この方は大部區劃整理の事に就いては反對されたといふ話かあつたのであります。復興局にもその當時の反對の宣傳ビラか記念物として保存されて居りますか、その當時を考へて見ますと何時この區劃整理の事が済むのであるかといふ事

か非常な心配であつたと申して居ります。現に駿河臺のあそこの家屋に對して移轉命令を發して置いた時に、一つの家が動き出したといふ事がある。さうするとそれを聞きつけて復興局では家が動いた動いたと皆か小踊りをしたといふ程、それ程移轉命令を發して動いてくれるかといふ事を懸念されたといふ事でありませう。復興局として最も苦心した事で、而かも全市の區劃整理委員諸君の協力によりまして、中にはまた模範的に自ら進んで全體の議を纏めて區劃整理を成功された事もありますし、その他區劃整理委員並補償審査會といふ二つの機關でこれらの議が滞りなく進捗したといふ事は、世界の人に對しても誇るべき事だと思ふのであります。第二には道路計畫でありますか、復興局で直接やりましたものは五十二の幹線であります。昭和道路と稱せられて居ります品川から千住に至る一號幹線、九段下から兩國を経て龜戸に至る所謂大正道路この二つの路線が一番始めに定められたのであります。この二つの大幹線が中心となつて、それに沿つて五十二本の幹線が出来た、それに東京市の方でやつて居ります補助線が出来、それから無數の區劃整理街路が出来上りまして現在の道路計畫といふものが完成するに至つたのであります。この道路に就きましても只今九段坂に於て模範的に出来て居るものが共同管道といふのであります。これは七尺に九尺の鐵筋コンクリートの穴がありまして、それの中に水道下水道總ての電信電話等それらのか柵の上に氣持よく整理されて埋藏されて居るのであります。併しこれはたまたま百五十間の間だけ出来て居るので、これかあります所には電信柱といふものはないのであります。つまり街路が出来ましてもそこに無數の電信柱が立つて居りましては道路といふものは絶対に毀されてしまひます。その電信柱をなくするとい

ふには地下に穴を作つてそこへ一纏に纏るといふ事が必要であります。併し九段坂に行ひましたのも一間當り六百圓かかるのであります。東京驛の後の八重洲通りにも一つの共同孔が出来て居りますか、これの方は車道の下に幹線孔を纏めまして舗道の方に引込線だけを一纏めにしてあるといふやり方があります。これは明治座前の所謂金座通りにも僅かばかり出来て居ります。この方でありませうと一間百圓以内で出来ませう。さういふものか出来ませうれば始終道路を掘返すといふ必要もなく整理が出来ませうか、何分にも經費か要りませうから、始めには計上されたものか削減されて、唯見本的に今は三箇所にあるだけであります。道路に次で復興事業について最も苦心したのは舗装工事でありませうか、その舗装につきましては皆様も御記憶であると思ひませうか、大正九年に御内帑金三百萬圓を東京市へ下付せられました、それが元になつて東京市で舗装を始めた。然るに計らずも震災に遭つたものでありますから、この機會に立派な舗装道路を造ることになつたのであります。詳しい事は省略いたしますか、この舗装道路を造るにつきましても、復興局に於きましては澁谷に一つの研究所を設けまして、ここで材料を學問的に検査いたしましたして研究いたして居ります。我國の如く雨の多い國、また寒さの強い國、而かも夏は随分暑い國、さういふ所では如何なるものを混ぜたものであるか、如何なる調合によつてアスファルト道路を造ればよろしいか、コンクリートについては標本を作つて冷蔵庫へ入れる、或はとれ程の暑さになればアスファルトか融けるかといふ事を一々検査しまして今回の舗装道路をやりました。また買入れるにしても、會社に注文してそれを取つて来て、試験機へかけて、とれ程の

重さに堪へるかといふ事を一々試験して、注意して行はれて居るのであります。

四

尙ほまた道路につきましてかういふ事があります。東京市で従来砂利かどれ程消費されるかといふと、一年間に十四五萬坪乃至十六七萬坪であるといふ事になつて居ります。これは道路に使ふのであります。復興局て使ふのは六箇年間に見積つて計算して見ますと、丁度東京市の一年ふりを全部復興局て使ふといふ計算が出来たのであります。その結果栃木縣のはた川といふ所に砂利の生産地を設け、北千住に其の集散地を置き、また相模川から採取して汐留に集散地を置き、そして組織的にやつて来たのであります。その他皆様もお氣つきであらうと思ひますか、今回の道路につきましては植樹といふ事について非常に注意をいたしたのであります。その街路樹を植ゑる、それから公園橋の袂にある廣場、これには必ず木を植ゑるといふ事にいたしましたのでその需要が極めて多いのであります。それが爲めに東京府下三鷹村に大學附屬の天文臺がありますか、あそこに一萬坪の土地を借りまして、なほまた千葉縣松戸に高等園藝學校があります。その隣地に六千坪を借入れて、さうしていま植ゑて居ります木を養成したのであります。それとありますから木の成長も捗つて居ります。また移植しても育ちかよろしいかと思つて居ります。併しこれ等の事は復興局の當初の當局者が苦心をしてやられた事でありまして、これは自分の仕事をなす上に極めて便利であつた爲のみならず、當時焼野原になつて何れの方も樹木を必要とする亦建築をする方にあつては砂利を必要とする際等に、復興局か自分の爲之等の事業をして居る爲に市價を上げなかつたといふ事ですが、これは當局の用意のよかつた事を私は最後の者として皆様にお告げする事は、私の務めと思ひます。種々申上げた事もありますが、復興局の自慢の一は橋であります。隅田川六橋、これは昨年の十一月萬國工業會議の列席者も皆賞めて居りました様に、橋そのものの美術的に出来て居り學問的に於ても最も進んだやり方、兎も角ある地方で數年の間に四五百の橋か同時に造られたといふ歴史はないのであります。橋梁學といふ學問の方から申ししても、事實の上から申ししても、これだけの経験を積んだといふことはないのであります。てありますから我國のこの橋といふものは世界的の試みといふものか出来て居ると申してよろしいのであります。復興局か尙ほ力を入れて居ります事は、焼けない都市の建設といふ事でありまして、御承知の如く二千萬圓の豫算を今有つて防火建築に補助をして居ります。一坪五十圓以内、また共同建築については七十五圓の補助をして居りますか、今日まで指令を出したものが七百萬圓であります。民間の經濟が順調でない時でありますから防火建築をされる事は困難の事であらうと思ひますか、昭和十三年まではその補助が得られる事でありまして、市民諸君の防火建築が出来上る事を熱望して居るのであります。

五

私はこの復興事業に携つて居りましてつく／＼考へる事があります。元來今回の大震災といふものか、震災そのものとしてはさまで大なるものではなかつたのであります。か火事の爲めに非常な損害を惹起する事になつたのであります。何故に火事を起したのであうかそれを考へますと、私共は將來についてまた深く考へなければならぬと思ふのであります。今回復興

事業といふ事か所謂言葉を整へていふなれば都市計畫の事業である。何て都市計畫の事業か必要であつたかといふと、これか若し震災前に出来て居つたなれば、かやうな大災害は起らなかつた筈であります。而かもその都市計畫といふものはそれなれば震災前には何もなかつたかといふと決してさうではない。我國維新以後外國と殆んど歩調を揃へて進歩して来て居るのであります。皆様も都市計畫といふ言葉は以前に御記憶になつて居る。殊に東京の市區改正といふ事であると思ひます。その市區改正といふものは何時から始まつたかと申せば、明治十七年に東京府知事芳川顯正伯の建議に基いて出来たものであります。第一に、元の銀座の煉瓦造りといふものは何時出来たかといふと明治五年に祝田町の火事か元であります。その時大藏省に建築局といふものが設けられて京橋以南の改築か元になつてあれか出来たのであります。その十七年の芳川東京府知事の建議といふものは、歐米大都市の改造計畫案を範に執つて、これを東京に應用しようといふ規模極めて雄大なものであつたのであります。道路河川鐵道橋梁これらの爲めに明治十七年の豫算で二千三百四十八萬圓といふ豫算か計上されて居ります。それと共に東京灣築港の事かこの當時提案されて居つたのであります。この十七年の暮に内務省に市區改正審査會といふものが出来て、芳川伯か會長となり、翌年には品海築港調査委員會といふものが出来たのであります。その委員會の調査の結果四千三百萬圓案といふものが出来上つたのであります。これが明治二十一年三月になつて政府からして東京市區改正條令といふものを元老院に附議したのであります。然るに元老院に於ては間もなく反對論か起つた。これは東京一地方の事である今日これだけの經費を出してやる必要か何處にあるか國民は課

税に苦しんで居る際である。暫く時期を待つのかよ、或は東京の市區を改正するのに法律を出すのは不都合であるといふやうな議論か起つたのであります。これらを見ますといふと復興當時の審議會の事か聯想される次第であります。然るにその時の政府はかういふ勢を示して居ります。山縣内務大臣、松方大藏大臣は連署して明治二十一年七月東京市區改正條令といふものを閣議に提出されました。それにかういふ事か書いてある。元老院の議論を批評して、藤隴杜撰の言なり、本大臣はこれを駁すといふので片つ端から論議して市區改正の必要な事を述べられて居る。その意氣の旺んなのには驚くべきものがある。そうして改正條令は二十一年八月に交付されたのであります。これによりまして東京の市區改正といふものは徐々に行はれて参つたのであります。何分にも年を経るに従つて經費か増して来たのであります。而かも日本の状態はこれらの仕事を俟たずに東京などは刻々に發達して参りました。而かもその市區改正なるものは中心部から仕事を始めて参ります中に、東京の周圍か非常に進歩して来たのであります。結局時運の進歩に伴はない東京市といふものが出来て居つたのであります。そうして自動車といふものが出来たに拘らずそれか通らない、火事は頻々と起るか蒸氣ボンブか入らない道か至る所にあるといふやうな、不規則な不秩序て亦巷となつて居つたのであります。それにこの震災か参りましたからあの大火災か起りました。遂にあの大災厄を見るに至つたのであります。さうして一方都市計畫といふものが我國で起りましたのは大正七年であります。その時始めて都市計畫調査會といふものが出来ました。その翌年の八年には都市計畫法といふ市街地建築法といふものが出来ました。丁度只今から二十年はかり前、一九一〇年に伯林て

世界の都市計畫の大博覽會がありました。私は偶然その開會の時に伯林に居りまして親しく見た事があります。その時は春でしたか、その秋にはその材料が倫敦へ参りまして議會の問題になつて居つたのであります。それから大正八年に日本に於て都市計畫法といふのが發布されたかといふと、東京市並近郊に於ける設計が出来て、放射線の街路が造られるといふ事が出て居つた時に震災が参つたのであります。防火地域の制度も出来て居りましたが、これまた實施間もない事があります。それで私今日最も痛感いたしますのは、若しこの震災が假りに十年早く来たつたなればとうてあるか、十年早いといふと大正三年であります、大正四年の八月には世界大戦が始まりました、そして一月後の九月一日に日本に大震災が起つたとしたらとうてあつたらうか、その時には未だ日本の地位は列國の間に三強國の一とは認められて居らぬ、また世界大戦後の經濟力とその當時の經濟力とは雲泥の差がある。而かも一面から見ますればこの都市計畫法といふものも何等調査の出来て居らない、何等知識もない、何等準備もない、さういふ際にこの震災があつたとしたら、假令後藤伯のやうな方が居られなくても今日の計畫は出来る筈はなかつたのであります。丁度大正十年に法律が發布せられると同時に内務省に於ても技術家が調査を遂げて居りました。市役所でもそれをやつて居つたればこそ市役所から借りて来た地圖で立派なものが出来上つたのであります。それを今回は全體が焼野原となつたのでありますからそこに直ちに理想的の案を樹ててこれだけの事業を完成せられたのであります。十年前と十年後として見てこれてあります。これを二十年前としたら如何てありませ

う、この點は私は日本といふ國は如何なる災害に於てもこの御國柄は有難い御國であるといふ事を痛感せずには居られないのであります、而かも過日牧野内大臣から承はつたのであります。か、丁度九月二日赤坂御所に於て山木内閣の親任式を午後九時頃に行はせられたのであります。當時攝政宮殿下には閣僚の參集を待たる間に牧野内府に對して、今回の震災は非常なるものである、國としても、皇室としても今度の震災に對しては十分なる事をしてやらなければならぬぞ、と仰せられたのであります。そして九月三日の内閣が出来ますと同時に御内帑金一千萬圓の御下賜がありました。また御料林から木材を出すやうにといふ攝政宮殿下の御言葉があつたのであります。私は過日恭しく陛下の前に出まして復興の事を一時間ばかり言上申し上げ、なほその後三十分餘種々御下問等ありまして感激いたしましたのであります。か、今回の復興事業の完成といふものは一に九月十二日の復興に關する御詔書、十一月十日に發布せられた國民精神作興に關する御詔書、この二つの御詔書によつて復興の大方針が定まり國民が緊張したる精神を以て當つたればこそ斯の如く迅速に豫定通り出来上つた事と存します。而して今回復興式典を擧げるに當りまして私共も實はその事を承知いたさなかつたのであります。か、宮中三殿に於て畏くも親しく御親告祭を御擧げになるのみならず、伊勢神宮、畝傍、桃山、多摩、の山陵に勅使を出されるといふ事でありました。これらの事を拜しまして如何に皇室かこの帝都復興の事を眞に我物として御軫念遊はされたかといふ事を拜察して國民として感ぜざるを得ない事であると思ひます。外國人は日本の今回の復興の完成は實に世界に於ける驚異であると申して居ります。この驚異は斯の如き皇室と國民とか眞に一つになつての働きによつて、そ

ここに新しき科學を應用する事によつて始めて出来上つたものではないか、この結合あり、この國風があつたれば何事でも出来る事ではないかと私は感ずるのであります。今後の東京市としては、復興完成後の充實といふ大なる責任を有つ譯であります。この責任を果して今後十年の後は必ずや東京市はこの復興したる市街に立派な充實したる帝都を建設される事を期して疑はぬのであります。どうか堅實なる皆様の御努力を願ふ次第であります。

附記ノ一

帝都復興記念展覧會

昭和四年十月財團法人東京市政調査會は日比谷公園内市政會館公會堂附設竣工を機に帝都復興記念展覧會開催の計畫をなし本市に對し左の通知があつた。

昭和四年七月十二日

財團法人東京市政調査會

會長男爵 阪谷 芳郎 團

東京市長 堀切善次郎 殿

帝都復興記念展覧會開催ニ關スル件

今秋十月豫テ日比谷公園内ニ新築中ノ本會々館落成ヲ期シ同會館ニ於テ帝都復興記念展覧會ヲ開催シ大震災當時ヲ記念スルト同時ニ復興事業進捗ノ現状ヲ弘宣シ以テ帝都將來ノ發展ニ資シ度ト存ジ別紙ノ通り企畫相樹候ニ付右遂行ニ關シ何卒貴廳ノ御後援並御指導相蒙リ度此段及御依頼候敬具

帝都復興展覧會開催計畫要項

- (一) 展覧會開催ノ主體
財團法人東京市政調査會ハ日比谷公園ニ建築中ノ會館公會堂附設竣工ヲ機トシ其ノ開館式ト同時復興局東京市後援ノ下ニ帝都復興展覧會ヲ同會館ニ開催ス
- (二) 開催豫定期日
昭和四年十月中旬前後凡ソ三週間
- (三) 展覧事項
帝都復興ニ關スル一切ノ事項東京市政ニ關スルモノヲ含ム(關東大震災ニ關スル一切ノ記録繪畫寫真模型其ノ他ノ物件一般地震ニ關スルモノヲ含ム)
- (四) 展覧資料ノ蒐集
大正十二年九月ノ大震災當時ノ救護關係職員(帝都復興事業關係職員及資料ノ蒐集ニ付特種ノ便宜ト經驗ヲ有スル官公吏其他ノ特志家ヲ委員トシ之カ盡力ヲ乞フ豫定
- (五) 經費
主トシテ財團法人東京市政調査會ノ負擔トス
帝都復興展覧會出品物類別目錄作製基礎案

第一類 震火災

第一種 江戸時代以前都市ノ震火災

- (甲) 地震ノ震害ニ關スル繪畫記録物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ
- (乙) 火災ノ震火災ニ關スル繪畫記録物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルモノ

第二種 江戸時代都市ノ震火災

(甲)地震ノ震害ニ關スル繪畫記録物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

(乙)火災ノ震害ニ關スル繪畫記録物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

第三種 明治時代大正時代都市ノ震火災

(甲)地震ノ震害ニ關スル記録寫真繪畫物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

(乙)火災ノ震害ニ關スル記録寫真模倣繪畫物件等ニシテ慘害ノ實況及慘害ノ影響等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

モノ

第四種 外國都市ノ震火災

(甲)地震ノサンフランシスコ市ノ慘害記録物件等ニシテ當時ノ一斑狀況ヲ知ルニ足ルモノ

(乙)火災ノロンドン市大火ノ記録物件等ニシテ當時ノ一斑狀況ヲ知ルニ足ルモノ

第二類 罹災救護

第一種 江戸時代前都市ノ震火災ト罹災救護

皇室官府及民間ノ救護實況竝防炎施設等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

第二種 江戸時代都市ノ震火災ト罹災救護

皇室官府及民間ノ救護實況竝防炎施設等ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

第三種 明治大正時代ノ震火災ト罹災救護

(一) 皇室政府公共團體其ノ他ノ團體及民間ノ罹災者救護及慰安竝防炎施設等ノ實況ヲ追想シ得ルニ足ルモノ

(二) 在外邦入及外國人ノ罹災救護竝其ノ他ノ支援ニ關スルモノ

第四種 外國都市ノ震火災罹災救護

(一) サンフランシスコ市ノ罹災救護狀況ニ關スルモノ

(二) ロンドン市ノ罹災救護狀況ニ關スルモノ

第三類 復興及復舊

第一種 復興

(甲)江戸時代以前都市ノ震火災ニ對スル復興狀況ニ關スルモノ

(乙)明治大正時代都市ノ震火災ニ對スル復興狀況ニ關スルモノ

(一) 大正地震火災前ノ東京市

大正十二年前ニ於ケル東京市ノ實況ヲ知得シ得ルニ足ル記録寫真模倣繪畫物件等

(二) 帝都ノ復興計畫

(イ) 主トシテ東京市ノ復興ニ付政府及東京市ニ於ケル復興計畫復興助成等ノ一斑狀況竝復興行政ノ組織其ノ他ヲ明カニシ得ルモノ

(ロ) 主トシテ東京府ノ復興ニ付政府ノ復興及東京府ニ於ケル復興計畫復興助成及復舊等ノ一斑狀況竝復興行政ノ組織其ノ他ヲ明カニシ得ルモノ

各省及管轄諸營造ノ復興計畫等ヲ明カニシ得ルモノ

民間ニ於ケル諸般ノ復興計畫ニ付其ノ内容ヲ明カニシ得ルモノ

(三) 帝都ノ復興

東京市ノ復興事業及其ノ遂行成績ヲ明カニシ得ルモノ

東京府ノ復興事業及其ノ遂行成績ヲ明カニシ得ルモノ

(ハ) 各省及管轄諸營造ノ復興及其ノ遂行成績ヲ明カニシ得ルモノ
(ニ) 民間ニ於ケル諸般ノ復興及其ノ遂行成績ヲ明カニシ得ルモノ
(ホ) 復興建築助成實況及其ノ成績ヲ明カニシ得ルモノ

(四) 復興帝都ノ現在並將來ニ付之ヲ明カニシ得ルモノ
(五) 東京市ノ復興事業ニ關スルモノ

第二種 其ノ他東京府市政ノ一斑狀況ニ關スルモノ
第三種 外國罹災都市ノ復興並復興事業ニ關スルモノ
第四種 皇室政府各省公共團體其ノ他ノ精神復興ニ關スルモノ

第四類 變災ノ教訓

第一種 變災當時ノ世相一斑ヲ追憶シ得ルニ足ルモノ
第二種 震火災ノ一般的教訓及記念ニ關スルモノ
第三種 震火災ニ伴フ德行及表彰ニ關スルモノ

第五類 防災ノ研究

第一種 避災ノ研究及其ノ施設狀況ニ關スルモノ
第二種 防災ノ研究及其ノ施設狀況ニ關スルモノ
第三種 救災ノ研究及其ノ施設狀況ニ關スルモノ

第六類 參考資料

前掲事項ニ關聯シ特ニ參考ト爲ルヘキ記録物件等

東京市政調査會主催帝都復興展覽會

(一) 展覽會開催ノ主體

財團法人東京市政調査會ハ日比谷公園内ノ同會館竣功ヲ機會ニ復興局及本市後援ノ下ニ帝都復興展覽會ヲ開催ス

(二) 開催豫定時期

昭和四年十月中旬前後凡ソ三週間

(三) 會場

日比谷公園内 東京市政調査會館

(四) 會場出品陳列場

同會館一階及二階約六百坪

(五) 展覽事項

(イ) 帝都復興ニ關スル一切ノ事項

(東京市政ニ關スルモノヲ含ム)

(ロ) 關東大震災ニ關スル一切ノ記録繪畫寫真模型其ノ他ノ物件

(一般震火災ニ關スルモノヲ含ム)

依つて東京市は復興帝都を一般に紹介するの機會を與へられたので着々出品準備に當り市局課並關係方面に左の通牒を發した。

文丙第一三八號

昭和四年八月二日

東京市助役 白上 佑吉

帝都復興展覽會資料出品ノ件

東京市政調査會ハ今秋十月同會館ノ竣工ヲ機トシ本市並復興局後援ノ下ニ帝都復興記念展覽會開催ノ計畫ヲ樹テ右事業執行ニ關シ本市ニ盡力方依頼シ來リタルヲ以テ關係資料出品方相當御配慮相成度別紙計畫要項並出品類別目錄作成基礎案寫相副ヘ此ノ段及通牒候也

出品資料選擇方法ハ別紙ニ依リ出品目錄ハ來ル八月十五日迄ニ出品資料ハ八月末日迄ニ取纏メ文書課宛御送附相成度

甲 出品資料選擇事項

第一 震火災關係(江戸時代以後ノ震火災記錄其ノ他)

第二 震火災救護關係(江戸時代以後ノ震火災救護記錄其ノ他)

第三 復興及復舊關係

イ 江戸時代以降明治時代ニ至ル震火災復舊狀況

ロ 帝都復興事業

○復興計畫樹立ニ關スル參考資料

○復興事業實施ニ關スル參考資料

○復興事業進捗狀況ニ關スル參考資料

第四 震災ノ教訓

イ 震火災當時ノ世相一般

ロ 震火災ノ一般的教訓並記念

ハ 震火災ニ伴フ德行及表彰

第五 非常警備關係

イ 防災ノ研究及施設

ロ 避災ノ研究及施設

ハ 救災ノ研究及施設

第六 東京市政一般

イ 東京市政一般

ロ 各種市營事業ノ推移現況

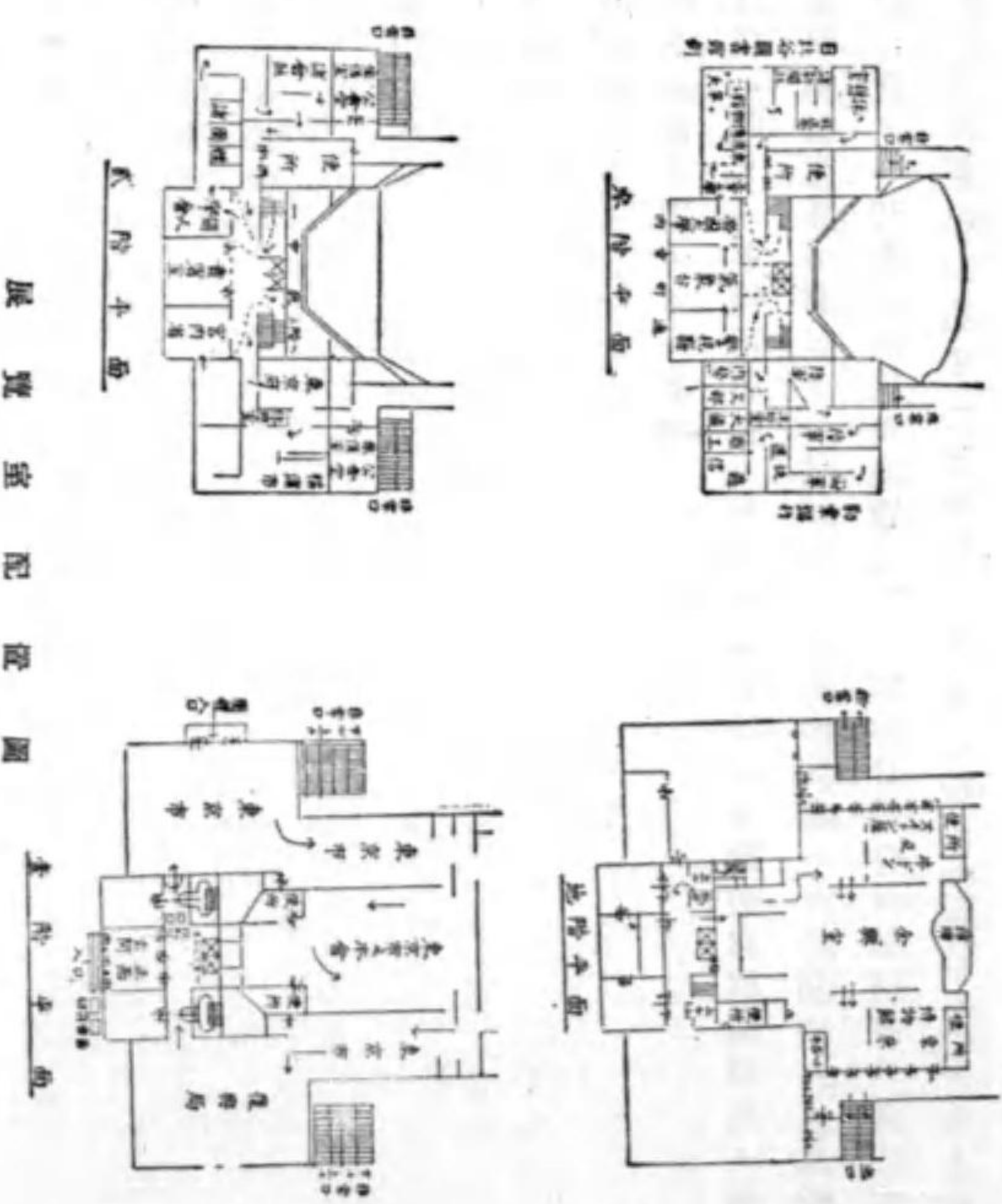
ハ 帝都ノ將來ニ對スル諸計畫

第七 其ノ他本展覽會ニ出品適當ト認メタル事項

尙出品資料ノ種類ニハ前掲諸項ニ關スル各種刊行物ハ勿論地圖統計圖表繪畫寫真模型其ノ他觀覽者ノ興趣ヲソル物件ヲ網羅シ且資料調製蒐集ニ當リテハ成ルヘク彼此時間的ニモ空間的ニモ比較對照ヲ爲シ得ル様御留意相成度更ニ詳細ニ就テハ別葉帝都復興展覽會出品類別目錄作成基礎案ヲ參照相成度候

其ノ後東京市を始めとし各方面の出品すべき資料は決定し着々準備を整ふると同時に出品種目を決定し一方陳列箇所割當を了し出品者は官公私各方面に亘つて八十五箇所出品總點七千點に達し中にも東京市出品は市文書課に於て統一し其の出品點數は三百六種千餘點に達した而して帝都大震火災及復興事業を永久に記念し得べき好箇の資料は一堂に陳列され十月十九日より十一月十日迄二十三日間觀覽料金拾錢を徴して一般の觀覽に供した會期間中入場

人員は總數實に十一萬數千を突破し一日平均五千人中にも十一月三日の如きは一萬三千三百三人の最大數に達した尙ほ東京市は會期中會場第二室入口に東京市政案内所を設け市政メンデックス十三種約十五萬部を作成して一般觀覽者に配布した尙ほ陳列配置竝に本市の出品目錄は次の如くである。



展覽配置圖

- 一 江戸ノ生立
- 二 東京市鳥瞰圖
- 三 伊能忠敬江戸實測圖
- 四 東京築港模型
- 五 東京都市計畫區域内ニ於ケル震災直後ニ對スル最近人口増加割合
- 六 大東京晝夜人口移動表
- 七 大東京諸行政區劃圖
- 八 大東京ニ於ケル交通機關利用狀況
- 九 大東京時間帶
- 一〇 大東京公園計畫圖
- 一一 大東京交通網圖
- 一二 震災ニヨル日本ノ損失
- 一三 市内河川災害ノ狀況寫眞
- 一四 水道被害狀況圖
- 一五 災害ヲ蒙ムレル日本橋高欄
- 一六 大震災ニ依ル燒失橋梁一覽圖
- 一七 東京市罹災戶數及人口

- 一八 震災記録文書
- 一九 罹災者ノ職業別失業者
- 二〇 深川區内災害狀況寫眞
- 二一 軌道事業被害狀況圖
- 二二 救助釜(實物)
- 二三 本所病院避難所全景及水道被害狀況寫眞
- 二四 震災後物資配給圖
- 二五 震災ニ因ル被害建物ト復興狀況
- 二六 新宿御苑内バラック收容所概況
- 二七 下水道被害狀況及震災直後市場狀況寫眞
- 二八 東京市震災應急臨時事務組織
- 二九 東京市バラック收容者退去狀況表
- 三〇 震災直後ノ市内バラック統計表
- 三一 市内各區別震災死體收容圖
- 三二 芝浦救援物資輸送船舶輻輳狀況寫眞
- 三三 罹災者散分狀況圖
- 三四 海外友邦震災救援狀況圖
- 三五 震災當時ノ市設食堂寫眞
- 三六 震災直後ノ市設宿泊所圖

- 三七 バラック取毀状況其ノ他同
- 三八 復興事業施行ニ關スル市役所分課組織沿革
- 三九 芝浦救援物資配給状況寫眞
- 四〇 震災前東京都市計畫圖
- 四一 東京都市計畫街路及運河修築計畫圖
- 四二 東京市ノ立案セル復興計畫圖
- 四三 東京市區改正舊設計圖明治二十二年
- 四四 後藤市長八億圓計畫
- 四五 東京市區改正新設計圖明治三十六年
- 四六 大震災前後ニ於ケル東京市歳入ノ變遷
- 四七 東京市施行帝都復興復興事業費財源種類別金額圖
- 四八 帝都復興復興總事業費施行者別圖
- 四九 東京市施行帝都復興復興事業費事業別並進行状況圖
- 五〇 東京市ノ復興復興費
- 五一 復興復興事業用地買收
- 五二 東京市施行帝都復興復興事業ニ對スル政府ノ助成方法一覽
- 五三 帝都復興復興事業進捗一覽圖
- 五四 低濕宅地盛土斷面圖

- 五五 低濕宅地盛土用搬入土量比較圖
- 五六 區劃整理記念標ノ模型
- 五七 兒童通學區域圖
- 五八 神社氏子區域圖
- 五九 土地區劃整理區域内外町界町名整理圖
- 六〇 市會議決濟町界町名整理其ノ一
- 六一 同 其ノ二
- 六二 實施濟町界町名整理圖
- 六三 町界町名整理後ノ番地方式
- 六四 區劃整理事業ニ使用シタル青寫眞紙ノ總延長
- 六五 各國ヨリ寄贈サレシ傷病者救護用器具(實物)
- 六六 三河島汚水處分場模型
- 六七 下水道施設寫眞
- 六八 東京市水道分布圖
- 六九 震災後ノ給水栓ノ復活
- 七〇 震災直後ニ於ケル東京市水道給水量
- 七一 村山山口兩貯水池模型
- 七二 東京市水道現在及將來計畫島瞰圖
- 七三 東京市水道復興工事ト工費トノ分賦圖

- 七四 震害水道鐵管破裂箇所一覽圖
- 七五 震害鐵管修理箇所一覽圖
- 七六 東京都市計畫道路網圖
- 七七 東京市鋪裝工程別一覽圖
- 七八 東京市道路上ニ於ケル交番公衆電話ボスト便所ノ施設狀況
- 七九 東京市地下埋設物之狀態上野廣小路
- 八〇 震災直後ニ於ケル道路地下埋設物延長統計圖表
- 八一 東京市地下埋設物狀態日本橋通三丁目
- 八二 東京市公園ノ復興
- 八三 復興小公園ノ一日
- 八四 公園内裝飾像ノ模製浦島太郎
- 八五 震災ト墓地ノ整理
- 八六 街路樹ノ復興
- 八七 市内橋梁寫眞
- 八八 橋梁復興計畫一覽圖
- 八九 市内河川並運河復興狀況一覽
- 九〇 崩壞護岸復興狀況寫眞
- 九一 竣工セル第一座芥處理工場模型
- 九二 震災前ニ於ケル東京市施設醫療並防疫

- 九三 震災直後ニ於ケル同機關配置圖
- 九四 新舊街頭便所並塵芥取扱場
- 九五 震災後ニ於ケル東京市小學校兒童復歸狀況示表
- 九六 震災直後ノ市内諸學校
- 九七 就學兒童豫備身體檢査ノ結果ニ現ハレタル大震災ノ影響
- 九八 復興小學校分布圖
- 九九 震災ニ關スル小學校關係文書及教員兒童作品
- 一〇〇 小學校復興寫眞
- 一〇一 復興ノ泰明石月島第二小學校水彩畫寫眞(同取圖)
- 一〇二 常盤小學校新校舍同上
- 一〇三 震災直後ニ於ケル小學校授業狀況(寫眞)
- 一〇四 復興社會事業施設計畫一覽圖
- 一〇五 簡易宿泊所復興狀況圖表
- 一〇六 東京市設月島公衆浴場寫眞 二
- 一〇七 簡易宿泊所寫眞 四枚
- 一〇八 市設食堂寫眞六枚及ボスター、リッフレット
- 一〇九 市設質屋寫眞 二枚
- 一一〇 東京市中央授產場寫眞 四枚

- 一一一 復興前後ニ於ケル東京市内兒童保護施設一覽圖
- 一一二 市設託兒所寫眞 二十五枚
- 一一三 神田青果市場模型
- 一一四 市設市場築地本場鳥瞰圖一枚圖表二枚
- 一一五 他寫眞三枚(築地本場鳥瞰圖一枚圖表二枚)
- 一一六 東京市ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ復興シタル木造店舗數
- 一一七 市内商工業者ニ對スル本市ノ金融狀況
- 一一八 江東青果市場模型
- 一一九 震災前後ニ於ケル市内工場及職工數ノ比較
- 一二〇 市内各區ニ於ル日用品販賣店及工場分佈狀態
- 一二一 震災後ニ於ル帝都復興材料移入高
- 一二二 震災前後ノ工場
- 一二三 建築助成資金ノ齎シタ福音
- 一二四 東京市融通中小商工業者運轉資金運用
- 一二五 震災前後ニ於ル東京港出入船舶
- 一二六 震災前後ニ於ル帝都產業ノ推移圖表二枚
- 一二七 散貨物
- 一二八 府縣別ニ依ル東京市集散貨物狀況
- 一二九 電氣用ノ復興並普及狀態
- 一二九 江戸十大火災圖

- 一三〇 東京市史稿
- 一三一 安政二年十月二日大地震ニ關スル古文書(六枚)
- 一三二 安政大正大震災害復策一覽
- 一三三 震災古圖(三枚)
- 一三四 安政二年江戸大地震害死者數
- 一三五 明曆大火以前ノ江戸
- 一三六 明曆大火九年後ノ復興成レル江戸
- 一三七 明和大火翌年ノ復興成レル江戸
- 一三八 安政大地震四年後ノ復興成レル江戸
- 一三九 地震ニ關スル古畫(三枚)
- 一四〇 同上及古文(二枚)
- 一四一 江戸ノ慘狀カ幾日後知ラレタカ
- 一四二 地震ニ關スル古畫(十枚)
- 一四三 同上(二枚)
- 一四四 同上(十八枚)
- 一四五 震災時使用物番附古文一枚
- 一四六 安政大地震諷刺繪(十八枚)
- 一四七 震災直後使用ボスターノ諸票(二十一枚)
- 一四八 東京市震災功勞者表彰一覽

- 一四九 同上表彰狀(六枚)
- 一五〇 東京市役所局課組織
- 一五一 東京市新總會計畫圖及現廳舎寫眞
- 一五二 東京市財政ノ趨勢(其一)
- 一五三 京橋區役所模型
- 一五四 東京市小學校特別教室設備
- 一五五 東京市公用地境界査定圖
- 一五六 土地臺帳寫本二冊
- 一五七 稅務署備付地籍圖寫
- 一五八 銅版印刷圖
- 一五九 土地臺帳寫本(日本橋區、三冊)
- 一六〇 東京市備付地籍圖(日本橋、二部)
- 一六一 東京市財政ノ趨勢(其二)
- 一六二 昭和四年度各事業別純歲出額及純歲入種類別比較
- 一六三 市稅未納額遂缺損額年度別比較
- 一六四 市稅滯納督促狀發布人員並金額年別比較
- 一六五 市稅調定額收入額督促狀發布額
- 一六六 復興小學校ノ完備セル衛生室
- 一六七 市立圖書館寫眞及圖表(三枚)

- 一六八 東京市立深川圖書館
- 一六九 東京市立圖書館復興分布圖
- 一七〇 同京橋圖書館
- 一七一 同一ツ橋圖書館
- 一七二 同上(震災前)
- 一七三 同施設社會事業一覽圖(震災後)
- 一七四 東京市方面委員事業寫眞(四枚)
- 一七五 同取扱件數
- 一七六 東京市社會事業費豫算比較表
- 一七七 東京市產院助產取扱狀況
- 一七八 產院寫眞(六枚)
- 一七九 乳兒院託兒所寫眞(三枚)
- 一八〇 富岡町託兒所模型
- 一八一 幼少年保護所寫眞(三枚)
- 一八二 兒童遊園地寫眞(三枚)
- 一八三 東京市兒童相談所事業成績
- 一八四 東京市幼少年保護所事業要覽
- 一八五 東京市設職業紹介所普通紹介職別取扱成績
- 一八六 東京市職業紹介所開始以降普通紹介成績一覽